

**平成 27 年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で46回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「中核市移行について」「男女共同参画について」「防犯について」「景観について」「水田の保全について」「自治基本条例関係について」「地域医療について」「越谷特別市民『ガーヤちゃん』について」「ウッドデッキの利活用について」「市内の公共交通について」「生涯学習活動について」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成27年11月

越谷市長 高橋 努

目次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 中核市移行について	17
3. 男女共同参画について	17
4. 防犯について	18
5. 景観について	18
6. 水田の保全について	18
7. 自治基本条例関係について	18
8. 地域医療について	19
9. 越谷特別市民「ガーヤちゃん」について	19
10. ウッドデッキの利活用について	19
11. 市内の公共交通について	19
12. 生涯学習活動について	20
13. 広報について	20
14. 越谷市の施策について	20
第4章 調査結果の詳細	21
1. 暮らしや居住意向について	23
(1) 現在の暮らし向き	23
(2) 居住意向	29
(3) 転居意向の理由	35
2. 中核市移行について	41
(1) 中核市移行の認知	41
(2) 中核市への期待	43

3. 男女共同参画について	45
(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）	45
(2) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）	47
(3) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件	49
(4) 日常生活のなかでの優先度（希望）	51
(5) 日常生活のなかでの優先度（現実）	53
(6) 男女共同参画施設が今後力を入れること	55
4. 防犯について	57
(1) 脅威や不安を感じる街頭犯罪等	57
(2) 効果的だと思う防犯対策	59
(3) 自主的な防犯活動の参加	61
(4) 参加したことがある自主防犯活動	63
(5) 自主的な防犯活動への参加意向	65
(6) 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由	67
5. 景観について	69
(1) 景観（風景）の満足度	69
(2) 行政に望むこと	71
6. 水田の保全について	73
(1) 水田の機能・役割の認知	73
(2) 水田の保全	75
(3) 水田を保全するための活動	77
(4) 水田の保全活動への参加意向	79
7. 自治基本条例関係について	81
(1) 「自治基本条例」の認知	81
(2) 組織と市が協働する必要性	84
(3) 協働が必要（効果的）な分野	86
(4) 協働の推進に必要な（効果的）な施策	88
8. 地域医療について	90
(1) 「かかりつけ医」の有無	90
(2) 「かかりつけ医」を選んだ理由	92
(3) 「かかりつけ医」を持たない理由	94
9. 越谷特別市民「ガーヤちゃん」について	96
(1) 「ガーヤちゃん」の認知	96
(2) 「ガーヤちゃん」の認知媒体	98
(3) 越谷市への愛着	100

1 0. ウッドデッキの利活用について	102
(1) 「ウッドデッキ」の認知	102
(2) 「ウッドデッキ」の利用有無	104
(3) 参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベント	106
(4) 「ウッドデッキ」への期待	108
(5) 観光推進事業への期待	110
1 1. 市内の公共交通について	112
(1) 公共交通の利用有無	112
(2) 公共交通の満足度	116
1 2. 生涯学習活動について	120
(1) 生涯学習活動の経験有無	120
(2) 経験した生涯学習活動	122
(3) 経験した生涯学習活動を生かしているか	124
(4) 経験した生涯学習活動を生かしている分野	126
1 3. 広報について	128
(1) 市政情報を得ているもの	128
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	130
(3) 広報こしがやの「AR（拡張現実）」技術の感想	132
(4) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	134
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	136
(6) テレビ広報番組「いきいき越谷」の視聴状況	138
(7) テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間	140
1 4. 越谷市の施策について	142
(1) よくなってきたと感じるもの	142
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	145
(3) 自由回答	148

第5章 調査票	153
----------------	------------

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：平成27年7月1日～平成27年7月16日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,498	49.96%
有効回収数	2,496	49.92%

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居留意向について（問8～問9-2） (3) 中核市移行について（問10～問11） (4) 男女共同参画について（問12～問15） (5) 防犯について（問16～問18-4） (6) 景観について（問19～問20） (7) 水田の保全について（問21～問23-2） (8) 自治基本条例関係について（問24～問25-3） (9) 地域医療について（問26～問26-3） (10) 越谷特別市民「ガーヤちゃん」について（問27～問28） (11) ウッドデッキの利活用について（問29～問32） (12) 市内の公共交通について（問33～問34） (13) 生涯学習活動について（問35～問35-4） (14) 広報について（問36～問42） (15) 越谷市の施策について（問43～問44）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目の一部・3～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	七左町1丁目の一部・2丁目、瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度95%の標本誤差

N : 母集団のサイズ

n : 有効回収数 (=2,496)

P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

上記の式に今回の数値をあてはめると、標本誤差は下表のようになる。

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	60%または 40%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,496	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

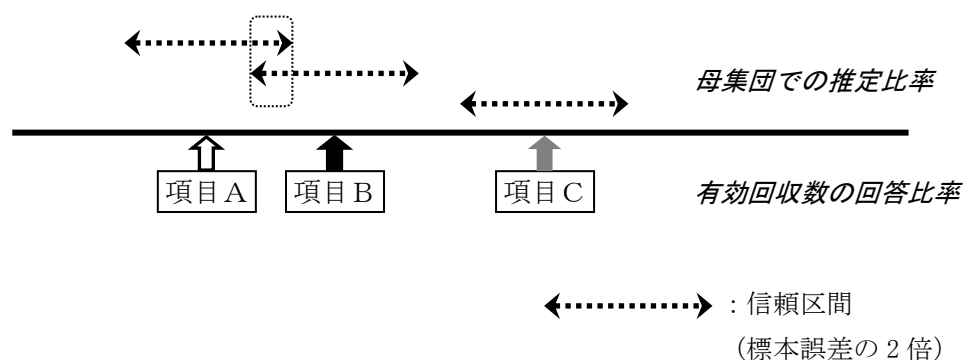
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,496票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±2.0%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±2.0%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ (=48.0%~52.0%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%(標本誤差の2倍)以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票そこそこの回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,496票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は4.0%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも優位に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、**数値の合計は100%を前後する場合がある。**
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (7) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

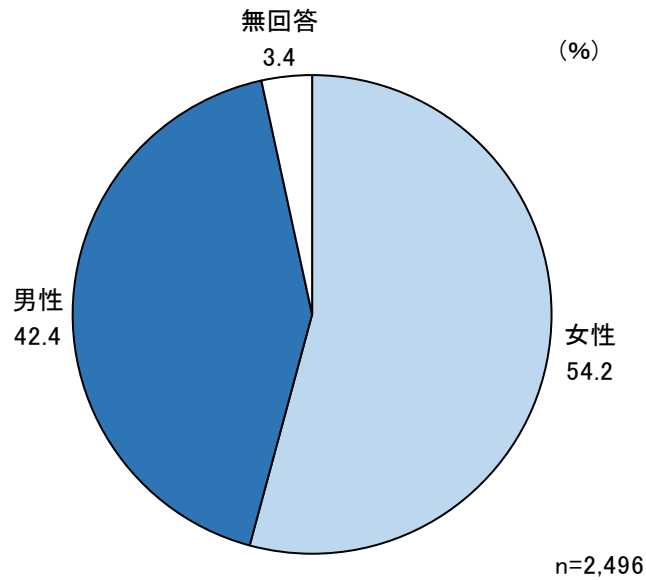
表記	約4割（4割）	4割強	4割半ば	5割弱	約5割（5割）
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

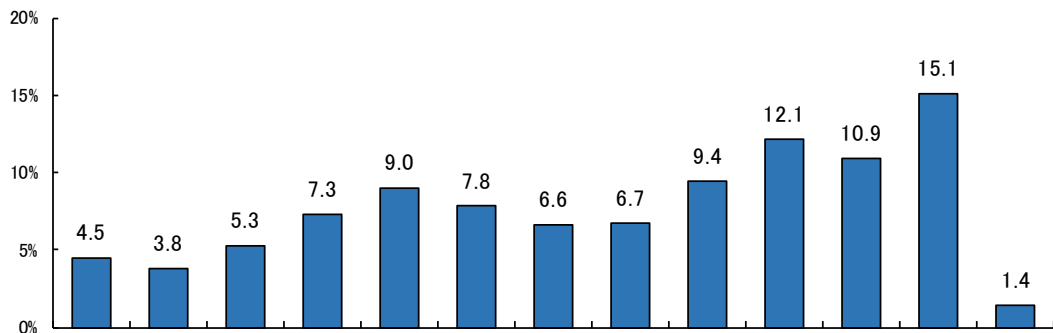
1. 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。



2. 年代

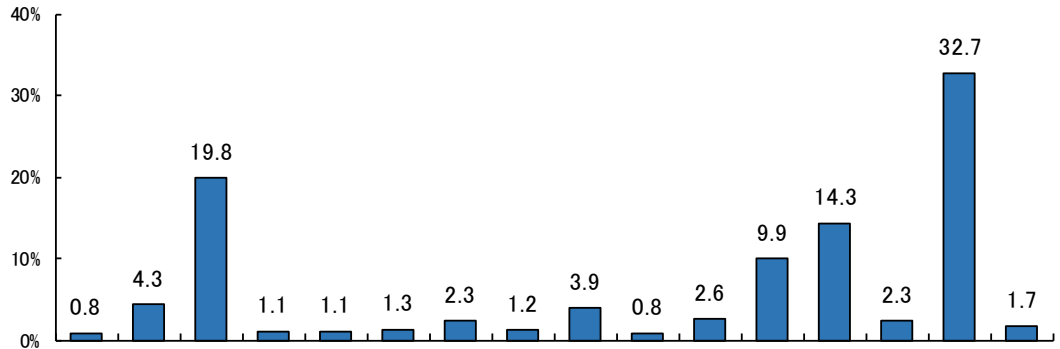
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。



	調査数	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳以上	無回答
合計	2,496(人)	113	96	133	183	224	194	165	167	234	301	273	378	35	
	100(%)	4.5	3.8	5.3	7.3	9.0	7.8	6.6	6.7	9.4	12.1	10.9	15.1	1.4	
女性	1,352(人)	57	59	85	110	124	111	86	91	132	154	146	188	9	
	100(%)	4.2	4.4	6.3	8.1	9.2	8.2	6.4	6.7	9.8	11.4	10.8	13.9	0.7	
男性	1,058(人)	54	36	45	71	98	81	75	73	99	141	117	164	4	
	100(%)	5.1	3.4	4.3	6.7	9.3	7.7	7.1	6.9	9.4	13.3	11.1	15.5	0.4	
無回答	86(人)	2	1	3	2	2	2	4	3	3	6	10	26	22	
	100(%)	2.3	1.2	3.5	2.3	2.3	2.3	4.7	3.5	3.5	7.0	11.6	30.2	25.6	

3. 職業

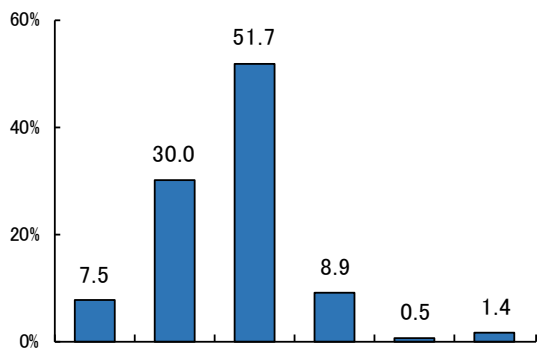
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー	その他	無職	無回答
合計	2,496(人)	19	107	493	27	28	32	58	30	98	20	64	248	356	58	816	42
	100(%)	0.8	4.3	19.8	1.1	1.1	1.3	2.3	1.2	3.9	0.8	2.6	9.9	14.3	2.3	32.7	1.7

4. 世帯の状況

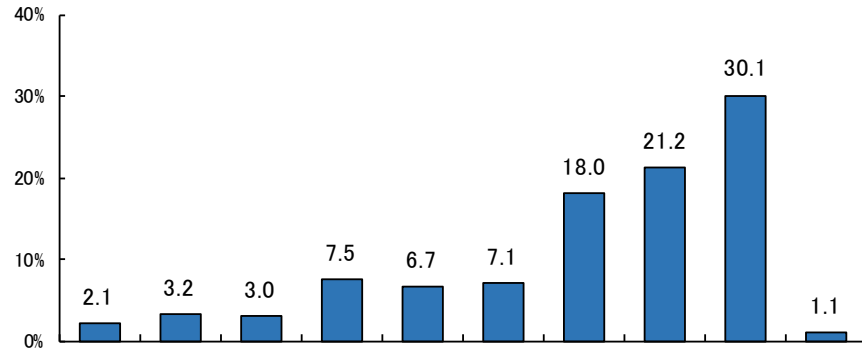
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。



	調査数	単身世帯(ひとり暮らし)	一世帯世帯(夫婦のみ)	二世帯世帯(親子など)	三世帯世帯(親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,496(人)	188	748	1,291	222	13	34
	100(%)	7.5	30.0	51.7	8.9	0.5	1.4

5. 居住年数

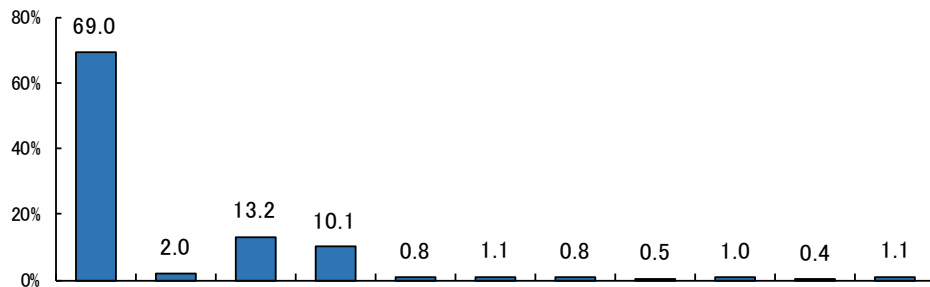
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。



調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答	
合計	2,496(人)	53	80	74	186	166	178	450	530	751	28
	100(%)	2.1	3.2	3.0	7.5	6.7	7.1	18.0	21.2	30.1	1.1

6. 居住形態

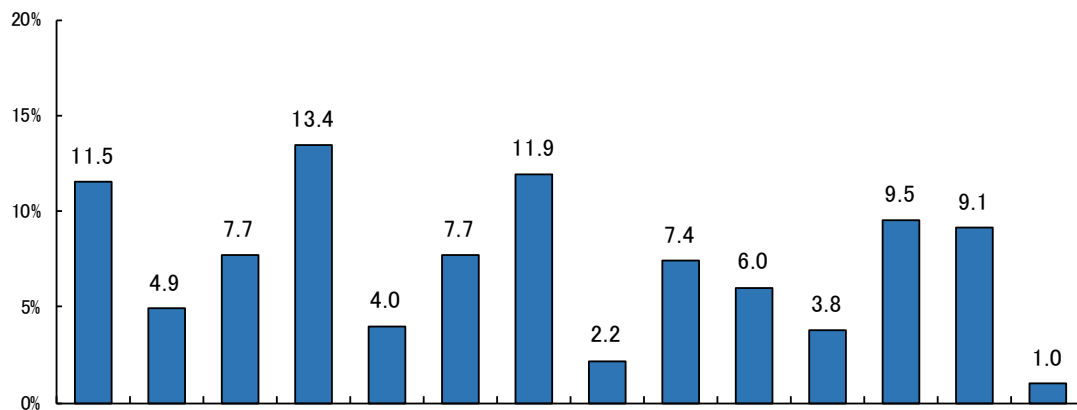
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。



調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	アパート	民間賃貸マンション・マンション	マンション	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	宿舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,496(人)	1,723	50	330	252	21	27	19	13	24	10	27		
	100(%)	69.0	2.0	13.2	10.1	0.8	1.1	0.8	0.5	1.0	0.4	1.1		

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,496(人)	286	122	192	335	99	193	298	55	185	149	96	236	226	24
	100(%)	11.5	4.9	7.7	13.4	4.0	7.7	11.9	2.2	7.4	6.0	3.8	9.5	9.1	1.0

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについて「十分満足している」と「十分とはいえないが一応満足している」を合わせた『満足』は約5割となっている。

今後の居住意向について「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割強となっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」「現在、住んでいる住宅が狭いので」がともに1割強で多く、「付近の生活環境が悪いので」「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」がともに約1割で続く。

2. 中核市移行について

中核市へ移行した認知度は「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』が5割半ば、「知らない」は2割弱となっている。

越谷市が中核市になったことで期待することは「保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上」が6割弱で最も多く、「身体障害者手帳の交付や老人福祉施設の運営指導など、福祉施策の向上」が5割で続く。

3. 男女共同参画について

子どもに対する「教育・しつけ」で大切に思うことは、男の子は「責任をもたせる」が6割半ばで最も多く、女の子は「やさしさや思いやりをもたせる」が約8割で最も多い。

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件は、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割で最も多く、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」が5割弱で続く。

日常生活のなかでの優先度についての『希望』は、『『仕事』と『家庭生活』をともに優先』が3割強で最も多く、『『家庭生活』を優先』が2割強で続く。

日常生活のなかでの優先度についての『現実』は、『『仕事』を優先』が3割強で最も多く、『『家庭生活』を優先』が2割半ばで続く。

男女共同参画施設が今後力を入れることは、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」が5割で最も多く、「相談事業」が2割強で続く。

4. 防犯について

日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は、「路上強盗・ひったくり」が8割弱で最も多く、「侵入盗」が6割半ばで続く。

効果的だと思う防犯対策は、「防犯カメラの設置」が約6割で最も多く、「防犯パトロール」が5割強で続く。

自主的な防犯活動は、「参加したことがある」が2割弱で、参加したことがある自主防犯活動は、「地域パトロール活動」が6割強で最も多く、「登下校見守り活動」が4割強で続く。

「参加したことはない」人の参加意向は、参加したいと「思う」が2割強で、参加したいと「思わない」が3割強となっている。参加したいと「思わない」主な理由は「時間がない」が約4割で最も多く、「体力的に難しい」が約3割で続く。

5. 景観について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、概ね満足している」を合わせた『満足』が6割弱となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるため行政に望むものは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」、「目標や基本方針を住民に示す」がともに約5割で多くなっている。

6. 水田の保全について

水田の機能・役割の認知は、「多様な生き物の生息場所となる」が6割強で最も多く、「都市の気温上昇を低減・緩和する」が4割強で続く。

水田を今後も保全すべきかの考えは、「必要最小限の開発は容認するべきだが、それ以外の水田は保全するべきだと思う」が3割半ばで最も多く、「水田は積極的に保全するべきだと思う」が3割強で続く。

水田を保全するための活動は、「必要だと思う」が7割弱で、参加してもいいと思う保全活動は、「イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う」が約6割で最も多く、「参加できないと思う」が約2割で続く。

7. 自治基本条例関係について

「自治基本条例」は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』が約1割となっている。

越谷市をより良くするために、自治会等の組織と市が協働する必要性は、「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせた『必要だと思う』が約7割で、必要（効果的）だと思う分野では「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が8割弱で最も多く、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」が6割弱で続く。また、協働の推進に必要な施策としては「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」が6割弱で最も多く、「市職員の意識改革や人材育成に努めること」が3割弱で続く。

8. 地域医療について

「かかりつけ医」の有無では、「いる」が6割強となっており、「かかりつけ医」を選んだ理由は「住まいから近い」が7割強で最も多く、「医師・スタッフの対応がよい」が3割弱で続く。

また、「かかりつけ医」が「いない」人の「かかりつけ医」を持たない理由は「あまり医療機関にかかることがない」が約6割で最も多く、「希望する医療機関がない」が1割強で続く。

9. 越谷特別市民「ガーヤちゃん」について

越谷特別市民「ガーヤちゃん」を「知っている」が6割強となっており、認知媒体は「広報こしがや」が7割半ばで最も多く、「各種イベント」が4割弱で続く。

越谷市への愛着は、「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』が7割となっている。

10. ウッドデッキの利活用について

越谷市役所東側の葛西用水沿いに「ウッドデッキ」が整備されていることを「知っている」が約5割で、「イベントに参加したことがある」「散策順路として利用したことがある」「イベント参加、散策順路としての利用が共にある」を合わせた『利用したことがある』は2割半ばとなっている。

参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベントは、「地場農産物等の直売」が3割半ばで最も多く、「四季折々のイベント（七夕・クリスマス等）」が3割弱で続く。

「ウッドデッキ」への期待は、「葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所）」が3割半ばで最も多く、「定期的にイベントを開催するなど新たな賑わいを創出する場所」が3割弱で続く。

今後の市の観光推進事業に期待することは、「物産展の開催など他地域との観光物産交流の促進」が4割半ばで最も多く、「水辺空間や田園風景等の自然の活用」が約4割で続く。

11. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が約3割で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は約7割となっている。

バスは「全く利用しない」が3割半ばで最も多く、『満足』は3割強となっている。

タクシーは「全く利用しない」が約4割で最も多く、『満足』は2割半ばとなっている。

1 2. 生涯学習活動について

この1年くらいの間には生涯学習活動を「経験した」人は3割弱となっており、活動内容は「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が5割半ばで最も多く、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」が4割弱で続く。

また、学んだ知識、経験、技能を「生かしている」とした人は約4割となっており、生かしている分野は「文化・スポーツ活動」が6割弱で最も多く、「地域やまちづくりに関する活動」が2割弱で続く。

1 3. 広報について

市政情報を主に得ているものは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割強で最も多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものでは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が8割弱で最も多く、「越谷市公式ホームページ」が2割半ばで続く。

広報こしがやの「AR（拡張現実）」技術の感想は、「実際に使ってみて良いと思う」と「実際に使っていないが良いと思う」を合わせた『良いと思う』が3割半ばとなっている。

広報こしがや「お知らせ版」は、「分かりやすい」と「おおむね分かりやすい」を合わせた『分かりやすい』が約7割、広報こしがや「季刊版」は『分かりやすい』が7割弱となっている。

テレビ広報番組「いきいき越谷」については、「知っており、視聴したこともある」が2割半ば、「知っているが、視聴したことはない」を合わせた『知っている』は約5割となっている。

テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間については、「ちょうど良い」が2割半ばとなっている。

1 4. 越谷市の施策について

越谷市で進めている施策について、ここ数年うちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が4割半ばで最も多く、「バス路線等公共交通網の充実」が2割弱で続く。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」が3割半ばで最も多く、「水害や地震などの災害対策」「高齢者福祉の充実」がともに2割半ばで続く。

第4章 調査結果の詳細

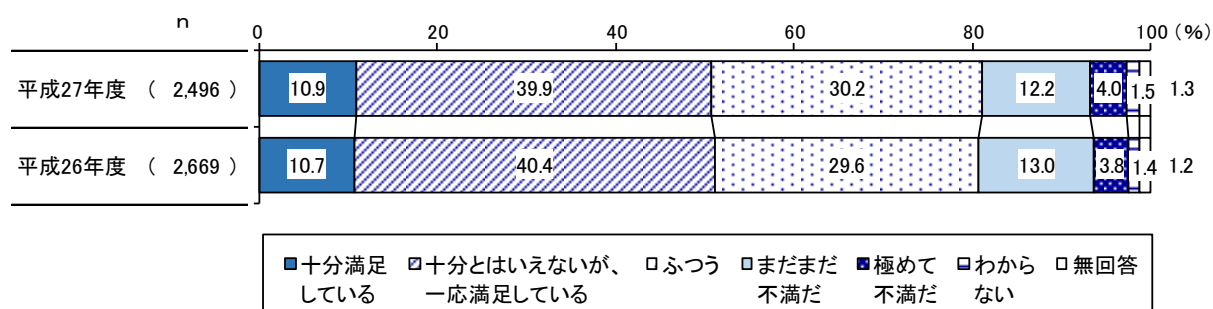
1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇「十分とはいえないが一応満足している」が約4割

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。次の中から1つ選んでください。

図表1-1-1 現在の暮らし向き



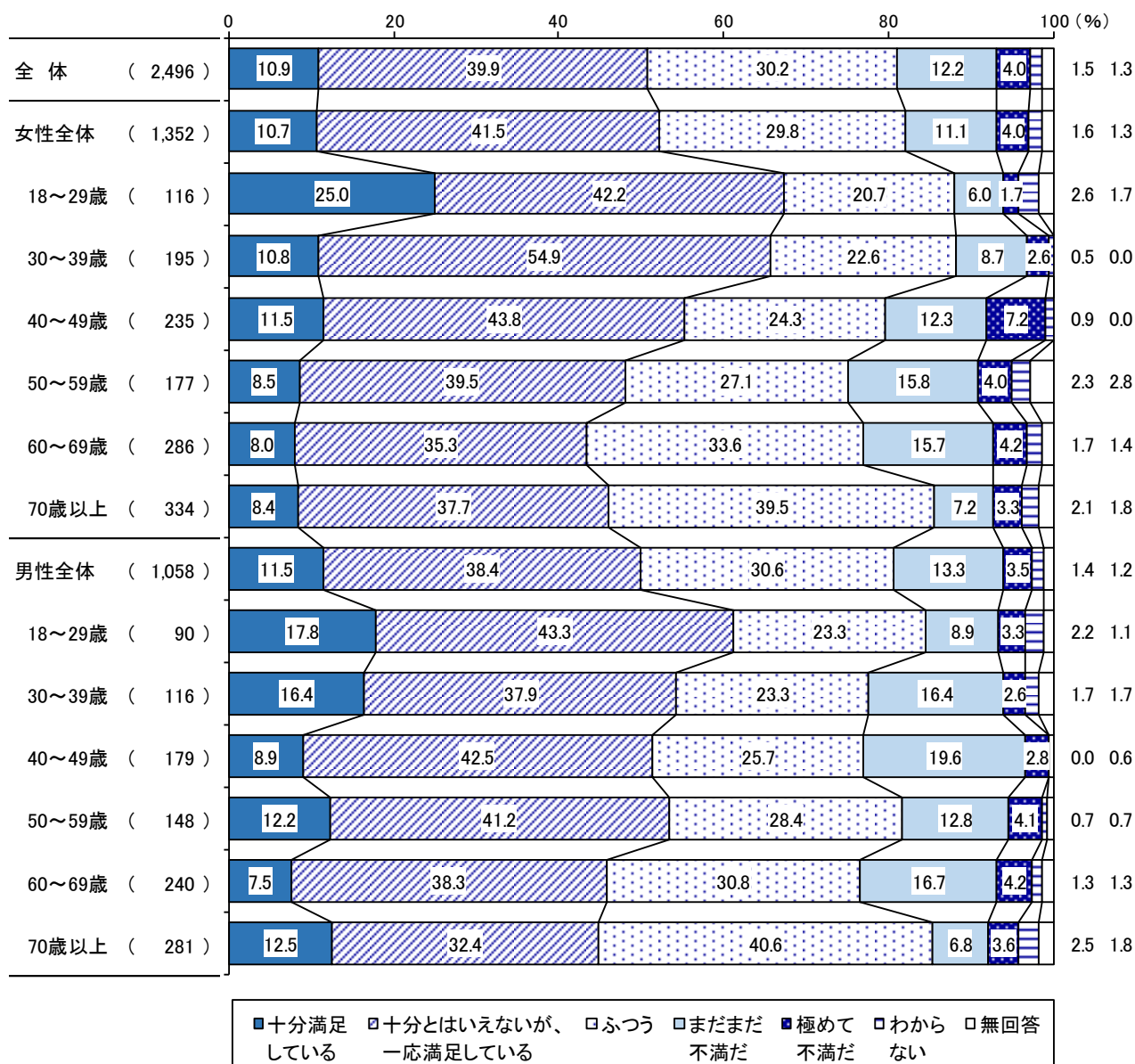
現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが一応満足している」(39.9%)が最も多くなっている。次いで、「ふつう」(30.2%)、「まだまだ不満だ」(12.2%)、「十分満足している」(10.9%)、「極めて不満だ」(4.0%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが一応満足している」を合わせた『満足』(50.8%)は5割を超えている。

前回の調査と比較すると、『満足』は平成26年度調査(51.1%)と比べ0.3ポイント減少している。一方、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(16.2%)は平成26年度調査(16.8%)と比べ0.6ポイント減少している。

性別で見ると、『満足』は、女性（52.2%）が男性（49.9%）より2.3ポイント高くなっている。

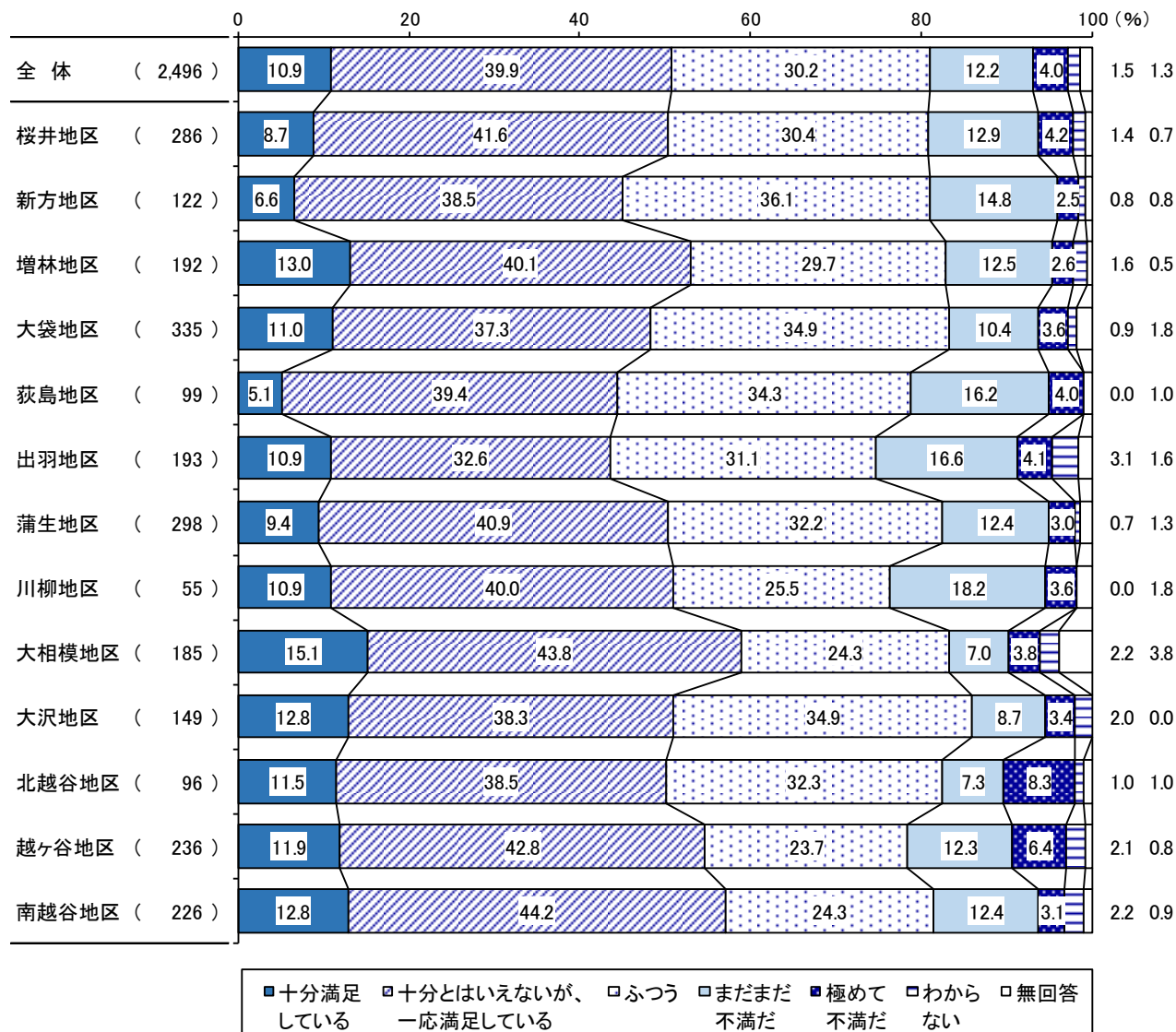
性・年齢別で見ると、『満足』は女性18～29歳（67.2%）、女性30～39歳（65.7%）、男性18～29歳（61.1%）で6割以上と多くなっている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



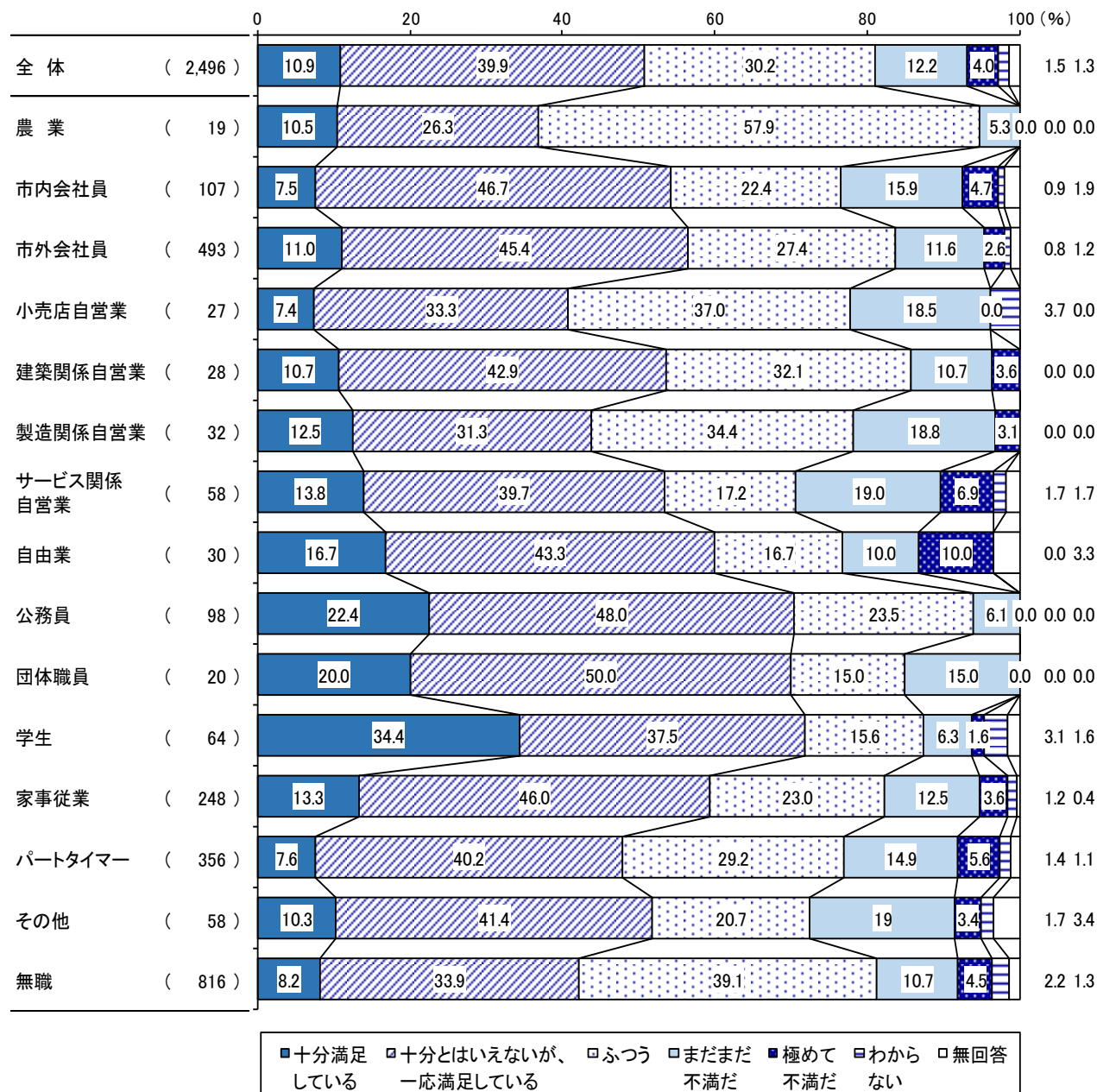
居住地区別でみると、『満足』は大相模地区（58.9%）、南越谷地区（57.0%）で6割弱と多くなっている。一方、『不満』は荻島地区（20.2%）、出羽地区（20.7%）、川柳地区（21.8%）で2割以上となっている。

図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



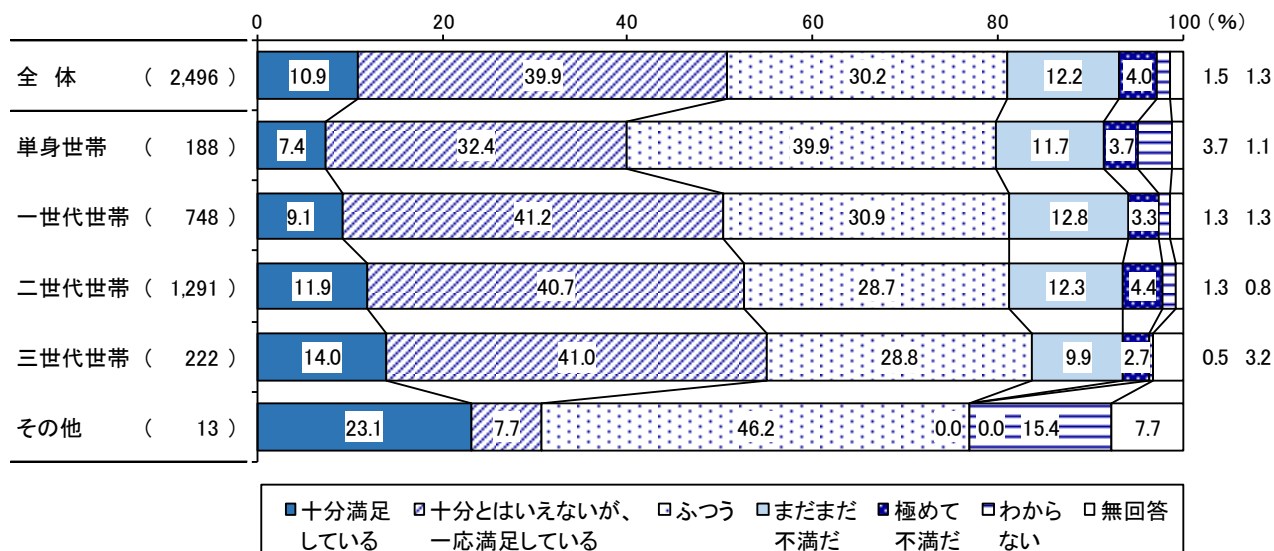
職業別でみると、『満足』は公務員（70.4%）、団体職員（70.0%）、学生（71.9%）で7割以上と多くなっている。一方、『不満』はサービス系自営業（25.9%）で2割半ばと最も多くなっている。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



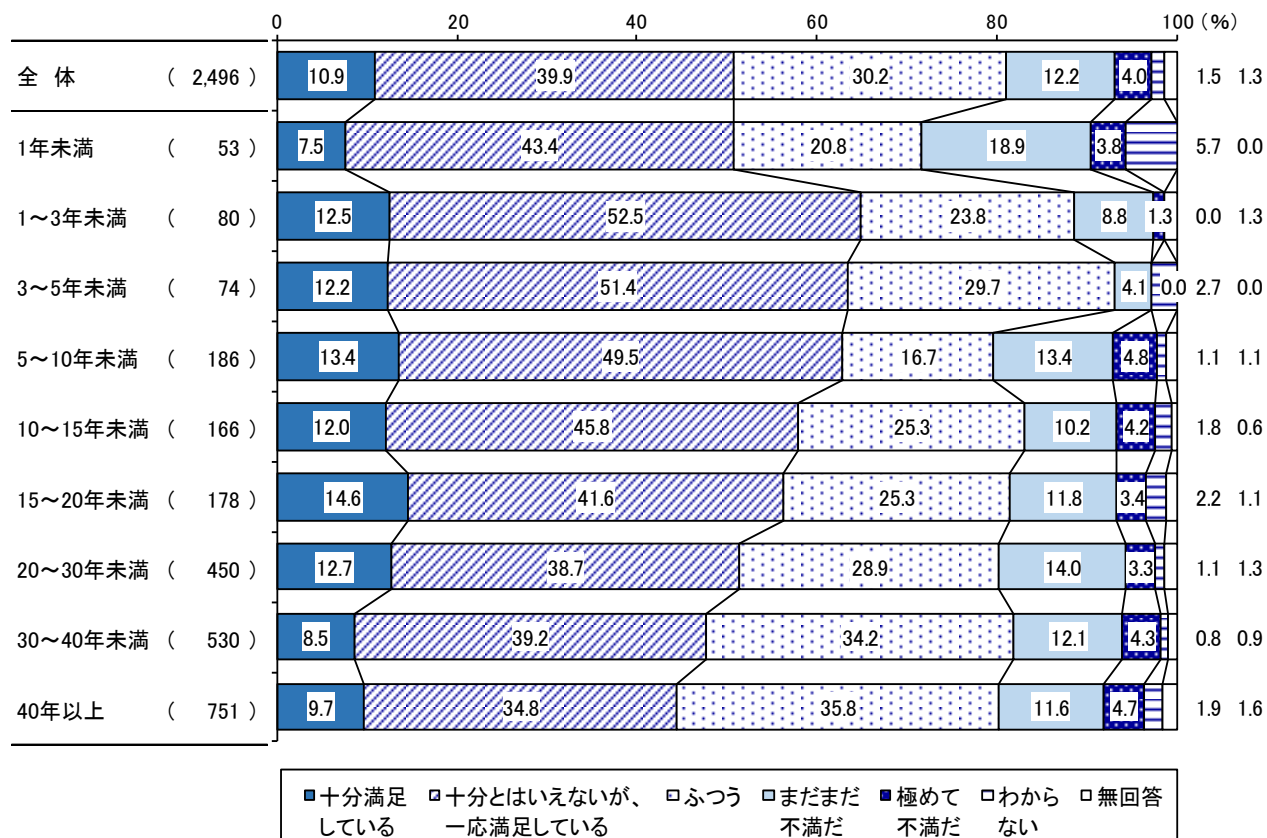
世帯状況別でみると、『満足』は単身世帯（39.8%）で最も少なくなっている。

図表 1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1～3年未満(65.0%)、3～5年未満(63.6%)、5～10年未満(62.9%)で6割以上と多くなっている。一方、『不満』は1年未満(22.7%)で2割を超えている。

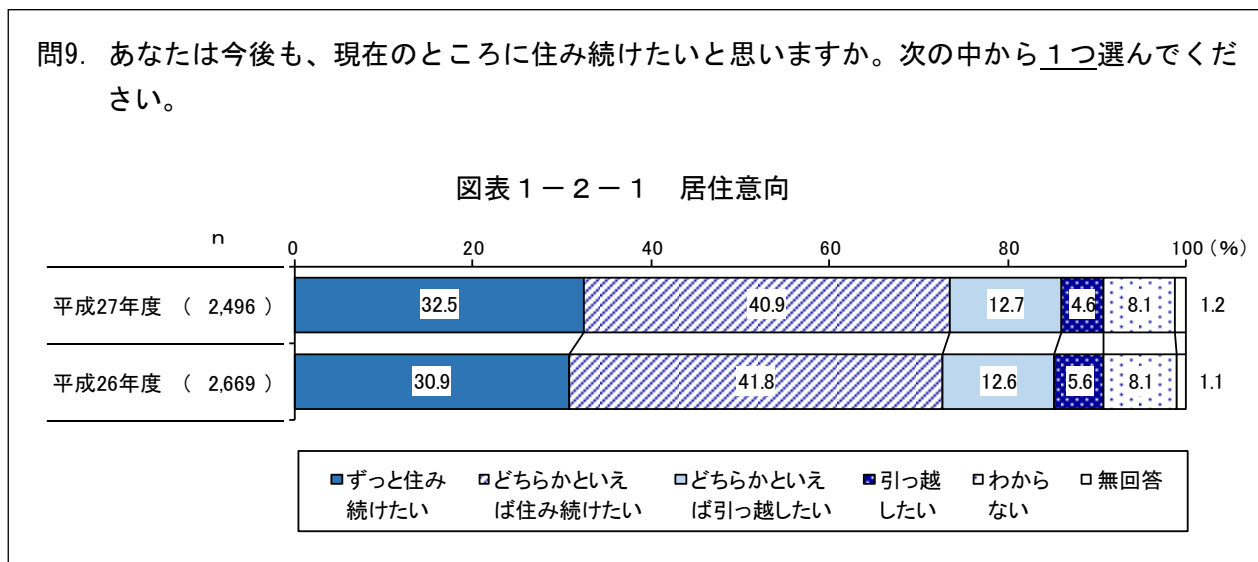
図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き



(2) 居住意向

◇『定住意向』は7割強

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。次の中から1つを選んでください。



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(40.9%)が最も多くなっている。次いで、「ずっと住み続けたい」(32.5%)、「どちらかといえば引っ越したい」(12.7%)、「引っ越したい」(4.6%)の順となっている。

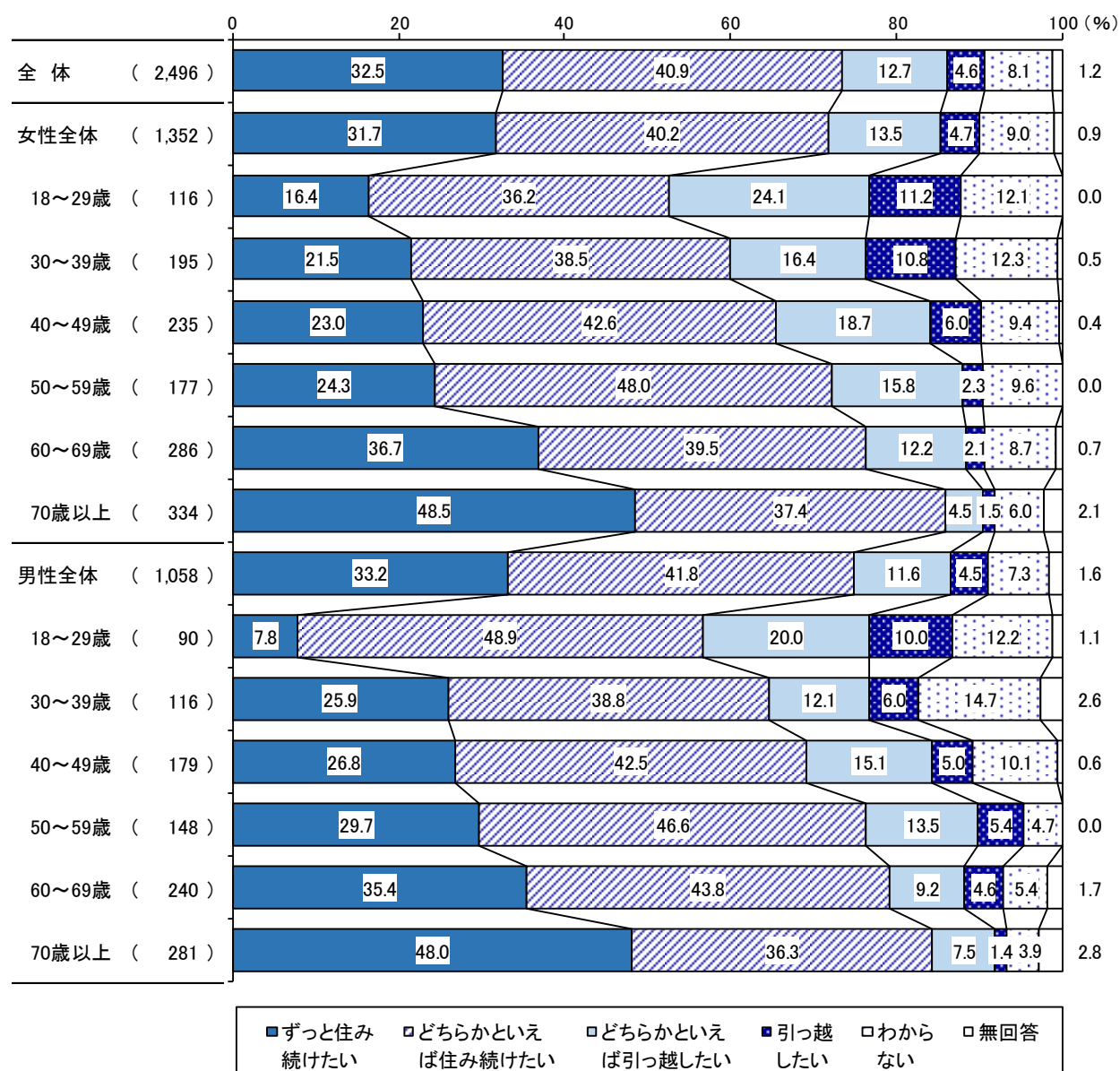
「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計を『定住意向』とすると、『定住意向』(73.4%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『定住意向』は平成26年度調査(72.7%)と比べ0.7ポイント増加している。同様に、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(17.3%)は平成26年度調査(18.2%)と比べ0.9ポイント減少している。

性別でみると、『定住意向』は男性（75.0%）が女性（71.9%）より3.1ポイント高くなっている。

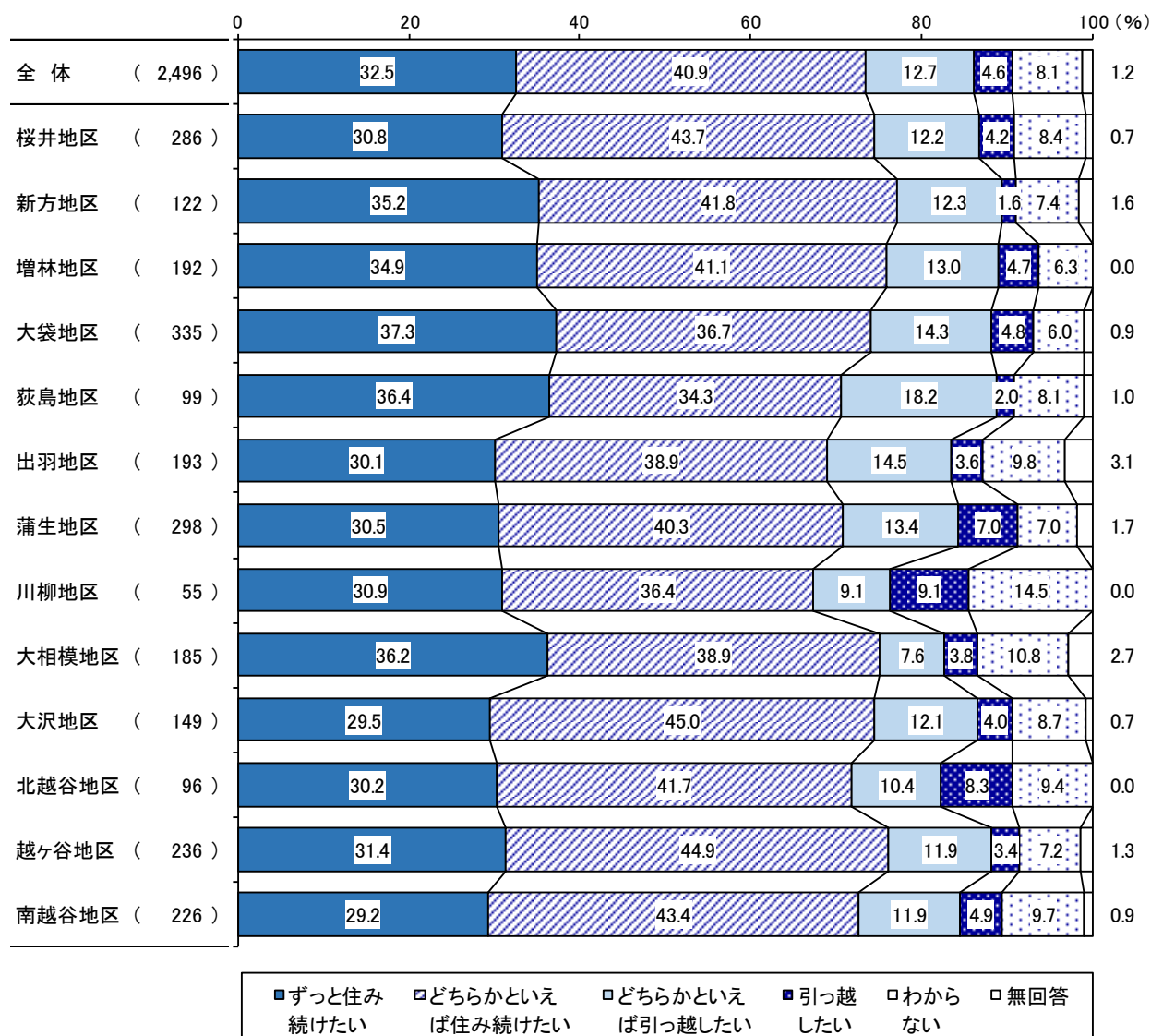
性・年齢別でみると、『定住意向』は女性70歳以上（85.9%）、男性60～69歳（79.2%）、男性70歳以上（84.3%）でおおよそ8割以上と多くなっている。一方、『転居意向』は女性18～29歳（35.3%）、男性18～29歳（30.0%）で3割以上と多くなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



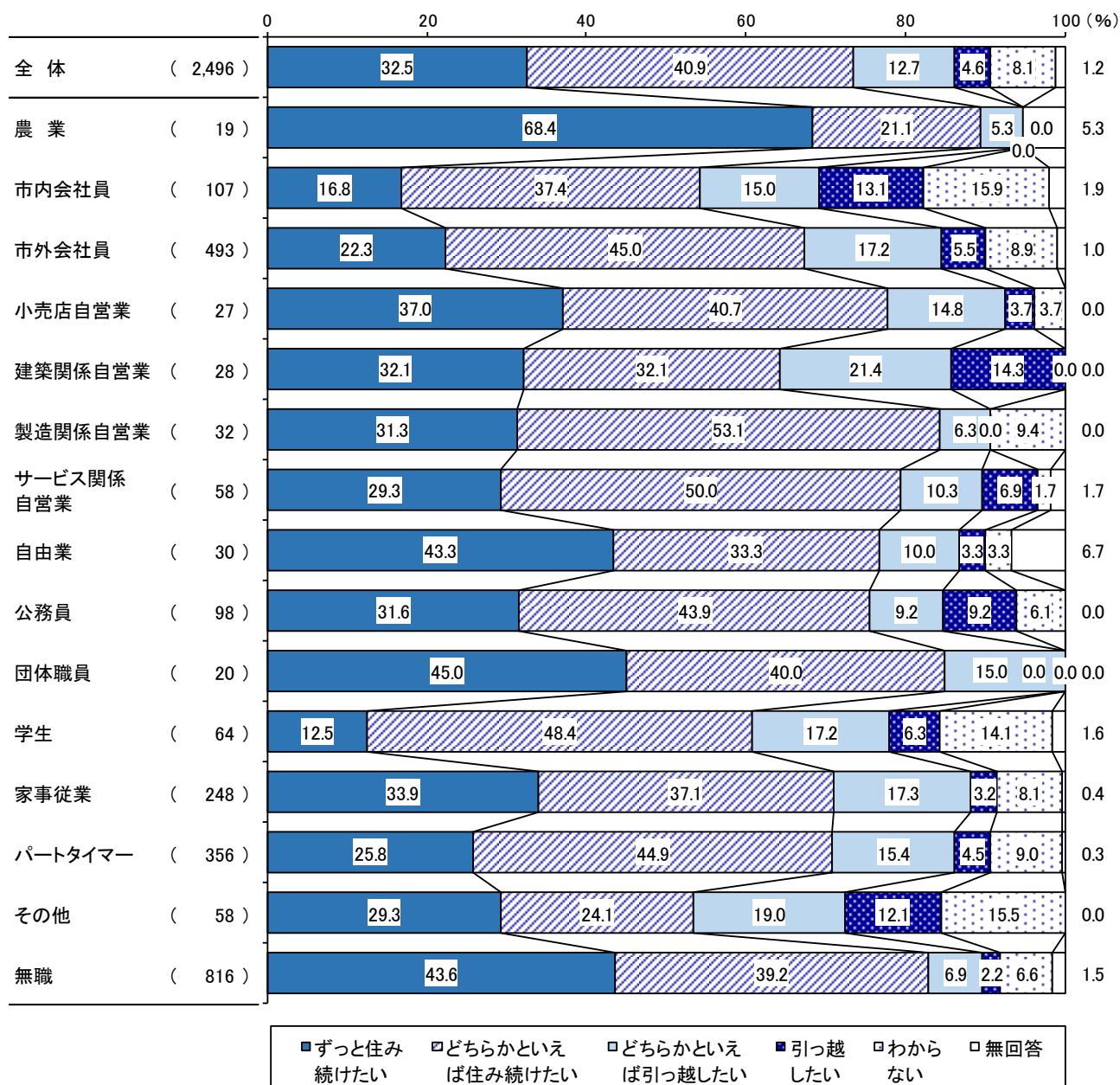
居住地区別でみると、『定住意向』は新方地区（77.0%）で8割弱と最も多くなっている。

図表1-2-3 居住地区別 居住意向



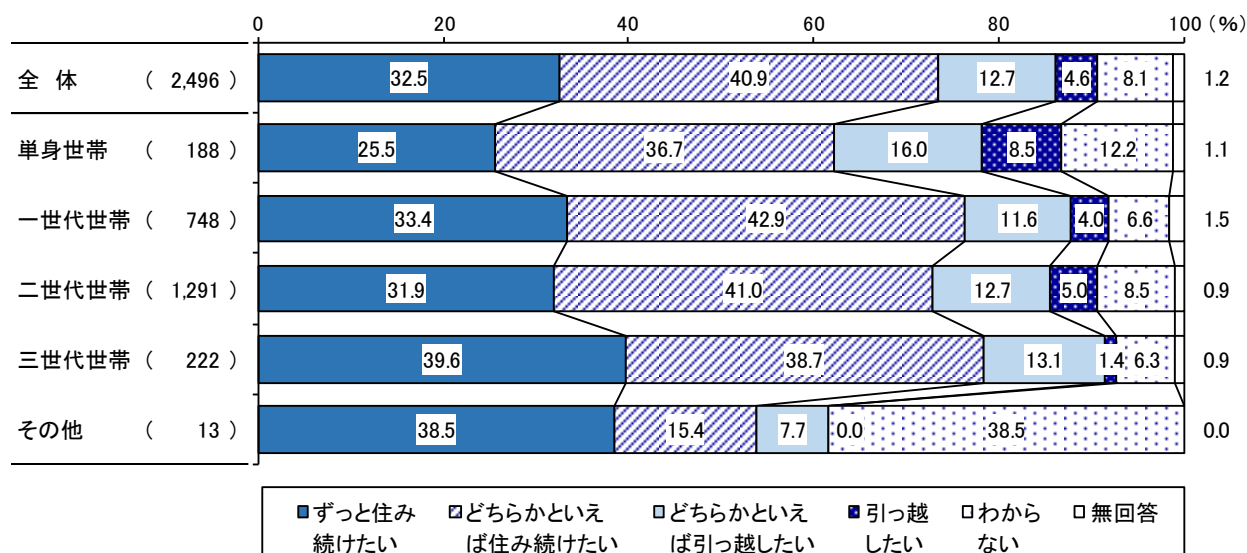
職業別でみると、『定住意向』は農業（89.5%）で約9割と最も多くなっている。次いで、製造関係自営業（84.4%）、団体職員（85.0%）、無職（82.8%）などが8割以上となっている。一方、『転居意向』は建築関係自営業（35.7%）で3割半ば、市内会社員（28.1%）で3割弱と多くなっている。

図表1-2-4 職業別 居住意向



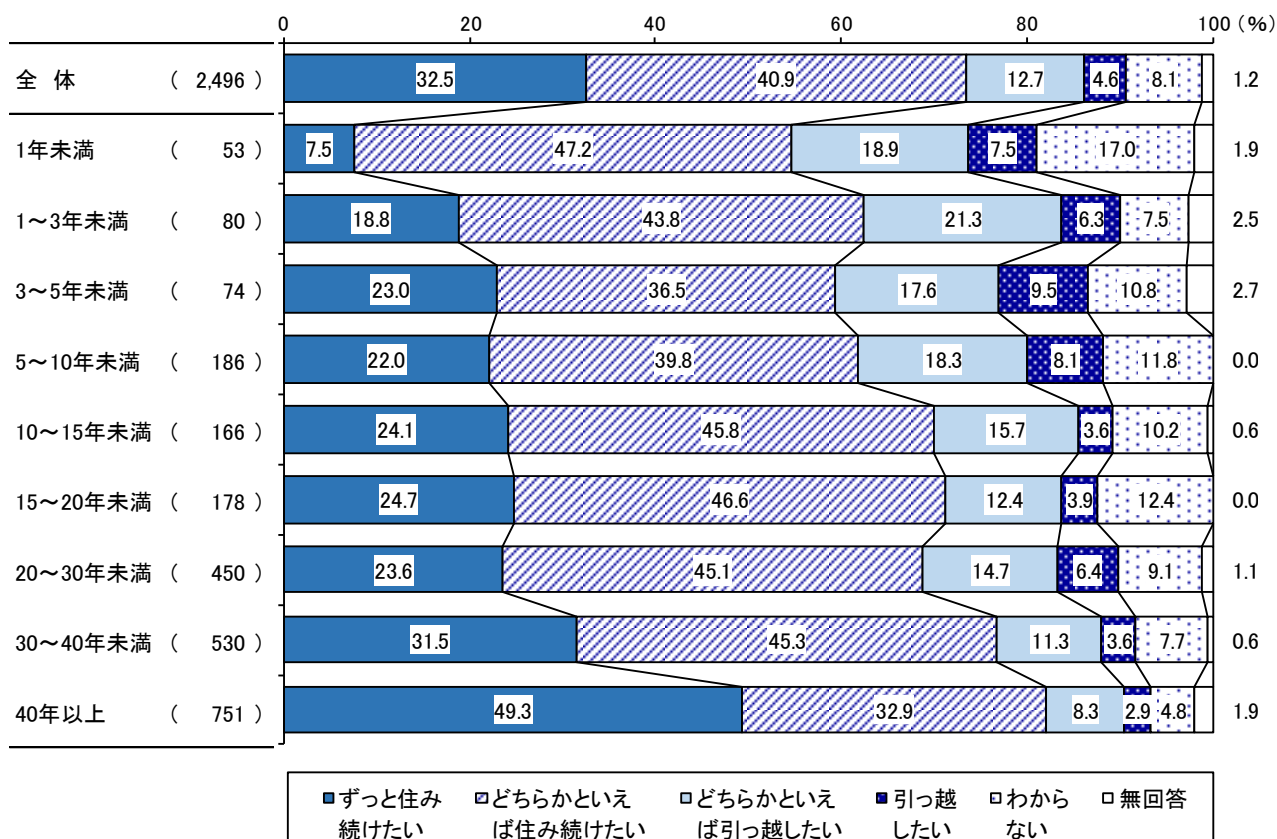
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世帯世帯（78.3%）で8割弱と最も多く、次いで、一世代世帯（76.3%）が7割半ばと多くなっている。一方、『転居意向』は単身世帯（24.5%）で2割半ばと多くなっている。

図表1-2-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上（82.2%）で8割強と最も多く、次いで、30～40年未満（76.8%）が7割半ばと多くなっている。一方、『転居意向』は1～3年未満（27.6%）、3～5年未満（27.1%）で3割弱、1年未満（26.4%）、5～10年未満（26.4%）で2割半ばと多くなっている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

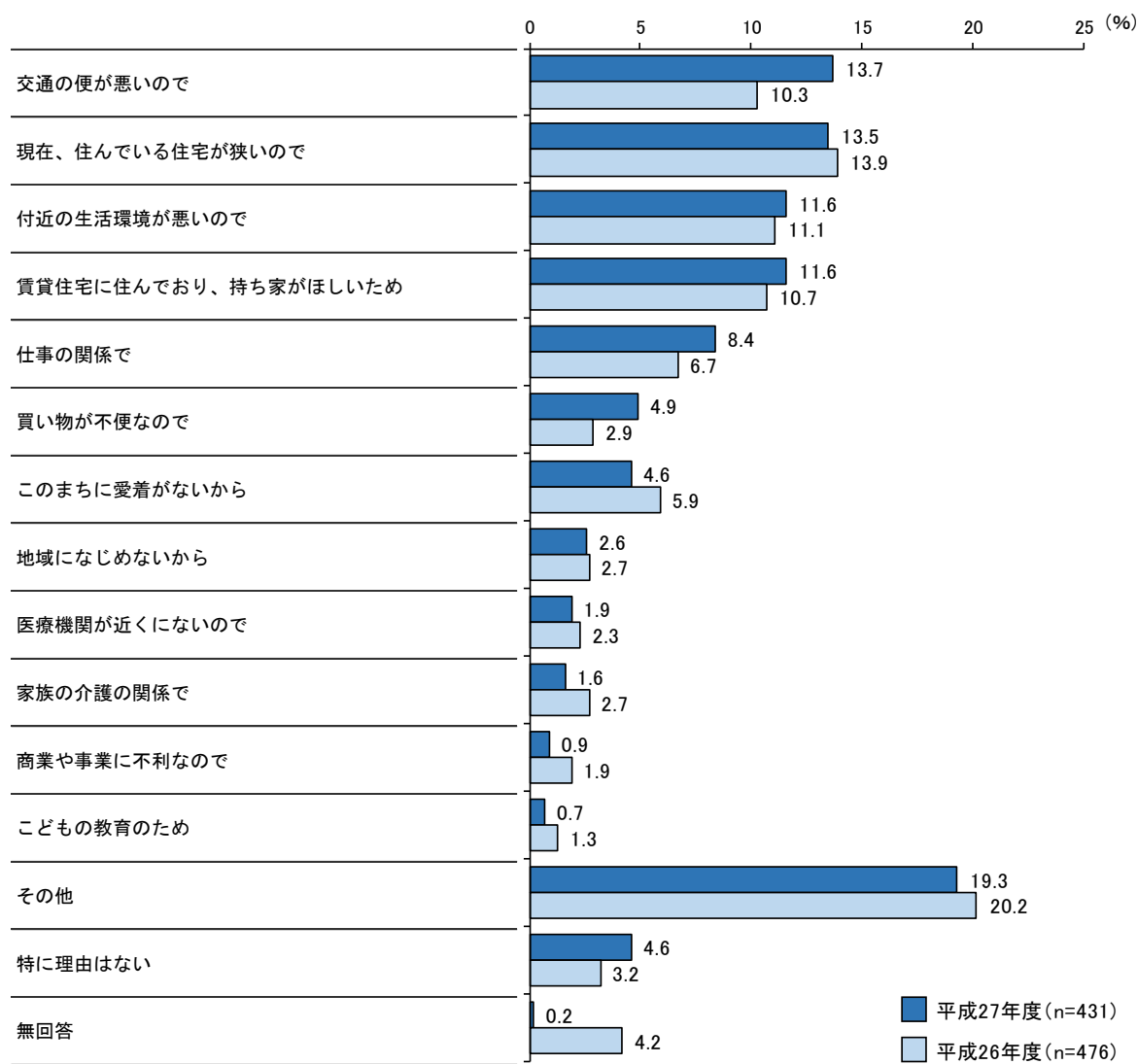


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割強

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由を、次の中から1つ選んでください。

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある431人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(13.7%)が最も多くなっている。次いで、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(13.5%)、「付近の生活環境が悪いので」(11.6%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(11.6%)、「仕事の関係で」(8.4%)の順となっている。また、「その他」として「家賃が高い」「家が古い」「税金が高い」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「交通の便が悪いので」で3.4ポイント増加している。

性別でみると、女性は「交通の便が悪いので」(15.4%)が最も多く、次いで、「現在、住んでいる住宅が狭いので」、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(ともに14.6%)となっている。男性は「付近の生活環境が悪いので」(14.0%)が最も多く、次いで「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.3%)、「仕事の関係で」(11.1%)となっている。

性・年齢別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は女性30～39歳(32.1%)で、「付近の生活環境が悪いので」は男性70歳以上(32.0%)でともに3割強と多くなっている。また、「仕事の関係で」は男性18～29歳(25.9%)、男性30～39歳(28.6%)で多くなっている。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数(人)	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	431	0.9	13.7	13.5	11.6	8.4	11.6	0.7	4.9	1.9	4.6	2.6	1.6	19.3	4.6	0.2
女性全体	246	-	15.4	14.6	9.8	6.9	14.6	0.8	5.3	2.4	5.3	2.4	0.8	15.4	6.1	-
18～29歳	41	-	14.6	9.8	4.9	14.6	17.1	2.4	7.3	2.4	4.9	-	-	12.2	9.8	-
30～39歳	53	-	17.0	11.3	7.5	9.4	32.1	1.9	3.8	-	3.8	1.9	-	11.3	-	-
40～49歳	58	-	13.8	24.1	12.1	6.9	12.1	-	-	1.7	1.7	5.2	1.7	15.5	5.2	-
50～59歳	32	-	12.5	15.6	18.8	3.1	12.5	-	3.1	-	9.4	-	3.1	15.6	6.3	-
60～69歳	41	-	22.0	12.2	2.4	2.4	2.4	-	9.8	7.3	7.3	4.9	-	22.0	7.3	-
70歳以上	20	-	10.0	10.0	20.0	-	-	-	15.0	5.0	5.0	-	-	20.0	15.0	-
男性全体	171	2.3	9.9	12.3	14.0	11.1	7.6	0.6	4.1	1.2	4.1	2.3	2.9	24.0	2.9	0.6
18～29歳	27	-	3.7	7.4	3.7	25.9	11.1	-	-	-	-	3.7	3.7	37.0	3.7	-
30～39歳	21	14.3	9.5	9.5	9.5	28.6	9.5	-	-	-	4.8	-	-	14.3	-	-
40～49歳	36	-	13.9	22.2	16.7	5.6	11.1	2.8	8.3	-	5.6	2.8	-	8.3	2.8	-
50～59歳	28	-	14.3	14.3	14.3	10.7	-	-	-	-	-	-	7.1	35.7	3.6	-
60～69歳	33	3.0	6.1	15.2	9.1	3.0	9.1	-	6.1	-	6.1	3.0	3.0	27.3	6.1	3.0
70歳以上	25	-	12.0	-	32.0	-	4.0	-	8.0	8.0	8.0	4.0	-	24.0	-	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は新方地区（47.1%）で5割弱、増林地区（38.2%）で4割弱と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は蒲生地区（27.9%）で3割弱、「付近の生活環境が悪いので」は出羽地区（25.7%）で2割半ばと多くなっている。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	431	0.9	13.7	13.5	11.6	8.4	11.6	0.7	4.9	1.9	4.6	2.6	1.6	19.3	4.6	0.2
桜井地区	47	2.1	10.6	8.5	12.8	6.4	10.6	-	8.5	4.3	8.5	-	4.3	14.9	8.5	-
新方地区	17	5.9	47.1	-	11.8	5.9	5.9	-	-	-	-	-	-	17.6	5.9	-
増林地区	34	-	38.2	8.8	8.8	5.9	14.7	-	2.9	-	5.9	-	2.9	5.9	5.9	-
大袋地区	64	-	10.9	12.5	9.4	12.5	10.9	-	6.3	3.1	4.7	3.1	-	21.9	4.7	-
荻島地区	20	-	30.0	10.0	10.0	-	5.0	-	10.0	-	5.0	-	5.0	20.0	-	5.0
出羽地区	35	-	11.4	11.4	25.7	5.7	8.6	-	5.7	-	2.9	5.7	-	22.9	-	-
蒲生地区	61	-	4.9	27.9	6.6	9.8	19.7	-	1.6	-	4.9	3.3	3.3	14.8	3.3	-
川柳地区	10	-	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0	-	-	-	10.0	-	-
大相模地区	21	-	14.3	9.5	14.3	-	4.8	-	14.3	-	9.5	9.5	-	23.8	-	-
大沢地区	24	-	8.3	20.8	8.3	8.3	16.7	4.2	-	-	8.3	4.2	-	16.7	4.2	-
北越谷地区	18	-	11.1	-	16.7	11.1	16.7	-	5.6	-	-	-	-	33.3	5.6	-
越ヶ谷地区	36	5.6	5.6	13.9	13.9	5.6	11.1	-	2.8	5.6	-	-	-	27.8	8.3	-
南越谷地区	38	-	-	18.4	5.3	18.4	5.3	5.3	-	2.6	5.3	5.3	2.6	23.7	7.9	-

職業別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は建築関係自営業（40.0%）で4割と多く、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は公務員（33.3%）で3割強、「仕事の関係で」は市外会社員（19.6%）で約2割と多くなっている。

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにならないので	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	431	0.9	13.7	13.5	11.6	8.4	11.6	0.7	4.9	1.9	4.6	2.6	1.6	19.3	4.6	0.2
農業	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
市内会社員	30	-	6.7	23.3	10.0	10.0	16.7	-	13.3	-	-	3.3	-	6.7	10.0	-
市外会社員	112	1.8	15.2	8.0	16.1	19.6	10.7	1.8	1.8	-	4.5	2.7	1.8	15.2	0.9	-
小売店自営業	5	20.0	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	20.0	-
建築関係自営業	10	-	10.0	40.0	20.0	-	10.0	-	10.0	-	-	-	-	10.0	-	-
製造関係自営業	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	10	10.0	-	20.0	-	10.0	20.0	-	-	-	-	-	-	30.0	-	10.0
自由業	4	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-
公務員	18	-	-	11.1	5.6	5.6	33.3	-	-	-	11.1	5.6	5.6	22.2	-	-
団体職員	3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-
学生	15	-	20.0	-	6.7	6.7	-	-	-	-	6.7	6.7	-	33.3	20.0	-
家事従業	51	-	13.7	11.8	5.9	3.9	15.7	-	9.8	5.9	5.9	3.9	2.0	15.7	5.9	-
パートタイマー	71	-	18.3	22.5	5.6	5.6	15.5	-	2.8	-	4.2	-	-	22.5	2.8	-
その他	18	-	27.8	16.7	5.6	11.1	-	-	-	5.6	5.6	-	5.6	16.7	5.6	-
無職	74	-	10.8	10.8	18.9	-	2.7	1.4	6.8	5.4	5.4	2.7	1.4	25.7	8.1	-

世帯状況別でみると、「交通の便が悪いので」は三世帯世帯（28.1%）で3割弱と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は二世帯世帯（16.2%）で、「付近の生活環境が悪いので」は一世代世帯（17.1%）、単身世帯（15.2%）で、「仕事の関係で」は単身世帯（15.2%）でそれぞれやや多くなっている。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	431	0.9	13.7	13.5	11.6	8.4	11.6	0.7	4.9	1.9	4.6	2.6	1.6	19.3	4.6	0.2
単身世帯	46	2.2	4.3	13.0	15.2	15.2	4.3	2.2	6.5	-	4.3	-	-	28.3	4.3	-
一世代世帯	117	0.9	13.7	10.3	17.1	6.8	12.0	-	6.0	2.6	6.0	2.6	-	17.1	5.1	-
二世帯世帯	228	0.9	13.2	16.2	7.9	8.3	14.0	0.9	3.9	2.2	4.4	2.6	3.1	18.0	3.9	0.4
三世帯世帯	32	-	28.1	9.4	12.5	6.3	3.1	-	3.1	-	3.1	6.3	-	21.9	6.3	-
その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

居住年数別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は15～20年未満（27.6%）で3割弱と多くなっている。また、「仕事の関係で」は1年未満（28.6%）、3～5年未満（25.0%）で、「付近の生活環境が悪いので」は40年以上（20.2%）でそれぞれ2割を超え多くなっている。

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

（%）

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにならないので	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	431	0.9	13.7	13.5	11.6	8.4	11.6	0.7	4.9	1.9	4.6	2.6	1.6	19.3	4.6	0.2
1年未満	14	-	7.1	7.1	14.3	28.6	14.3	7.1	-	7.1	7.1	-	-	7.1	-	-
1～3年未満	22	4.5	22.7	13.6	13.6	13.6	13.6	-	-	-	4.5	-	-	13.6	-	-
3～5年未満	20	-	-	15.0	-	25.0	20.0	5.0	5.0	-	5.0	-	-	20.0	5.0	-
5～10年未満	49	2.0	10.2	12.2	10.2	10.2	18.4	2.0	8.2	-	4.1	4.1	4.1	14.3	-	-
10～15年未満	32	-	18.8	15.6	12.5	-	12.5	-	-	3.1	3.1	6.3	-	28.1	-	-
15～20年未満	29	-	13.8	27.6	3.4	13.8	3.4	-	-	-	3.4	3.4	3.4	17.2	10.3	-
20～30年未満	95	-	14.7	12.6	9.5	11.6	11.6	-	4.2	1.1	5.3	2.1	2.1	17.9	6.3	1.1
30～40年未満	79	2.5	16.5	8.9	11.4	5.1	13.9	-	3.8	3.8	7.6	1.3	1.3	20.3	3.8	-
40年以上	84	-	10.7	15.5	20.2	-	4.8	-	9.5	2.4	2.4	3.6	1.2	22.6	7.1	-

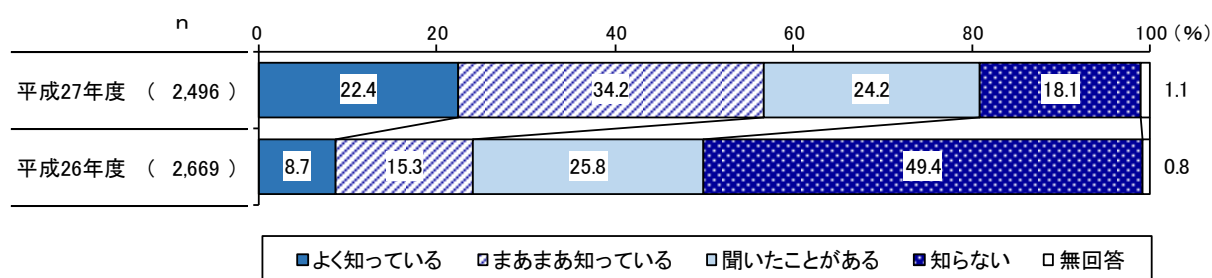
2. 中核市移行について

(1) 中核市移行の認知

◇ 『知っている』は5割半ば

問10. あなたは、越谷市が平成27年4月に中核市に移行したことを知っていますか。
次の中から1つ選んでください。

図表2-1-1 中核市移行の認知



※ 平成26年度は、質問文が「越谷市が平成27年4月に中核市に移行を目指していることを知っていますか。」

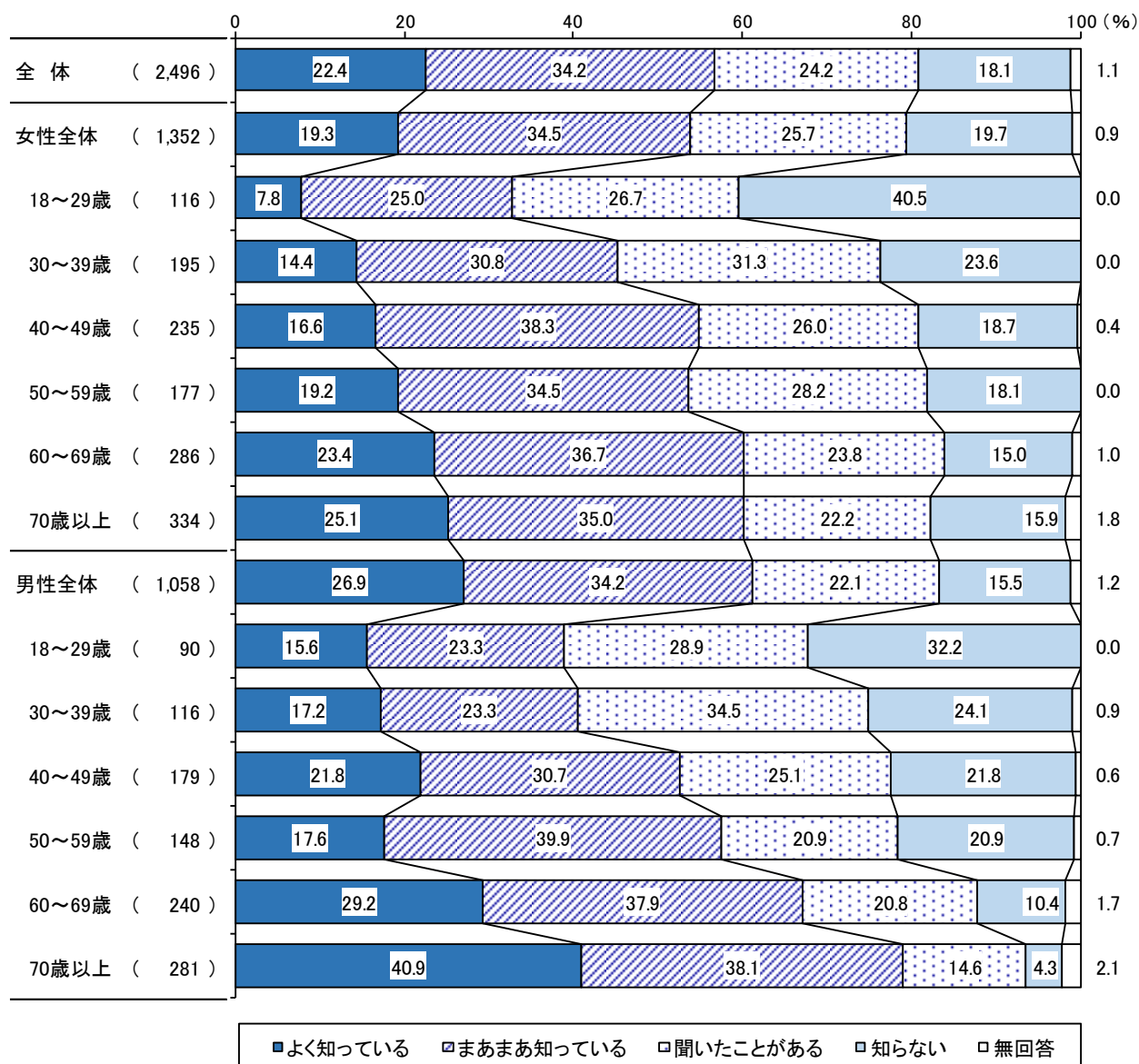
越谷市が平成27年4月に中核市へ移行したことの認知度については、「よく知っている」(22.4%)と「まあまあ知っている」(34.2%)を合わせた『知っている』(56.6%)は5割半ばとなっている。一方、「知らない」(18.1%)は2割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』は平成26年度調査(24.0%)と比べ32.6ポイント増加している。

性別でみると、『知っている』は男性（61.1%）が女性（53.8%）より7.3ポイント高くなっている。一方、「知らない」は女性（19.7%）が男性（15.5%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上（79.0%）で約8割、男性60～69歳（67.1%）で7割弱と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（40.5%）で約4割、男性18～29歳（32.2%）で3割強と多くなっている。

図表2-1-2 性・年齢別 中核市移行の認知

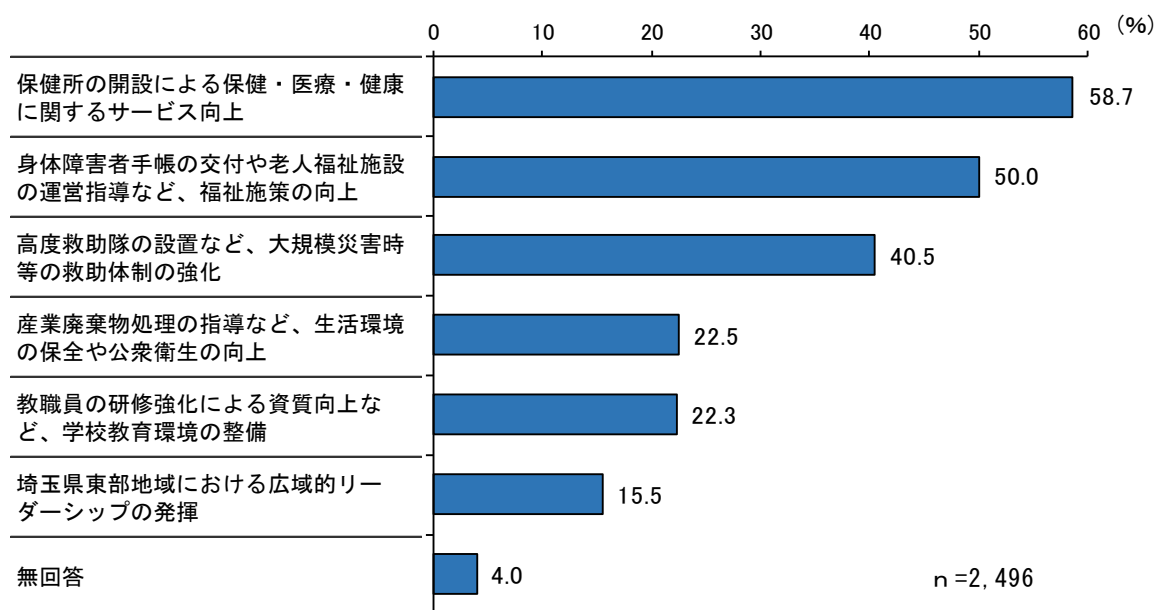


(2) 中核市への期待

◇「保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上」が6割弱

問11. あなたは、越谷市が中核市になったことに伴い、どのようなことに期待しますか。
(複数回答可)

図表 2-2-1 中核市への期待



越谷市が中核市になったことで期待することについては、「保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上」(58.7%)が最も多くなっている。

次いで、「身体障害者手帳の交付や老人福祉施設の運営指導など、福祉施策の向上」(50.0%)、「高度救助隊の設置など、大規模災害時等の救助体制の強化」(40.5%)、「産業廃棄物処理の指導など、生活環境の保全や公衆衛生の向上」(22.5%)、「教職員の研修強化による資質向上など、学校教育環境の整備」(22.3%)、「埼玉県東部地域における広域的リーダーシップの発揮」(15.5%)の順となっている。

性別でみると、女性・男性とも「保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上」（女性 60.3%、男性 57.3%）が最も多く、次いで「身体障害者手帳の交付や老人福祉施設の運営指導など、福祉施策の向上」（女性 52.2%、男性 46.9%）、「高度救助隊の設置など、大規模災害時等の救助体制の強化」（女性 43.9%、男性 36.8%）となっている。

性・年齢別でみると、「保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上」は女性 30～39歳（65.6%）、女性 40～49歳（66.8%）で6割半ばと多く、「身体障害者手帳の交付や老人福祉施設の運営指導など、福祉施策の向上」は女性 50～59歳（60.5%）、女性 60～69歳（60.5%）、女性 70歳以上（61.4%）で約6割と多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 中核市への期待

	調査数（人）	向上の施設 身体障害者 の運営指導 など、交付 福祉老人 施策福祉	保健所の開設 による保健・ 医療・	高度救助隊の 設置など、大 規模災害	産業廃棄物 の処理の指 導など、生活	教職員の研 修強化による 資質向上	埼玉県東部 地域の発展	無回答
全体	2,496	50.0	58.7	40.5	22.5	22.3	15.5	4.0
女性全体	1,352	52.2	60.3	43.9	22.3	23.7	10.2	4.1
18～29歳	116	31.9	63.8	44.8	19.0	21.6	5.2	3.4
30～39歳	195	36.9	65.6	46.2	25.1	43.6	11.3	3.1
40～49歳	235	47.2	66.8	52.8	25.1	36.2	8.5	2.1
50～59歳	177	60.5	62.1	51.4	26.6	22.0	9.0	1.7
60～69歳	286	60.5	59.4	43.4	23.4	15.7	12.6	3.5
70歳以上	334	61.4	51.5	32.6	16.8	11.7	11.1	7.5
男性全体	1,058	46.9	57.3	36.8	22.7	21.4	22.3	3.3
18～29歳	90	23.3	50.0	37.8	30.0	24.4	23.3	2.2
30～39歳	116	28.4	62.1	36.2	19.0	34.5	19.8	3.4
40～49歳	179	41.3	55.9	40.8	25.7	35.8	21.8	3.9
50～59歳	148	50.0	55.4	48.0	20.3	18.2	28.4	4.1
60～69歳	240	57.9	55.0	35.8	26.3	14.6	18.3	3.3
70歳以上	281	54.8	61.2	28.8	18.1	13.5	23.8	2.8

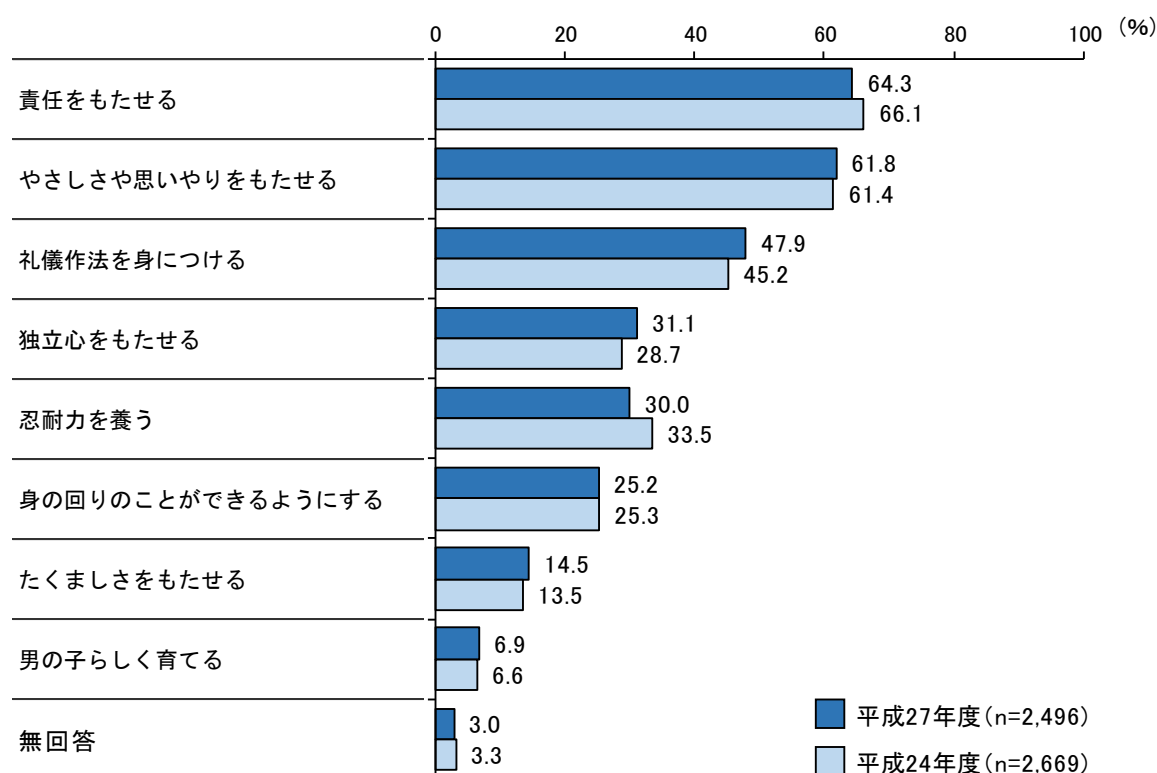
3. 男女共同参画について

(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

◇「責任をもたせる」が6割半ば

問12. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
男の子と女の子のそれぞれについて3つまで選んでください。

図表3-1-1 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）



子ども（男の子）に対する「教育・しつけ」で大切に思うことについては、「責任をもたせる」（64.3%）が最も多く、次いで、「やさしさや思いやりをもたせる」（61.8%）、「礼儀作法を身につける」（47.9%）、「独立心をもたせる」（31.1%）、「忍耐力を養う」（30.0%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、「責任をもたせる」は平成24年度調査（66.1%）と比べ1.8ポイント減少している。

性別でみると、女性・男性とも「責任をもたせる」（女性 66.0%、男性 63.3%）が最も多く、次いで「やさしさや思いやりをもたせる」（女性 64.9%、男性 58.0%）、「礼儀作法を身につける」（女性 42.8%、男性 55.2%）となっている。

性・年齢別でみると、「責任をもたせる」は女性 50～59 歳（71.2%）、女性 60～69 歳（72.0%）で7割以上と多く、「やさしさや思いやりをもたせる」は女性 18～29 歳（76.7%）、女性 30～39 歳（75.4%）で7割半ばと多くなっている。

図表 3-1-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

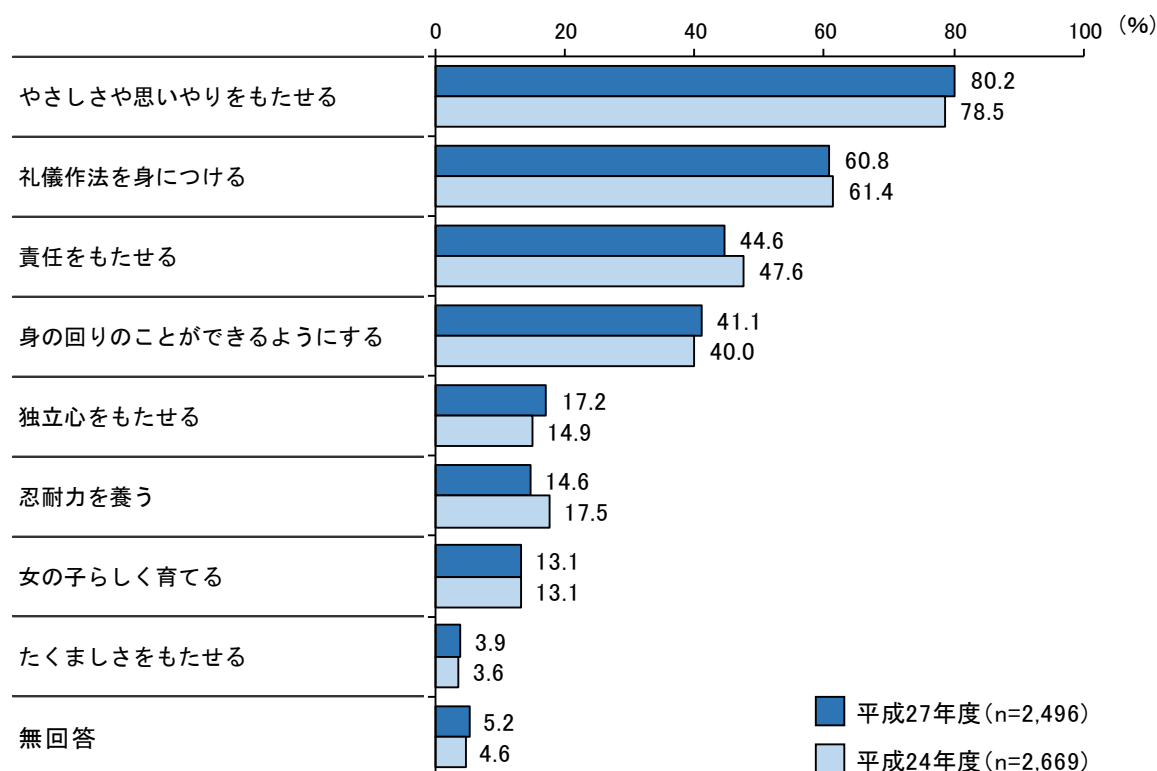
	調査数（人）	独立心をもたせる	責任をもたせる	たくましさをもたせる	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	忍耐力を養う	男の子らしく育てる	身の回りのことができるようにする	無回答
全 体	2,496	31.1	64.3	14.5	61.8	47.9	30.0	6.9	25.2	3.0
女性全体	1,352	31.1	66.0	14.1	64.9	42.8	32.5	5.5	28.1	2.4
18～29歳	116	13.8	63.8	25.9	76.7	55.2	27.6	1.7	31.0	-
30～39歳	195	17.4	57.4	20.0	75.4	55.9	31.8	4.1	36.9	0.5
40～49歳	235	25.5	60.9	16.2	67.7	44.3	39.1	2.6	29.8	2.6
50～59歳	177	40.1	71.2	12.4	67.8	35.0	32.8	2.8	35.0	-
60～69歳	286	37.4	72.0	10.1	63.3	40.9	30.4	7.0	27.3	1.7
70歳以上	334	39.2	68.0	9.6	52.4	35.6	31.4	9.9	18.3	6.0
男性全体	1,058	30.8	63.3	15.0	58.0	55.2	26.8	8.5	21.5	3.4
18～29歳	90	30.0	67.8	10.0	68.9	50.0	25.6	8.9	27.8	-
30～39歳	116	18.1	59.5	24.1	60.3	57.8	35.3	8.6	20.7	1.7
40～49歳	179	22.9	60.3	18.4	64.2	58.1	28.5	8.4	24.0	3.4
50～59歳	148	33.1	66.2	16.9	58.8	47.3	27.0	6.1	27.7	2.0
60～69歳	240	34.2	65.0	12.9	58.8	60.8	23.8	8.3	18.3	2.1
70歳以上	281	37.4	61.9	11.4	49.1	53.4	25.6	9.6	17.1	7.1

(2) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が約8割

問12. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
 男子と女子のそれぞれについて3つまで選んでください。

図表3-2-1 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）



子ども（女の子）に対する「教育・しつけ」で大切に思うことについては、「やさしさや思いやりをもたせる」（80.2%）が最も多く、次いで、「礼儀作法を身につける」（60.8%）、「責任をもたせる」（44.6%）、「身の回りのことができるようにする」（41.1%）、「独立心をもたせる」（17.2%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、「やさしさや思いやりをもたせる」は平成24年度調査（78.5%）と比べ1.7ポイント増加している。

性別で見ると、女性・男性とも「やさしさや思いやりをもたせる」(女性 82.2%、男性 78.4%) が最も多く、次いで「礼儀作法を身につける」(女性 60.3%、男性 62.2%)、「責任をもたせる」(女性 46.2%、男性 42.8%) となっている。

性・年齢別で見ると、「礼儀作法を身につける」は女性 18～29 歳 (74.1%)、女性 30～39 歳 (73.8%) で7割以上と多く、「責任をもたせる」は女性 50～59 歳 (60.5%) で6割と多くなっている。また、「身の回りのことができるようにする」は女性 30～39 歳 (55.9%)、女性 40～49 歳 (50.2%)、男性 18～29 歳 (52.2%) で5割以上となっている。

図表 3-2-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと (女の子)

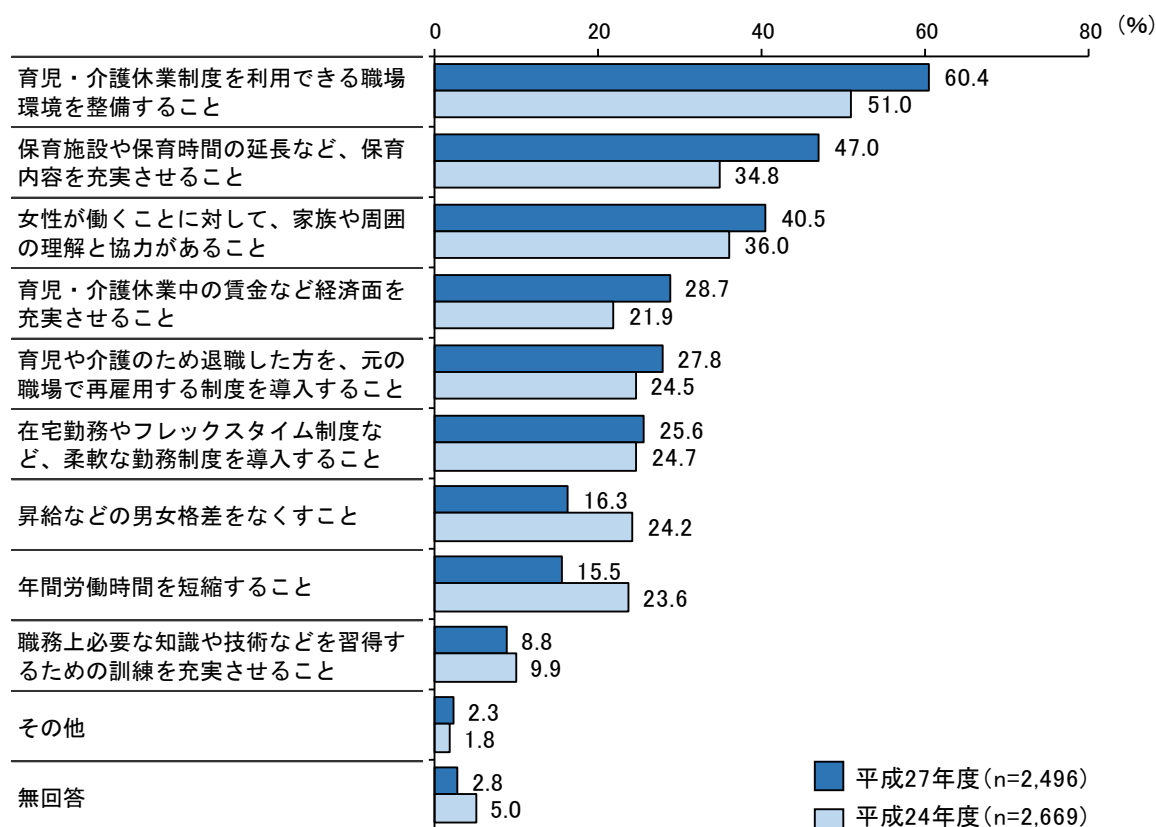
	調査数 (人)	独立心をもたせる	責任をもたせる	たくましさをもたせる	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	忍耐力を養う	女の子らしく育てる	身の回りのことができるようにする	無回答 (%)
全 体	2,496	17.2	44.6	3.9	80.2	60.8	14.6	13.1	41.1	5.2
女性全体	1,352	17.6	46.2	4.1	82.2	60.3	16.2	8.7	45.6	3.8
18～29歳	116	9.5	44.0	6.0	86.2	74.1	18.1	6.9	49.1	0.9
30～39歳	195	11.8	41.5	8.7	82.6	73.8	11.8	5.6	55.9	2.6
40～49歳	235	19.1	40.9	4.3	80.4	62.6	17.4	6.8	50.2	3.4
50～59歳	177	19.2	60.5	4.0	86.4	56.5	17.5	5.6	46.9	0.6
60～69歳	286	22.0	48.3	3.5	83.9	56.3	15.7	10.1	42.3	3.1
70歳以上	334	18.3	44.0	1.2	78.4	52.4	16.8	13.2	37.4	7.8
男性全体	1,058	16.3	42.8	3.7	78.4	62.2	12.9	18.9	36.0	6.3
18～29歳	90	15.6	31.1	5.6	83.3	60.0	14.4	17.8	52.2	3.3
30～39歳	116	10.3	44.8	7.8	76.7	68.1	19.0	16.4	39.7	2.6
40～49歳	179	11.2	39.7	5.6	78.8	69.3	16.8	17.3	43.0	6.1
50～59歳	148	15.5	44.6	4.1	81.1	56.8	14.9	14.2	43.9	4.1
60～69歳	240	21.7	47.1	2.5	80.0	60.4	10.0	21.7	30.4	4.6
70歳以上	281	18.1	43.4	1.1	74.4	59.8	9.3	21.7	24.9	11.7

(3) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件

◇「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割

問13. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

図表3-3-1 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件



男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件については、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」(60.4%)が最も多く、次いで、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」(47.0%)、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」(40.5%)、「育児・介護休業中の賃金など経済面を充実させること」(28.7%)、「育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること」(27.8%)の順となっている。また、その他として「男性の育児休暇取得率の向上」「子育て施設や体制の充実」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」は平成24年度調査(51.0%)と比べ9.4ポイント、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」は平成24年度調査(34.8%)と比べ12.2ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は女性（44.6%）が男性（36.4%）より8.2ポイント高く、「年間労働時間を短縮すること」は男性（18.4%）が女性（13.2%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」は女性18～29歳（72.4%）で7割強と多く、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」は女性30～39歳（68.7%）で7割弱と多くなっている。また、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は女性70歳以上（49.4%）で約5割と多くなっている。

図表3-3-2 性・年齢別 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件

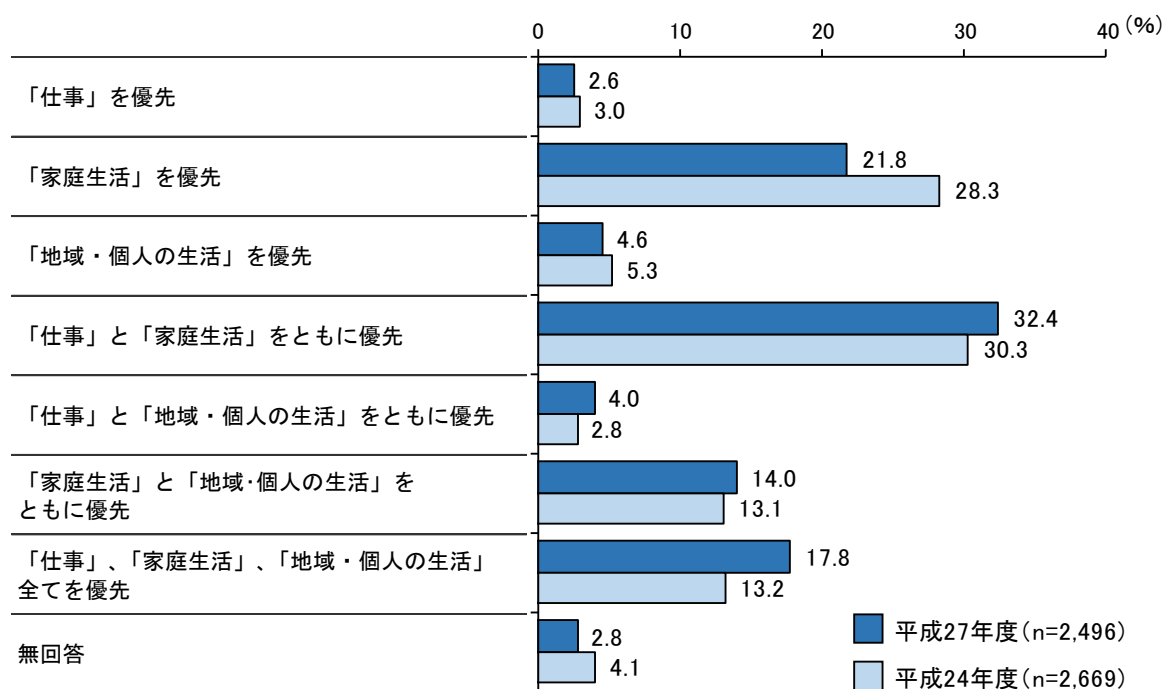
	調査数（人）	職場環境を整備すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること	昇給などの男女格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	育児・介護休業中の賃金など経済面を充実させること	職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること	その他	無回答
全体	2,496	60.4	40.5	47.0	25.6	27.8	16.3	15.5	28.7	8.8	2.3	2.8
女性全体	1,352	61.6	44.6	46.4	25.6	28.4	17.2	13.2	27.1	8.0	2.6	2.5
18～29歳	116	72.4	33.6	56.0	27.6	23.3	20.7	19.8	29.3	3.4	4.3	-
30～39歳	195	63.6	42.6	68.7	29.7	14.4	19.0	15.9	29.2	4.6	4.6	-
40～49歳	235	59.6	43.4	46.8	32.8	27.2	17.4	14.0	23.8	8.1	3.8	0.4
50～59歳	177	65.5	46.3	44.6	29.4	24.3	18.1	13.6	30.5	7.3	1.7	-
60～69歳	286	66.1	45.1	43.0	21.0	32.5	14.3	11.5	28.3	7.7	1.4	2.8
70歳以上	334	51.8	49.4	34.4	18.6	38.0	16.8	9.9	24.6	12.3	1.5	7.5
男性全体	1,058	59.5	36.4	47.9	26.3	26.6	16.0	18.4	30.9	9.1	1.8	2.7
18～29歳	90	66.7	37.8	33.3	31.1	24.4	20.0	26.7	37.8	10.0	2.2	-
30～39歳	116	61.2	30.2	58.6	33.6	9.5	15.5	25.0	33.6	6.0	3.4	2.6
40～49歳	179	53.1	33.5	55.3	28.5	20.1	14.0	24.0	34.6	7.3	2.2	1.1
50～59歳	148	56.8	35.1	52.0	25.0	32.4	12.2	19.6	29.1	6.8	0.7	0.7
60～69歳	240	62.5	37.5	49.2	24.2	30.0	15.8	14.6	29.2	8.8	2.1	1.7
70歳以上	281	59.1	39.9	40.2	22.8	32.7	18.1	12.5	27.4	12.8	1.1	6.8

(4) 日常生活のなかでの優先度（希望）

◇ 希望は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が3割強

問14. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを、それぞれについて1つ選んでください。

図表3-4-1 日常生活のなかでの優先度（希望）



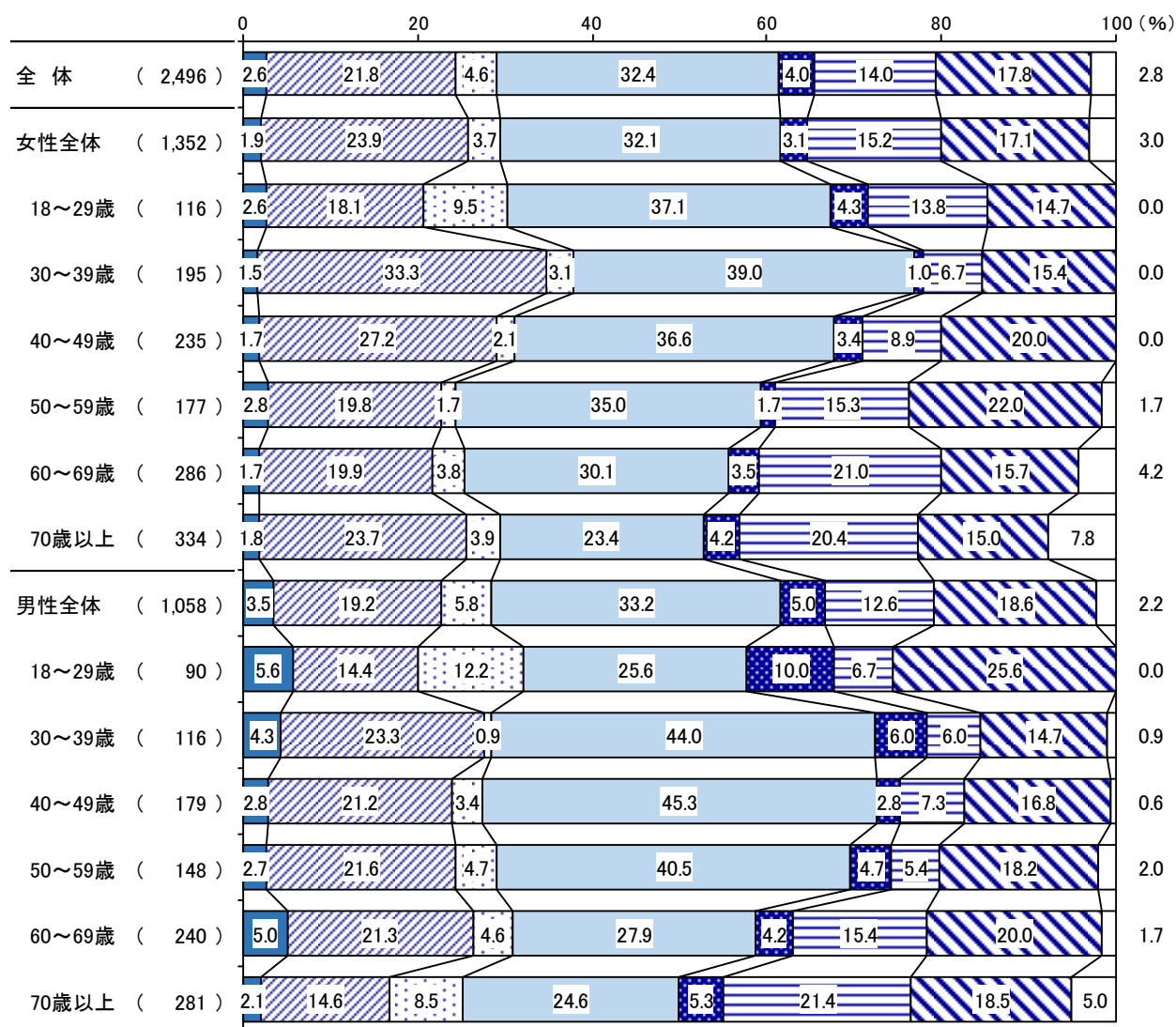
日常生活のなかでの優先度について、『希望』では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(32.4%)が最も多く、次いで、「『家庭生活』を優先」(21.8%)、「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』全てを優先」(17.8%)、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(14.0%)、「『地域・個人の生活』を優先」(4.6%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「『家庭生活』を優先」は平成24年度調査(28.3%)と比べ6.5ポイント減少している。

日常生活のなかでの優先度について、『希望』を性別でみると、『家庭生活』を優先は女性（23.9%）が男性（19.2%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性30～39歳（44.0%）、男性40～49歳（45.3%）、男性50～59歳（40.5%）で4割以上と多く、『家庭生活』を優先は女性30～39歳（33.3%）で3割強と高くなっている。

図表3-4-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（希望）



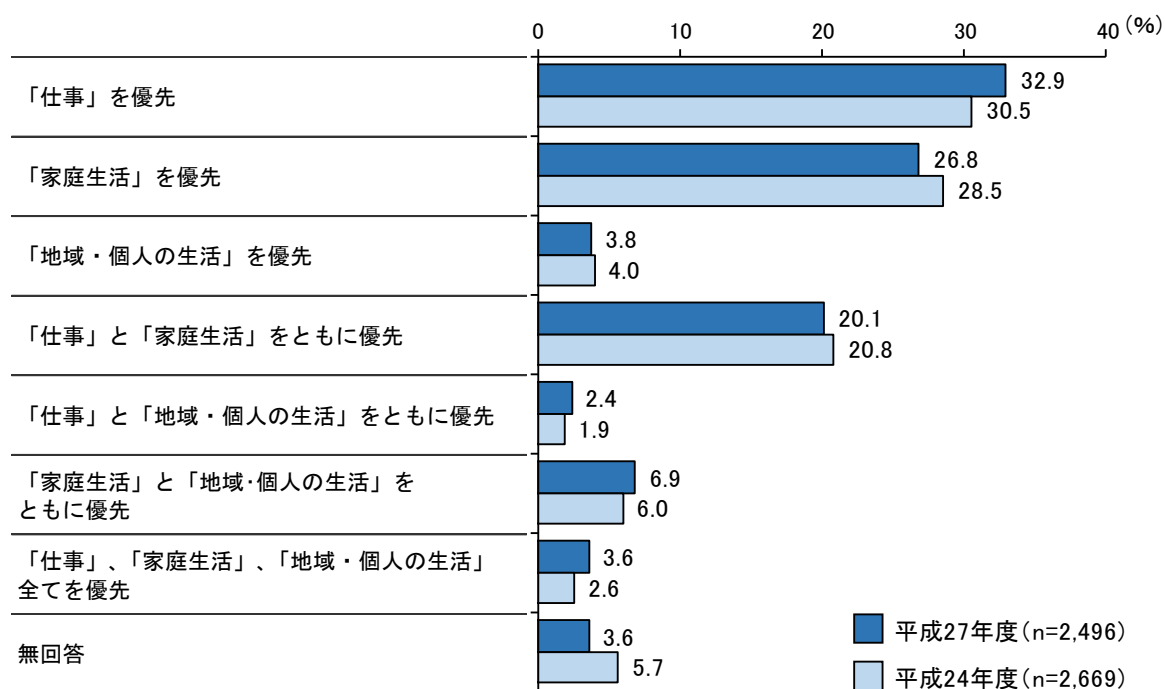
■「仕事」を優先 □「家庭生活」を優先 □「地域・個人の生活」を優先 □「仕事」と「家庭生活」をともに優先 ■「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先 □「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 ■「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先 □無回答

(5) 日常生活のなかでの優先度（現実）

◇ 現実には『仕事』を優先が3割強

問14. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを、それぞれについて1つ選んでください。

図表3-5-1 日常生活のなかでの優先度（現実）



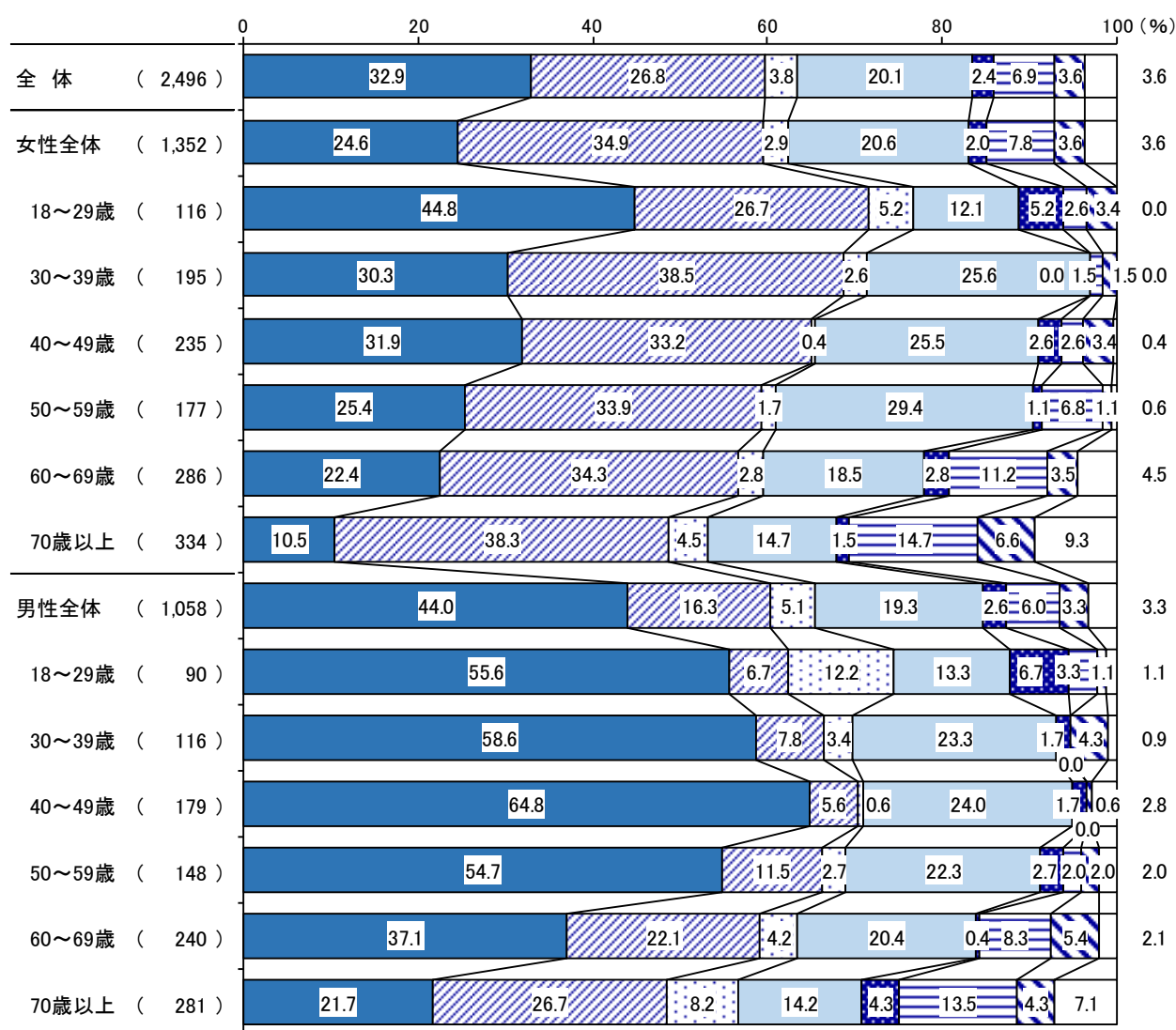
日常生活のなかでの優先度について、『現実』では、『仕事』を優先（32.9%）が最も多く、次いで、『家庭生活』を優先（26.8%）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（20.1%）、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先（6.9%）、『地域・個人の生活』を優先（3.8%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、『仕事』を優先は平成24年度調査（30.5%）と比べ2.4ポイント増加している。

日常生活のなかでの優先度について、『現実』を性別で見ると、女性は「『家庭生活』を優先」が最も多く、女性（34.9%）が男性（16.3%）より18.6ポイント高くなっている。また、男性は「『仕事』を優先」が最も多く、男性（44.0%）が女性（24.6%）より19.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「『仕事』を優先」は男性40～49歳（64.8%）で6割半ばと最も多く、男性18～29歳（55.6%）、男性30～39歳（58.6%）、男性50～59歳（54.7%）で5割以上となっている。「『家庭生活』を優先」は女性30～39歳（38.5%）、女性70歳以上（38.3%）で4割弱と高くなっている。

図表3-5-1 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（現実）



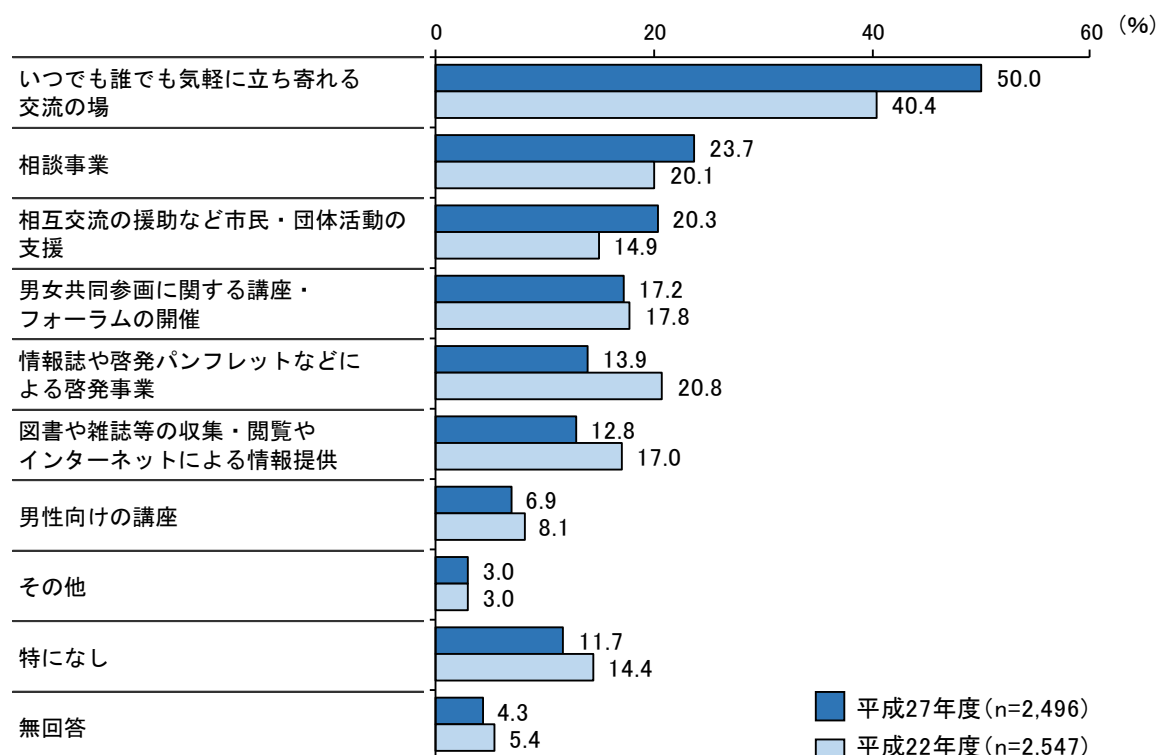
「仕事」を優先
 「家庭生活」を優先
 「地域・個人の生活」を優先
 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先
 無回答

(6) 男女共同参画施設が今後力を入れること

◇「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」が5割

問15. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター（ほっと越谷）」があります。あなたは、男女共同参画施設は今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。次の中から2つまで選んでください。

図表3-6-1 男女共同参画施設が今後力を入れること



越谷市の男女共同参画施設が今後力を入れることについて、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」(50.0%)が最も多く、次いで、「相談事業」(23.7%)、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」(20.3%)、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(17.2%)、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」(13.9%)の順となっている。また、「その他」として「施設の認知度をあげる」「施設の内容のPR」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は平成22年度調査(40.4%)と比べ9.6ポイント増加している。

性別でみると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は女性（51.7%）が男性（48.0%）より3.7ポイント高くなっている。一方、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」は男性（22.7%）が女性（18.1%）より4.6ポイント、「男性向けの講座」は男性（9.5%）が女性（5.0%）より4.5ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は女性70歳以上（65.0%）で6割半ばと最も多く、男性70歳以上（59.4%）で約6割と多くなっている。「相談事業」は男性30～39歳（34.5%）、男性40～49歳（34.1%）で3割半ばと多く、「図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供」は女性18～29歳（26.7%）で2割半ばと多くなっている。

図表3-6-2 性・年齢別 男女共同参画施設が今後力を入れること

	調査数（人）	交流の場 いつでも誰でも気軽に立ち寄れる	情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業	相談事業	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供	相互交流の援助など市民・団体活動の支援	男性向けの講座	その他	特になし	無回答
全体	2,496	50.0	13.9	23.7	17.2	12.8	20.3	6.9	3.0	11.7	4.3
女性全体	1,352	51.7	13.7	23.8	16.5	13.2	18.1	5.0	3.4	12.4	4.0
18～29歳	116	44.8	19.0	31.9	11.2	26.7	14.7	5.2	2.6	8.6	2.6
30～39歳	195	42.6	13.8	25.6	14.4	21.5	14.9	6.7	5.1	17.9	1.0
40～49歳	235	43.8	15.7	30.2	19.1	16.2	17.0	7.7	6.0	9.8	1.7
50～59歳	177	46.3	16.4	24.9	19.2	16.4	22.0	6.8	1.1	12.4	1.1
60～69歳	286	54.5	15.0	21.0	16.4	10.5	15.7	4.2	2.4	12.9	5.6
70歳以上	334	65.0	7.8	17.4	16.5	2.7	21.6	1.8	3.0	12.3	7.8
男性全体	1,058	48.0	14.9	24.3	18.0	12.4	22.7	9.5	2.7	10.6	4.2
18～29歳	90	51.1	10.0	20.0	16.7	21.1	24.4	12.2	2.2	14.4	2.2
30～39歳	116	44.0	12.9	34.5	11.2	18.1	20.7	10.3	3.4	11.2	1.7
40～49歳	179	37.4	14.0	34.1	13.4	17.3	18.4	11.2	4.5	11.7	2.8
50～59歳	148	35.8	18.9	25.7	24.3	16.2	22.3	10.1	2.7	8.1	3.4
60～69歳	240	50.8	16.3	18.3	21.7	10.0	23.8	7.5	2.5	12.1	4.6
70歳以上	281	59.4	14.6	19.2	17.4	4.3	25.3	8.2	1.8	8.5	6.8

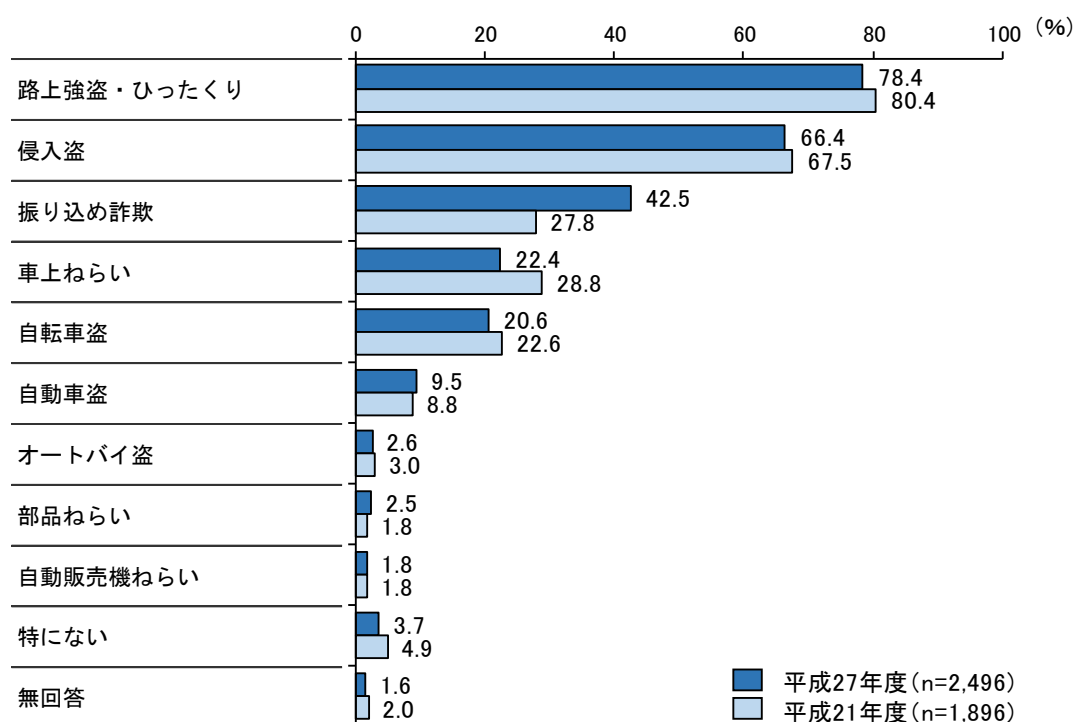
4. 防犯について

(1) 脅威や不安を感じる街頭犯罪等

◇「路上強盗・ひったくり」が8割弱

問16. あなたが日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

図表4-1-1 脅威や不安を感じる街頭犯罪



日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等について、「路上強盗・ひったくり」(78.4%)が最も多く、次いで、「侵入盗」(66.4%)、「振り込め詐欺」(42.5%)、「車上ねらい」(22.4%)、「自転車盗」(20.6%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「振り込め詐欺」は平成21年度調査(27.8%)と比べ14.7ポイント増加している。

性別で見ると、「路上強盗・ひったくり」は女性（84.1%）が男性（71.7%）より12.4ポイント高くなっている。一方、「車上ねらい」は男性（27.1%）が女性（19.2%）より7.9ポイント、「自動車盗」も男性（12.8%）が女性（6.7%）より6.1ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「路上強盗・ひったくり」は女性50～59歳（87.0%）、女性60～69歳（86.4%）で8割半ばと多くなっている。「侵入盗」は女性40～49歳（75.3%）、女性50～59歳（74.0%）で7割半ば、「振り込め詐欺」は女性70歳以上（66.8%）で6割半ばと多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 脅威や不安を感じる街頭犯罪

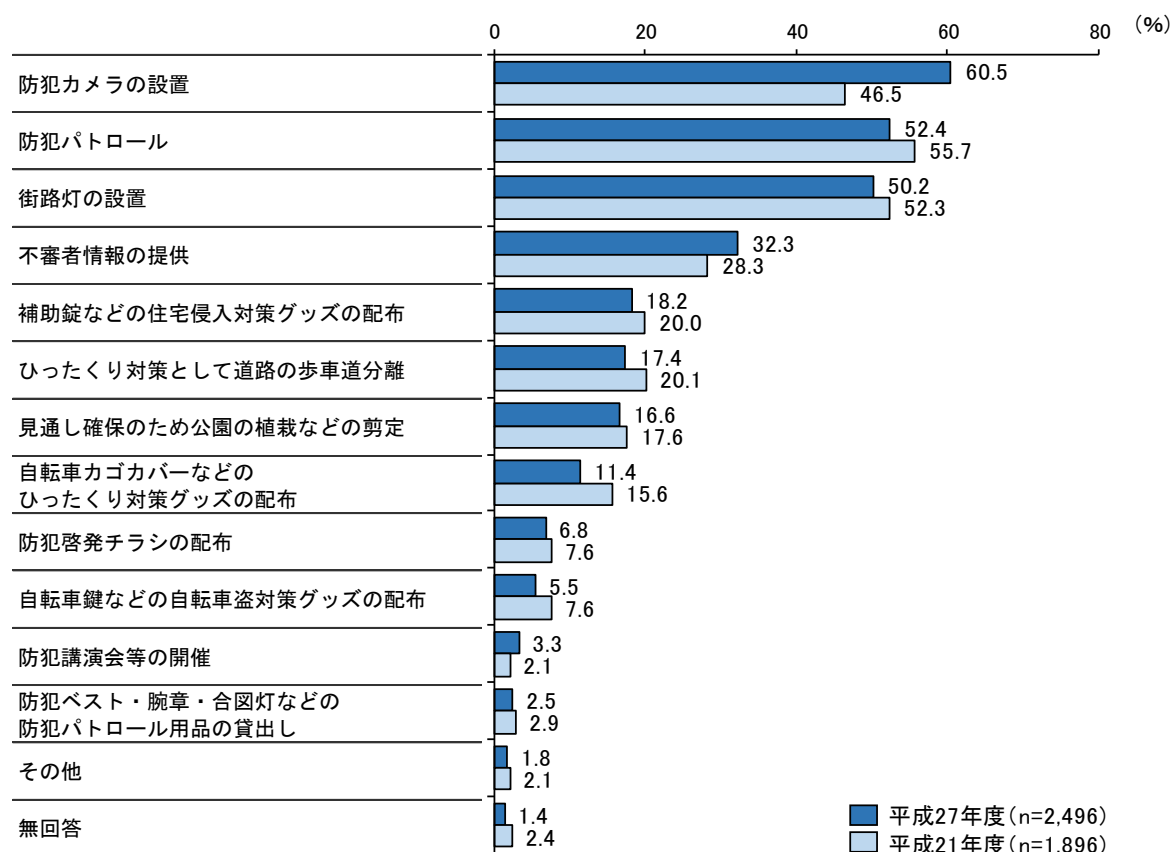
	調査数（人）	路上強盗・ひったくり	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	車上ねらい	部品ねらい	自動販売機ねらい	侵入盗	振り込め詐欺	特にない	無回答
全体	2,496	78.4	9.5	2.6	20.6	22.4	2.5	1.8	66.4	42.5	3.7	1.6
女性全体	1,352	84.1	6.7	1.6	21.4	19.2	2.2	1.0	68.0	45.0	3.0	1.5
18～29歳	116	81.9	12.1	-	29.3	20.7	3.4	-	61.2	24.1	3.4	-
30～39歳	195	83.6	14.9	1.5	17.4	31.3	2.6	0.5	67.2	23.6	5.6	0.5
40～49歳	235	82.1	7.2	0.9	21.7	31.9	1.7	-	75.3	27.2	2.6	1.3
50～59歳	177	87.0	4.5	3.4	19.8	16.9	1.7	-	74.0	50.3	1.1	1.1
60～69歳	286	86.4	4.9	1.0	22.0	16.1	2.4	1.7	70.6	54.9	1.4	1.7
70歳以上	334	83.5	2.4	2.1	21.3	6.9	2.1	2.4	61.1	66.8	3.6	2.4
男性全体	1,058	71.7	12.8	3.7	19.4	27.1	2.9	2.8	65.1	39.9	4.6	1.5
18～29歳	90	53.3	21.1	8.9	40.0	18.9	7.8	2.2	57.8	35.6	4.4	-
30～39歳	116	59.5	19.0	2.6	12.9	42.2	4.3	3.4	72.4	23.3	6.0	1.7
40～49歳	179	65.9	23.5	6.7	21.8	36.9	2.8	1.7	70.9	26.3	3.4	-
50～59歳	148	79.1	6.8	4.7	13.5	29.7	0.7	1.4	68.9	36.5	4.7	2.7
60～69歳	240	79.6	9.6	0.8	15.4	26.3	3.3	3.8	64.6	43.3	3.8	1.3
70歳以上	281	75.4	6.4	2.5	19.9	17.1	1.8	3.6	59.4	55.2	5.7	2.5

(2) 効果的だと思う防犯対策

◇「防犯カメラの設置」が約6割

問17. あなたは、市が防犯のためにどのようなことを行うと効果的だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

図表4-2-1 効果的だと思う防犯対策



市が行う効果的だと思う防犯対策については、「防犯カメラの設置」(60.5%)が最も多くなっている。次いで、「防犯パトロール」(52.4%)、「街路灯の設置」(50.2%)、「不審者情報の提供」(32.3%)、「補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布」(18.2%)の順となっている。また、「その他」として「警察のパトロール」「あいさつ、声かけ」「福祉政策の充実」「個人住宅の植栽などの剪定」「年少時からの教育」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「防犯カメラの設置」は平成21年度調査(46.5%)と比べ14.0ポイント増加している。

性別で見ると、「防犯カメラの設置」は男性（65.3%）が女性（57.0%）より8.3ポイント高くなっている。一方、「自転車カゴカバーなどのひったくり対策グッズの配布」は女性（14.3%）が男性（7.2%）より7.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「防犯カメラの設置」は男性50～59歳（73.0%）で7割強と最も多くなっている。また、「防犯パトロール」は女性30～39歳（64.1%）、男性30～39歳（65.5%）、男性40～49歳（65.4%）で6割半ば、「街路灯の設置」は女性18～29歳（62.9%）で6割強と多くなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 効果的だと思う防犯対策

(%)

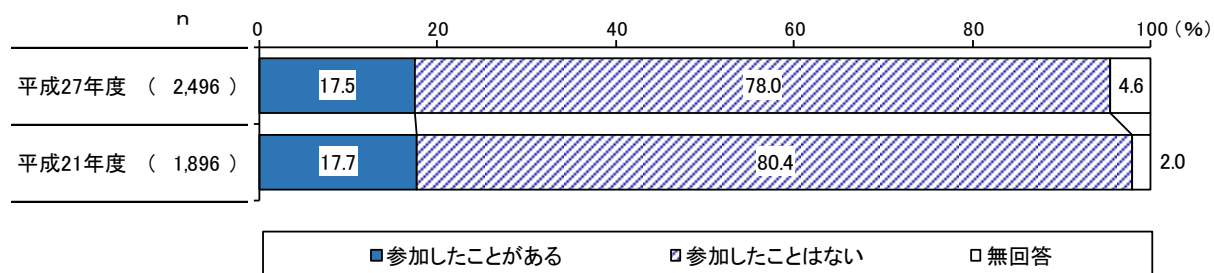
	調査数（人）	防犯啓発チラシの配布	補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布	自転車鍵などの自転車盗対策グッズの配布	自転車カゴカバーなどのひったくり対策グッズの配布	防犯ベスト・腕章・合図灯などの防犯パトロール用品の貸出し	防犯講演会等の開催	不審者情報の提供	防犯パトロール	防犯カメラの設置	街路灯の設置	道分離	ひったくり対策として道路の歩車	見通し確保のため公園の植栽などの剪定	その他	無回答
全体	2,496	6.8	18.2	5.5	11.4	2.5	3.3	32.3	52.4	60.5	50.2	17.4	16.6	1.8	1.4	
女性全体	1,352	5.8	20.2	5.1	14.3	1.8	1.9	33.3	52.4	57.0	50.5	19.6	18.8	1.7	1.0	
18～29歳	116	2.6	15.5	6.0	14.7	1.7	-	37.1	57.8	54.3	62.9	14.7	9.5	0.9	-	
30～39歳	195	3.1	21.5	7.7	13.3	1.5	2.1	25.6	64.1	60.5	56.4	20.0	14.9	0.5	0.5	
40～49歳	235	2.1	20.4	3.4	12.8	0.9	0.4	30.6	56.2	60.9	55.3	18.7	26.0	1.3	0.4	
50～59歳	177	4.0	22.6	6.2	15.3	2.3	0.6	32.2	59.9	58.2	49.7	14.7	20.9	2.3	0.6	
60～69歳	286	7.7	16.1	4.2	14.7	1.4	3.1	38.5	47.6	54.2	49.3	21.3	20.3	2.4	1.4	
70歳以上	334	10.5	23.1	4.8	14.7	2.7	3.3	34.1	41.3	55.4	41.0	22.8	17.4	2.1	1.8	
男性全体	1,058	8.0	16.2	5.8	7.2	3.2	5.1	31.2	53.0	65.3	49.9	14.8	13.8	2.1	1.6	
18～29歳	90	7.8	12.2	13.3	3.3	5.6	4.4	31.1	48.9	58.9	47.8	15.6	12.2	3.3	-	
30～39歳	116	5.2	13.8	3.4	3.4	1.7	3.4	27.6	65.5	62.9	56.9	15.5	12.1	2.6	1.7	
40～49歳	179	5.6	11.7	3.9	5.6	2.8	5.6	34.6	65.4	67.6	49.2	11.2	14.0	2.8	1.1	
50～59歳	148	2.7	12.2	4.1	4.7	1.4	4.1	27.7	60.1	73.0	51.4	17.6	12.2	1.4	1.4	
60～69歳	240	8.8	17.5	5.8	8.8	3.3	5.4	33.3	47.5	66.7	52.1	10.4	16.7	0.8	1.3	
70歳以上	281	13.2	22.1	6.4	11.0	4.3	5.7	30.6	42.0	61.9	45.9	18.5	13.5	2.5	2.8	

(3) 自主的な防犯活動の参加

◇「参加したことがある」が2割弱

問18. あなたは、自主的な防犯活動に参加したことがありますか。

図表4-3-1 自主的な防犯活動の参加



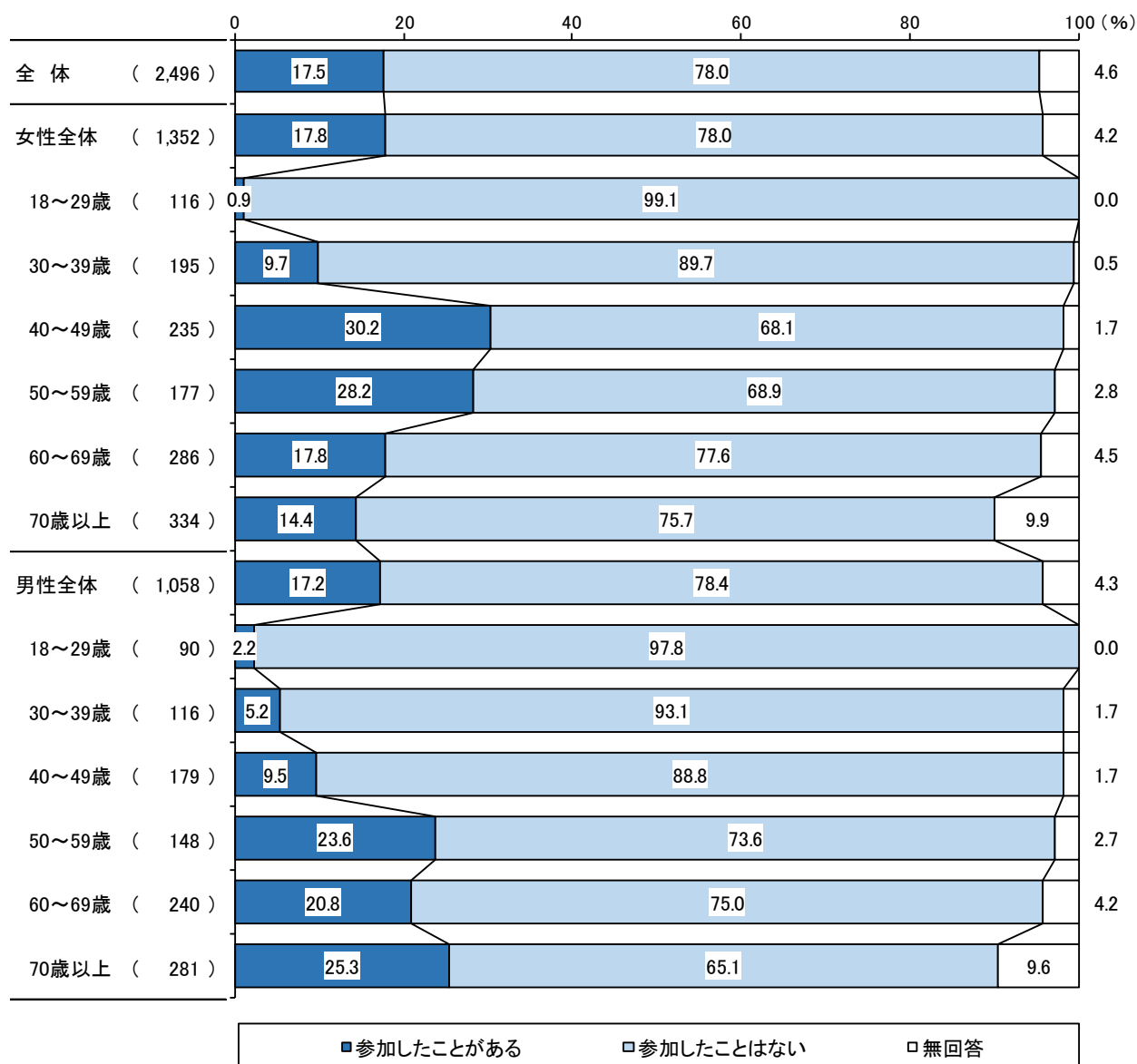
自主的な防犯活動の参加については、「参加したことがある」(17.5%)が2割弱となっている。

前回の調査と比較すると、「参加したことはない」(78.0%)は平成21年度調査(80.4%)と比べ2.4ポイント減少している。

性別でみると、「参加したことがある」は女性（17.8%）・男性（17.2%）に大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「参加したことがある」は女性40～49歳（30.2%）で3割、女性50～59歳（28.2%）で3割弱と多くなっている。一方、「参加したことはない」は女性18～29歳（99.1%）、男性18～29歳（97.8%）、男性30～39歳（93.1%）で9割以上、女性30～39歳（89.7%）、男性40～49歳（88.8%）で約9割と多くなっている。

図表4-3-2 性・年齢別 自主的な防犯活動の参加

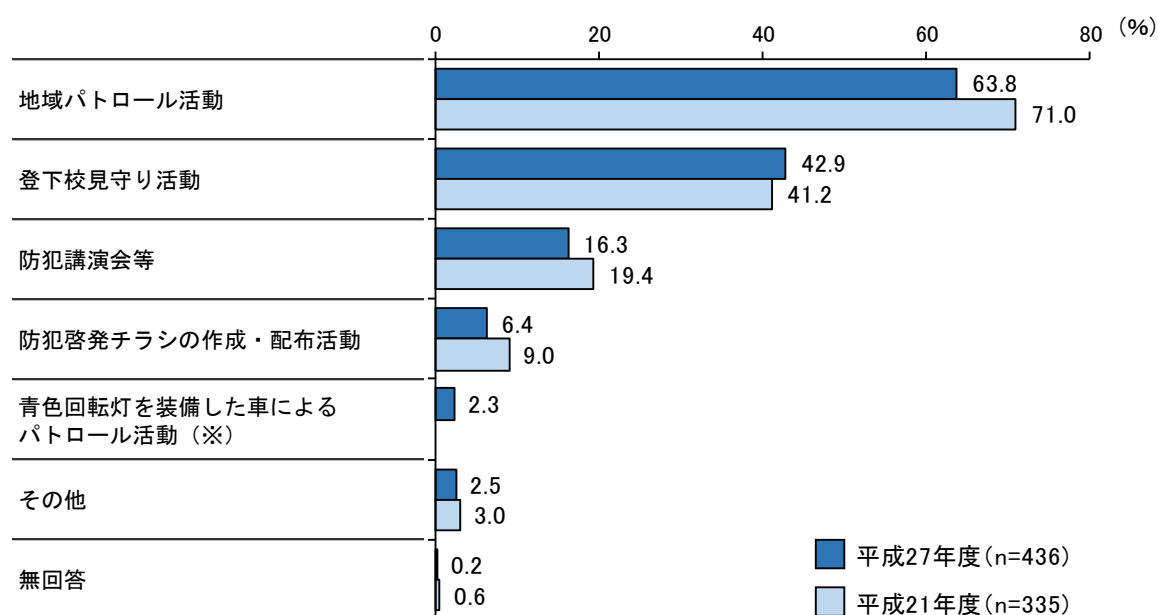


(4) 参加したことがある自主防犯活動

◇「地域パトロール活動」が6割強

問18-2. 問18で「1. 参加したことがある」と答えた方に伺います。あなたが参加した自主防犯活動はどのような活動ですか。次の中から当てはまるものを選んでください。
(複数回答可)

図表4-4-1 参加したことがある自主防犯活動



※ 平成21年度は「青色回転灯を装備した車によるパトロール活動」の選択肢なし

自主的な防犯活動に「参加したことがある」と回答した436人に、参加したことがある自主防犯活動を聞いたところ、「地域パトロール活動」(63.8%)が最も多くなっている。次いで、「登下校見守り活動」(42.9%)、「防犯講演会等」(16.3%)、「防犯啓発チラシの作成・配布活動」(6.4%)、「青色回転灯を装備した車によるパトロール活動」(2.3%)の順となっている。また、「その他」として「夜まわり」「無灯火自転車の注意」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「地域パトロール活動」は平成21年度調査(71.0%)と比べ7.2ポイント減少している。

性別でみると、「登下校見守り活動」は女性（55.2%）が男性（25.8%）より29.4ポイント高くなっている。一方、「防犯啓発チラシの作成・配布活動」は男性（10.4%）が女性（3.3%）より7.1ポイント、「地域パトロール活動」も男性（67.6%）が女性（61.0%）より6.6ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「地域パトロール活動」は女性60～69歳（72.5%）、男性60～69歳（72.0%）、男性70歳以上（70.4%）で7割以上となっている。また、「登下校見守り活動」は女性30～39歳（73.7%）、女性40～49歳（74.6%）で7割以上と多く、「防犯講演会等」は男性30～39歳（66.7%）で6割半ばと多くなっている。

図表4-4-2 性・年齢別 参加したことがある自主防犯活動

(%)

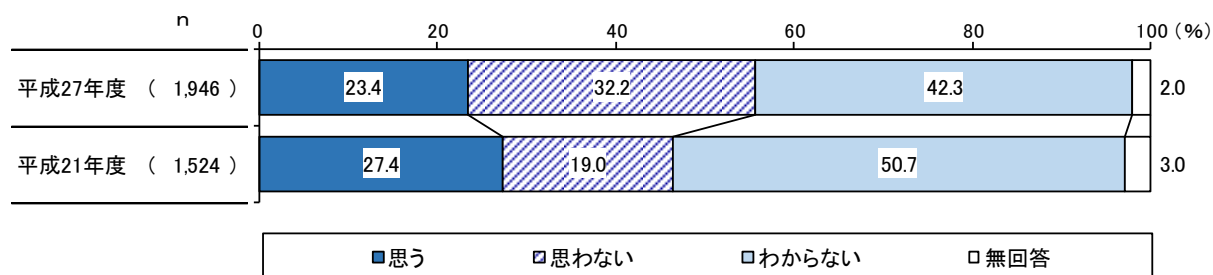
	調査数（人）	登下校見守り活動	地域パトロール活動	防犯啓発チラシの作成・配布活動	防犯講演会等	青色回転灯を装備した車によるパトロール活動	その他	無回答
全体	436	42.9	63.8	6.4	16.3	2.3	2.5	0.2
女性全体	241	55.2	61.0	3.3	17.0	0.4	0.8	0.4
18～29歳	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-
30～39歳	19	73.7	57.9	-	5.3	-	-	-
40～49歳	71	74.6	53.5	1.4	16.9	-	-	-
50～59歳	50	58.0	66.0	2.0	8.0	-	-	-
60～69歳	51	43.1	72.5	7.8	11.8	2.0	-	-
70歳以上	48	29.2	56.3	4.2	37.5	-	4.2	-
男性全体	182	25.8	67.6	10.4	15.9	4.9	4.9	-
18～29歳	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-
30～39歳	6	33.3	33.3	33.3	66.7	-	-	-
40～49歳	17	41.2	52.9	5.9	17.6	5.9	-	-
50～59歳	35	28.6	68.6	5.7	17.1	5.7	2.9	-
60～69歳	50	20.0	72.0	10.0	12.0	4.0	10.0	-
70歳以上	71	23.9	70.4	11.3	14.1	5.6	4.2	-

(5) 自主的な防犯活動への参加意向

◇ 参加したいと「思う」が2割強

問18-3. 問18で「2. 参加したことはない」と答えた方に伺います。あなたは、今後自主的な防犯活動に参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

図表4-5-1 自主的な防犯活動への参加意向



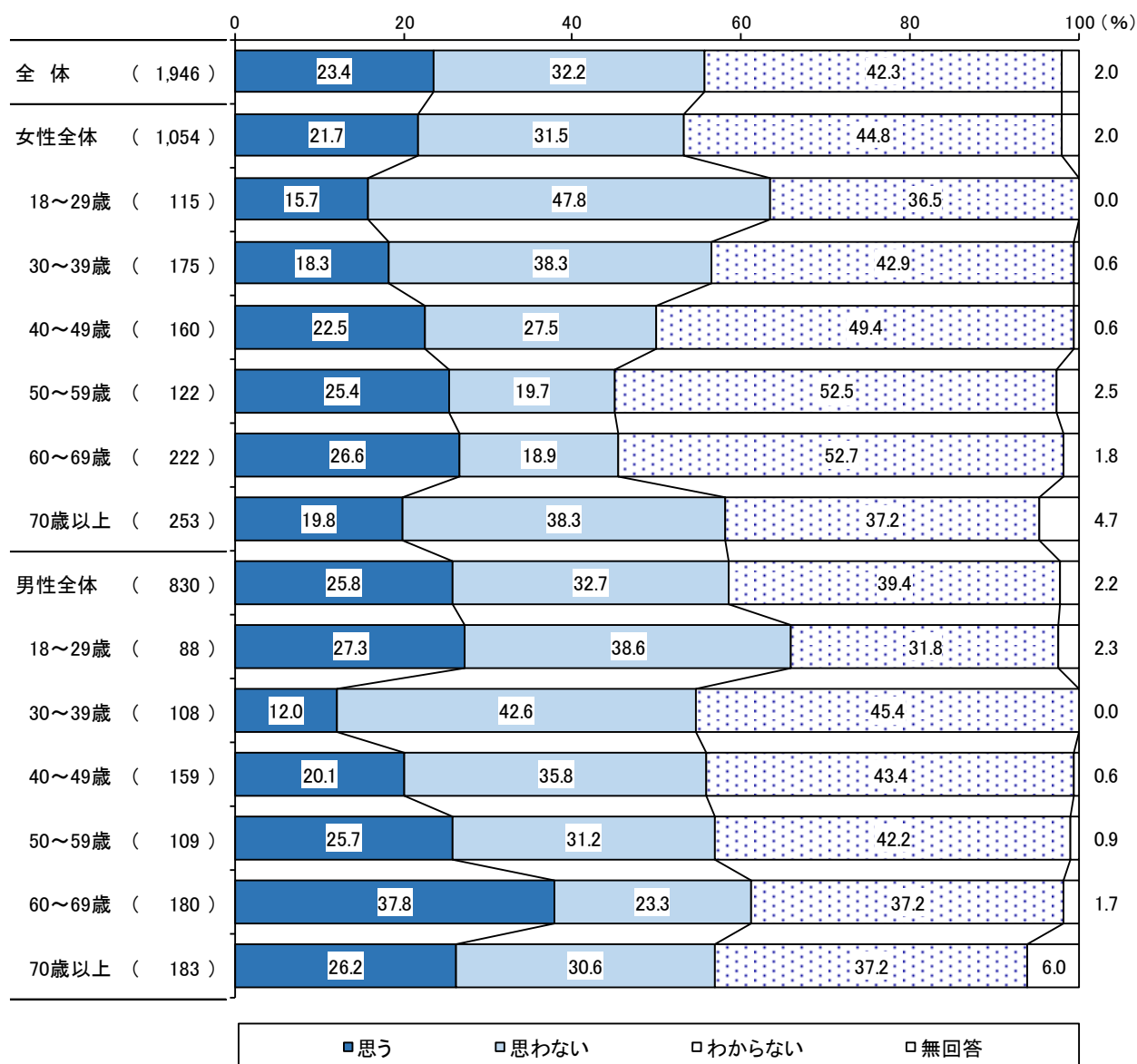
自主的な防犯活動に「参加したことはない」と回答した1,946人に、参加意向を聞いたところ、参加したいと「思う」(23.4%)が2割強、参加したいと「思わない」(32.2%)が3割強となっている。

前回の調査と比較すると、参加したいと「思う」は平成21年度調査(27.4%)と比べ4.0ポイント減少している。

性別でみると、参加したいと「思う」は男性（25.8%）が女性（21.7%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、参加したいと「思う」は男性60～69歳（37.8%）で4割弱と多くなっている。一方、参加したいと「思わない」は女性18～29歳（47.8%）、男性30～39歳（42.6%）で4割以上と多くなっている。

図表4-5-2 性・年齢別 自主的な防犯活動への参加意向

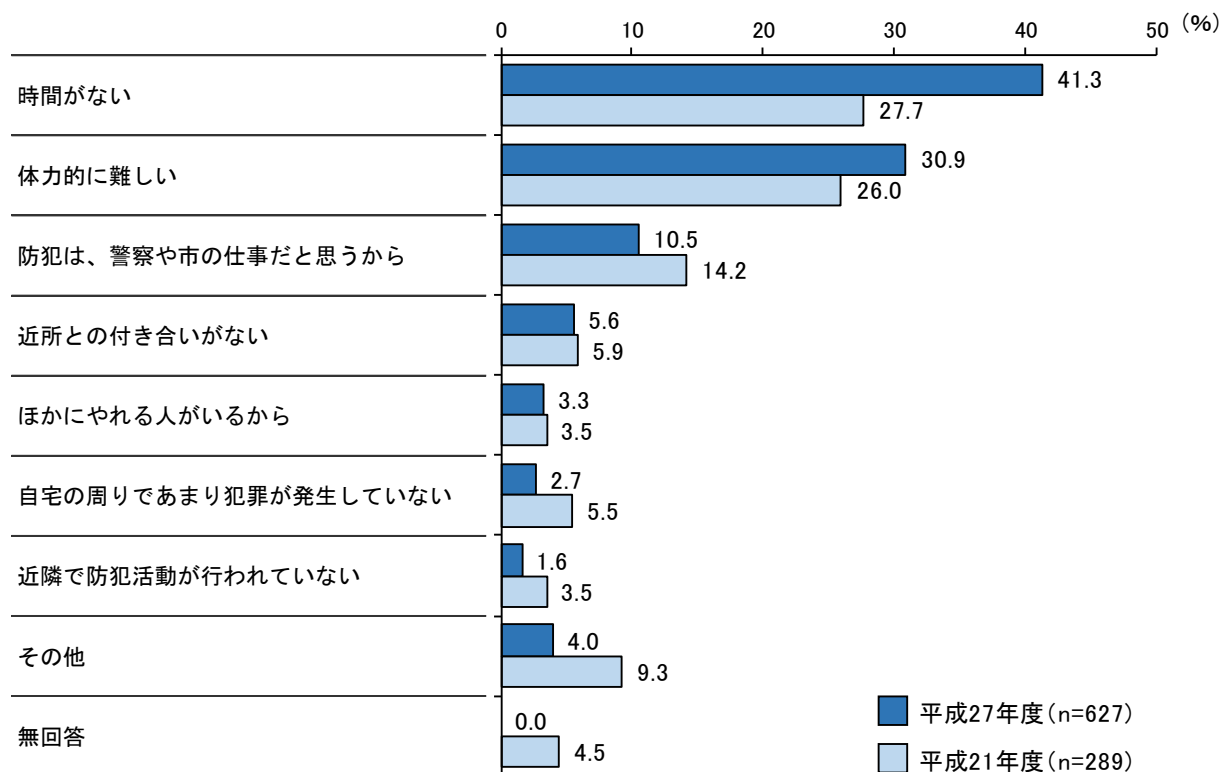


(6) 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由

◇「時間がない」が約4割

問18-4. 問18-3で「2. 思わない」と答えた方に伺います。あなたが自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。

図表4-6-1 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由



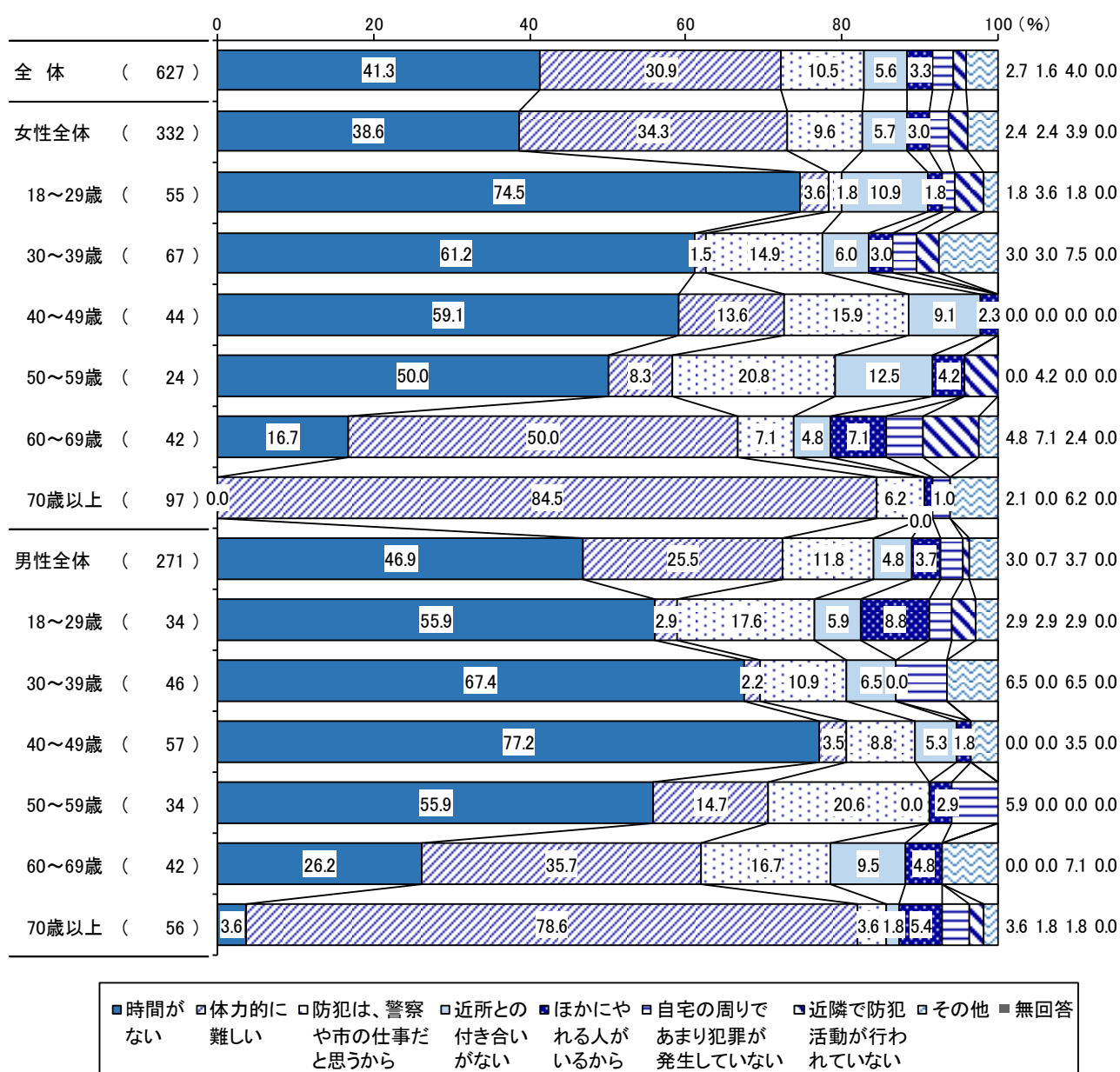
自主的な防犯活動に参加したいと「思わない」と回答した627人に、その理由を聞いたところ、「時間がない」(41.3%)が最も多くなっている。次いで、「体力的に難しい」(30.9%)、「防犯は、警察や市の仕事だと思うから」(10.5%)、「近所との付き合いがない」(5.6%)、「ほかにやれる人がいるから」(3.3%)の順となっている。また、「その他」として「高齢だから」「体調不良」「自己責任」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「時間がない」は平成21年度調査(27.7%)と比べ13.6ポイント増加している。

性別でみると、「体力的に難しい」は女性（34.3%）が男性（25.5%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「時間がない」は男性（46.9%）が女性（38.6%）より8.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「時間がない」は女性18～29歳（74.5%）、男性40～49歳（77.2%）で7割以上と多く、「体力的に難しい」は女性70歳以上（84.5%）、男性70歳以上（78.6%）でおよそ8割以上と多くなっている。また、「防犯は、警察や市の仕事だと思うから」は女性50～59歳（20.8%）、男性50～59歳（20.6%）で約2割とやや多くなっている。

図表4-6-2 性・年齢別 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由



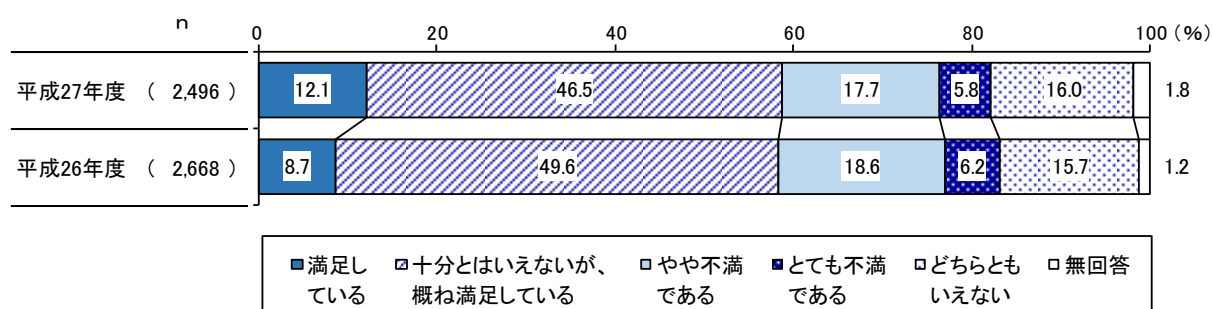
5. 景観について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が6割弱

問19. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。次の中から1つを選んでください。

図表5-1-1 景観（風景）の満足度



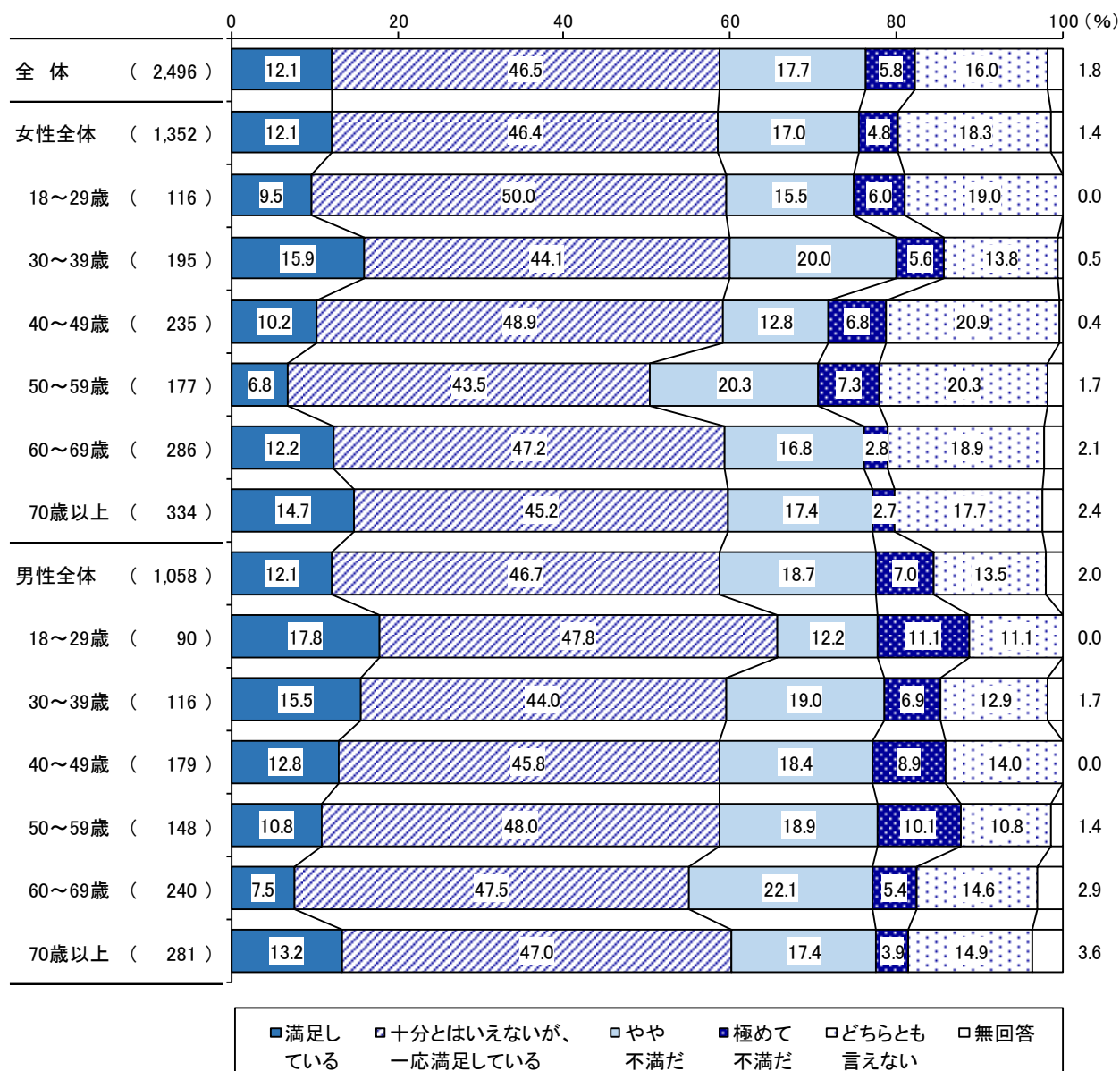
住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」（12.1%）と「十分とはいえないが、概ね満足している」（46.5%）を合わせた『満足』（58.6%）は6割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『満足』は平成26年度調査（58.3%）と比べ0.3ポイント増加している。一方、「やや不満である」（17.7%）と「とても不満である」（5.8%）を合わせた『不満』（23.5%）は平成26年度調査（24.8%）と比べ1.3ポイント減少している。

性別で見ると、『不満』は男性（25.7%）が女性（21.8%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は女性50～59歳（50.3%）で5割と少なくなっている。

図表5-1-2 性・年齢別 景観（風景）の満足度

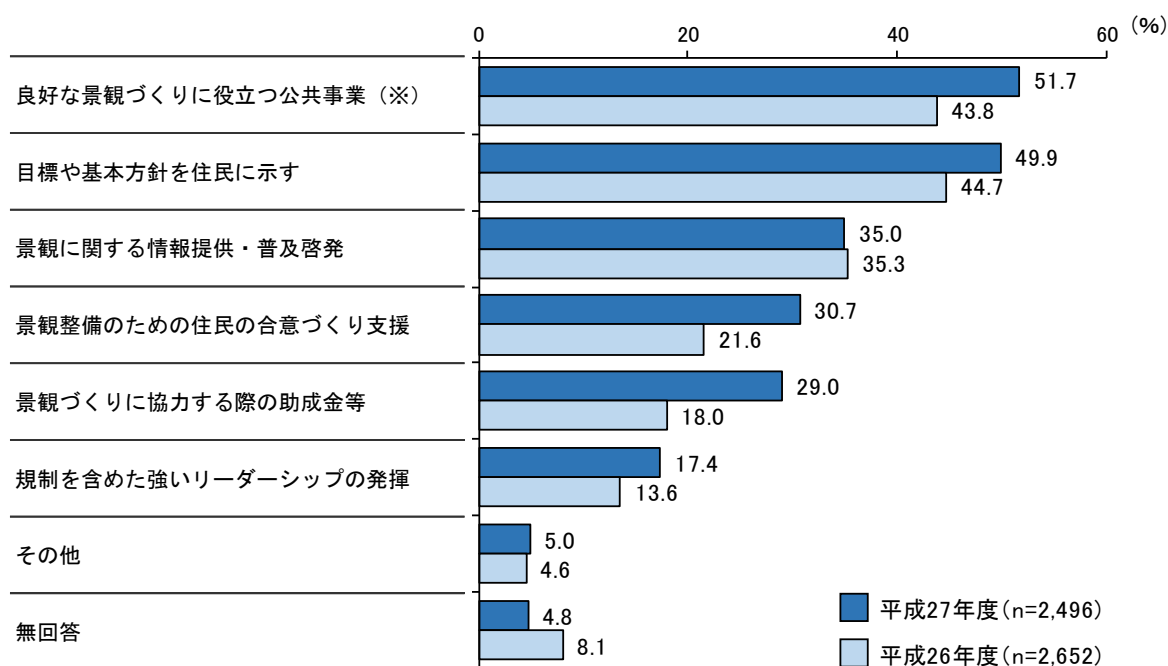


(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が約5割

問20. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。次の中から3つまで選んでください

図表5-2-1 行政に望むこと



※ 平成26年度は「美しい景観づくりに役立つ公共事業」

良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むものについては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（51.7%）が最も多くなっている。次いで、「目標や基本方針を住民に示す」（49.9%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（35.0%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（30.7%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（29.0%）の順となっている。また、「その他」として「不法投棄対策」「河川の美化」「電線地中化」「道路（歩道）整備」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「景観づくりに協力する際の助成金等」は平成26年度調査（18.0%）と比べ11.0ポイント、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は平成26年度調査（21.6%）と比べ9.1ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、女性は「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、女性(53.6%)が男性(49.4%)より4.2ポイント高くなっている。また、男性は「目標や基本方針を住民に示す」が最も多く、男性(53.1%)が女性(47.6%)より5.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性30～39歳(60.5%)女性50～59歳(62.1%)で6割以上と多く、「目標や基本方針を住民に示す」は男性70歳以上(59.8%)で約6割と多くなっている。また、「景観に関する情報提供・普及啓発」は男性60～69歳(44.2%)で、「景観整備のための住民の合意づくり支援」も男性60～69歳(43.3%)でともに4割以上と多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数(人)	目標や基本方針を住民に示す	良好な景観づくりに役立つ公共事業	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	その他	無回答
全体	2,496	49.9	51.7	17.4	35.0	29.0	30.7	5.0	4.8
女性全体	1,352	47.6	53.6	13.8	34.5	29.5	27.8	5.3	5.0
18～29歳	116	46.6	56.9	9.5	37.9	25.9	23.3	6.0	0.9
30～39歳	195	31.3	60.5	11.8	31.8	34.9	28.2	5.1	1.5
40～49歳	235	46.4	52.8	10.6	35.7	33.6	22.1	6.0	3.4
50～59歳	177	52.0	62.1	15.8	34.5	28.8	27.7	4.0	1.7
60～69歳	286	52.1	50.0	14.0	36.7	26.2	32.9	4.9	6.6
70歳以上	334	52.1	47.9	17.1	32.3	27.8	28.1	5.4	9.9
男性全体	1,058	53.1	49.4	21.9	36.4	29.4	34.6	4.8	3.8
18～29歳	90	47.8	57.8	16.7	35.6	30.0	27.8	4.4	2.2
30～39歳	116	49.1	51.7	27.6	31.0	30.2	26.7	7.8	3.4
40～49歳	179	49.2	51.4	22.3	31.3	35.8	33.0	2.8	2.8
50～59歳	148	46.6	51.4	20.3	31.8	36.5	28.4	5.4	2.7
60～69歳	240	55.4	45.4	19.6	44.2	22.1	43.3	5.8	3.3
70歳以上	281	59.8	47.3	24.2	38.1	27.0	36.3	3.9	6.0

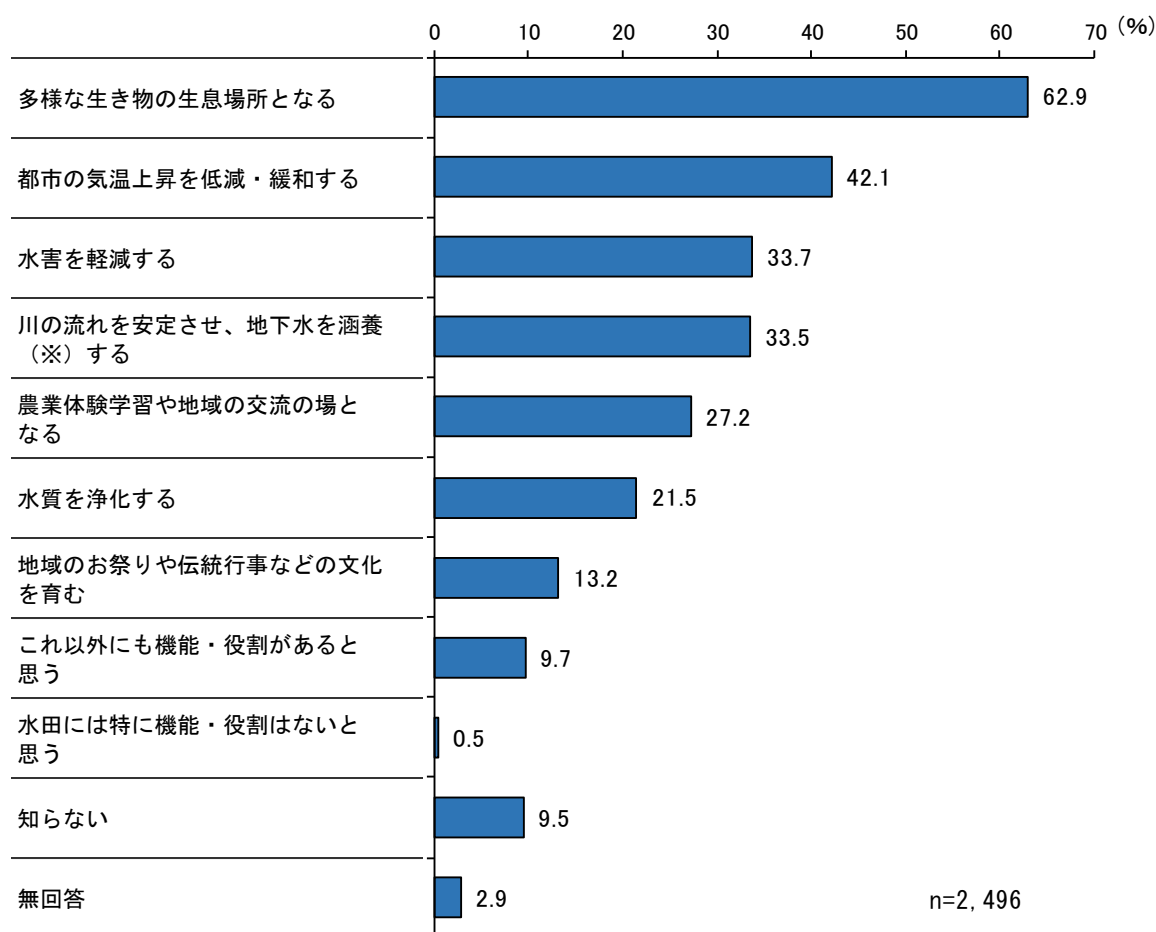
6. 水田の保全について

(1) 水田の機能・役割の認知

◇「多様な生き物の生息場所となる」が6割強

問21. 水田は、農業生産の基盤となる以外に、様々な機能や役割があると言われています。次のうち、水田の機能・役割についてあなたが知っているものを選んでください。
(複数回答可)

図表6-1-1 水田の機能・役割の認知



※涵養(かんよう)：地表の水(降水や河川水)が土壌に浸透し、地下水が供給されること。

水田の機能・役割の認知については、「多様な生き物の生息場所となる」(62.9%)が最も多くなっている。次いで、「都市の気温上昇を低減・緩和する」(42.1%)、「水害を軽減する」(33.7%)、「川の流れを安定させ、地下水を涵養する」(33.5%)、「農業体験学習や地域の交流の場となる」(27.2%)の順となっている。

性別でみると、「川の流れを安定させ、地下水を涵養する」は男性（37.2%）が女性（30.3%）より6.9ポイント、「多様な生き物の生息場所となる」は男性（66.1%）が女性（60.2%）より5.9ポイント、「水害を軽減する」は男性（36.8%）が女性（31.2%）より5.6ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「農業体験学習や地域の交流の場となる」は女性（30.3%）が男性（23.4%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「多様な生き物の生息場所となる」は男性18～29歳（70.0%）、男性50～59歳（71.6%）で7割以上と多く、「都市の気温上昇を低減・緩和する」は男性60～69歳（54.6%）で5割半ばと多くなっている。また、「川の流れを安定させ、地下水を涵養する」は男性60～69歳（46.3%）、男性70歳以上（45.2%）で4割半ば、「水害を軽減する」は男性60～69歳（42.9%）で4割強と多くなっている。

図表6-1-2 性・年齢別 水田の機能・役割の認知

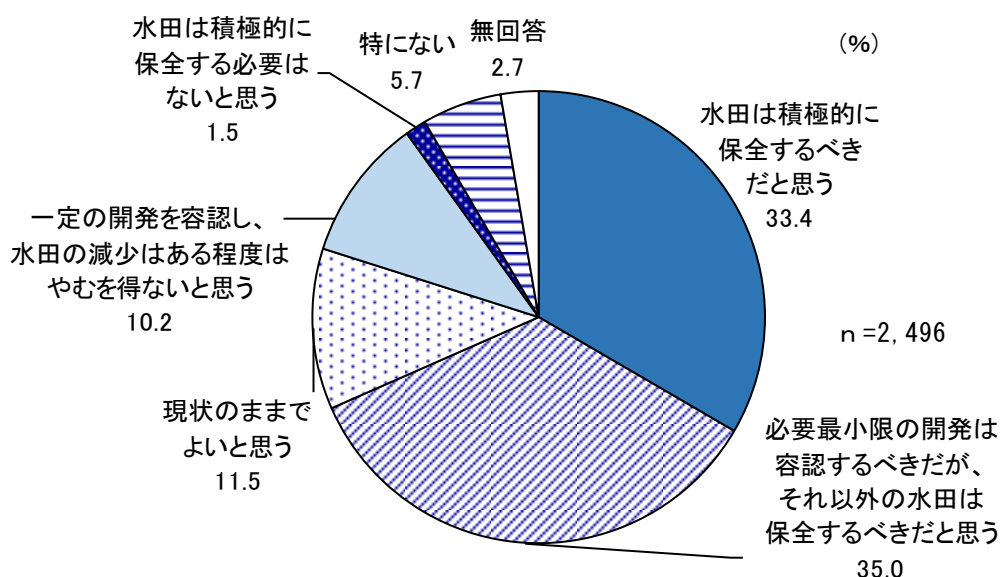
	調査数（人）	川の流れを安定させ、地下水を涵養する	水害を軽減する	水質を浄化する	多様な生き物の生息場所となる	都市の気温上昇を低減・緩和する	農業体験学習や地域の交流の場となる	地域のお祭りや伝統行事などの文化を育む	これ以外にも機能・役割があると思う	水田には特に機能・役割はないと思う	知らない	無回答
全体	2,496	33.5	33.7	21.5	62.9	42.1	27.2	13.2	9.7	0.5	9.5	2.9
女性全体	1,352	30.3	31.2	20.0	60.2	40.2	30.3	13.2	8.1	0.4	11.4	3.1
18～29歳	116	22.4	25.0	24.1	62.9	23.3	41.4	12.1	8.6	-	12.1	1.7
30～39歳	195	20.5	24.1	18.5	62.1	32.3	42.6	13.8	6.2	-	15.9	1.0
40～49歳	235	23.4	29.4	17.0	67.2	39.6	39.1	14.9	8.1	-	14.0	0.4
50～59歳	177	36.2	32.2	18.6	61.0	49.2	33.3	14.1	5.1	-	11.3	-
60～69歳	286	34.3	37.1	22.7	59.8	46.9	23.1	12.2	10.5	0.3	8.0	3.1
70歳以上	334	37.1	33.2	20.7	53.9	41.0	18.0	12.9	8.7	1.2	9.6	7.8
男性全体	1,058	37.2	36.8	22.7	66.1	44.3	23.4	12.9	11.4	0.8	7.2	2.4
18～29歳	90	25.6	34.4	32.2	70.0	35.6	35.6	23.3	12.2	-	10.0	-
30～39歳	116	23.3	29.3	20.7	62.1	33.6	25.9	10.3	11.2	-	14.7	-
40～49歳	179	33.0	35.8	19.6	68.2	46.9	31.3	7.8	11.2	0.6	6.7	1.1
50～59歳	148	30.4	33.1	17.6	71.6	48.0	27.0	15.5	7.4	-	10.1	-
60～69歳	240	46.3	42.9	26.3	67.1	54.6	18.3	15.0	10.8	-	5.8	2.1
70歳以上	281	45.2	37.4	22.1	61.2	39.1	16.0	10.3	13.9	2.5	3.2	6.4

(2) 水田の保全

◇「必要最小限の開発は容認するべきだが、それ以外の水田は保全するべきだと思う」が3割半ば

問22. 本市は「水郷こしがや」と呼ばれ、郊外にはまとまった水田が残されています。これらの水田を今後も保全すべきかどうかについて、あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

図表6-2-1 水田の保全

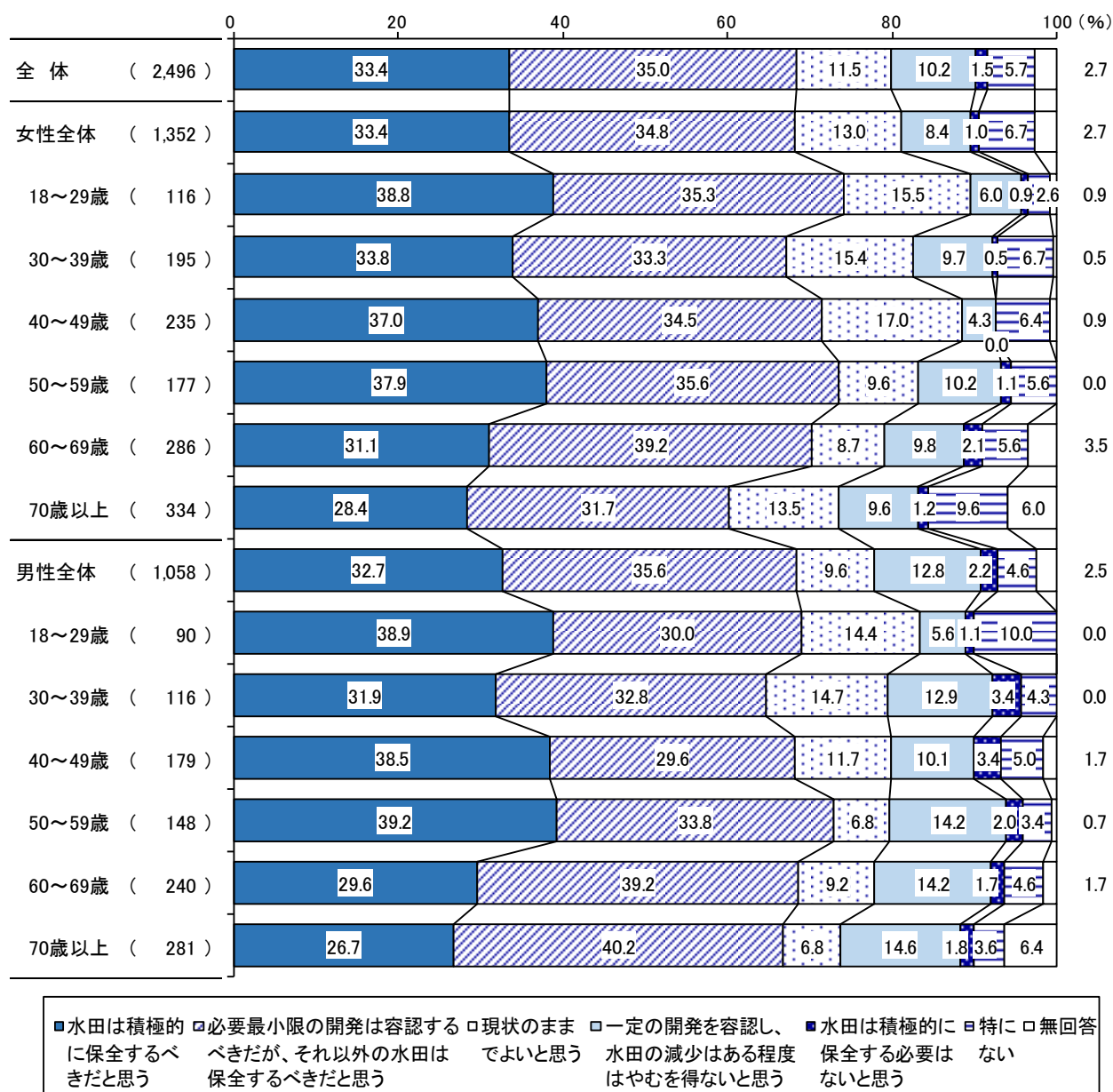


水田を今後も保全すべきかの考えについては、「必要最小限の開発は容認するべきだが、それ以外の水田は保全するべきだと思う」(35.0%)が最も多くなっている。次いで、「水田は積極的に保全するべきだと思う」(33.4%)、「現状のままでよいと思う」(11.5%)、「一定の開発を容認し、水田の減少はある程度はやむを得ないと思う」(10.2%)、「水田は積極的に保全する必要はないと思う」(1.5%)の順となっている。

性別で見ると、「現状のままでよいと思う」は女性（13.0%）が男性（9.6%）より3.4ポイント高くなっている。一方、「一定の開発を容認し、水田の減少はある程度はやむを得ないと思う」は男性（12.8%）が女性（8.4%）より4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「水田は積極的に保全すべきだと思う」は女性18～29歳（38.8%）、男性40～49歳（38.5%）、男性50～59歳（39.2%）で4割弱とやや多く、「必要最小限の開発は容認するべきだが、それ以外の水田は保全すべきだと思う」は女性60～69歳（39.2%）、男性60～69歳（39.2%）、男性70歳以上（40.2%）で約4割とやや多くなっている。

図表6-2-2 性・年齢別 水田の保全

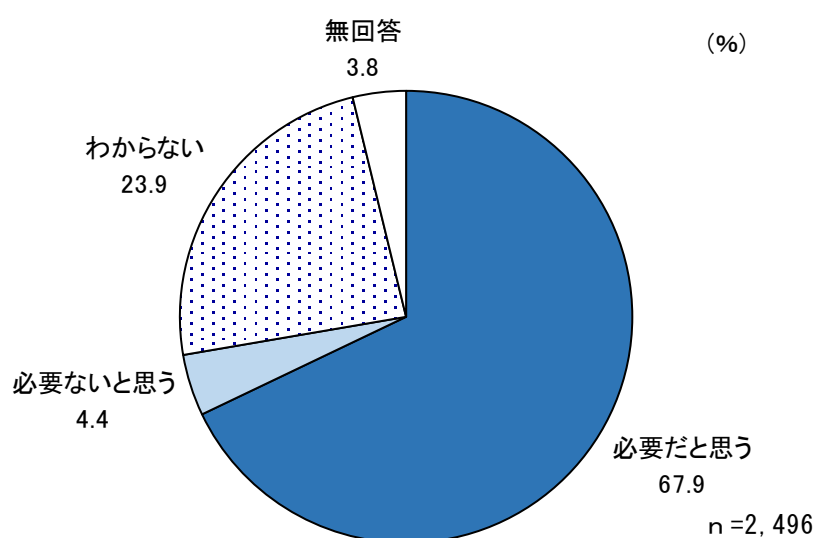


(3) 水田を保全するための活動

◇「必要だと思う」が7割弱

問23. 水田を保全するために、地域で行われる草刈りやゴミ拾いなどの活動について、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

図表6-3-1 水田を保全するための活動

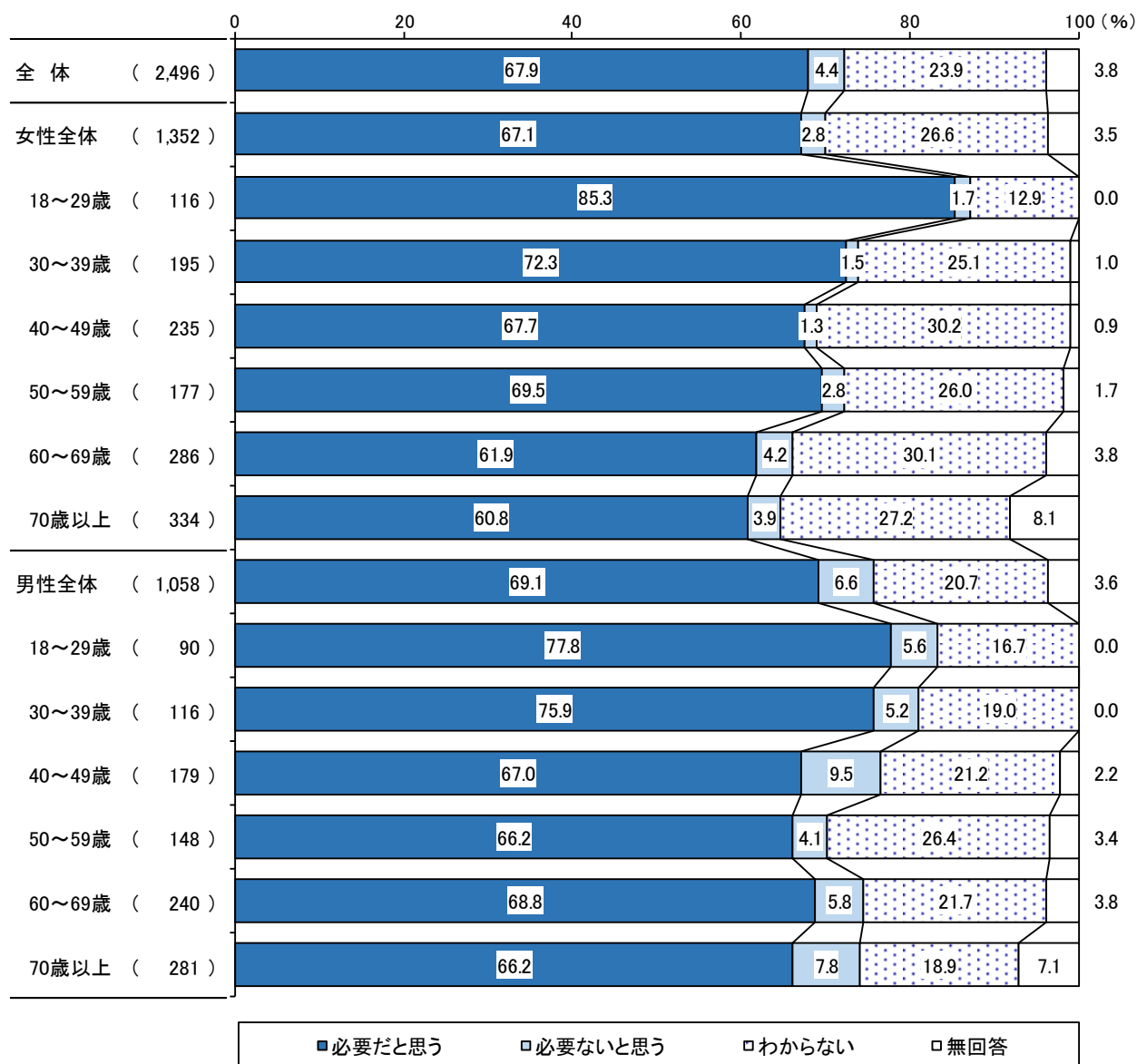


水田を保全するための活動については、「必要だと思う」(67.9%)が7割弱となっている。また、「必要ないと思う」が4.4%となっている。

性別でみると、「必要ないと思う」は男性(6.6%)が女性(2.8%)より3.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「必要だと思う」は女性18～29歳(85.3%)で8割半ば、男性18～29歳(77.8%)で8割弱と多くなっている。

図表6-3-2 性・年齢別 水田を保全するための活動

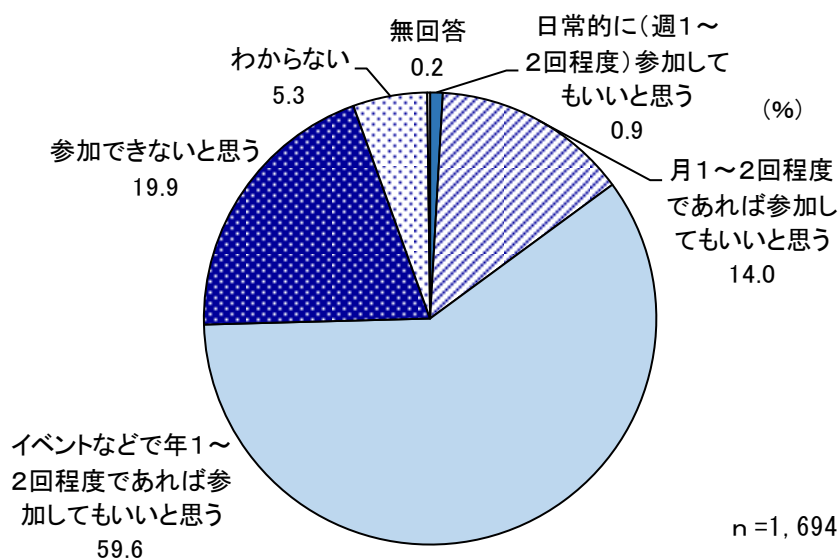


(4) 水田の保全活動への参加意向

◇「イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う」が約6割

問23-2. 問23で「1. 必要だと思う」と答えた方に伺います。あなたがお住まいの地域や、近くの地域での水田の保全活動（草刈りやゴミ拾いなど）に参加してもいいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

図表6-4-1 水田の保全活動への参加意向

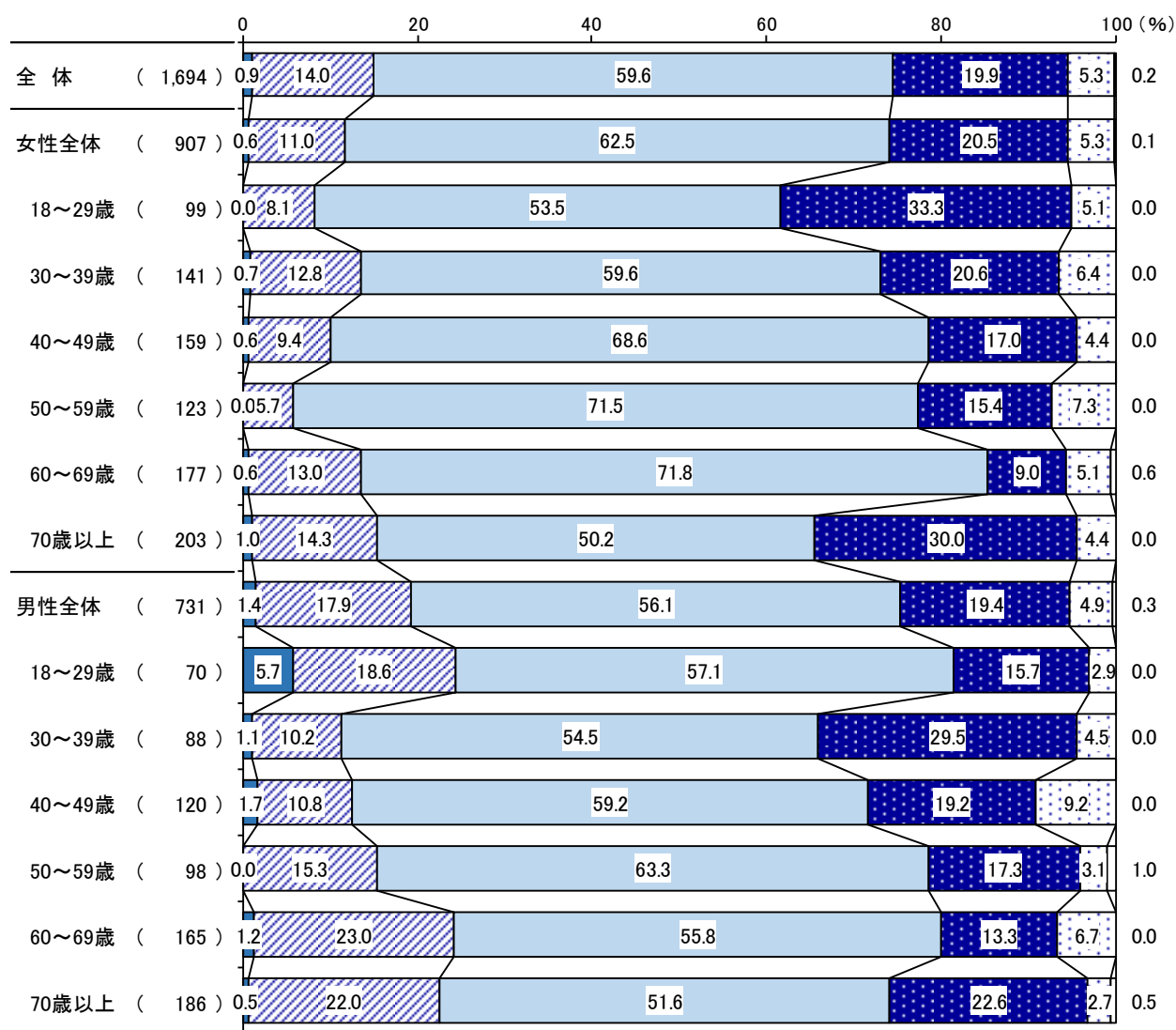


水田を保全するための活動は「必要だと思う」と回答した1,694人に、参加してもいいと思う保全活動を聞いたところ、「イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う」(59.6%)が最も多くなっている。次いで、「参加できないと思う」(19.9%)、「月1～2回程度であれば参加してもいいと思う」(14.0%)、「日常的に(週1～2回程度)参加してもいいと思う」(0.9%)の順となっている。

性別でみると、「イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う」は女性（62.5%）が男性（56.1%）より6.4ポイント高くなっている。「月1～2回程度であれば参加してもいいと思う」は男性（17.9%）が女性（11.0%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う」は女性50～59歳（71.5%）、女性60～69歳（71.8%）で約7割と多くなっている。「月1～2回程度であれば参加してもいいと思う」は男性60～69歳（23.0%）、男性70歳以上（22.0%）で2割以上と多くなっている。一方、「参加できないと思う」は女性18～29歳（33.3%）、女性70歳以上（30.0%）、男性30～39歳（29.5%）でおおよそ3割以上と多くなっている。

図表6-4-2 性・年齢別 水田の保全活動への参加意向



■ 日常に(週1～2回程度)参加してもいいと思う
 ■ 月1～2回程度であれば参加してもいいと思う
 ■ イベントなどで年1～2回程度であれば参加してもいいと思う
 ■ 参加できないと思う
 □ わからない
 □ 無回答

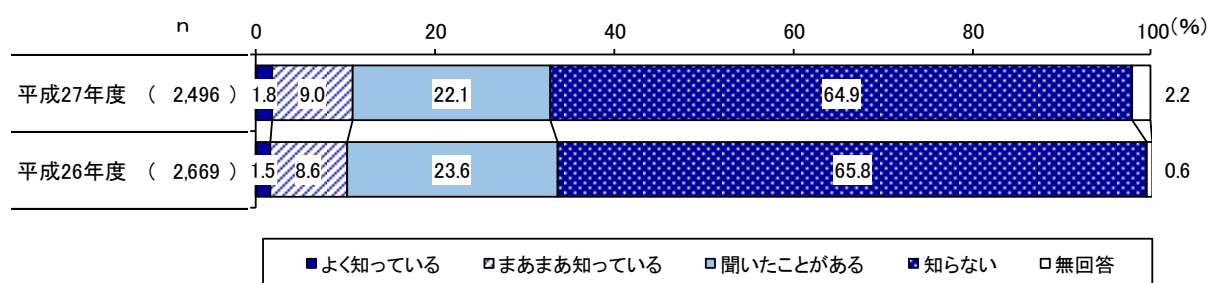
7. 自治基本条例関係について

(1) 「自治基本条例」の認知

◇ 『知っている』が約1割

問24. 越谷市では、平成21年に「自治基本条例」を制定し、参加(※1)と協働(※2)によるまちづくりに取り組んでいます。あなたはそのことを知っていますか。次の中から1つ選んでください。

図表7-1-1 「自治基本条例」の認知



※1 参加：市政に市民の意見を反映させるため、市民が市政に関わっていくこと。(例：市長のふれあいミーティング、市長への手紙、意見公募手続、各種アンケート、各種審議会等への参加等)

※2 協働：自治会をはじめとする地域コミュニティ組織やNPOなどの市民活動団体等と市が、ともに公共を担う対等なパートナーとしてまちづくりに取り組むこと。

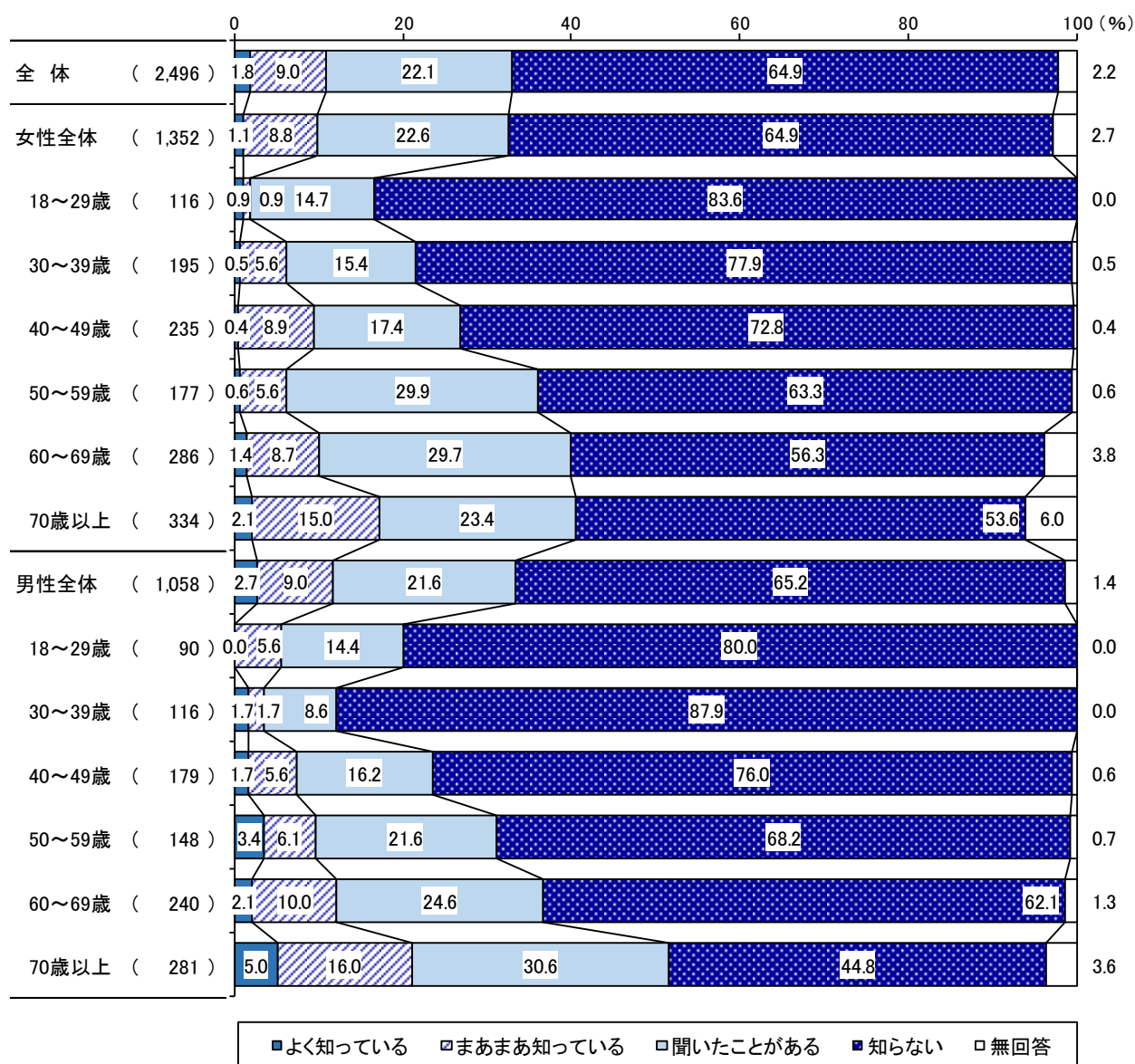
「自治基本条例」については、「よく知っている」(1.8%)と「まあまあ知っている」(9.0%)を合わせた『知っている』(10.8%)は約1割となっている。一方、「知らない」(64.9%)は6割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』は平成26年度調査(10.1%)と比べ0.7ポイント増加し、「知らない」は平成26年度調査(65.8%)と比べ0.9ポイント減少している。

性別でみると、『知っている』は男性（11.7%）が女性（9.9%）より1.8ポイント高くなっている。

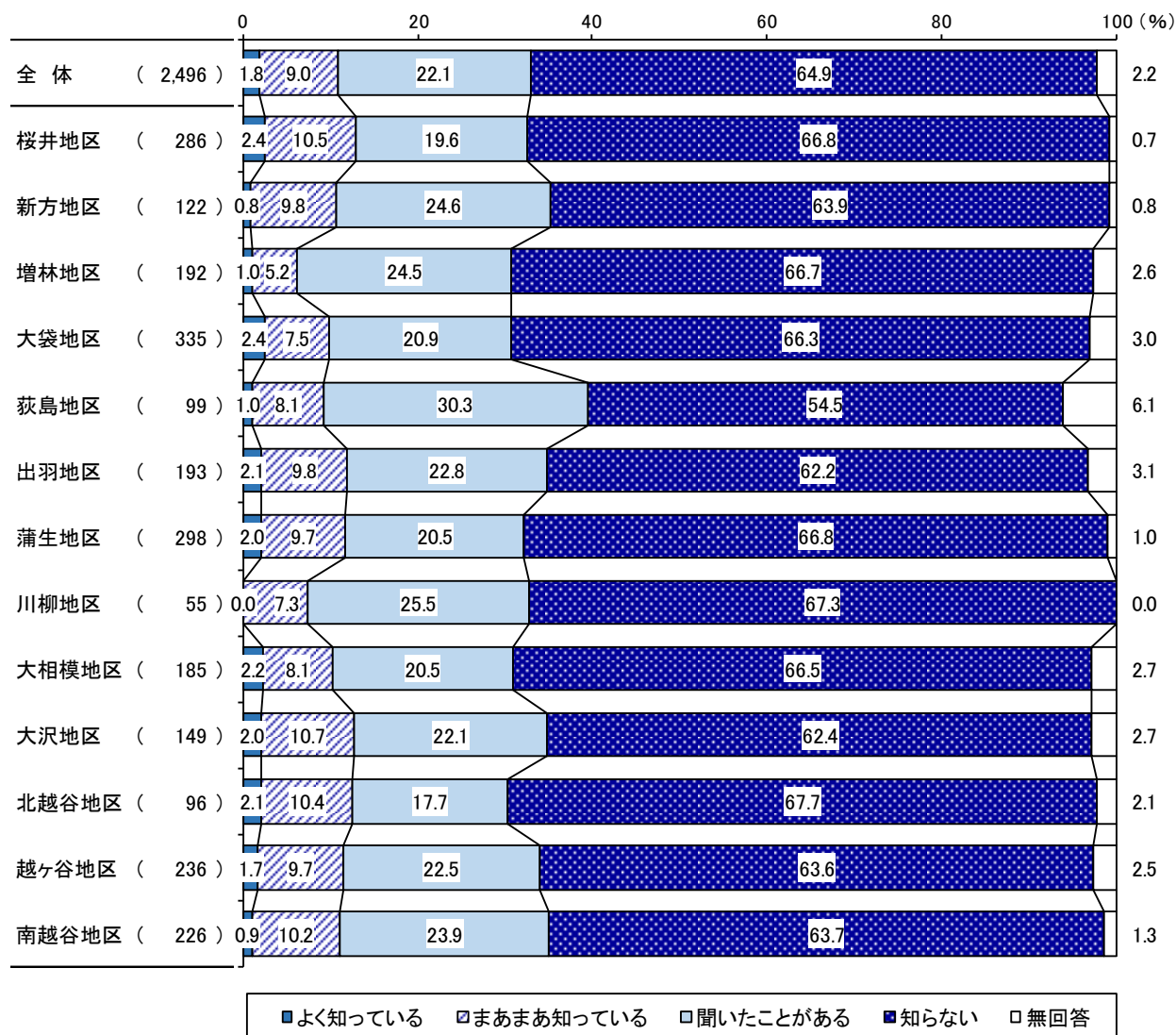
性・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上（21.0%）で約2割、女性70歳以上（17.1%）で2割弱と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（83.6%）、男性18～29歳（80.0%）、男性30～39歳（87.9%）で8割を超えている。

図表7-1-2 性・年齢別 「自治基本条例」の認知



居住地区別でみると、『知っている』は増林地区（6.2%）でやや少なくなっている。また、「聞いたことがある」は荻島地区（30.3%）で3割と多くなっている。

図表7-1-3 居住地区別 「自治基本条例」の認知

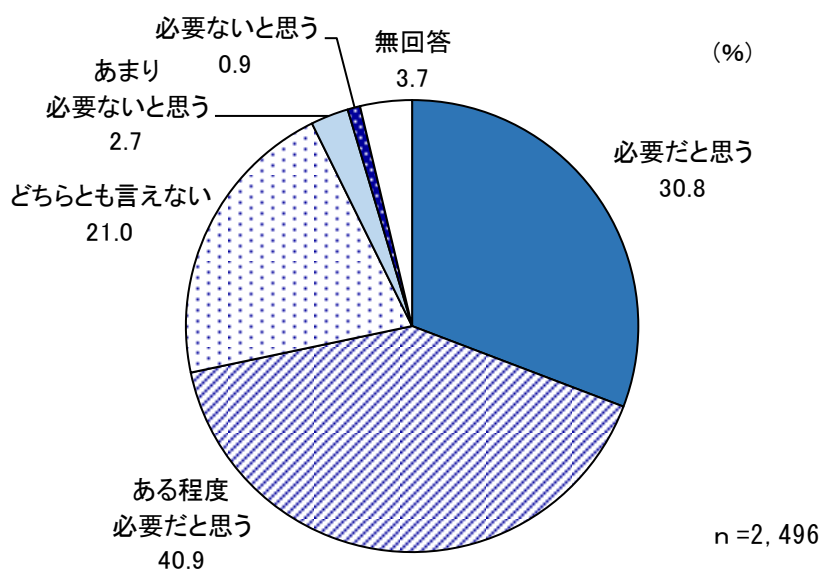


(2) 組織と市が協働する必要性

◇『必要だと思う』は約7割

問25. 越谷市をより良くするために、あなたは、自治会やNPO、企業等の様々な組織と市が協働することが必要だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

図表7-2-1 組織と市が協働する必要性

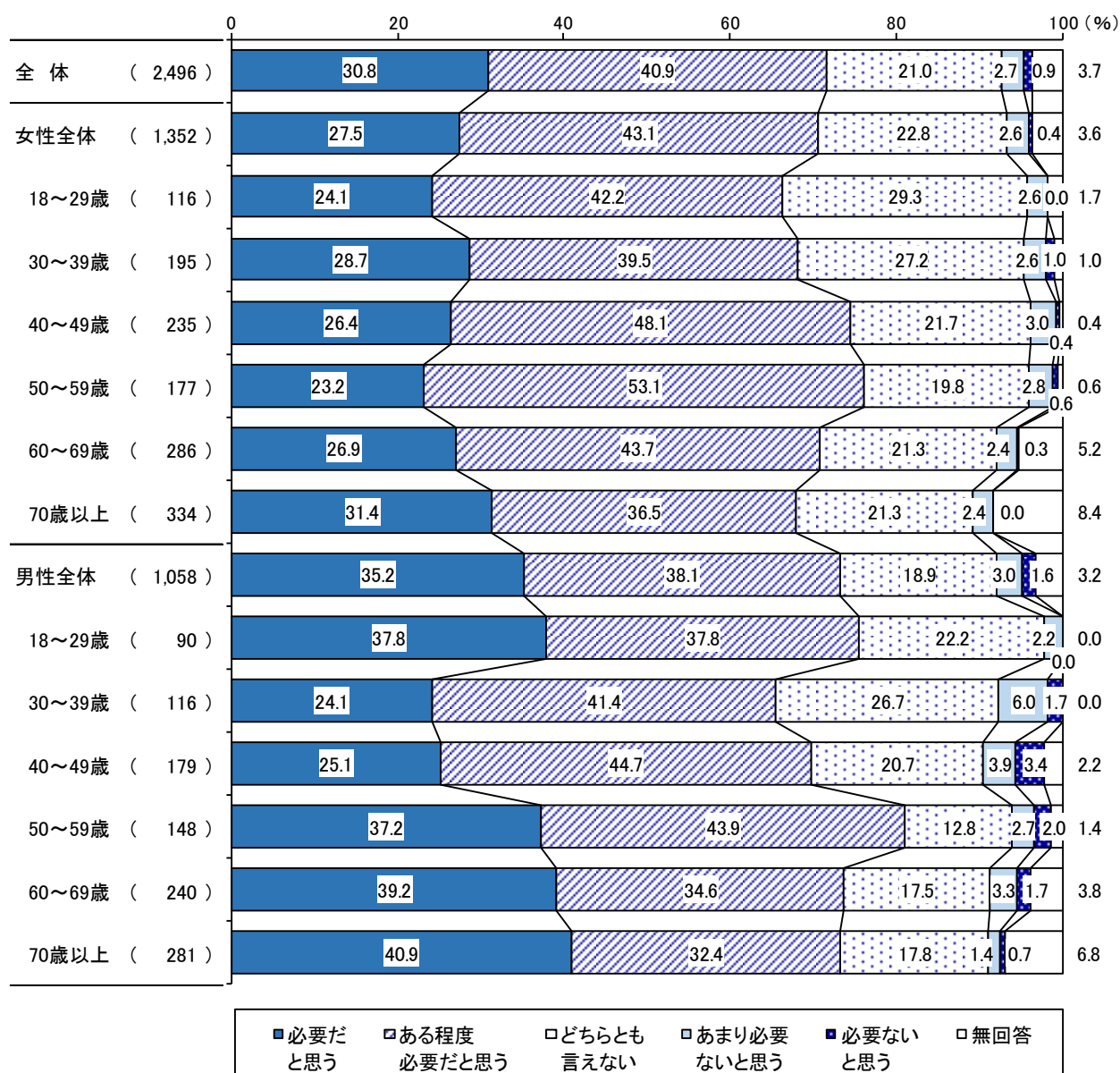


自治会等の組織と市が協働する必要性については、「必要だと思う」(30.8%)と「ある程度必要だと思う」(40.9%)を合わせた『必要だと思う』(71.7%)は約7割となっている。

性別でみると、「必要だと思う」は男性（35.2%）が女性（27.5%）より7.7ポイント高く、「ある程度必要だと思う」は女性（43.1%）が男性（38.1%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『必要だと思う』は男性50～59歳（81.1%）で8割以上と最も多くなっている。一方、『必要ないと思う』は男性30～39歳（7.7%）、男性40～49歳（7.3%）でやや多くなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 組織と市が協働する必要性

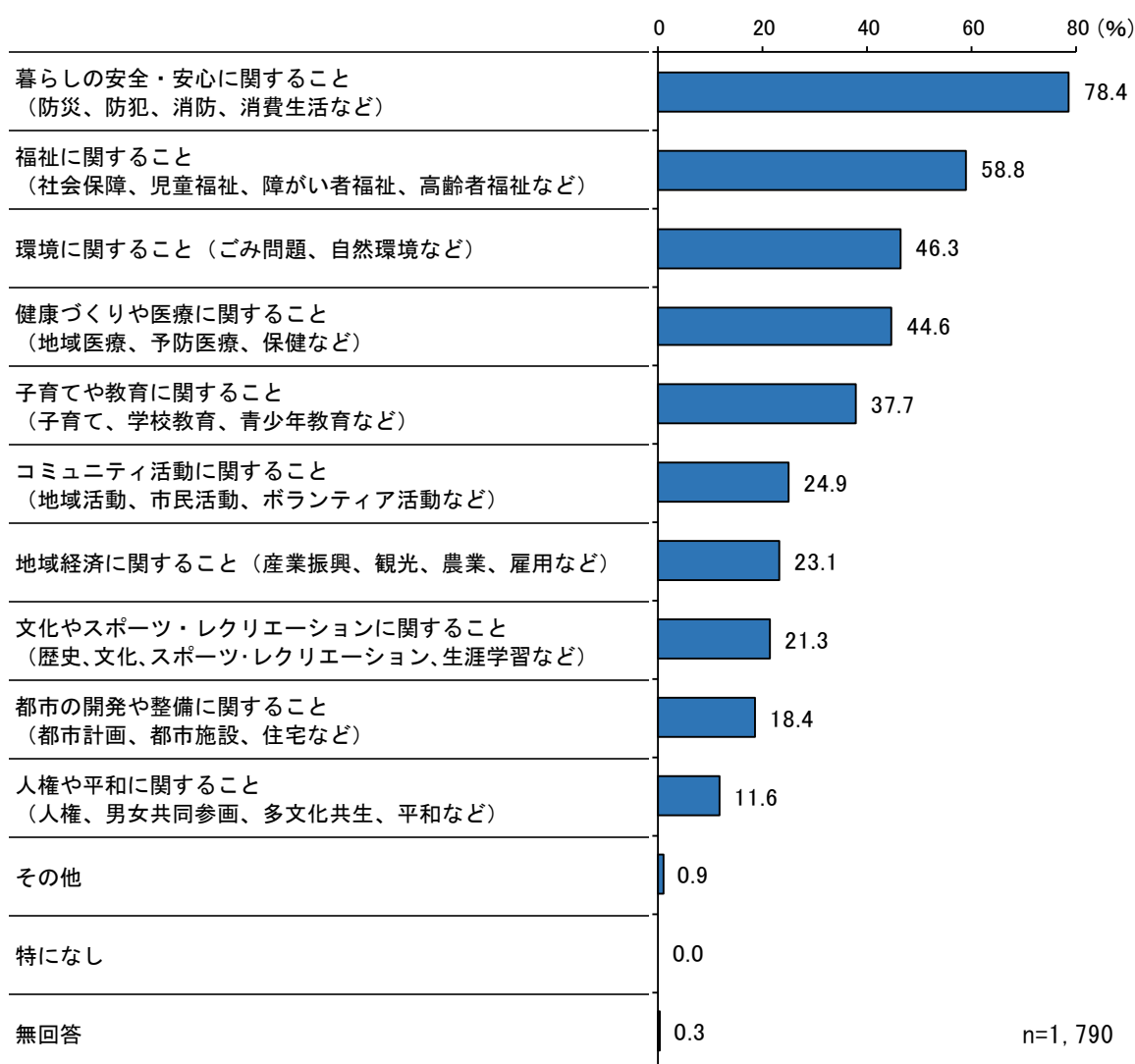


(3) 協働が必要（効果的）な分野

◇「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が8割弱

問25-2. 問25で「1」または「2」と答えた方（必要だと思うと答えた方）に伺います。あなたは、様々な組織と市が協働して取り組むことが必要（効果的）なのは、どのような分野だと思いますか。次の中から選んでください。（複数回答可）

図表7-3-1 協働が必要（効果的）な分野



自治会等の組織と市が協働することは『必要だと思う』と回答した1,790人に、協働が必要（効果的）な分野を聞いたところ、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」(78.4%)が最も多くなっている。次いで、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」(58.8%)、「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」(46.3%)、「健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）」(44.6%)の順となっている。また、「その他」として「食の安全品質」「空家問題」「動物愛護」等が挙げられた。

性別でみると、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は女性（41.5%）が男性（33.3%）より8.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は女性30～39歳（71.4%）で、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は女性70歳以上（69.2%）でそれぞれ約7割と多くなっている。

図表7-3-2 性・年齢別 協働が必要（効果的）な分野

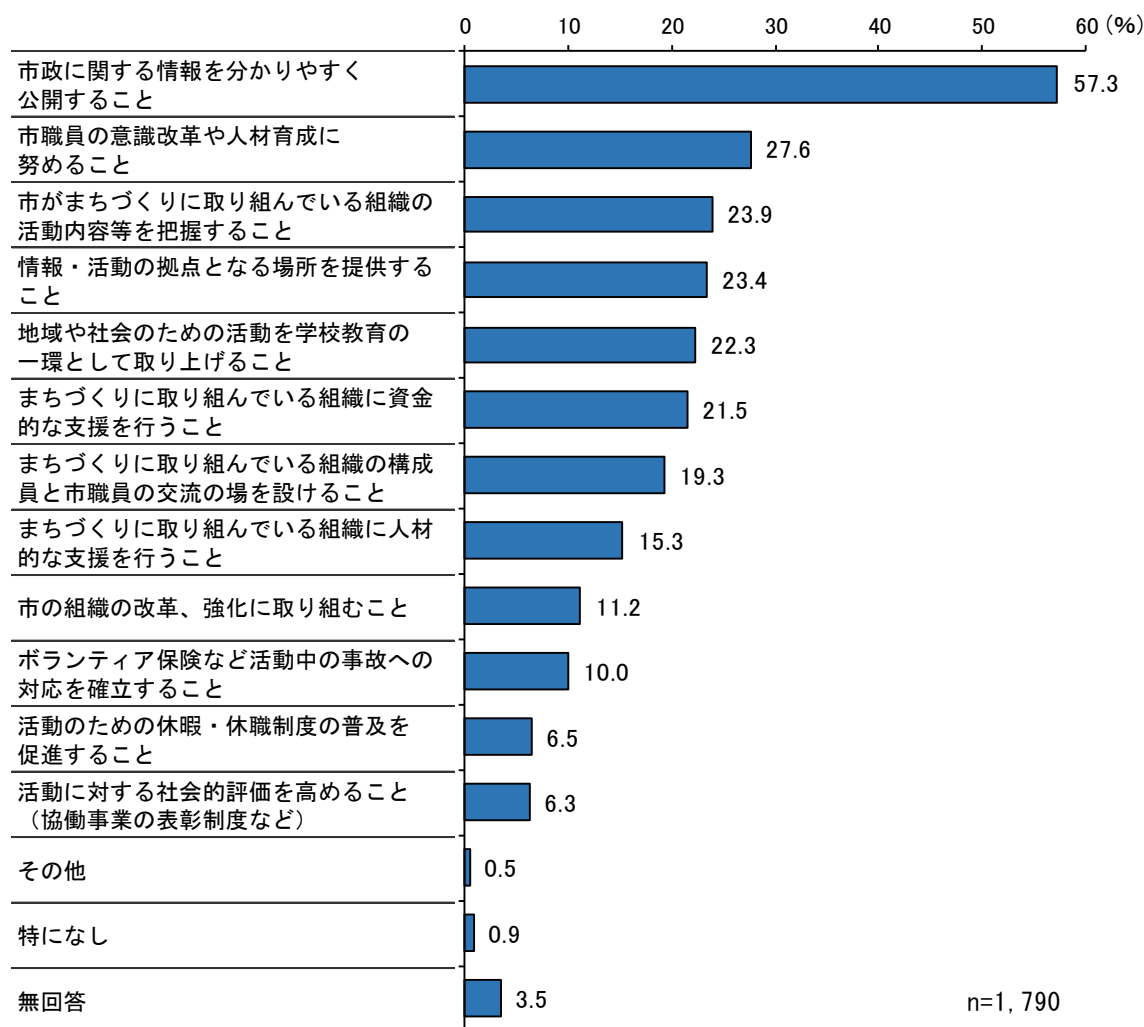
	調査数（人）	暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）	福祉に関すること（社会福祉、高齢者福祉、児童福祉）	健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）	環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）	動、市民活動、ボランティア活動など（地域活動）	子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）	都市の開発や整備に関すること（都市計画、都市施設、住宅など）	リエーション、生涯学習など（都市計	文化やスポーツ・レクリエーションに関すること（歴史、文化、スポーツ・レク	地域経済に関すること（産業振興、観光、農業、雇用など）	人権や平和に関すること（人権、男女共同参画、多文化共生、平和など）	その他	特になし	無回答
全体	1,790	78.4	58.8	44.6	46.3	24.9	37.7	18.4	21.3	23.1	11.6	0.9	-	0.3	
女性全体	955	80.6	61.3	46.5	46.0	24.5	41.5	17.6	19.6	23.5	12.0	1.0	-	0.1	
18～29歳	77	75.3	49.4	44.2	35.1	22.1	61.0	14.3	16.9	23.4	11.7	-	-	-	
30～39歳	133	77.4	59.4	45.9	42.1	26.3	71.4	24.8	23.3	27.8	15.0	1.5	-	-	
40～49歳	175	82.9	58.9	47.4	46.9	24.0	51.4	22.9	21.7	29.1	13.7	1.7	-	-	
50～59歳	135	83.0	59.3	40.0	58.5	37.0	39.3	19.3	22.2	28.9	12.6	1.5	-	-	
60～69歳	202	82.2	62.4	50.0	49.0	25.2	30.7	18.3	17.8	23.8	11.9	0.5	-	-	
70歳以上	227	81.1	69.2	48.5	40.5	16.7	21.6	9.3	16.3	13.2	9.3	0.9	-	0.4	
男性全体	775	75.6	55.4	42.5	47.5	25.3	33.3	19.5	23.7	21.9	10.3	0.6	-	0.4	
18～29歳	68	73.5	47.1	38.2	52.9	25.0	48.5	23.5	27.9	29.4	17.6	1.5	-	-	
30～39歳	76	73.7	51.3	43.4	43.4	22.4	57.9	22.4	23.7	27.6	5.3	1.3	-	-	
40～49歳	125	72.8	49.6	36.0	44.8	30.4	46.4	16.0	31.2	28.8	11.2	0.8	-	-	
50～59歳	120	73.3	59.2	37.5	51.7	35.0	28.3	16.7	28.3	23.3	8.3	-	-	-	
60～69歳	177	79.1	61.0	46.9	49.7	25.4	26.6	20.3	19.2	17.5	11.9	0.6	-	-	
70歳以上	206	77.7	55.3	47.1	44.2	17.5	20.4	19.4	19.4	15.5	8.7	-	-	1.5	

(4) 協働の推進に必要な(効果的)な施策

◇「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」が6割弱

問25-3. 引き続き、問25で「1」または「2」と答えた方(必要だと思うと答えた方)に伺います。あなたは、協働を推進するために、市がどのような施策に取り組むことが必要(効果的)だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

図表7-4-1 協働の推進に必要な(効果的)な施策



自治会等の組織と市が協働することは『必要だと思う』と回答した1,790人に、協働の推進に必要な施策を聞いたところ、「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」(57.3%)が最も多くなっている。次いで、「市職員の意識改革や人材育成に努めること」(27.6%)、「市がまちづくりに取り組んでいる組織の活動内容等を把握すること」(23.9%)、「情報・活動の拠点となる場所を提供すること」(23.4%)、「地域や社会のための活動を学校教育の一環として取り上げること」(22.3%)の順となっている。また、「その他」として「条例を市民に知らせること」「まちづくりに取り組んでいる組織の透明性の確保」等が挙げられた。

性別でみると、「市がまちづくりに取り組んでいる組織の活動内容等を把握すること」は女性(26.4%)が男性(21.0%)より5.4ポイント高く、「市職員の意識改革や人材育成に努めること」は男性(30.2%)が女性(25.5%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」は女性70歳以上(62.6%)、男性70歳以上(62.1%)で6割強と多くなっている。また、「市職員の意識改革や人材育成に努めること」は男性60～69歳(35.6%)、男性70歳以上(34.0%)で3割半ば、「まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと」は女性18～29歳(35.1%)、男性30～39歳(32.9%)で3割以上と多くなっている。

図表7-4-2 性・年齢別 協働の推進に必要な(効果的)な施策

	調査数(人)	市政に関する情報を分かりやすく公開すること	情報・活動の拠点となる場所を提供すること	金的な支援を行うこと	まちづくりに取り組んでいる組織に資	材的な支援を行うこと	まちづくりに取り組んでいる組織に人	成員と市職員の交流の場を設けること	まちづくりに取り組んでいる組織の構	市の活動内容等を把握すること	市の活動内容等を把握すること	ポランテニア保険など活動中の事故への対応を確立すること	市職員の意識改革や人材育成に努めること	市の組織の改革、強化に取り組むこと	地域や社会の向上のための活動を学校教育の一環として取り上げることを学校教育の	(活動に対する社会的評価を高めること)	活動に対する社会的評価を高めること	活動のための休暇・休職制度の普及を促進すること	その他	特になし	無回答
全体	1,790	57.3	23.4	21.5	15.3	19.3	23.9	10.0	27.6	11.2	22.3	6.3	6.5	0.5	0.9	3.5					
女性全体	955	58.1	21.7	19.7	15.9	17.2	26.4	10.2	25.5	9.6	23.8	4.9	5.9	0.3	1.0	3.4					
18～29歳	77	53.2	14.3	35.1	11.7	10.4	23.4	6.5	16.9	6.5	29.9	13.0	15.6	-	1.3	-					
30～39歳	133	53.4	22.6	27.1	21.1	12.8	23.3	7.5	21.1	8.3	27.8	4.5	6.0	-	1.5	3.0					
40～49歳	175	55.4	22.3	21.7	14.9	20.6	27.4	8.0	25.1	9.7	23.4	5.7	10.9	0.6	-	1.7					
50～59歳	135	59.3	28.9	14.1	15.6	11.9	28.1	9.6	32.6	12.6	19.3	3.0	3.7	-	0.7	2.2					
60～69歳	202	59.9	20.8	16.8	15.3	17.8	23.8	12.9	30.7	8.9	25.7	3.5	5.0	0.5	1.5	4.0					
70歳以上	227	62.6	19.4	15.0	16.3	22.5	28.6	12.8	21.6	10.6	19.8	4.4	0.9	0.4	1.3	6.2					
男性全体	775	56.0	25.7	23.7	14.1	21.8	21.0	9.7	30.2	13.2	20.9	8.0	7.4	0.8	0.6	3.5					
18～29歳	68	42.6	25.0	29.4	14.7	14.7	19.1	13.2	17.6	11.8	26.5	7.4	11.8	2.9	2.9	5.9					
30～39歳	76	57.9	21.1	32.9	15.8	18.4	25.0	2.6	22.4	11.8	15.8	7.9	18.4	1.3	1.3	2.6					
40～49歳	125	43.2	28.0	29.6	17.6	20.0	21.6	8.8	32.8	18.4	24.8	11.2	7.2	0.8	0.8	0.8					
50～59歳	120	59.2	26.7	20.8	16.7	16.7	19.2	12.5	25.8	11.7	22.5	7.5	12.5	0.8	-	0.8					
60～69歳	177	59.9	29.9	23.7	10.2	22.0	19.2	6.8	35.6	11.3	23.7	7.3	4.0	-	0.6	3.4					
70歳以上	206	62.1	22.3	16.5	12.6	29.1	22.3	12.6	34.0	13.6	15.5	6.8	1.5	-	-	6.3					

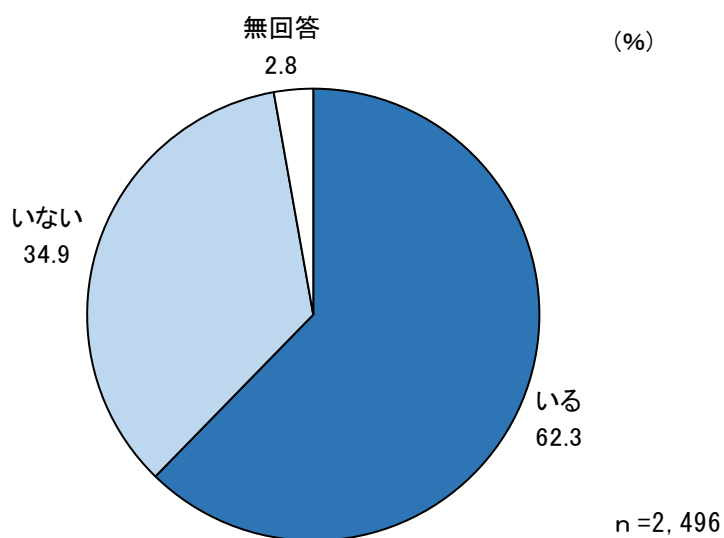
8. 地域医療について

(1) 「かかりつけ医」の有無

◇ 「いる」が6割強

問26. あなたには「かかりつけ医」がいますか。

図表8-1-1 「かかりつけ医」の有無

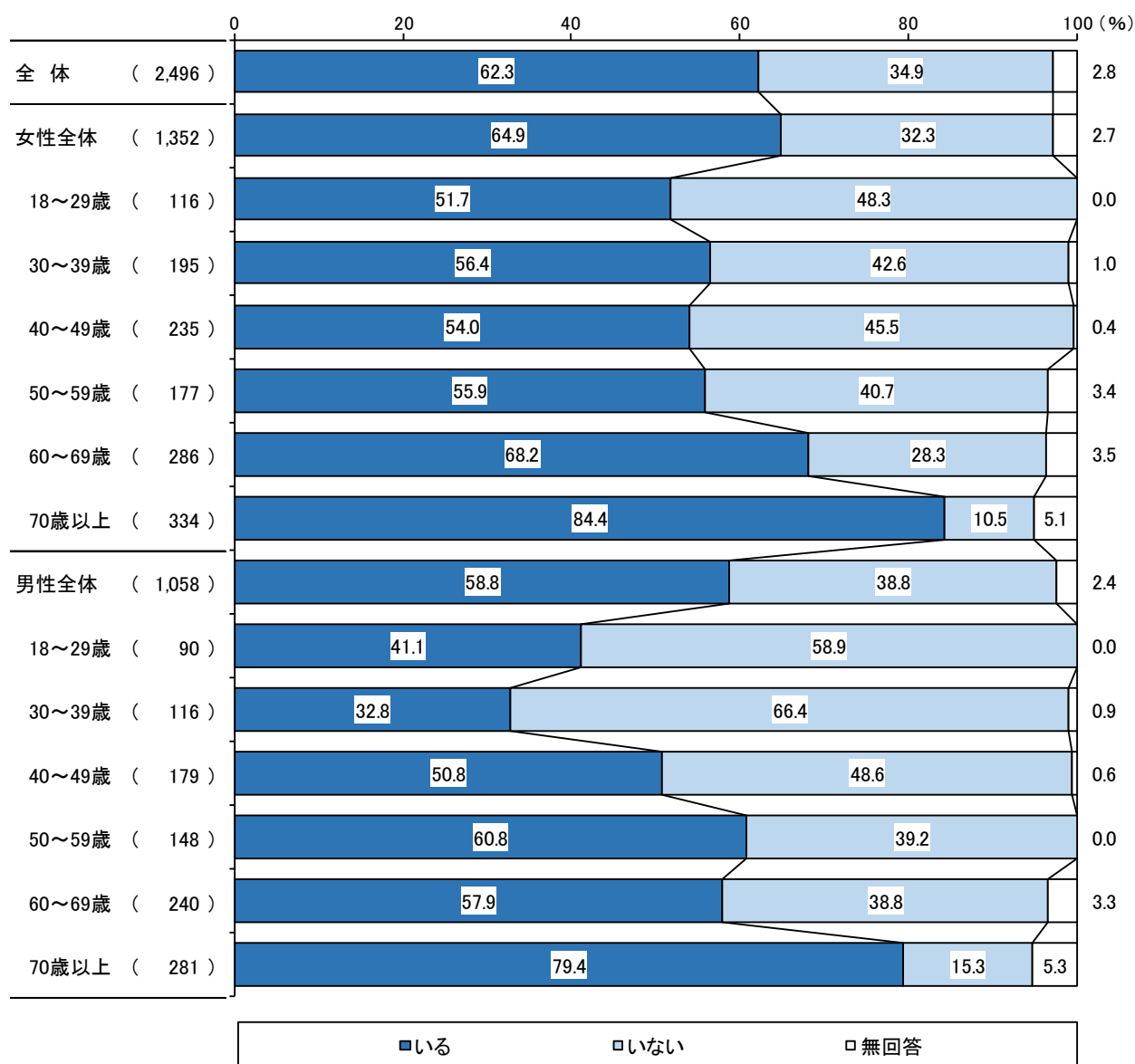


「かかりつけ医」の有無については、「いる」(62.3%)が6割強となっている。

性別でみると、「いる」は女性（64.9%）が男性（58.8%）より6.1ポイント高く、一方、「いない」は男性（38.8%）が女性（32.3%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、女性70歳以上（84.4%）で8割半ば、男性70歳以上（79.4%）で約8割、女性60～69歳（68.2%）で約7割と多くなっている。

図表8-1-2 性・年齢別 「かかりつけ医」の有無

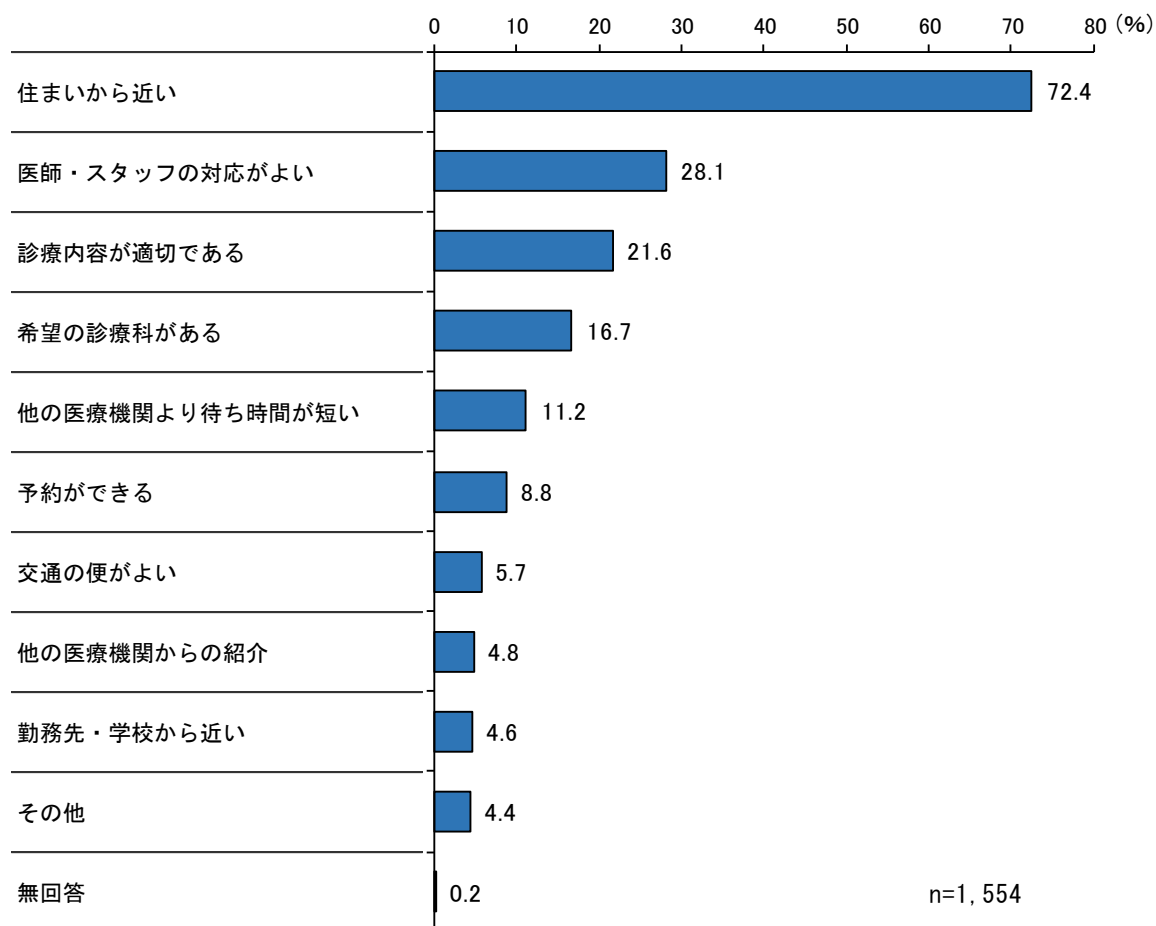


(2) 「かかりつけ医」を選んだ理由

◇「住まいから近い」が7割強

問26-2. 問26で「1. いる」と答えた方に伺います。あなたがその「かかりつけ医」を選んだ理由は何ですか。(複数回答可)

図表8-2-1 「かかりつけ医」を選んだ理由



「かかりつけ医」が「いる」と回答した1,554人に、その「かかりつけ医」を選んだ理由を聞いたところ、「住まいから近い」(72.4%)が最も多くなっている。次いで、「医師・スタッフの対応がよい」(28.1%)、「診療内容が適切である」(21.6%)、「希望の診療科がある」(16.7%)、「他の医療機関より待ち時間が短い」(11.2%)の順となっている。また、「その他」として「土日でも対応している」「子どもの頃からみてもらっている」「訪問診療がある」等が挙げられた。

性別でみると、「医師・スタッフの対応がよい」は女性（30.2%）が男性（25.9%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「住まいから近い」は男性40～49歳（81.3%）で約8割とやや多く、「医師・スタッフの対応がよい」は女性40～49歳（39.4%）で約4割と多くなっている。

図表8-2-2 性・年齢別 「かかりつけ医」を選んだ理由

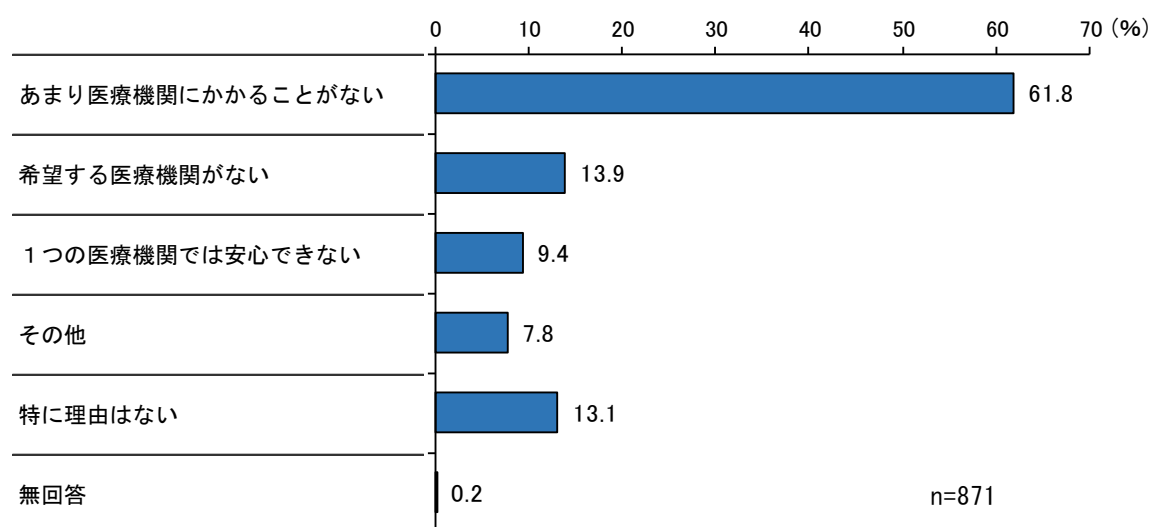
	調査数（人）	住まいから近い	勤務先・学校から近い	他の医療機関より待ち時間が短い	予約ができる	診療内容が適切である	希望の診療科がある	医師・スタッフの対応がよい	交通の便がよい	他の医療機関からの紹介	その他	無回答
全 体	1,554	72.4	4.6	11.2	8.8	21.6	16.7	28.1	5.7	4.8	4.4	0.2
女性全体	878	73.7	4.0	11.6	7.6	22.6	16.7	30.2	5.7	4.1	4.1	0.3
18～29歳	60	73.3	8.3	3.3	3.3	16.7	10.0	18.3	3.3	-	10.0	-
30～39歳	110	68.2	11.8	14.5	10.9	17.3	20.0	30.9	7.3	-	6.4	-
40～49歳	127	76.4	7.1	10.2	5.5	19.7	10.2	39.4	6.3	2.4	3.9	-
50～59歳	99	77.8	4.0	8.1	3.0	28.3	20.2	23.2	1.0	2.0	4.0	-
60～69歳	195	76.4	1.0	15.4	8.2	22.1	17.9	33.3	3.1	5.6	3.1	0.5
70歳以上	282	70.9	0.7	11.0	9.2	25.9	17.0	29.1	8.5	7.1	2.8	0.7
男性全体	622	70.6	5.3	10.8	10.0	21.1	16.6	25.9	5.6	5.9	5.1	-
18～29歳	37	78.4	-	8.1	2.7	5.4	18.9	16.2	8.1	2.7	5.4	-
30～39歳	38	73.7	7.9	21.1	7.9	10.5	18.4	15.8	-	5.3	7.9	-
40～49歳	91	81.3	8.8	7.7	8.8	17.6	9.9	27.5	5.5	2.2	2.2	-
50～59歳	90	70.0	12.2	8.9	4.4	18.9	17.8	16.7	8.9	5.6	4.4	-
60～69歳	139	66.2	5.8	10.8	8.6	25.9	15.1	24.5	2.9	5.8	5.0	-
70歳以上	223	68.2	0.9	11.7	13.5	25.1	18.8	32.7	6.3	7.6	6.3	-

(3) 「かかりつけ医」を持たない理由

◇「あまり医療機関にかかることがない」が約6割

問26-3. 問26で「2. いない」と答えた方に伺います。あなたが「かかりつけ医」を持たない理由はなぜですか。(複数回答可)

図表8-3-1 「かかりつけ医」を持たない理由



「かかりつけ医」が「いない」と回答した871人に、「かかりつけ医」を持たない理由を聞いたところ、「あまり医療機関にかかることがない」(61.8%)が最も多くなっている。次いで、「希望する医療機関がない」(13.9%)、「1つの医療機関では安心できない」(9.4%)の順となっている。また、「その他」として「引っ越してきたばかりだから」「まだ機会がない」「探しているところ」「閉院してしまった」等が挙げられた。

性別でみると、「あまり医療機関にかかることがない」は男性（63.5%）が女性（60.2%）より3.3ポイント高く、一方、「希望する医療機関がない」は女性（15.3%）が男性（11.7%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「あまり医療機関にかかることがない」は女性70歳以上（45.7%）、男性70歳以上（46.5%）で4割半ばと少なくなっている。また、「希望する医療機関がない」は女性70歳以上（25.7%）で2割半ばと多くなっている。

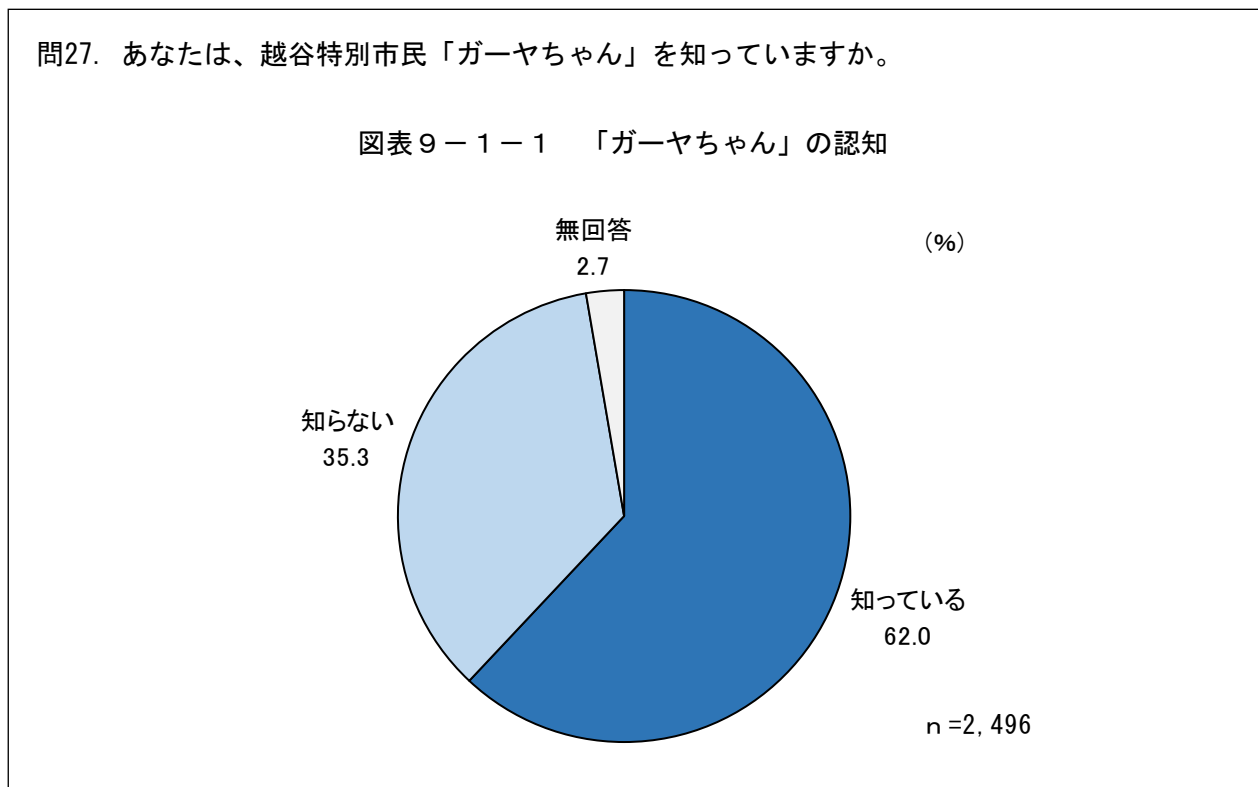
図表8-3-2 性・年齢別 「かかりつけ医」を持たない理由

	調査数（人）	希望する医療機関がない	1つの医療機関では安心できない	あまり医療機関にかかることがない	その他	特に理由はない	無回答
全体	871	13.9	9.4	61.8	7.8	13.1	0.2
女性全体	437	15.3	10.5	60.2	9.8	11.2	0.2
18～29歳	56	7.1	14.3	58.9	10.7	12.5	-
30～39歳	83	10.8	13.3	65.1	10.8	10.8	-
40～49歳	107	18.7	9.3	54.2	13.1	11.2	-
50～59歳	72	19.4	9.7	66.7	2.8	6.9	-
60～69歳	81	13.6	6.2	63.0	9.9	13.6	1.2
70歳以上	35	25.7	14.3	45.7	11.4	14.3	-
男性全体	411	11.7	8.0	63.5	6.1	15.1	0.2
18～29歳	53	9.4	7.5	69.8	9.4	5.7	-
30～39歳	77	6.5	5.2	68.8	1.3	20.8	-
40～49歳	87	10.3	3.4	65.5	6.9	16.1	1.1
50～59歳	58	13.8	10.3	67.2	6.9	10.3	-
60～69歳	93	15.1	10.8	59.1	5.4	16.1	-
70歳以上	43	16.3	14.0	46.5	9.3	18.6	-

9. 越谷特別市民「ガーヤちゃん」について

(1) 「ガーヤちゃん」の認知

◇「知っている」が6割強

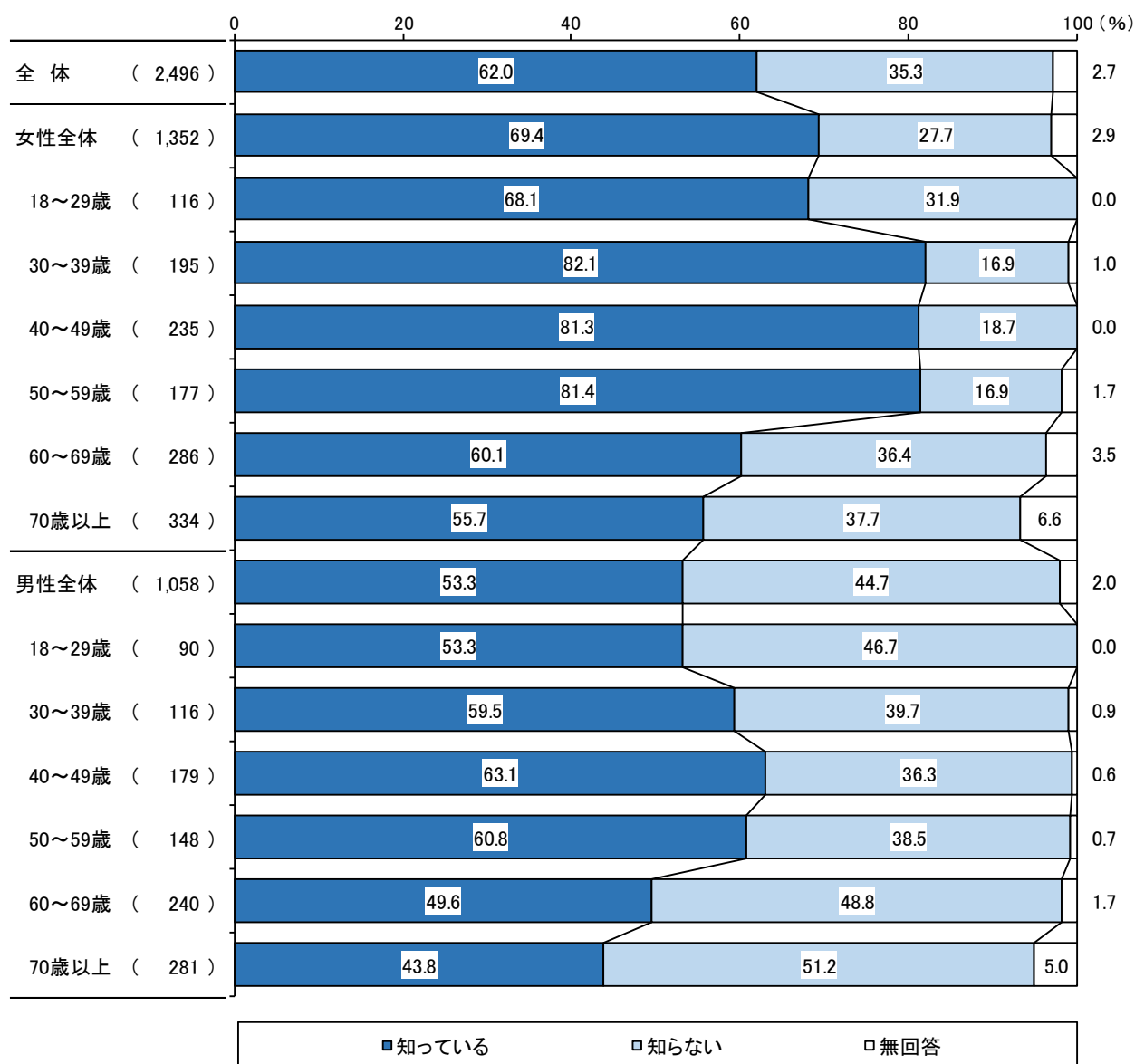


越谷特別市民「ガーヤちゃん」の認知については、「知っている」(62.0%)が6割強となっている。

性別で見ると、「知っている」は女性（69.4%）が男性（53.3%）より16.1ポイント高く、一方、「知らない」は男性（44.7%）が女性（27.7%）より17.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「知っている」は女性30～39歳（82.1%）、女性40～49歳（81.3%）、女性50～59歳（81.4%）で8割以上と多くなっている。

図表9-1-2 性・年齢別 「ガーヤちゃん」の認知

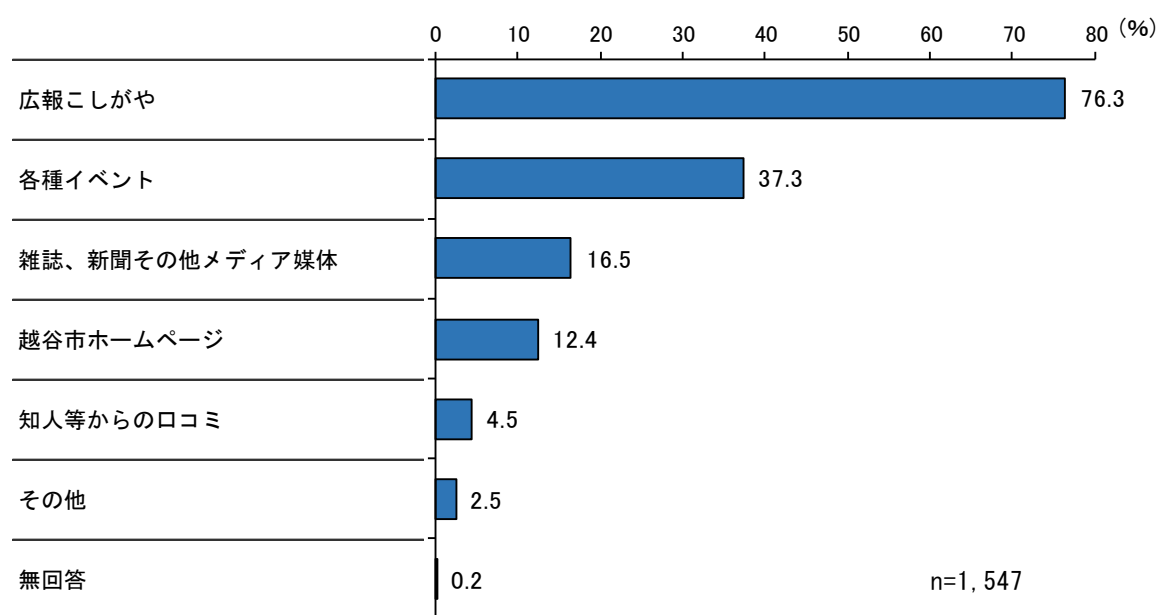


(2) 「ガーヤちゃん」の認知媒体

◇「広報こしがや」が7割半ば

問27-2. 問27で「1. 知っている」と答えた方に伺います。あなたは、越谷特別市民「ガーヤちゃん」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)

図表9-2-1 「ガーヤちゃん」の認知媒体



「ガーヤちゃん」を「知っている」と回答した1,547人に、どのようにして知ったかを聞いたところ、「広報こしがや」(76.3%)が最も多くなっている。次いで、「各種イベント」(37.3%)、「雑誌、新聞その他メディア媒体」(16.5%)、「越谷市ホームページ」(12.4%)、「知人等からの口コミ」(4.5%)の順となっている。また、「その他」として「学校」「市役所でみた」「ポスター・カレンダー」「市民ガイドブック」等が挙げられた。

性別でみると、「広報こしがや」は女性（79.3%）が男性（71.5%）より7.8ポイント高く、一方、「越谷市ホームページ」は男性（15.2%）が女性（10.6%）より4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は女性50～59歳（90.3%）、女性60～69歳（90.7%）で約9割と多くなっている。また、「各種イベント」は女性30～39歳（48.1%）、男性30～39歳（47.8%）で5割弱と多く、「知人等からの口コミ」は女性18～29歳（15.2%）、男性18～29歳（10.4%）でやや多くなっている。

図表9-2-2 性・年齢別 「ガーヤちゃん」の認知媒体

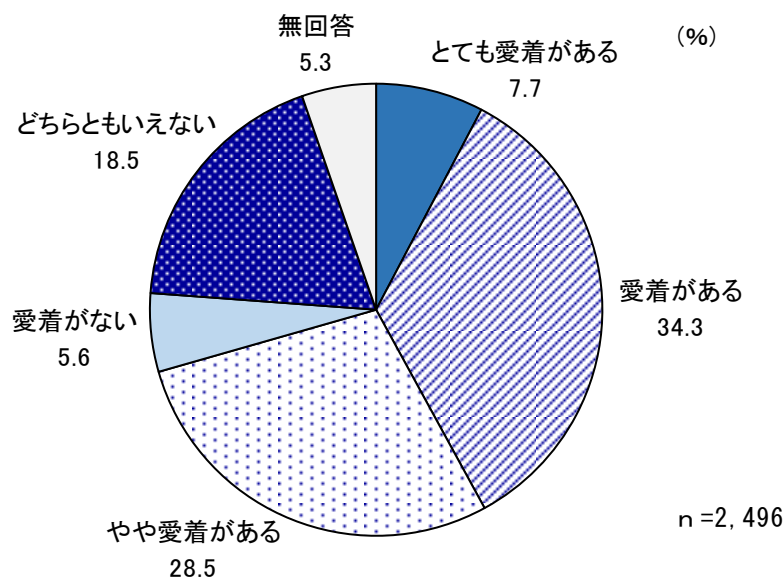
	調査数 (人)	広報 こしがや	越谷市 ホーム ページ	雑誌、 新聞 その他 メディア 媒体	各種 イベ ント	知人 等 から の 口 コ ミ	そ の 他	無 回 答
全 体	1,547	76.3	12.4	16.5	37.3	4.5	2.5	0.2
女性全体	938	79.3	10.6	16.2	37.3	4.3	3.1	0.3
18～29歳	79	57.0	15.2	24.1	39.2	15.2	7.6	-
30～39歳	160	67.5	13.1	13.1	48.1	3.1	8.1	-
40～49歳	191	72.3	14.7	18.8	42.4	6.3	2.6	0.5
50～59歳	144	90.3	7.6	17.4	29.2	2.1	1.4	-
60～69歳	172	90.7	9.9	14.5	34.3	2.9	1.7	-
70歳以上	186	87.6	4.8	12.4	30.1	1.6	-	1.1
男性全体	564	71.5	15.2	17.2	37.8	4.8	1.4	-
18～29歳	48	54.2	20.8	18.8	39.6	10.4	4.2	-
30～39歳	69	52.2	18.8	14.5	47.8	8.7	1.4	-
40～49歳	113	63.7	17.7	23.9	42.5	2.7	1.8	-
50～59歳	90	70.0	13.3	18.9	40.0	4.4	2.2	-
60～69歳	119	86.6	16.0	10.9	31.9	6.7	-	-
70歳以上	123	82.9	9.8	17.1	30.1	0.8	0.8	-

(3) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が約7割

問28. 皆さんに伺います。越谷市では、越谷特別市民「ガーヤちゃん」などを通じて、さまざまな市のPRに取り組んでいますが、あなたは、越谷市に対してどのくらい愛着がありますか。

図表9-3-1 越谷市への愛着



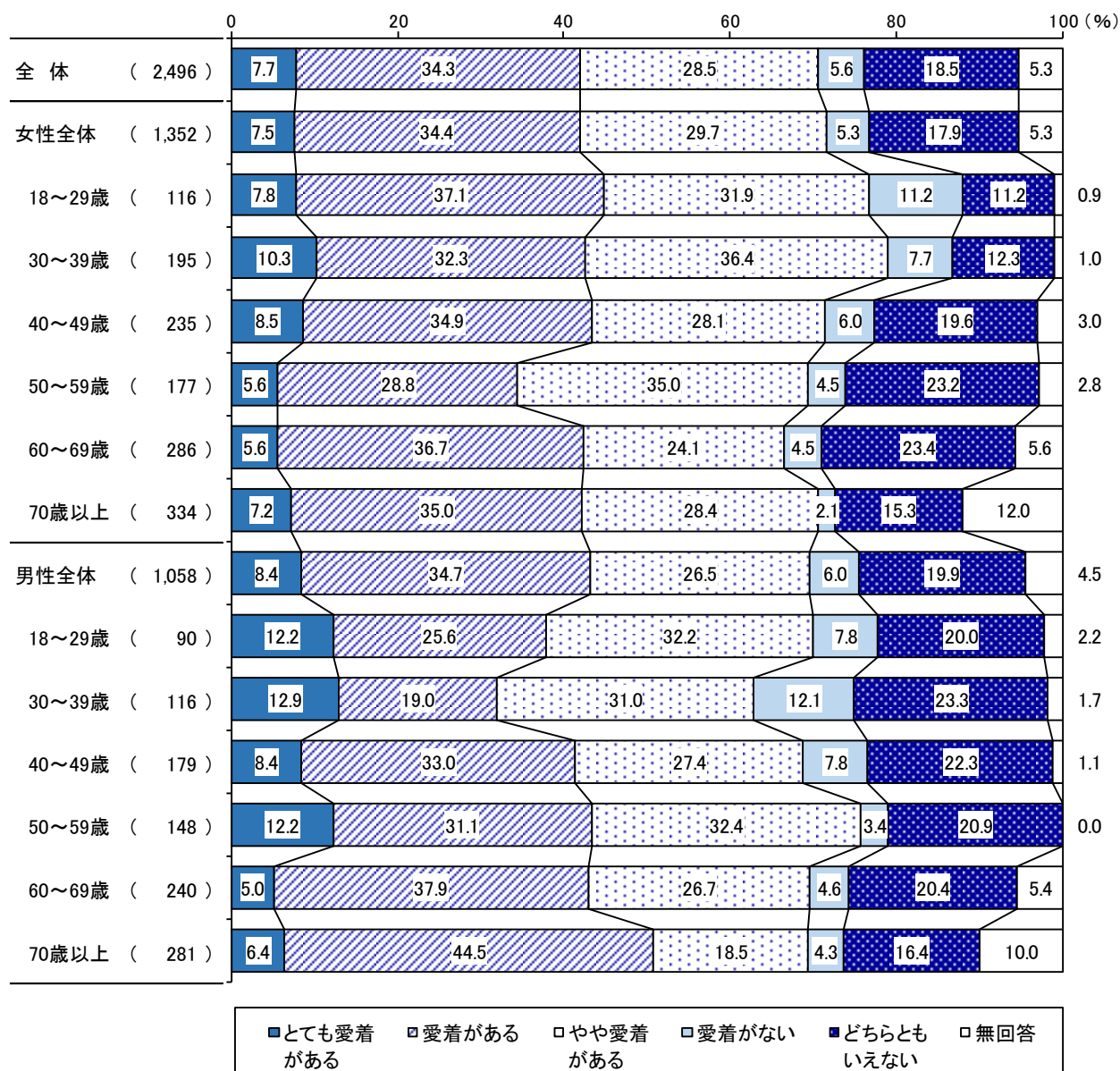
越谷市への愛着については、「愛着がある」(34.3%)が最も多くなっている。次いで、「やや愛着がある」(28.5%)、「どちらともいえない」(18.5%)、「とても愛着がある」(7.7%)、「愛着がない」(5.6%)の順となっている。

「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(70.5%)は約7割となっている。

性別で見ると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別で見ると、『愛着がある』は女性30～39歳（79.0%）で約8割と最も多くなっている。一方、「愛着がない」は女性18～29歳（11.2%）、男性30～39歳（12.1%）で1割以上となっている。

図表9-3-2 性・年齢別 越谷市への愛着



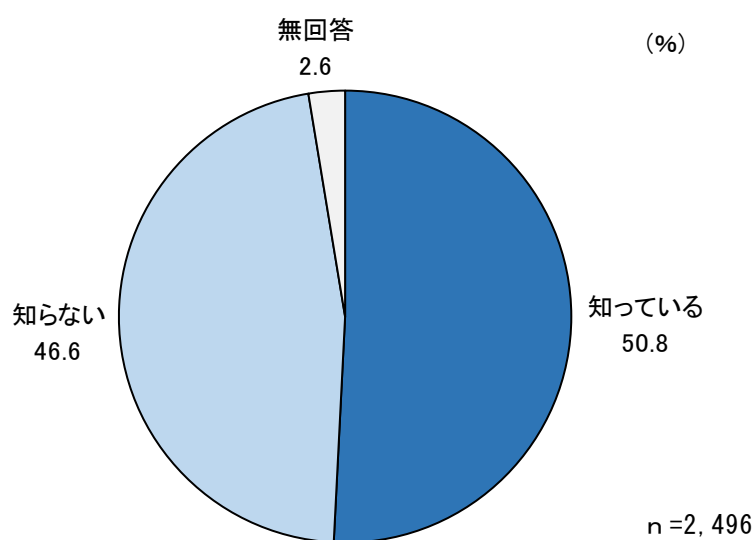
10. ウッドデッキの利活用について

(1) 「ウッドデッキ」の認知

◇「知っている」が約5割

問29. あなたは、越谷市役所東側の葛西用水沿いに「ウッドデッキ」が整備されていることを知っていますか。

図表 10-1-1 「ウッドデッキ」の認知

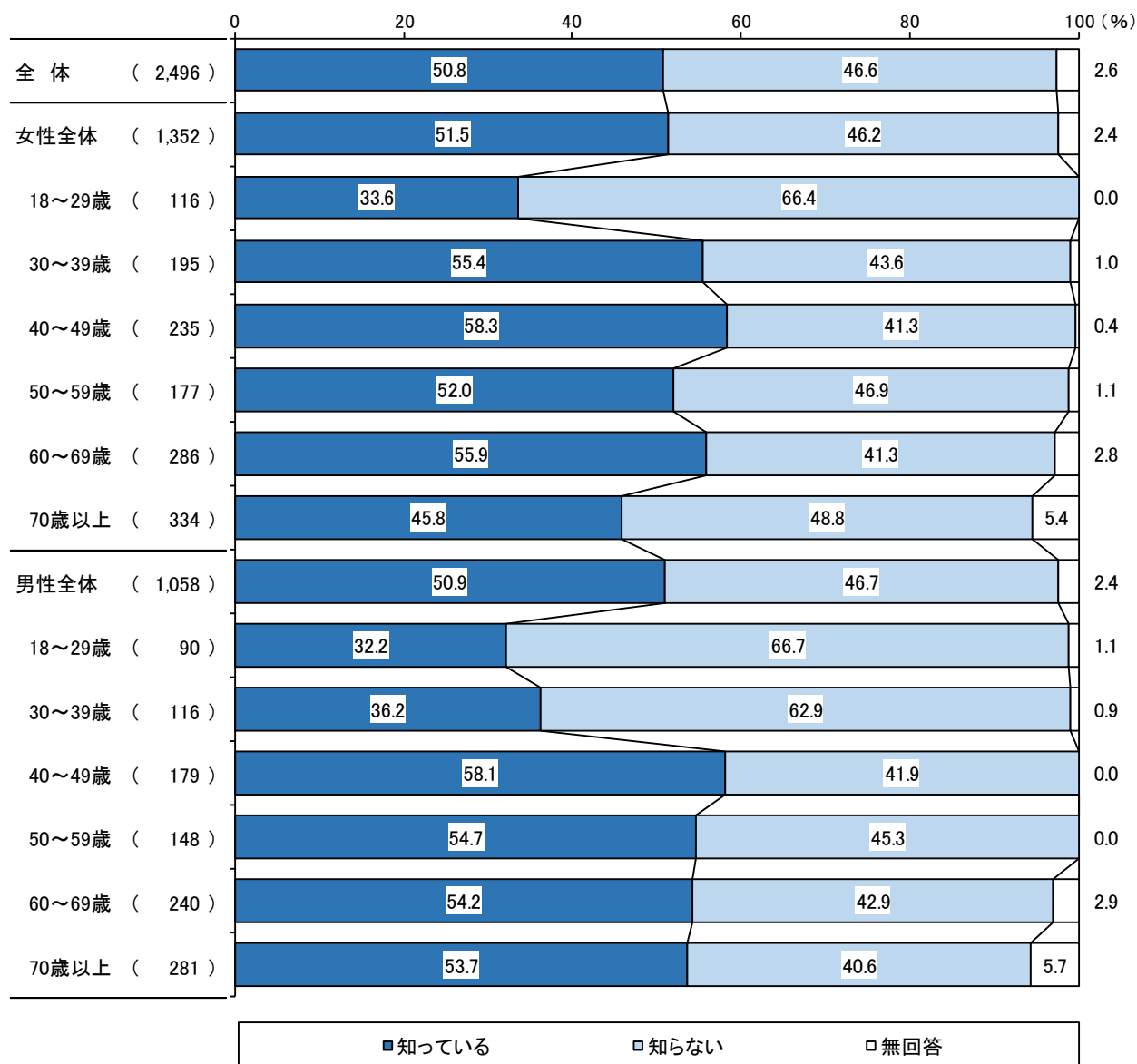


越谷市役所東側の葛西用水沿いに「ウッドデッキ」が整備されていることについては、「知っている」(50.8%) が約5割となっている。

性別で見ると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別で見ると、「知っている」は女性40～49歳（58.3%）で6割弱と最も多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（66.4%）、男性18～29歳（66.7%）で6割半ばと多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 「ウッドデッキ」の認知

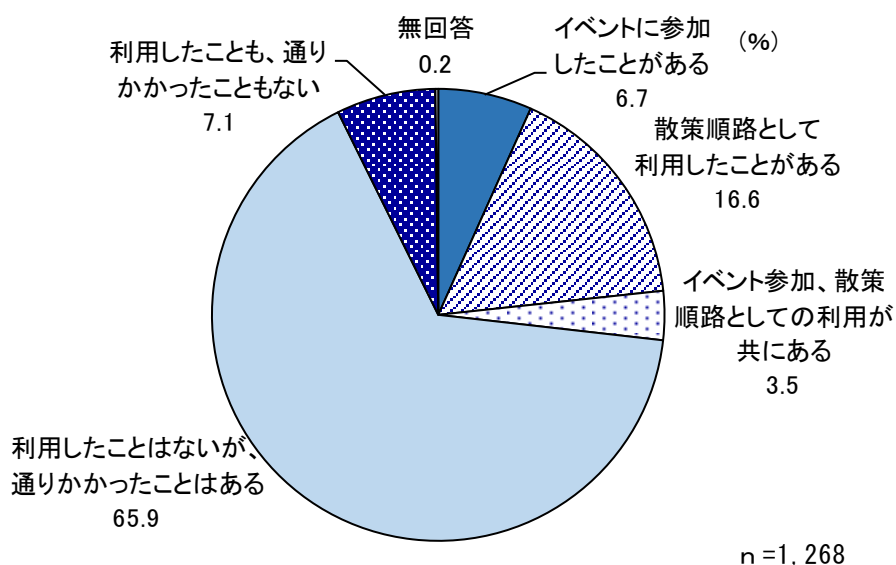


(2) 「ウッドデッキ」の利用有無

◇『利用したことがある』が2割半ば

問29-2. 問29で「1. 知っている」と答えた方に伺います。あなたは「ウッドデッキ」を利用したことがありますか。次の中から1つ選んでください。

図表 10-2-1 「ウッドデッキ」の利用有無

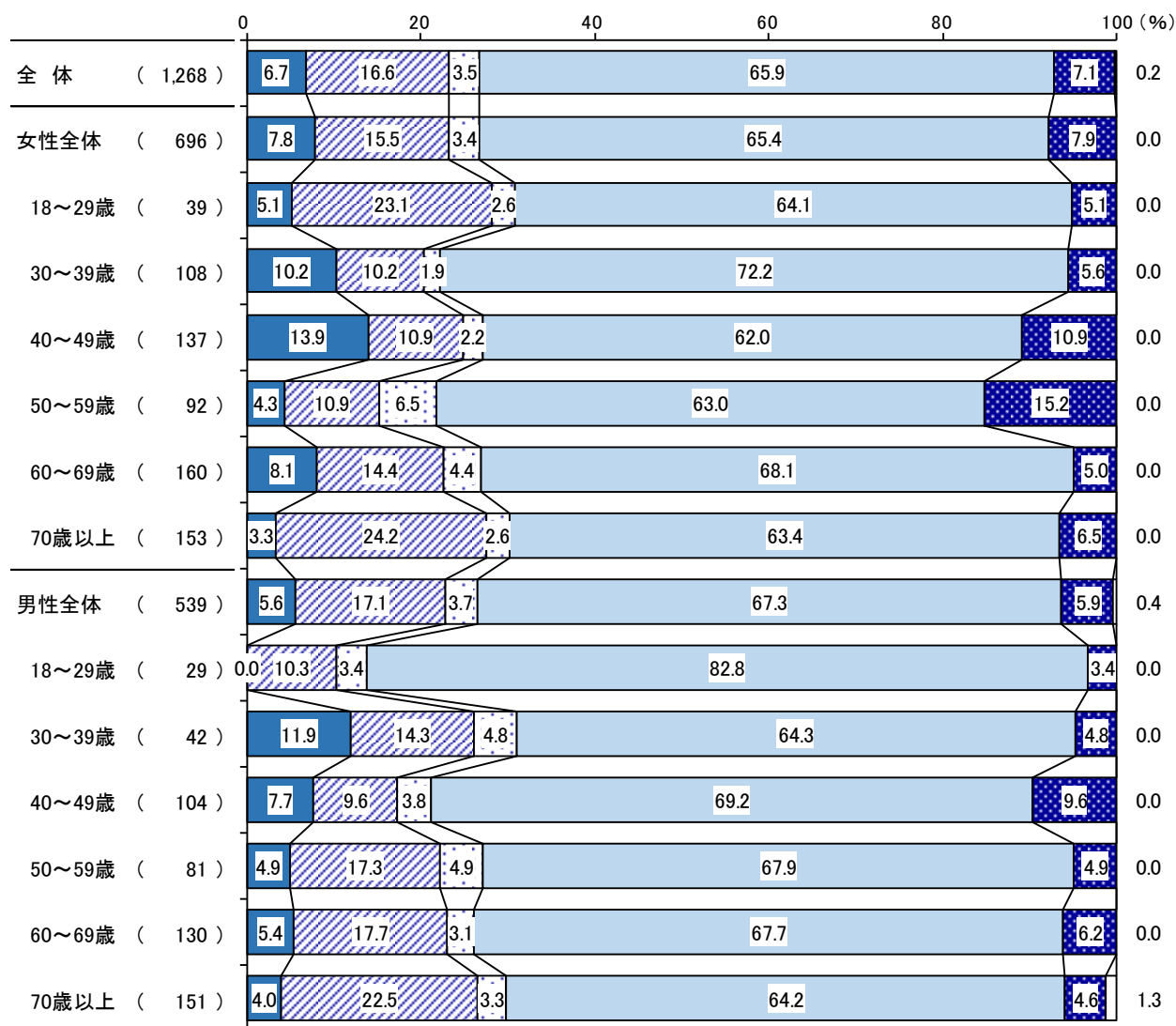


「ウッドデッキ」が整備されていることを「知っている」と回答した1,268人に、利用したことがあるか聞いたところ、「イベントに参加したことがある」(6.7%)と「散策順路として利用したことがある」(16.6%)と「イベント参加、散策順路としての利用が共にある」(3.5%)を合わせた『利用したことがある』(26.8%)は2割半ばとなっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「イベントに参加したことがある」は女性40～49歳（13.9%）で1割半ばと多くなっている。

図表 10-2-2 性・年齢別 「ウッドデッキ」の利用有無



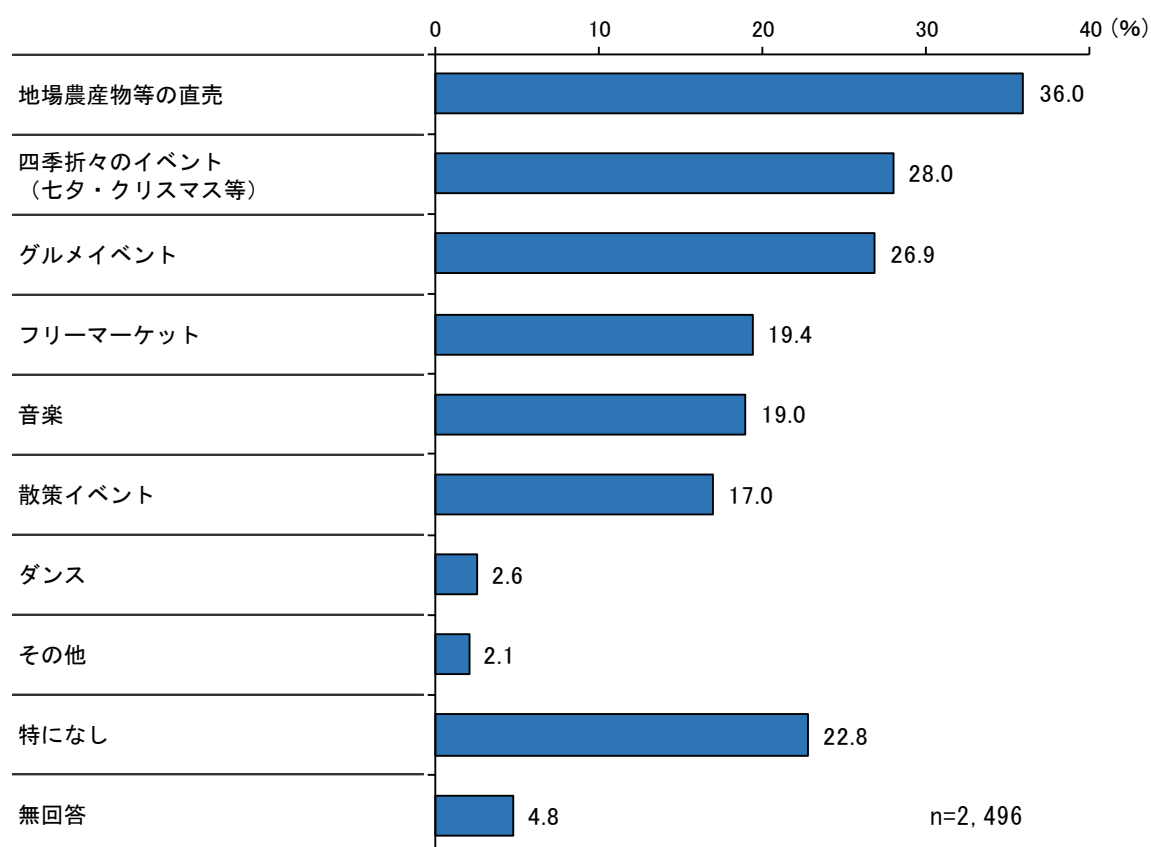
■ イベントに参加したことがある □ 散策順路として利用したことがある □ イベント参加、散策順路としての利用が共にある □ 利用したことはないが、通りかかったことはある ■ 利用したことも、通りかかったこともない □ 無回答

(3) 参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベント

◇「地場農産物等の直売」が3割半ば

問30. 皆さんに伺います。「ウッドデッキ」でのイベントについて伺います。あなたは、どのようなイベントであれば参加したいと思いますか。(複数回答可)

図表 10-3-1 参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベント



参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベントについては、「地場農産物等の直売」(36.0%)が最も多くなっている。次いで、「四季折々のイベント(七夕・クリスマス等)」(28.0%)、「グルメイベント」(26.9%)、「フリーマーケット」(19.4%)、「音楽」(19.0%)の順となっている。また、「その他」として「スポーツイベント」「国際交流事業」「お笑いトークショー」等が挙げられた。

性別でみると、「地場農産物等の直売」は女性（41.0%）が男性（30.2%）より10.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「グルメイベント」は女性18～29歳（54.3%）、女性30～39歳（53.3%）、男性30～39歳（50.9%）で5割以上と多くなっている。また、「地場農産物等の直売」は女性30～39歳（47.7%）、女性40～49歳（47.2%）、女性50～59歳（46.9%）で4割半ば、「四季折々のイベント（七夕・クリスマス等）」は女性30～39歳（42.6%）、女性40～49歳（40.0%）、男性18～29歳（40.0%）で約4割と多くなっている。

図表 10-3-2 性・年齢別 参加したいと思う「ウッドデッキ」でのイベント

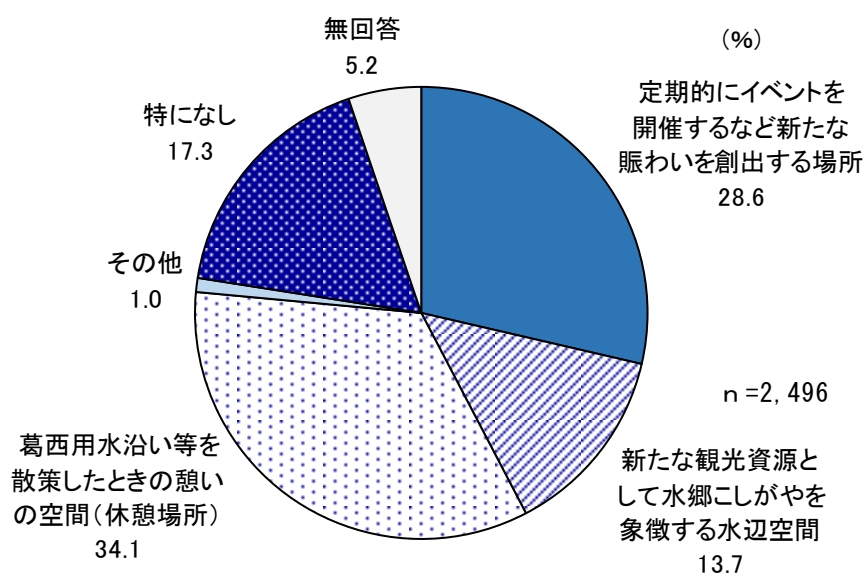
	調査数（人）	グルメイベント	音楽	ダンス	地場農産物等の直売	フリーマーケット	（四季折々のイベント（七夕・クリスマス等）	散策イベント	その他	特になし	無回答
全体	2,496	26.9	19.0	2.6	36.0	19.4	28.0	17.0	2.1	22.8	4.8
女性全体	1,352	27.7	19.5	2.9	41.0	19.6	28.7	18.7	1.5	21.2	4.7
18～29歳	116	54.3	30.2	6.0	22.4	30.2	36.2	12.1	1.7	19.0	-
30～39歳	195	53.3	22.6	5.6	47.7	28.7	42.6	13.3	1.5	10.3	0.5
40～49歳	235	38.7	20.0	3.0	47.2	23.0	40.0	17.9	1.3	14.5	0.4
50～59歳	177	26.0	24.9	5.1	46.9	17.5	33.9	23.7	1.1	18.1	2.3
60～69歳	286	15.4	18.9	1.0	39.2	14.3	19.6	24.1	1.7	24.8	5.2
70歳以上	334	7.5	11.1	0.6	37.4	14.1	15.6	17.7	1.5	31.4	12.0
男性全体	1,058	26.1	18.8	2.3	30.2	19.6	27.5	15.0	2.6	24.5	4.3
18～29歳	90	46.7	33.3	5.6	25.6	32.2	40.0	6.7	2.2	16.7	1.1
30～39歳	116	50.9	18.1	3.4	26.7	27.6	26.7	7.8	3.4	21.6	0.9
40～49歳	179	38.0	18.4	3.9	34.1	16.8	30.7	13.4	1.7	23.5	-
50～59歳	148	30.4	20.9	1.4	33.1	20.3	28.4	14.2	2.0	23.0	2.0
60～69歳	240	11.3	20.0	2.1	30.0	17.9	27.9	18.3	2.1	28.3	5.4
70歳以上	281	12.1	12.8	0.4	28.8	14.6	21.4	18.9	3.9	26.3	9.6

(4) 「ウッドデッキ」への期待

◇「葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所）」が3割半ば

問31. あなたは今後、「ウッドデッキ」がどのような空間になることを期待しますか。次の中から1つ選んでください。

図表 10-4-1 「ウッドデッキ」への期待

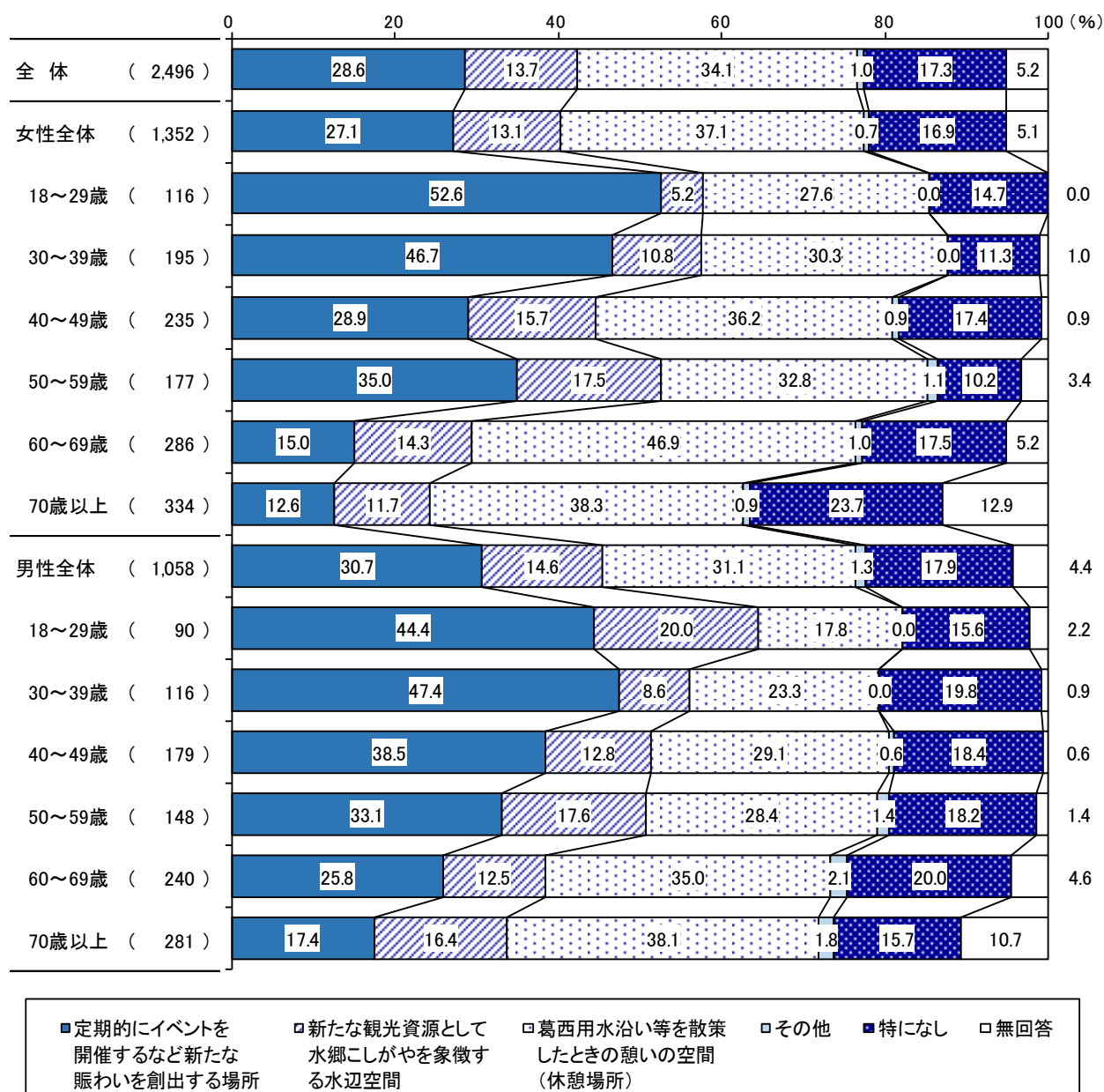


「ウッドデッキ」への期待については、「葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所）」（34.1%）が最も多くなっている。次いで、「定期的イベントを開催するなど新たな賑わいを創出する場所」（28.6%）、「新たな観光資源として水郷こしがやを象徴する水辺空間」（13.7%）の順となっている。また、「その他」として「カフェなどを開いてくれると良い」「自由空間」等が挙げられた。

性別でみると、「葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所）」は女性（37.1%）が男性（31.1%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「定期的にイベントを開催するなど新たな賑わいを創出する場所」は女性18～29歳（52.6%）で5割強と最も多く、「葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所）」は女性60～69歳（46.9%）で4割半ばと最も多くなっている。

図表 10-4-2 性・年齢別 「ウッドデッキ」への期待

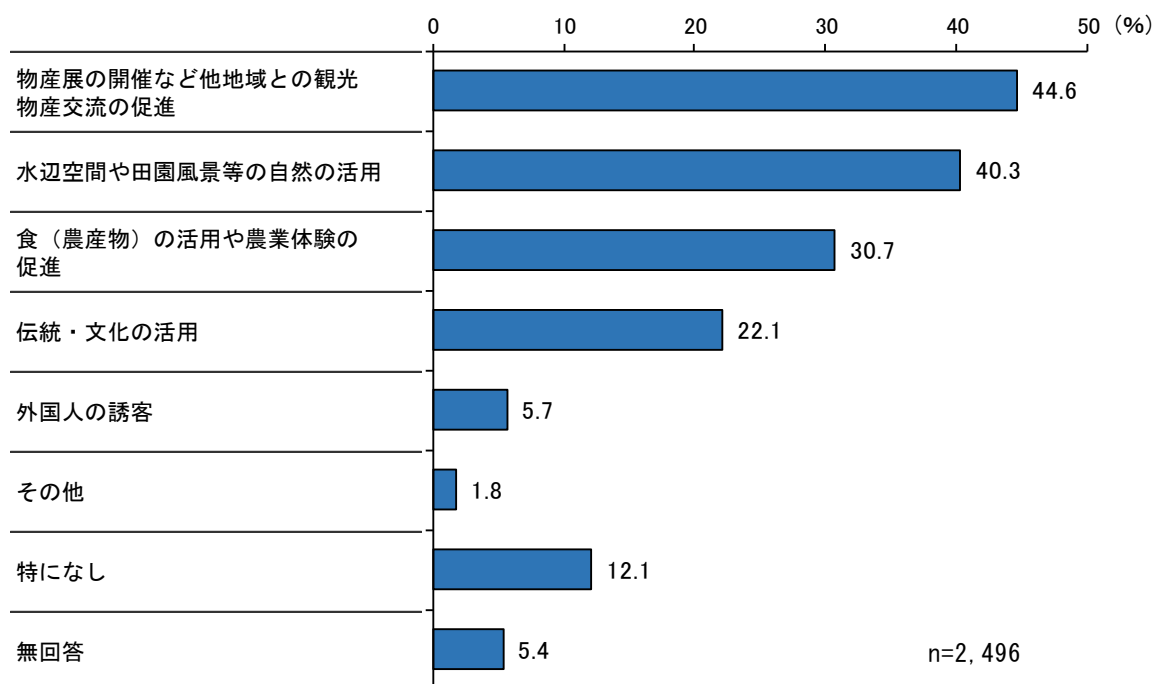


(5) 観光推進事業への期待

◇「物産展の開催など他地域との観光物産交流の促進」が4割半ば

問32. あなたは、今後の市の観光推進事業にどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

図表 10-5-1 観光推進事業への期待



今後の市の観光推進事業に期待することについては、「物産展の開催など他地域との観光物産交流の促進」(44.6%)が最も多くなっている。次いで、「水辺空間や田園風景等の自然の活用」(40.3%)、「食(農産物)の活用や農業体験の促進」(30.7%)、「伝統・文化の活用」(22.1%)、「外国人の誘客」(5.7%)の順となっている。また、「その他」として「スポーツの大会、プロのスポーツイベント」「越谷市独自の個性を活かしたイベントや祭事の復興」「子どもが楽しく遊べる施設」等が挙げられた。

性別でみると、「食（農産物）の活用や農業体験の促進」は女性（33.5%）が男性（27.2%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「水辺空間や田園風景等の自然の活用」は男性60～69歳（49.2%）で約5割と最も多く、「食（農産物）の活用や農業体験の促進」は女性18～29歳（47.4%）、女性30～39歳（48.2%）、男性18～29歳（47.8%）で5割弱と多くなっている。

図表 10-5-2 性・年齢別 観光推進事業への期待

	調査数（人）	食（農産物）の活用や農業体験の促進	物産交流の促進など他地域との観光	水辺空間や田園風景等の自然の活用	伝統・文化の活用	外国人の誘客	その他	特になし	無回答
全体	2,496	30.7	44.6	40.3	22.1	5.7	1.8	12.1	5.4
女性全体	1,352	33.5	45.9	39.1	20.9	4.7	1.0	12.7	5.1
18～29歳	116	47.4	40.5	29.3	25.0	8.6	0.9	6.9	1.7
30～39歳	195	48.2	42.1	34.9	20.0	7.2	1.0	10.3	2.6
40～49歳	235	43.8	44.7	35.3	28.1	5.1	0.9	13.2	1.7
50～59歳	177	29.9	51.4	42.9	22.6	2.3	2.3	11.9	3.4
60～69歳	286	25.2	45.1	47.2	19.2	4.5	1.0	13.6	4.9
70歳以上	334	22.2	49.1	38.3	15.3	3.3	0.3	15.6	10.8
男性全体	1,058	27.2	43.6	42.1	23.7	7.1	2.8	11.5	4.7
18～29歳	90	47.8	25.6	44.4	30.0	13.3	4.4	7.8	2.2
30～39歳	116	32.8	37.9	27.6	15.5	8.6	3.4	14.7	0.9
40～49歳	179	34.6	41.3	41.9	24.0	5.6	2.2	15.1	1.7
50～59歳	148	30.4	45.3	38.5	29.1	10.1	4.1	11.5	2.7
60～69歳	240	23.8	48.3	49.2	22.1	5.0	2.9	10.8	5.0
70歳以上	281	14.9	48.4	43.1	23.8	5.3	1.4	9.6	10.0

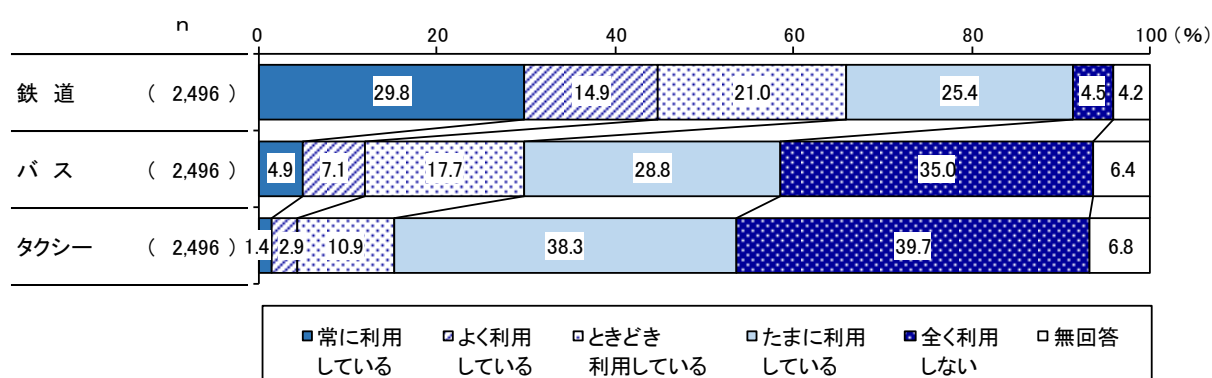
11. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用有無

◇ 鉄道は「常に利用」が約3割、バスは「たまに利用」が3割弱、タクシーは「たまに利用」が約4割

問33. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。次の中から1つ選んでください。

図表 11-1-1 公共交通の利用有無



鉄道の利用については、「常に利用している」(29.8%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(25.4%)、「ときどき利用している」(21.0%)、「よく利用している」(14.9%)、「全く利用しない」(4.5%)の順となっている。

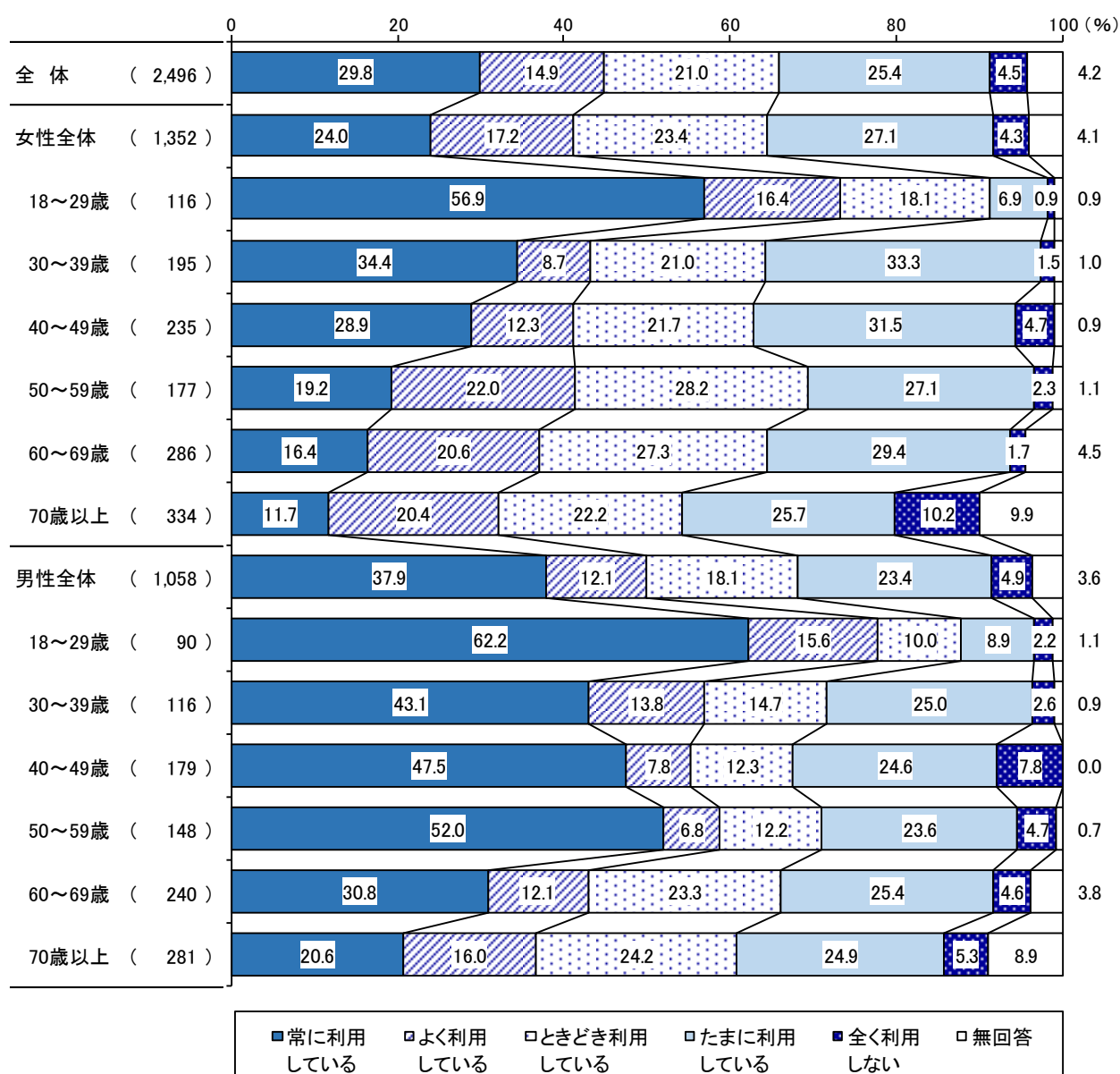
バスの利用については、「全く利用しない」(35.0%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(28.8%)、「ときどき利用している」(17.7%)、「よく利用している」(7.1%)、「常に利用している」(4.9%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(39.7%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(38.3%)、「ときどき利用している」(10.9%)、「よく利用している」(2.9%)、「常に利用している」(1.4%)の順となっている。

鉄道の利用について性別で見ると、男性は「常に利用している」が最も多く、男性（37.9%）が女性（24.0%）より13.9ポイント高くなっている。また、女性は「たまに利用している」が最も多く、女性（27.1%）が男性（23.4%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「常に利用している」は男性18～29歳（62.2%）で6割強と最も多く、女性18～29歳（56.9%）、男性50～59歳（52.0%）で5割以上と多くなっている。一方、「全く利用しない」は女性70歳以上（10.2%）で1割と多くなっている。

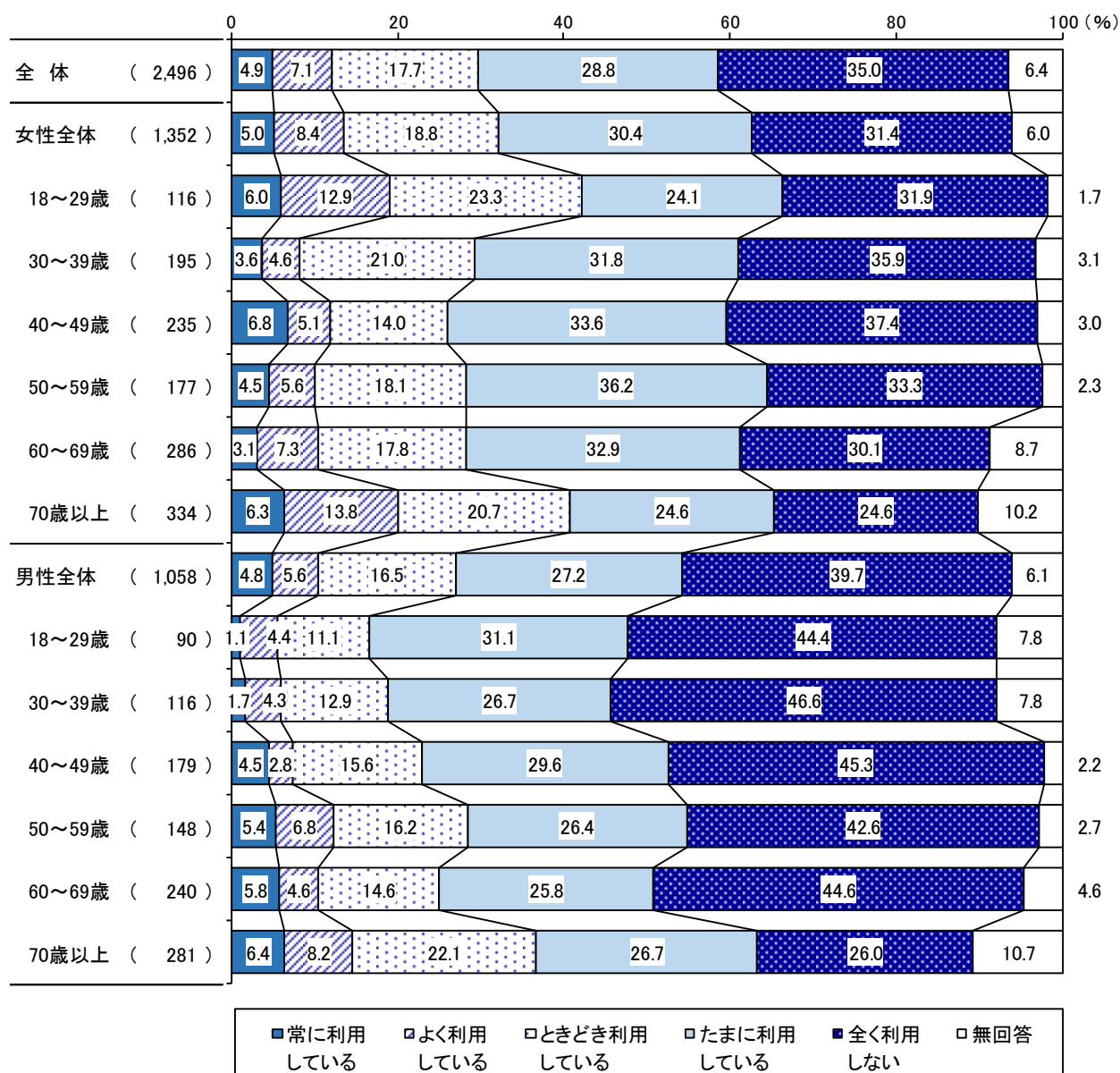
図表 11-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無（鉄道）



バスの利用について性別で見ると、女性・男性とも「全く利用しない」が最も多く、男性（39.7%）が女性（31.4%）より8.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「よく利用している」は女性18～29歳（12.9%）、女性70歳以上（13.8%）で1割強と多くなっている。一方、「全く利用しない」は男性18～29歳（44.4%）、男性30～39歳（46.6%）、男性40～49歳（45.3%）、男性50～59歳（42.6%）、男性60～69歳（44.6%）で4割を超えている。

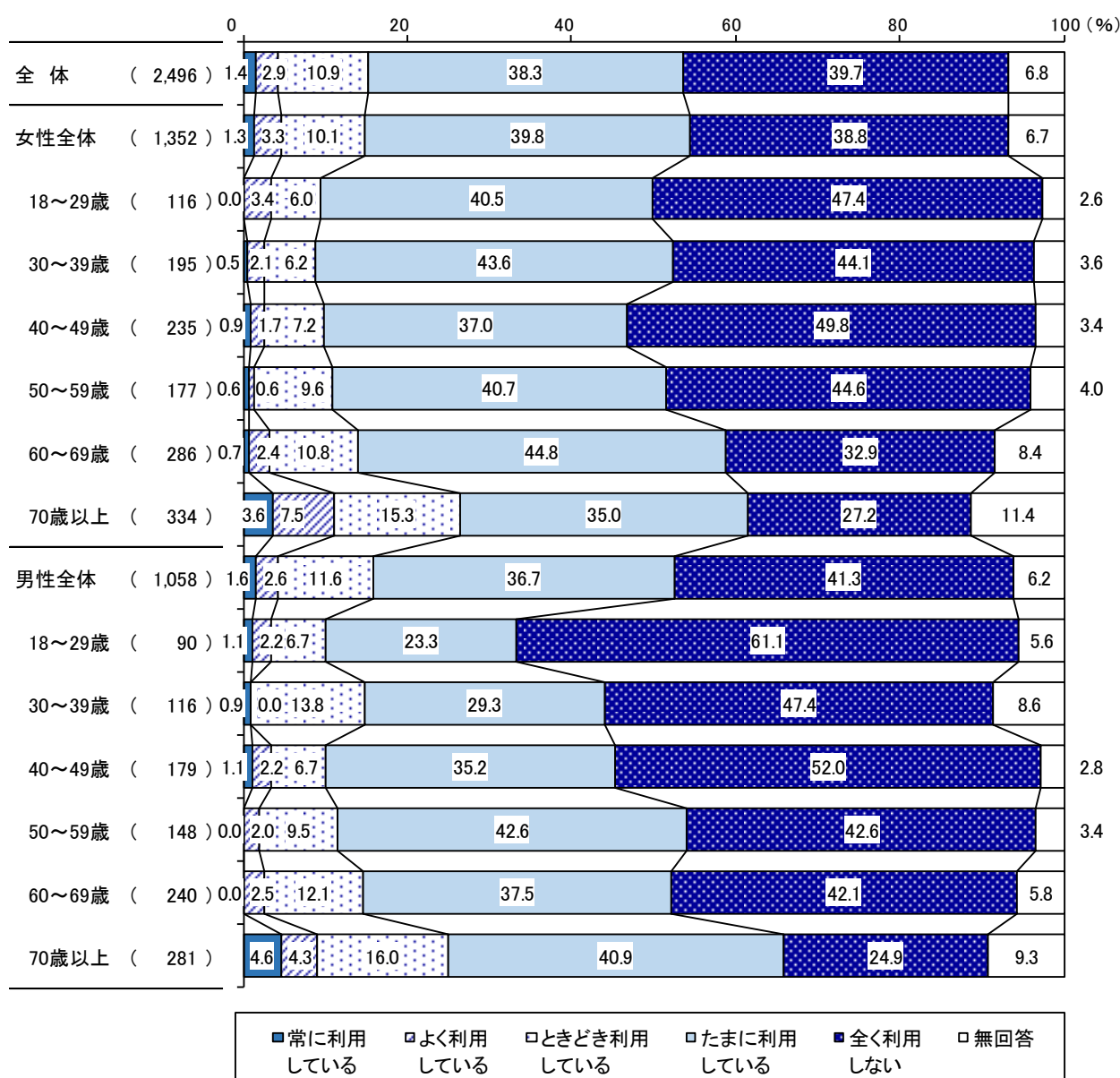
図表 11-1-3 性・年齢別 公共交通の利用有無（バス）



タクシーの利用について性別で見ると、女性は「たまに利用している」が最も多く、女性（39.8%）が男性（36.7%）より3.1ポイント高くなっている。また、男性は「全く利用しない」が最も多く、男性（41.3%）が女性（38.8%）より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「常に利用している」、「よく利用している」、「ときどき利用している」はいずれも女性70歳以上、男性70歳以上で多くなっている。一方、「全く利用しない」は男性18～29歳（61.1%）で6割以上と最も多くなっている。

図表 11-1-4 性・年齢別 公共交通の利用有無（タクシー）

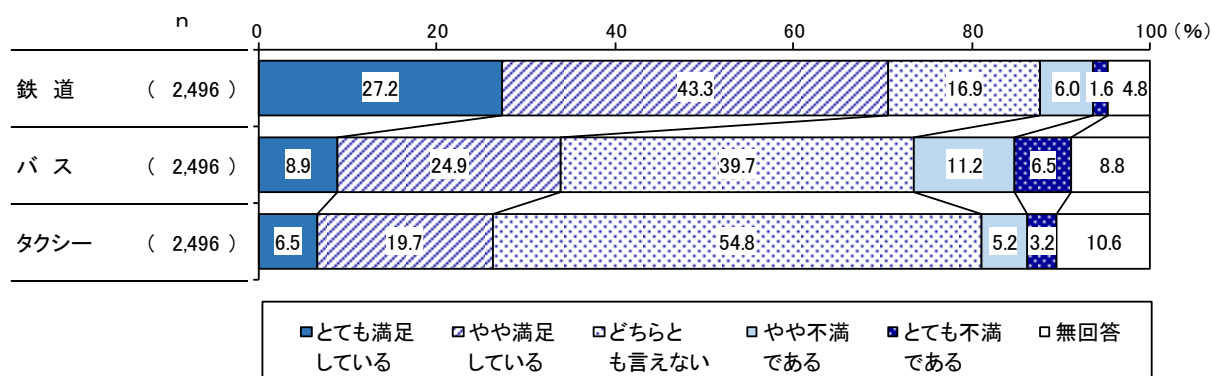


(2) 公共交通の満足度

◇ 『満足』は、鉄道が約7割、バスが3割強、タクシーが2割半ば

問34. あなたは、市内の公共交通にどの程度満足していますか。次の中から、鉄道、バス、タクシーそれぞれについて、1つ選んでください。

図表 11-2-1 公共交通の満足度



鉄道の満足度については、「とも満足している」(27.2%)と「やや満足している」(43.3%)を合わせた『満足』(70.5%)は約7割となっている。

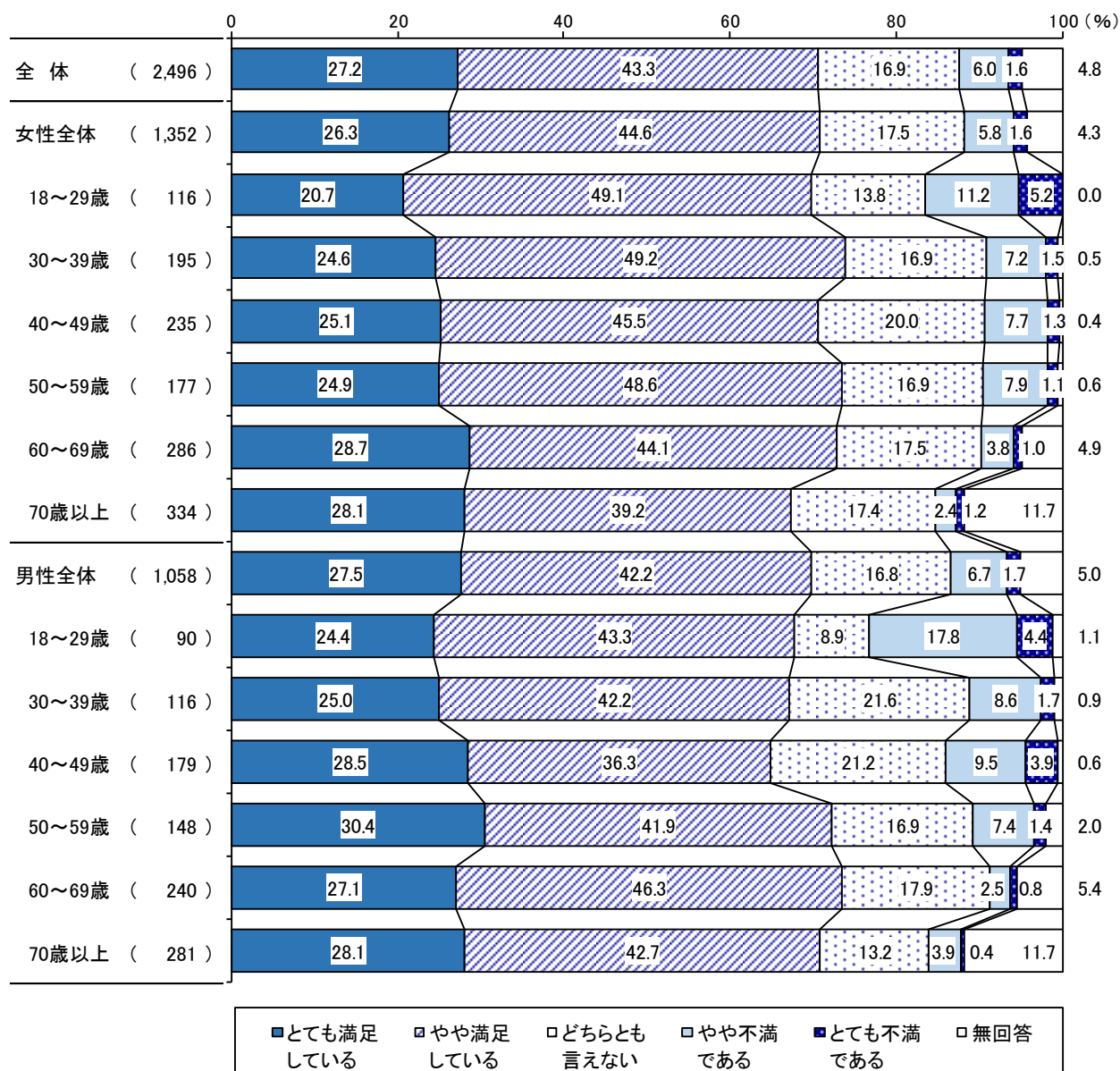
バスの満足度については、「とも満足している」(8.9%)と「やや満足している」(24.9%)を合わせた『満足』(33.8%)は3割強となっている。

タクシーの満足度については、「とも満足している」(6.5%)と「やや満足している」(19.7%)を合わせた『満足』(26.2%)は2割半ばとなっている。

鉄道の満足度について性別で見ると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別で見ると、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』は男性 18～29歳（22.2%）と多くなっている。

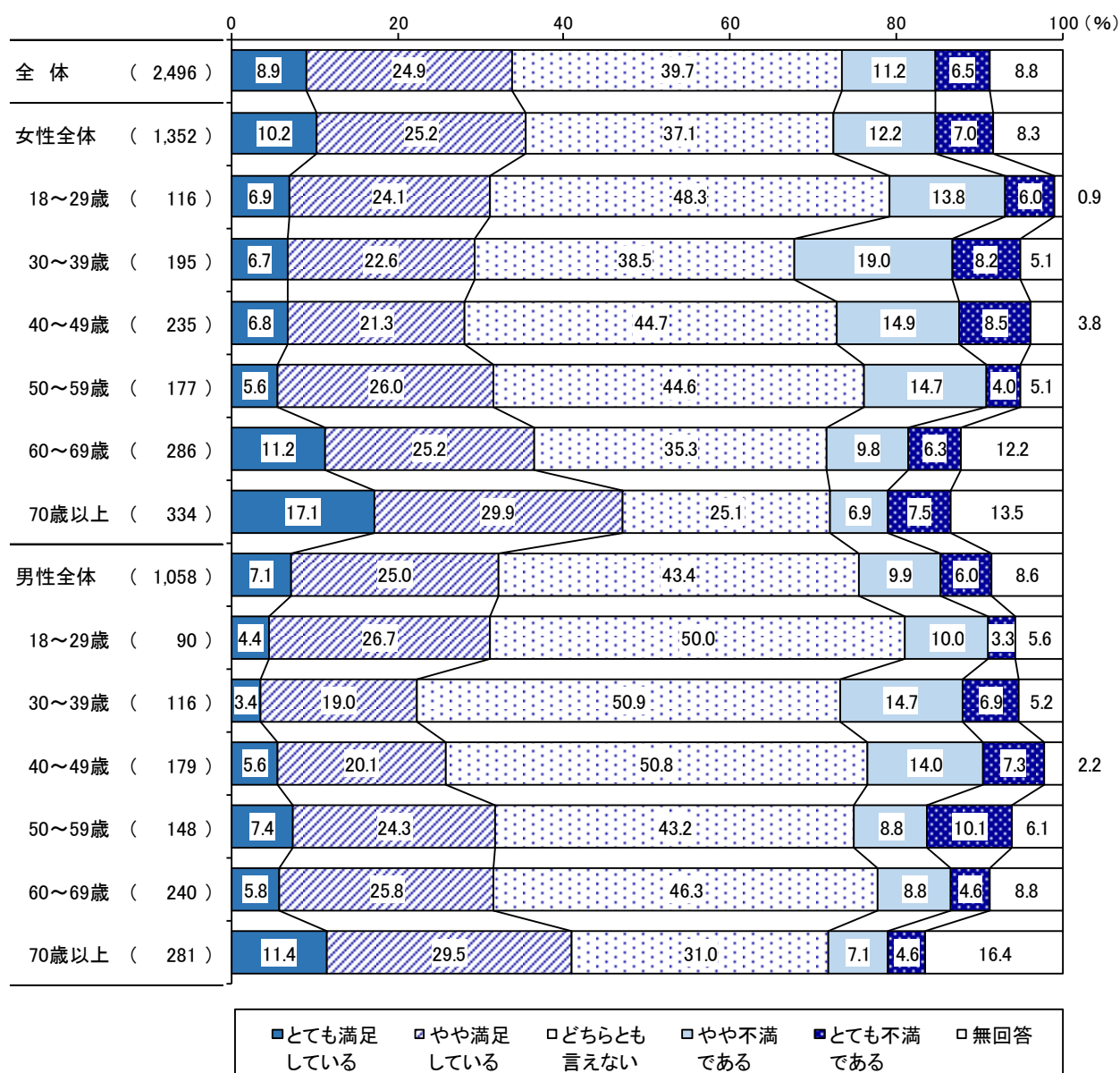
図表 11-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度（鉄道）



バスの満足度について性別で見ると、『満足』は女性（35.4%）が男性（32.1%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は女性70歳以上（47.0%）、男性70歳以上（40.9%）で4割以上と多くなっている。一方、『不満』は女性30～39歳（27.2%）で3割弱と多くなっている。

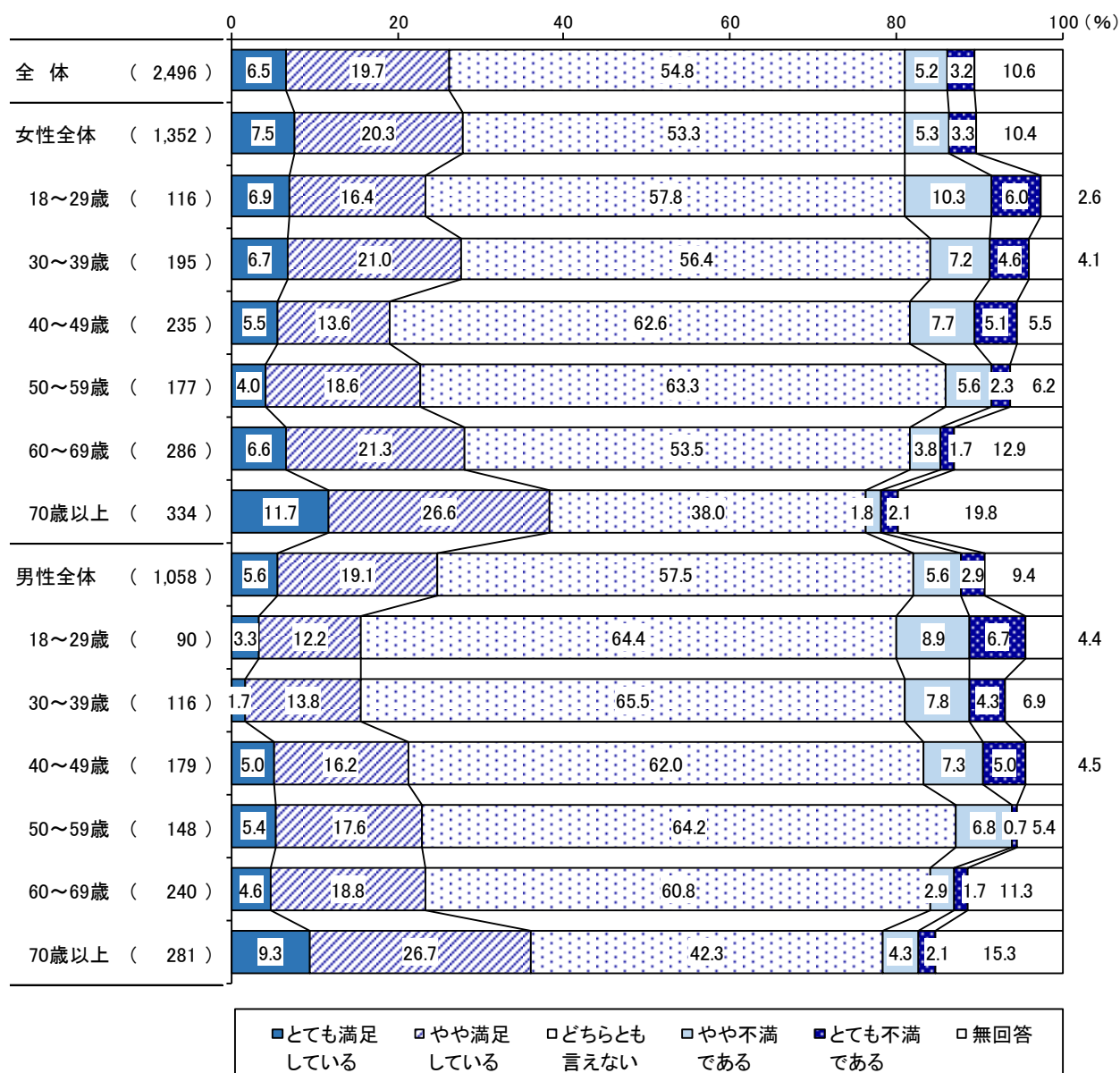
図表 11-2-3 性・年齢別 公共交通の満足度（バス）



タクシーの満足度について性別でみると、『満足』は女性（27.8%）が男性（24.7%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『満足』は女性70歳以上（38.3%）、男性70歳以上（36.0%）で3割以上と多くなっている。一方、『不満』は女性18～29歳（16.3%）、男性18～29歳（15.6%）で1割半ばと多くなっている。

図表 11-2-4 性・年齢別 公共交通の満足度（タクシー）



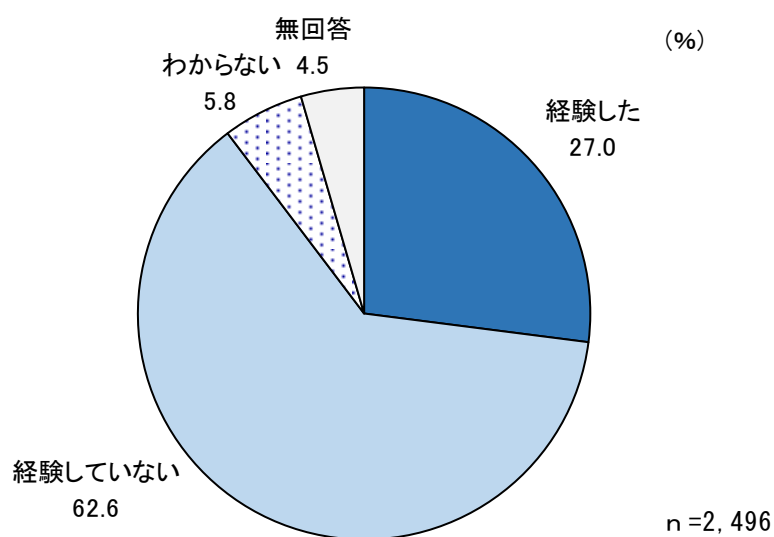
12. 生涯学習活動について

(1) 生涯学習活動の経験有無

◇「経験した」が3割弱

問35. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問35-2に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。次の中から1つ選んでください。

図表 12-1-1 生涯学習活動の経験有無

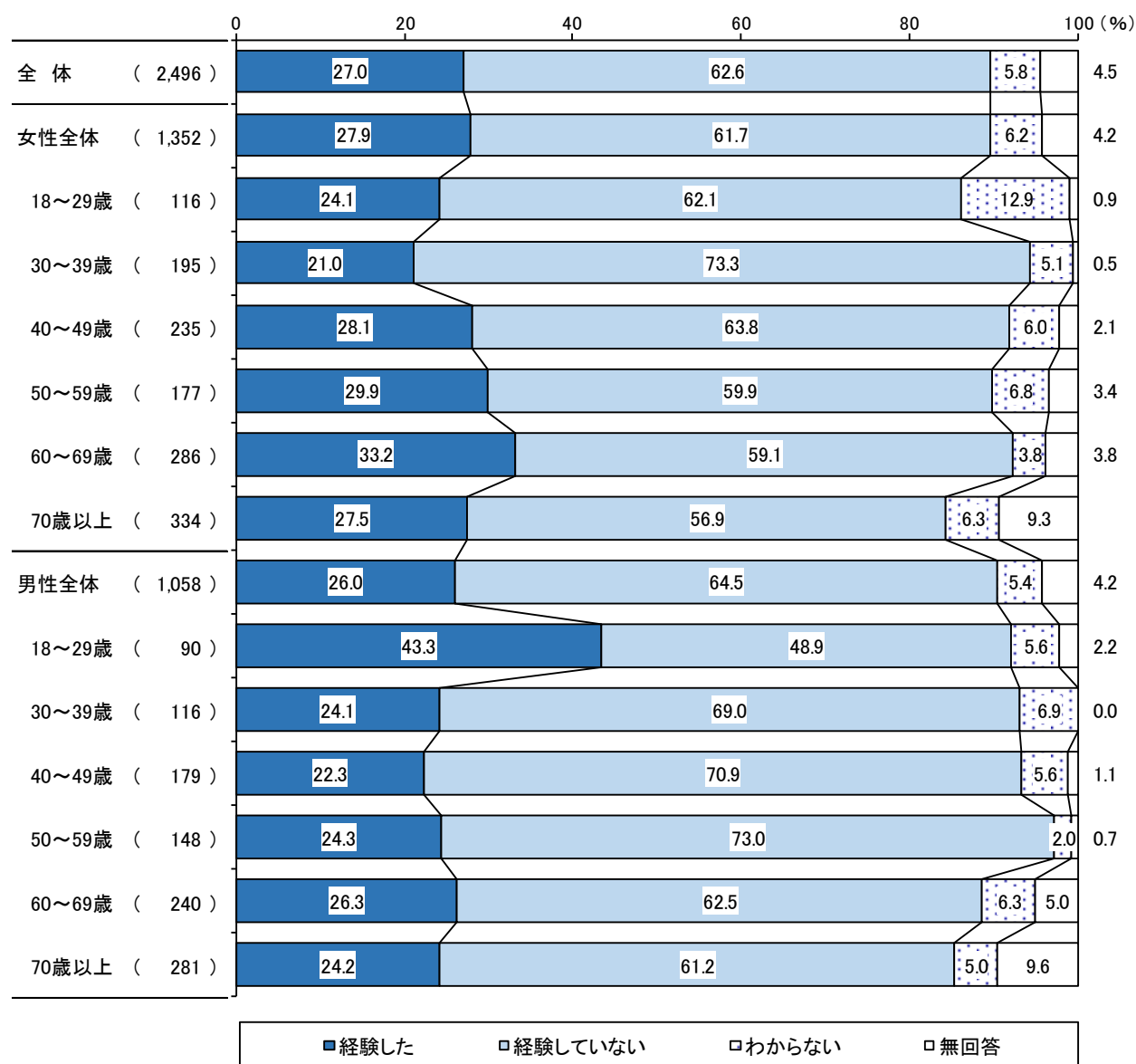


この1年くらいの間に生涯学習活動を経験したかについては、「経験した」(27.0%)が3割弱となっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「経験した」は男性18～29歳(43.3%)で4割強と最も多く、女性60～69歳(33.2%)で3割強と多くなっている。一方、「経験していない」は女性30～39歳(73.3%)、男性40～49歳(70.9%)、男性50～59歳(73.0%)で7割以上と多くなっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 生涯学習活動の経験有無

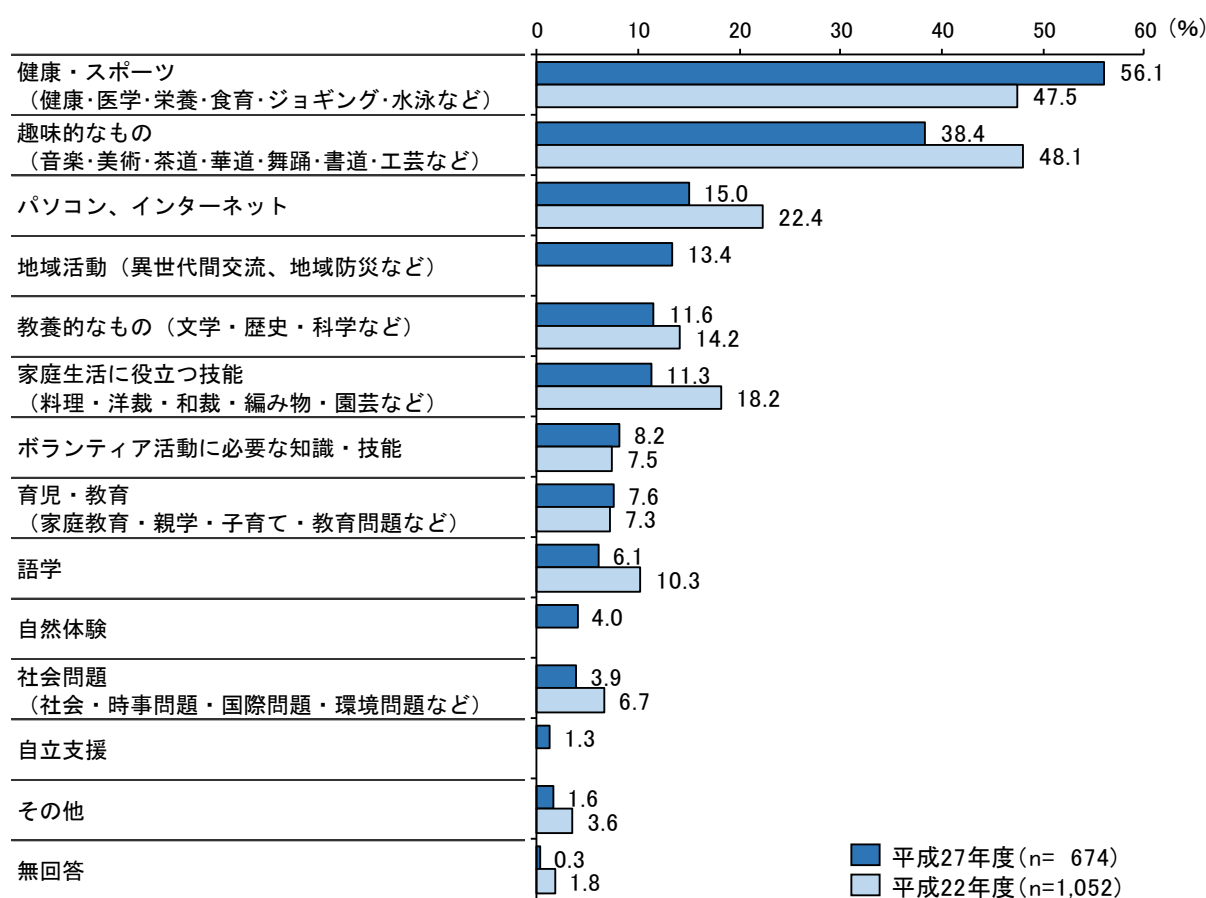


(2) 経験した生涯学習活動

◇「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が5割半ば

問35-2. 問35で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたが経験した生涯学習活動について、次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 12-2-1 経験した生涯学習活動



※ 平成22年度は「地域活動 (異世代間交流、地域防災など)」「自然体験」「自立支援」の選択肢なし

この1年くらいの間に生涯学習活動を「経験した」と回答した674人に、経験した生涯学習活動を聞いたところ、「健康・スポーツ (健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など)」(56.1%)が最も多くなっている。次いで、「趣味的なもの (音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など)」(38.4%)、「パソコン、インターネット」(15.0%)、「地域活動 (異世代間交流、地域防災など)」(13.4%)、「教養的なもの (文学・歴史・科学など)」(11.6%)の順となっている。また、「その他」として「シルバー大学」「詩吟」「着付け」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「健康・スポーツ (健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など)」は平成22年度調査(47.5%)と比べ8.6ポイント増加している。

性別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男性（66.9%）が女性（48.8%）より18.1ポイント高くなっている。また、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性（45.6%）が男性（29.5%）より16.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男性18～29歳（69.2%）、男性40～49歳（70.0%）、男性50～59歳（69.4%）で約7割となっている。また、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性18～29歳（57.1%）、女性70歳以上（54.3%）で5割以上、「育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）」は女性30～39歳（36.6%）で3割半ばと多くなっている。

図表 12-2-2 性・年齢別 経験した生涯学習活動

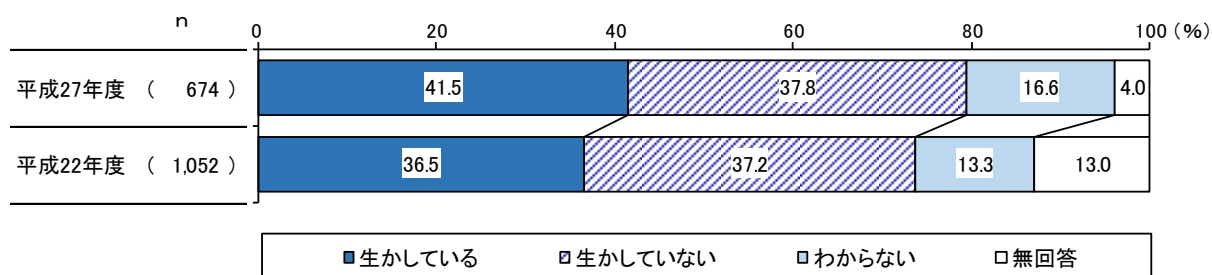
	調査数（人）	道・舞踊・書道・工芸など	健康的なもの（音楽・美術・茶道・華道・ジョギング・水泳など）	健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）	家庭生活上役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	パソコン、インターネット	教育的なもの（文学・歴史・科学など）	語学	ボランティア活動に必要な知識・技能	育児・教育問題（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）	社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）	地域活動（異世代間交流、地域防災など）	自然体験	自立支援	その他	無回答
全体	674	38.4	56.1	11.3	15.0	11.6	6.1	8.2	7.6	3.9	13.4	4.0	1.3	1.6	0.3	
女性全体	377	45.6	48.8	15.1	11.1	7.7	5.3	8.5	10.6	3.2	12.7	3.2	1.6	1.3	0.5	
18～29歳	28	57.1	39.3	14.3	17.9	21.4	10.7	10.7	17.9	7.1	7.1	3.6	-	-	-	
30～39歳	41	31.7	46.3	19.5	24.4	2.4	7.3	2.4	36.6	-	2.4	4.9	2.4	-	-	
40～49歳	66	31.8	56.1	15.2	10.6	9.1	6.1	6.1	24.2	4.5	18.2	3.0	-	-	-	
50～59歳	53	49.1	39.6	13.2	5.7	3.8	5.7	3.8	7.5	1.9	17.0	-	1.9	1.9	1.9	
60～69歳	95	46.3	49.5	13.7	11.6	4.2	5.3	11.6	-	1.1	11.6	3.2	1.1	1.1	-	
70歳以上	92	54.3	51.1	16.3	5.4	9.8	2.2	10.9	-	5.4	14.1	3.3	3.3	3.3	1.1	
男性全体	275	29.5	66.9	6.2	20.0	17.1	7.3	8.4	4.0	4.7	14.9	5.5	0.4	1.8	-	
18～29歳	39	41.0	69.2	7.7	25.6	10.3	15.4	10.3	5.1	2.6	10.3	5.1	-	-	-	
30～39歳	28	25.0	67.9	7.1	32.1	14.3	10.7	7.1	10.7	7.1	14.3	7.1	-	-	-	
40～49歳	40	20.0	70.0	15.0	25.0	12.5	7.5	2.5	10.0	5.0	10.0	7.5	-	2.5	-	
50～59歳	36	19.4	69.4	-	11.1	13.9	2.8	5.6	5.6	2.8	19.4	2.8	-	2.8	-	
60～69歳	63	34.9	63.5	6.3	19.0	17.5	3.2	11.1	-	1.6	15.9	1.6	1.6	1.6	-	
70歳以上	68	30.9	64.7	2.9	14.7	26.5	7.4	10.3	-	8.8	17.6	7.4	-	2.9	-	

(3) 経験した生涯学習活動を生かしているか

◇「生かしている」が約4割

問35-3. 同じく問35で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の間35-4に例示するような活動に生かしていますか。次の中から1つ選んでください。

図表 12-3-1 経験した生涯学習活動を生かしているか



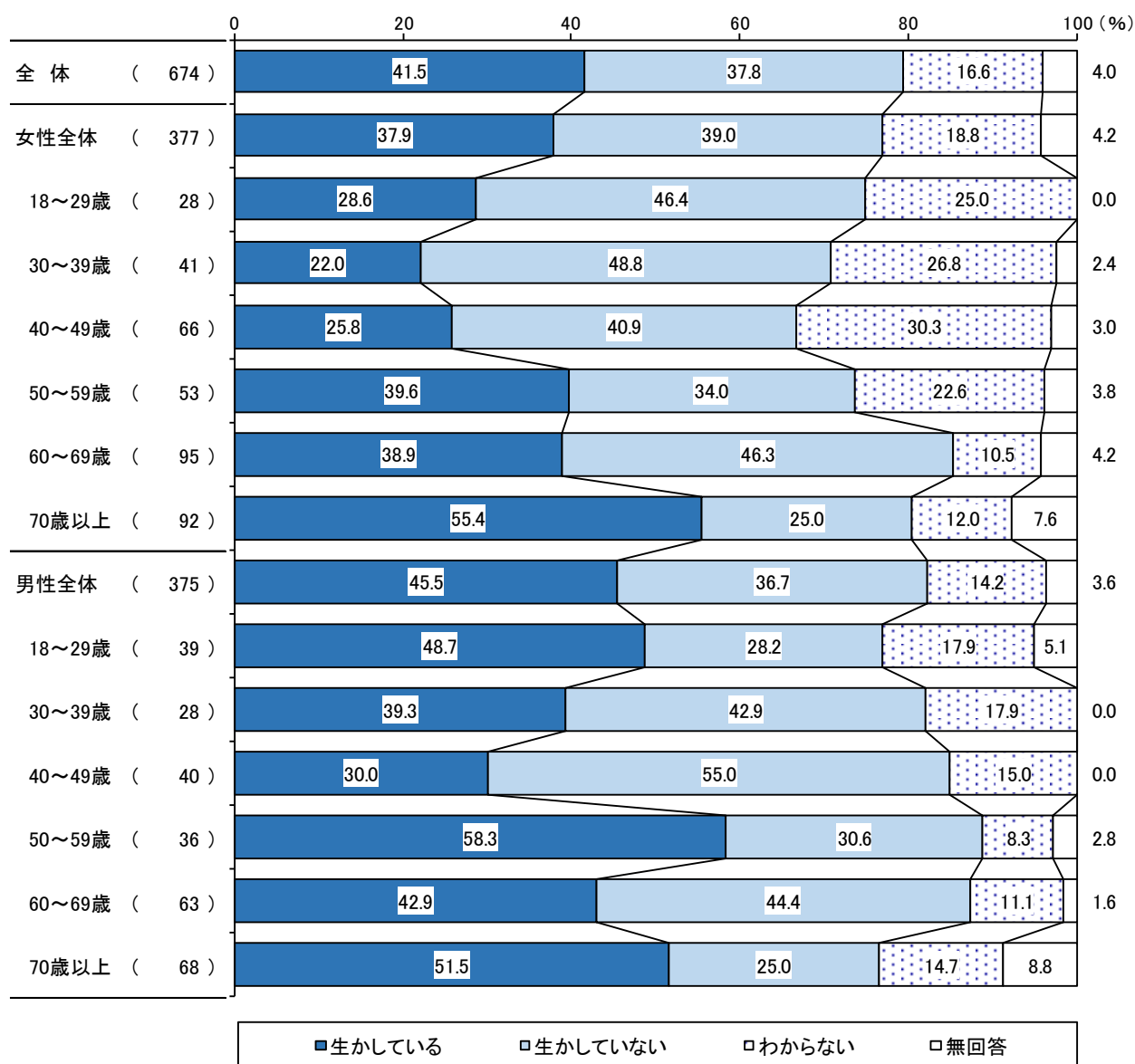
この1年くらいの間に生涯学習活動を「経験した」と回答した674人に、学んだ知識、経験、技能を生かしているかについては、「生かしている」(41.5%)が約4割となっている。

前回の調査と比較すると、「生かしている」は平成22年度調査(36.5%)と比べ5.0ポイント増加している。

性別でみると、「生かしている」は男性（45.5%）が女性（37.9%）より7.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「生かしている」は女性70歳以上（55.4%）、男性50～59歳（58.3%）、男性70歳以上（51.5%）で5割以上と多くなっている。一方、「生かしていない」は男性40～49歳（55.0%）で5割半ばと多くなっている。

図表 12-3-2 性・年齢別 経験した生涯学習活動を生かしているか

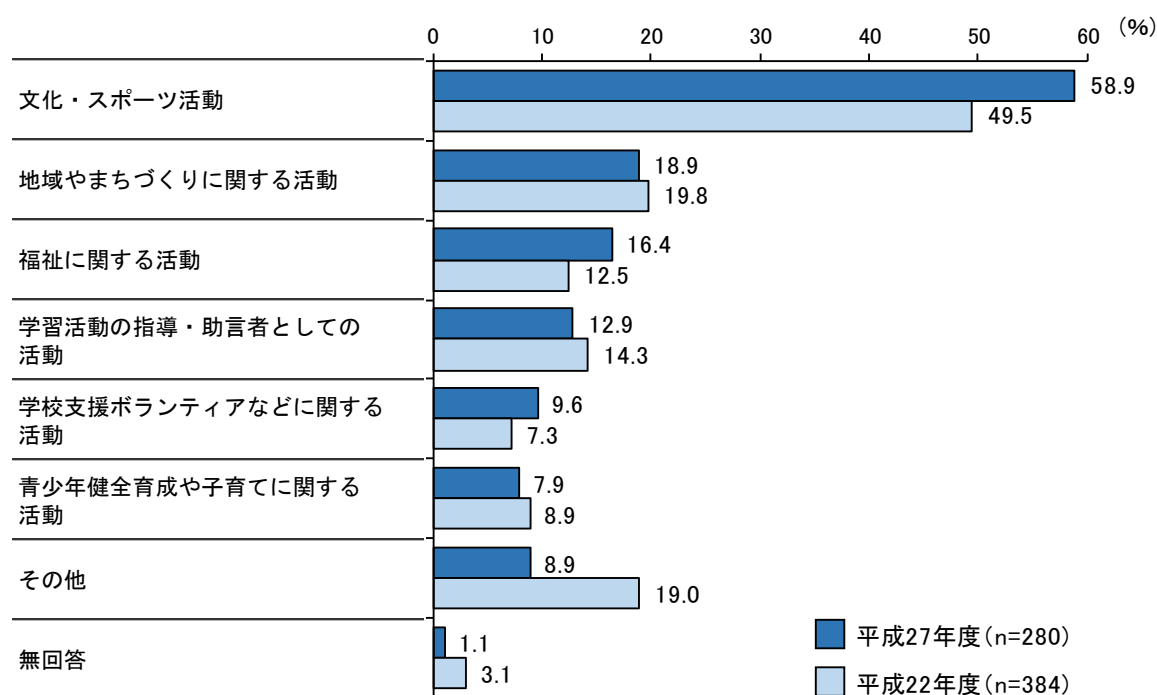


(4) 経験した生涯学習活動を生かしている分野

◇「文化・スポーツ活動」が6割弱

問35-4. 問35-3で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか（生かしましたか）。次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

図表 12-4-1 経験した生涯学習活動を生かしている分野



生涯学習活動で学んだ知識、経験、技能を「生かしている」と回答した280人に、どの分野で生かしているか聞いたところ、「文化・スポーツ活動」(58.9%)が最も多くなっている。次いで、「地域やまちづくりに関する活動」(18.9%)、「福祉に関する活動」(16.4%)、「学習活動の指導・助言者としての活動」(12.9%)、「学校支援ボランティアなどに関する活動」(9.6%)の順となっている。また、「その他」として「仕事」「介護」「健康、栄養」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「文化・スポーツ活動」は平成22年度調査(49.5%)と比べ9.4ポイント増加している。

性別でみると、「文化・スポーツ活動」は男性（68.8%）が女性（49.7%）より19.1ポイント、「地域やまちづくりに関する活動」でも男性（23.2%）が女性（14.7%）より8.5ポイント高くなっている。一方、「福祉に関する活動」は女性（21.0%）が男性（12.0%）より9.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「文化・スポーツ活動」は男性40～49歳（91.7%）で約9割と多く、男性70歳以上（77.1%）でも8割弱と多くなっている。また、「青少年健全育成や子育てに関する活動」では女性30～39歳（55.6%）が5割半ば、「地域やまちづくりに関する活動」では男性70歳以上（37.1%）が4割弱と多くなっている。

図表 12-4-2 性・年齢別 経験した生涯学習活動を生かしている分野

	調査数（人）	文化・スポーツ活動	地域やまちづくりに関する活動	学習活動の指導・助言者としての活動	福祉に関する活動	青少年健全育成や子育てに関する活動	学校支援ボランティアなどに関する活動	その他	無回答
全体	280	58.9	18.9	12.9	16.4	7.9	9.6	8.9	1.1
女性全体	143	49.7	14.7	12.6	21.0	8.4	10.5	10.5	0.7
18～29歳	8	50.0	-	25.0	12.5	-	12.5	12.5	-
30～39歳	9	33.3	-	22.2	11.1	55.6	-	11.1	-
40～49歳	17	35.3	17.6	-	23.5	35.3	35.3	11.8	-
50～59歳	21	61.9	33.3	9.5	9.5	-	4.8	9.5	-
60～69歳	37	54.1	8.1	13.5	18.9	2.7	8.1	10.8	-
70歳以上	51	49.0	15.7	13.7	29.4	-	7.8	9.8	2.0
男性全体	125	68.8	23.2	14.4	12.0	8.0	8.0	7.2	1.6
18～29歳	19	68.4	-	15.8	10.5	5.3	10.5	5.3	5.3
30～39歳	11	54.5	36.4	9.1	9.1	18.2	18.2	-	-
40～49歳	12	91.7	8.3	25.0	-	8.3	-	-	-
50～59歳	21	47.6	19.0	14.3	9.5	4.8	14.3	23.8	-
60～69歳	27	70.4	25.9	18.5	14.8	3.7	7.4	3.7	-
70歳以上	35	77.1	37.1	8.6	17.1	11.4	2.9	5.7	2.9

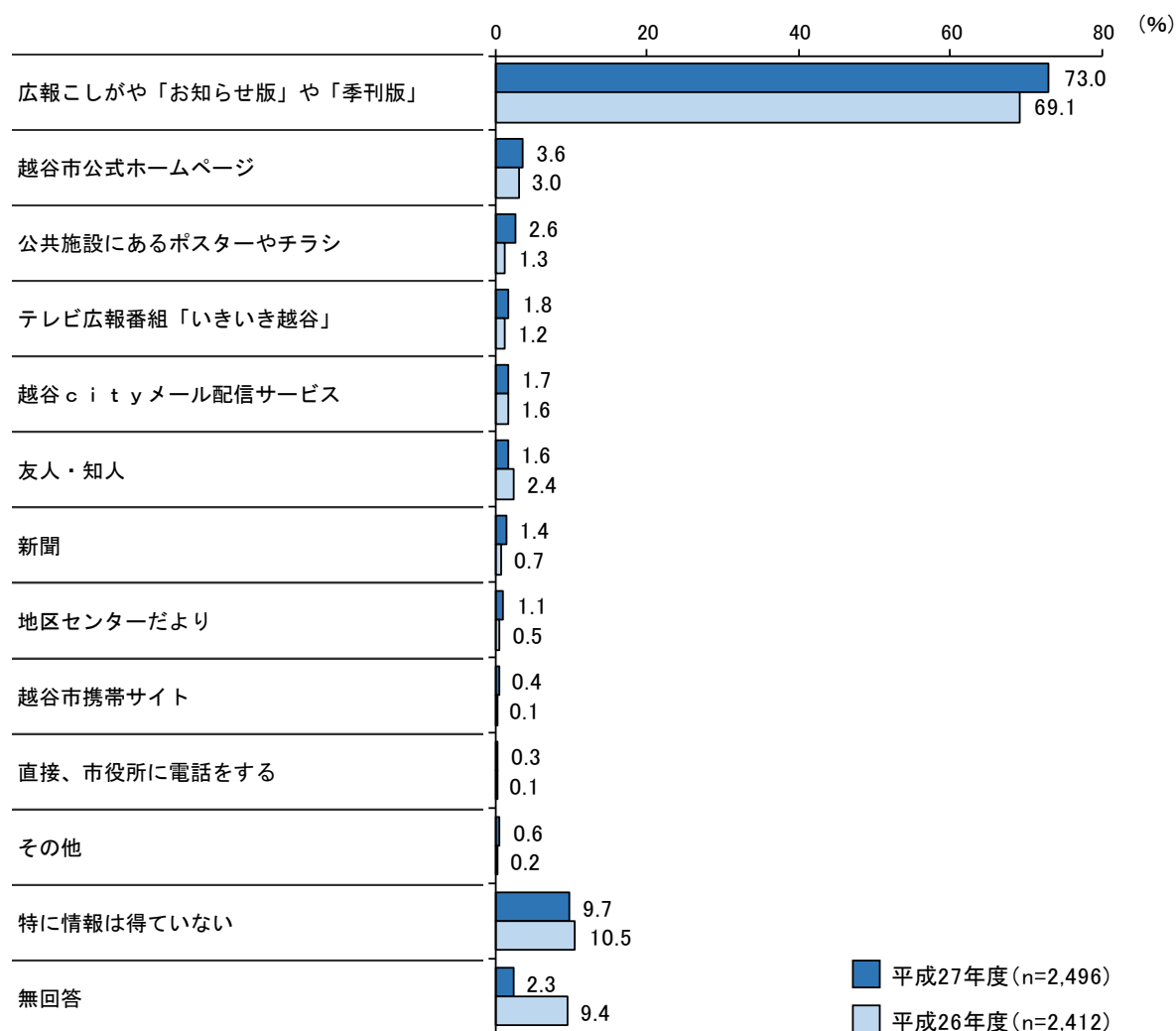
13. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割強

問36. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。次の中から1つ選んでください。

図表 13-1-1 市政情報を得ているもの



市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(73.0%)が最も多くなっている。次いで、「越谷市公式ホームページ」(3.6%)、「公共施設にあるポスターやチラシ」(2.6%)の順となっている。また、「その他」として「市議会報」「自治会」「職場」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は平成26年度調査(69.1%)と比べ3.9ポイント増加している。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（75.5%）が男性（69.7%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「特に情報は得ていない」は男性（12.2%）が女性（8.1%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性50～59歳（85.3%）、女性60～69歳（85.0%）、女性70歳以上（80.5%）、男性60～69歳（80.0%）、男性70歳以上（82.6%）で8割以上となっている。

図表 13-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

(%)

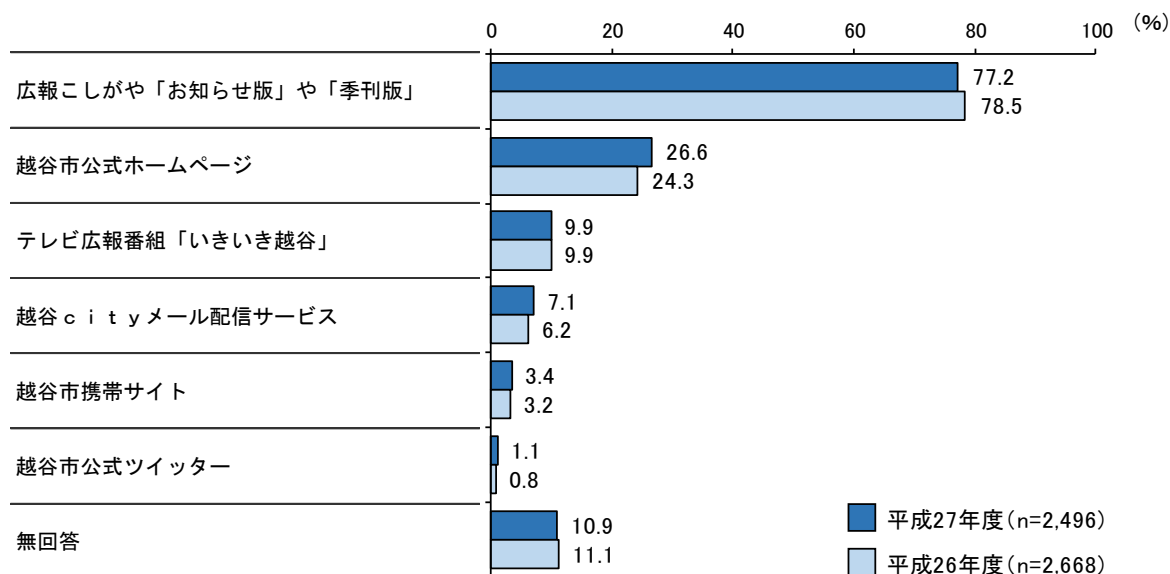
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	直接、市役所に電話をする	友人・知人	新聞	その他	特に情報は得ていない	無回答
全 体	2,496	73.0	1.8	3.6	0.4	1.7	1.1	2.6	0.3	1.6	1.4	0.6	9.7	2.3
女性全体	1,352	75.5	1.8	2.4	0.6	2.4	1.0	2.9	0.3	1.5	1.2	0.5	8.1	1.8
18～29歳	116	46.6	0.9	4.3	-	2.6	-	6.9	-	3.4	0.9	2.6	31.9	-
30～39歳	195	71.3	0.5	3.6	2.1	4.6	0.5	4.1	-	1.0	1.0	1.0	9.7	0.5
40～49歳	235	68.5	0.4	6.4	1.3	6.8	1.3	1.3	0.4	3.4	1.3	-	8.9	-
50～59歳	177	85.3	1.7	1.1	-	1.7	0.6	4.5	-	0.6	0.6	-	4.0	-
60～69歳	286	85.0	2.1	1.0	0.3	0.7	1.4	2.4	0.3	1.0	0.3	-	3.1	2.1
70歳以上	334	80.5	3.3	-	-	-	1.5	1.5	0.6	0.6	2.4	0.6	3.9	5.1
男性全体	1,058	69.7	1.9	5.5	0.1	0.8	1.2	2.2	0.3	1.6	1.5	0.7	12.2	2.5
18～29歳	90	24.4	4.4	16.7	-	-	-	5.6	1.1	3.3	2.2	2.2	38.9	1.1
30～39歳	116	50.9	1.7	10.3	-	2.6	-	3.4	-	1.7	0.9	0.9	27.6	-
40～49歳	179	67.6	1.7	7.3	-	1.7	1.7	2.2	-	2.2	0.6	1.7	12.8	0.6
50～59歳	148	73.0	0.7	5.4	0.7	0.7	1.4	2.0	-	1.4	1.4	-	12.8	0.7
60～69歳	240	80.0	2.9	3.3	-	0.4	2.1	1.3	-	1.7	0.8	-	5.0	2.5
70歳以上	281	82.6	1.1	0.7	-	-	0.7	1.4	0.7	0.7	2.8	0.4	2.8	6.0

(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が8割弱

問37. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。(複数回答可)

図表 13-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(77.2%)が最も多くなっている。次いで、「越谷市公式ホームページ」(26.6%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(9.9%)、「越谷cityメール配信サービス」(7.1%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「越谷市公式ホームページ」は平成26年度調査(24.3%)と比べ2.3ポイント増加している。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（79.3%）が男性（74.8%）より4.5ポイント高く、また「越谷cityメール配信サービス」でも女性（9.8%）が男性（3.9%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性50～59歳（87.0%）、女性60～69歳（86.7%）、男性60～69歳（85.8%）で8割半ばと多く、「越谷市公式ホームページ」は女性30～39歳（49.2%）、男性30～39歳（50.9%）で約5割、女性18～29歳（48.3%）、女性40～49歳（47.7%）で5割弱と多くなっている。

図表 13-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

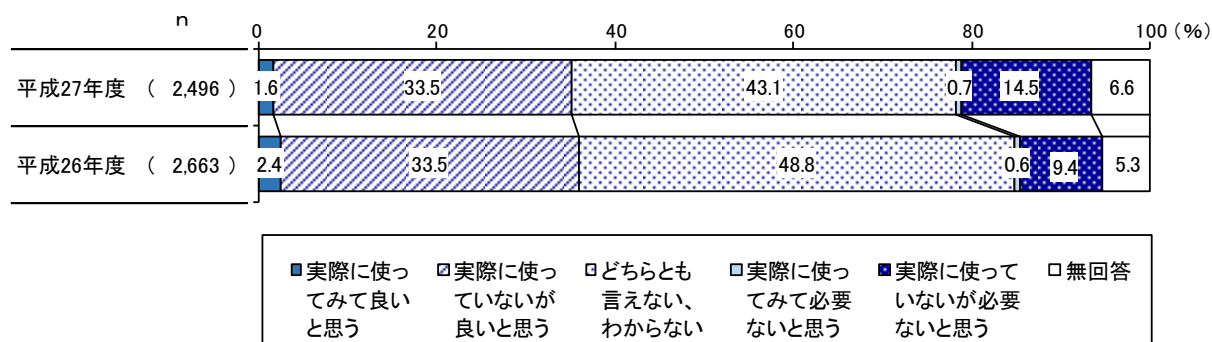
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	「テレビ広報番組『いきいき越谷』」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	越谷市公式ツイッター	無回答
全体	2,496	77.2	9.9	26.6	3.4	7.1	1.1	10.9
女性全体	1,352	79.3	10.4	26.1	4.4	9.8	1.0	10.0
18～29歳	116	52.6	7.8	48.3	6.0	3.4	5.2	15.5
30～39歳	195	77.4	8.7	49.2	15.9	21.0	1.5	7.2
40～49歳	235	77.0	7.2	47.7	6.8	26.0	1.7	3.8
50～59歳	177	87.0	8.5	26.0	2.3	9.0	-	6.2
60～69歳	286	86.7	14.3	9.4	0.7	2.1	-	9.1
70歳以上	334	81.4	11.7	3.9	-	0.6	-	16.5
男性全体	1,058	74.8	9.6	28.3	2.5	3.9	1.2	11.5
18～29歳	90	35.6	8.9	42.2	7.8	-	8.9	22.2
30～39歳	116	56.9	5.2	50.9	6.0	4.3	0.9	12.1
40～49歳	179	74.9	7.3	41.9	4.5	12.8	1.1	6.7
50～59歳	148	77.7	8.8	37.2	2.7	3.4	-	8.8
60～69歳	240	85.8	11.3	21.7	-	1.7	0.4	8.8
70歳以上	281	83.3	12.1	7.1	-	1.4	0.4	14.9

(3) 広報こしがやの「AR (拡張現実)」技術の感想

◇『良いと思う』が3割半ば

問38. 平成26年6月から、広報こしがや「お知らせ版」「季刊版」で、スマートフォンを広報紙の特定の記事にかざすと、関連動画が再生される「AR (拡張現実)」技術の試行を始めました。この試みに対する感想を、次の中から1つ選んでください。

図表 13-3-1 広報こしがやの「AR (拡張現実)」技術の感想



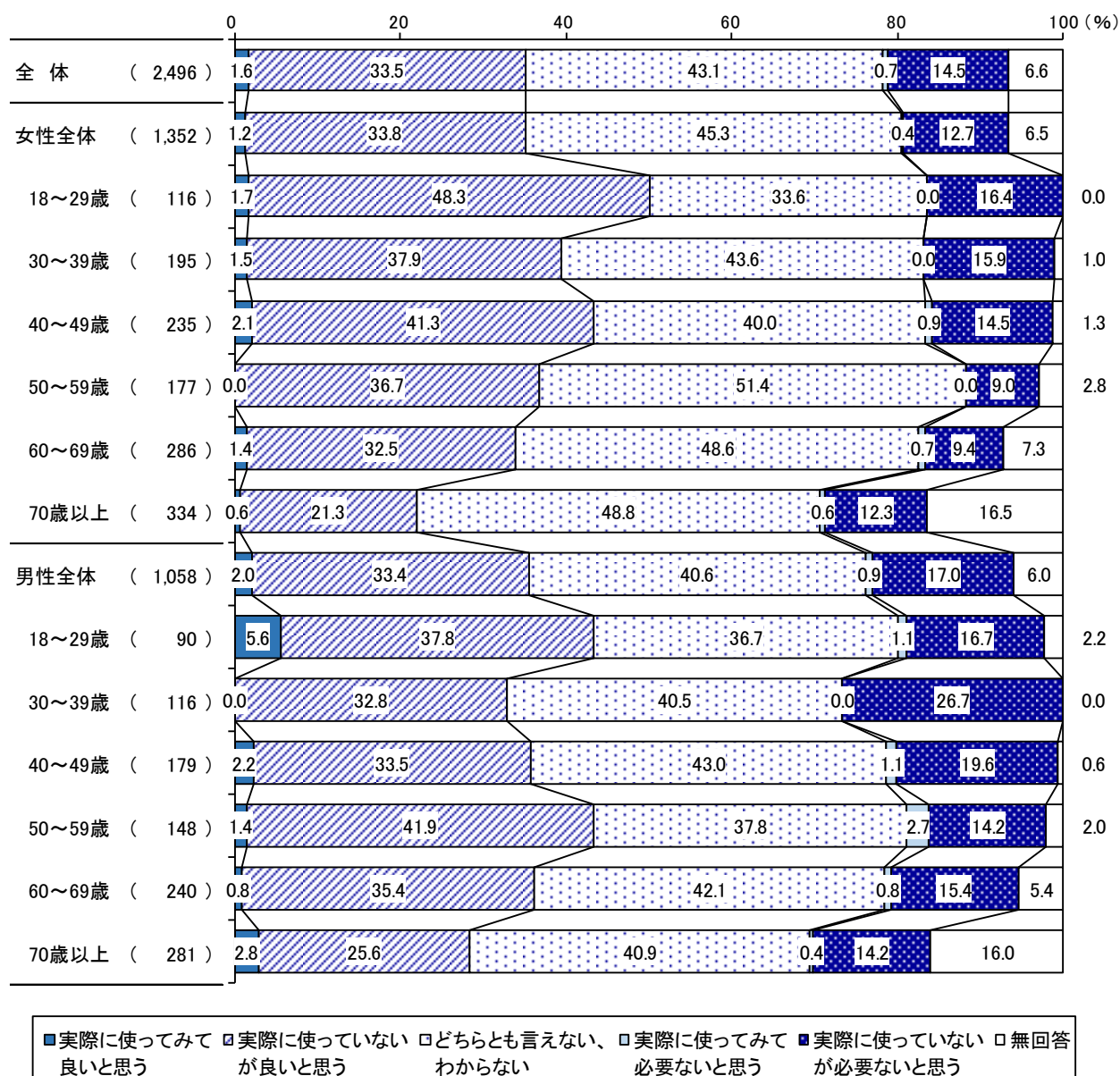
広報こしがやの「AR (拡張現実)」技術の感想については、「実際に使ってみて良いと思う」(1.6%)と「実際に使っていないが良いと思う」(33.5%)を合わせた『良いと思う』(35.1%)が3割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『良いと思う』は平成26年度調査(35.9%)と比べ0.8ポイント減少している。

性別でみると、『良いと思う』では女性（35.0%）・男性（35.4%）による差異はみられないが、「実際に使ってみて必要ないと思う」と「実際に使っていないが必要ないと思う」を合わせた『必要ないと思う』では男性（17.9%）が女性（13.1%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『良いと思う』は女性18～29歳（50.0%）で5割と最も多くなっている。一方、『必要ないと思う』は男性30～39歳（26.7%）で2割半ばと多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 広報こしがやの「AR（拡張現実）」技術の感想

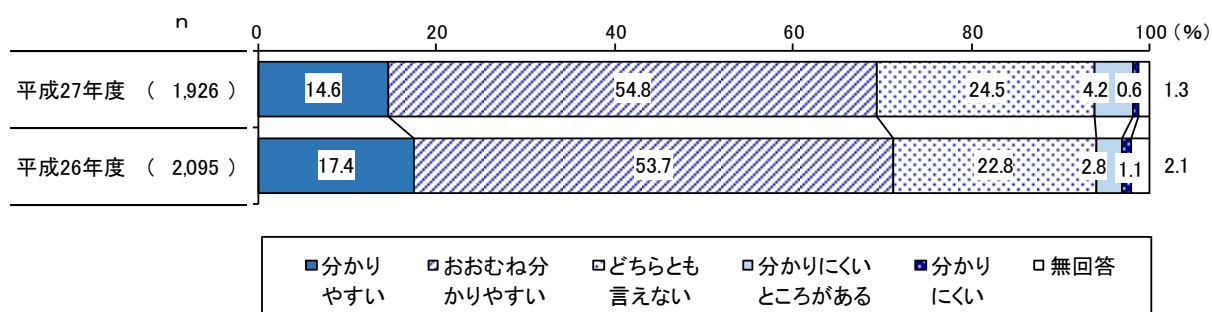


(4) 広報こしがや「お知らせ版」の感想

◇『分かりやすい』が約7割

問39. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を、次の中から1つ選んでください。

図表 13-4-1 広報こしがや「お知らせ版」の感想



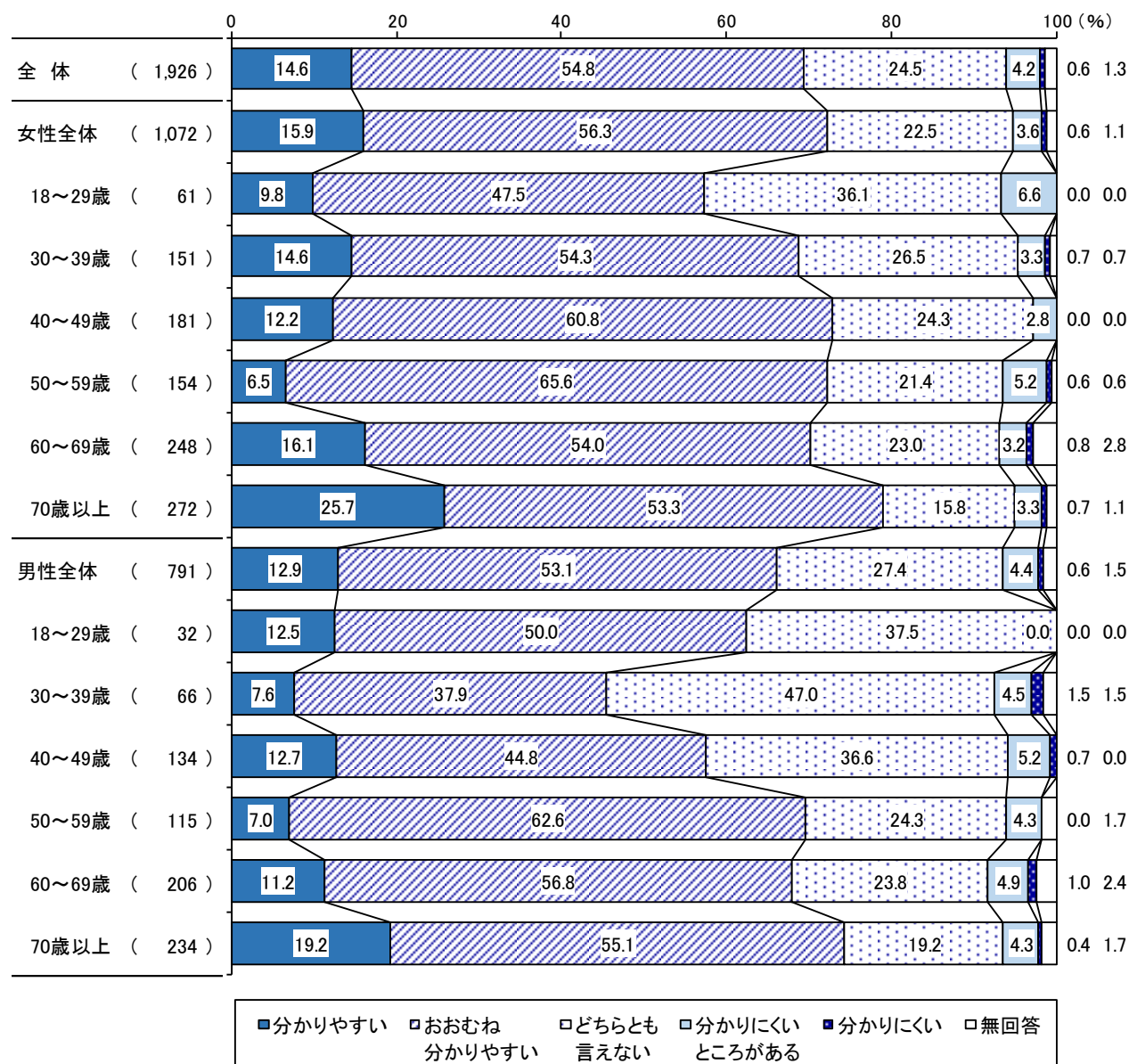
広報こしがや「お知らせ版」の感想については、「分かりやすい」(14.6%)と「おおむね分かりやすい」(54.8%)を合わせた『分かりやすい』(69.4%)が約7割となっている。

前回の調査と比較すると、『分かりやすい』は平成26年度調査(71.1%)と比べ1.7ポイント減少している。また、「分かりにくいところがある」(4.2%)と「分かりにくい」(0.6%)を合わせた『分かりにくい』(4.8%)でも、平成26年度調査(3.9%)と比べ0.9ポイント増加している。

性別でみると、『分かりやすい』は女性(72.2%)が男性(66.0%)より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『分かりやすい』は女性70歳以上(79.0%)で約8割と最も多くなっている。

図表 13-4-2 性・年齢別 広報こしがや「お知らせ版」の感想

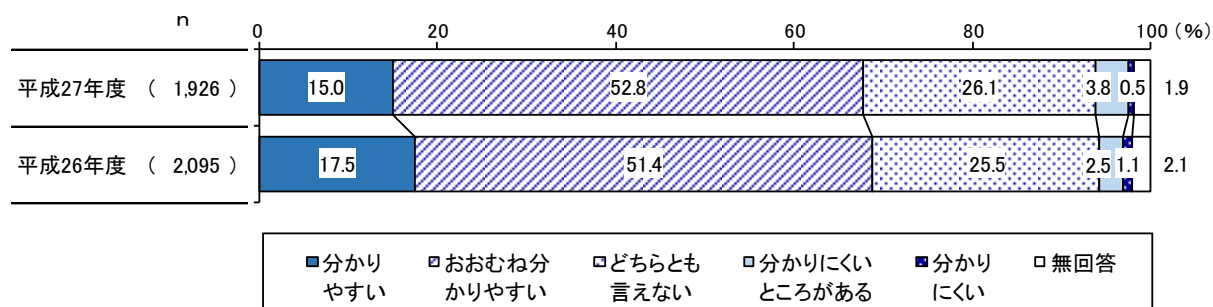


(5) 広報こしがや「季刊版」の感想

◇『分かりやすい』が7割弱

問40. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を、次の中から1つ選んでください。

図表 13-5-1 広報こしがや「季刊版」の感想



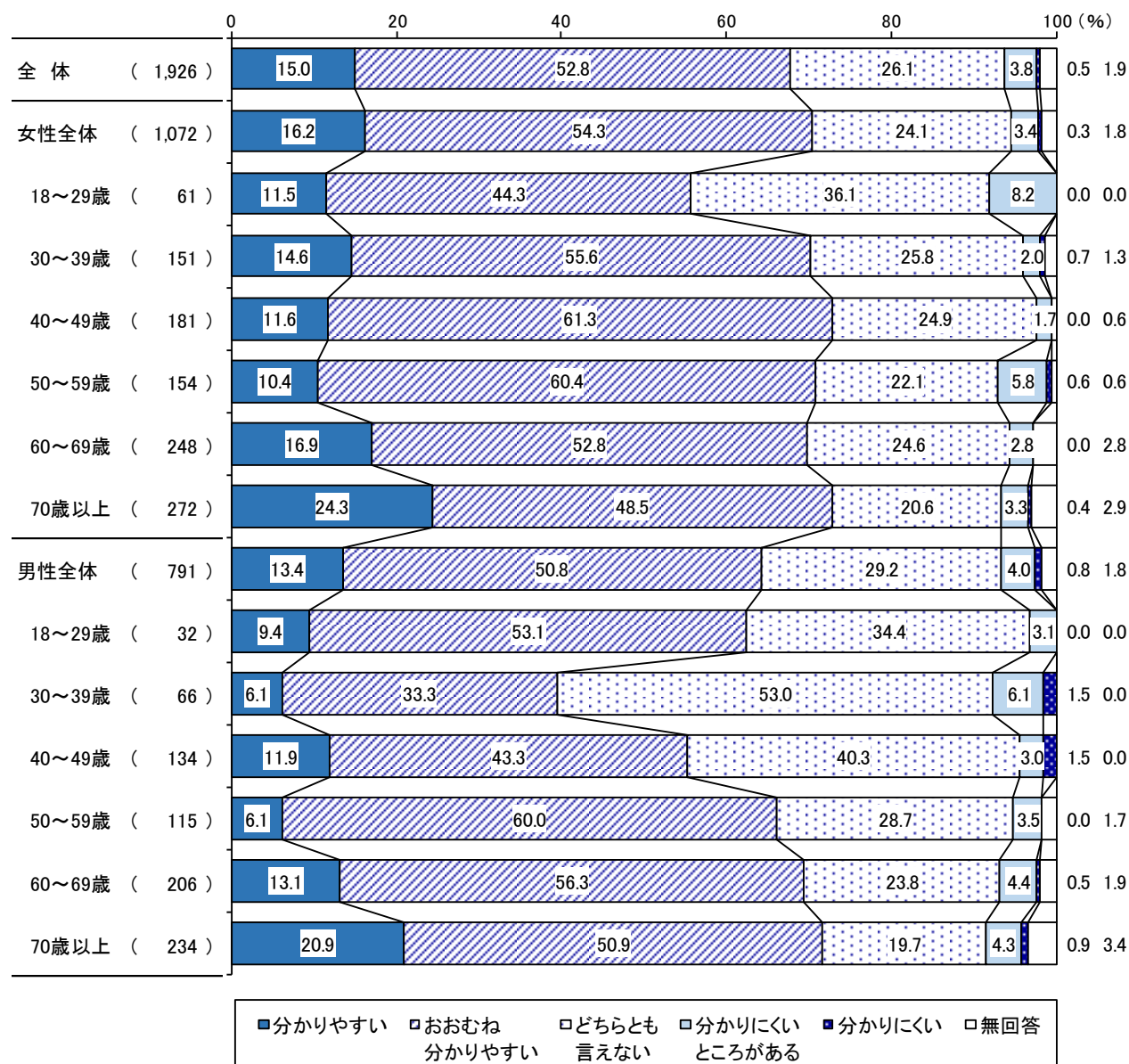
広報こしがや「季刊版」の感想については、「分かりやすい」(15.0%)と「おおむね分かりやすい」(52.8%)を合わせた『分かりやすい』(67.8%)が7割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『分かりやすい』は平成26年度調査(68.9%)と比べ1.1ポイント減少している。

性別でみると、『分かりやすい』は女性(70.5%)が男性(64.2%)より6.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『分かりやすい』は女性70歳以上(72.8%)で7割強と最も多くなっている。

図表 13-5-2 性・年齢別 広報こしがや「季刊版」の感想

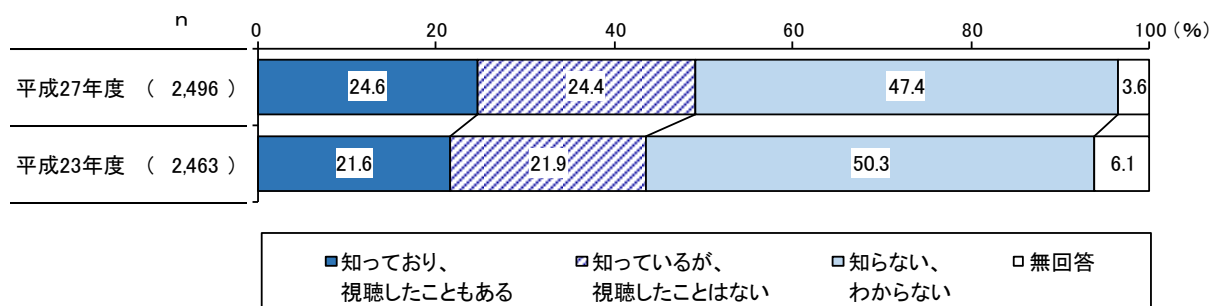


(6) テレビ広報番組「いきいき越谷」の視聴状況

◇「知っており、視聴したこともある」が2割半ば

問41. テレビ広報番組「いきいき越谷」について伺います。「いきいき越谷」を知っていますか。また、視聴したことがありますか。次の中から1つ選んでください。

図表 13-6-1 テレビ広報番組「いきいき越谷」の視聴状況



※平成23年度の視聴状況については、番組を「知っている」と答えた1,072名の回答結果（「毎月、視聴している(2.3%)」「時々、視聴している(47.2%)」「ほとんど視聴したことがない(42.0%)」「視聴したことがない(8.2%)」「不明(0.3%)」から算出した。

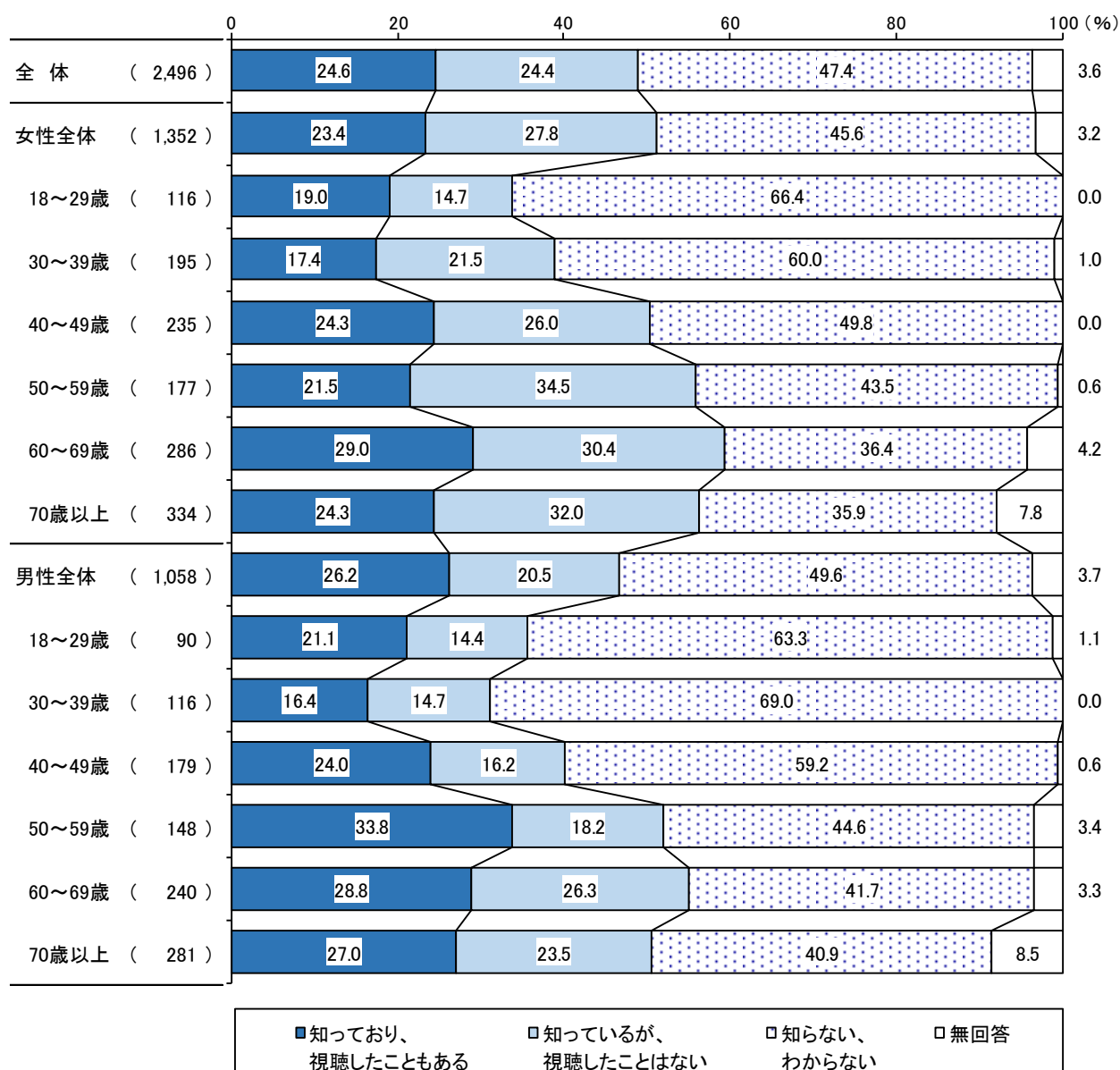
テレビ広報番組「いきいき越谷」の視聴状況については、「知っており、視聴したこともある」(24.6%)が2割半ばとなっている。また、「知っているが、視聴したことはない」(24.4%)を合わせた『知っている』(49.0%)は約5割となっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』は平成23年度調査(43.5%)と比べ5.5ポイント増加している。

性別で見ると、『知っている』は女性（51.2%）が男性（46.7%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「知っており、視聴したこともある」では男性（26.2%）が女性（23.4%）より2.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性60～69歳（59.4%）で約6割と最も多いが、「知っており、視聴したこともある」は男性50～59歳（33.8%）で3割強と最も多くなっている。

図表 13-6-2 性・年齢別 テレビ広報番組「いきいき越谷」の視聴状況

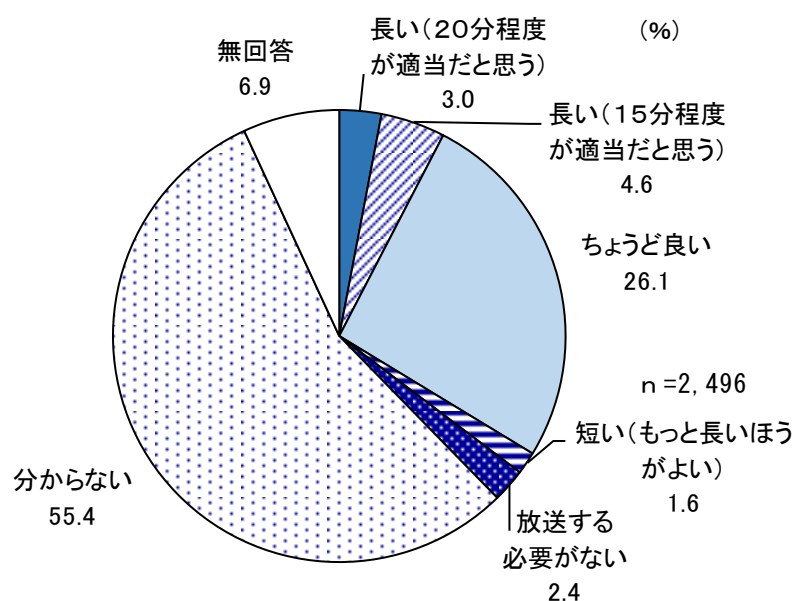


(7) テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間

◇「ちょうど良い」が2割半ば

問42. テレビ広報番組「いきいき越谷」について伺います。「いきいき越谷」の放映時間（30分）をどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

図表 13-7-1 テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間

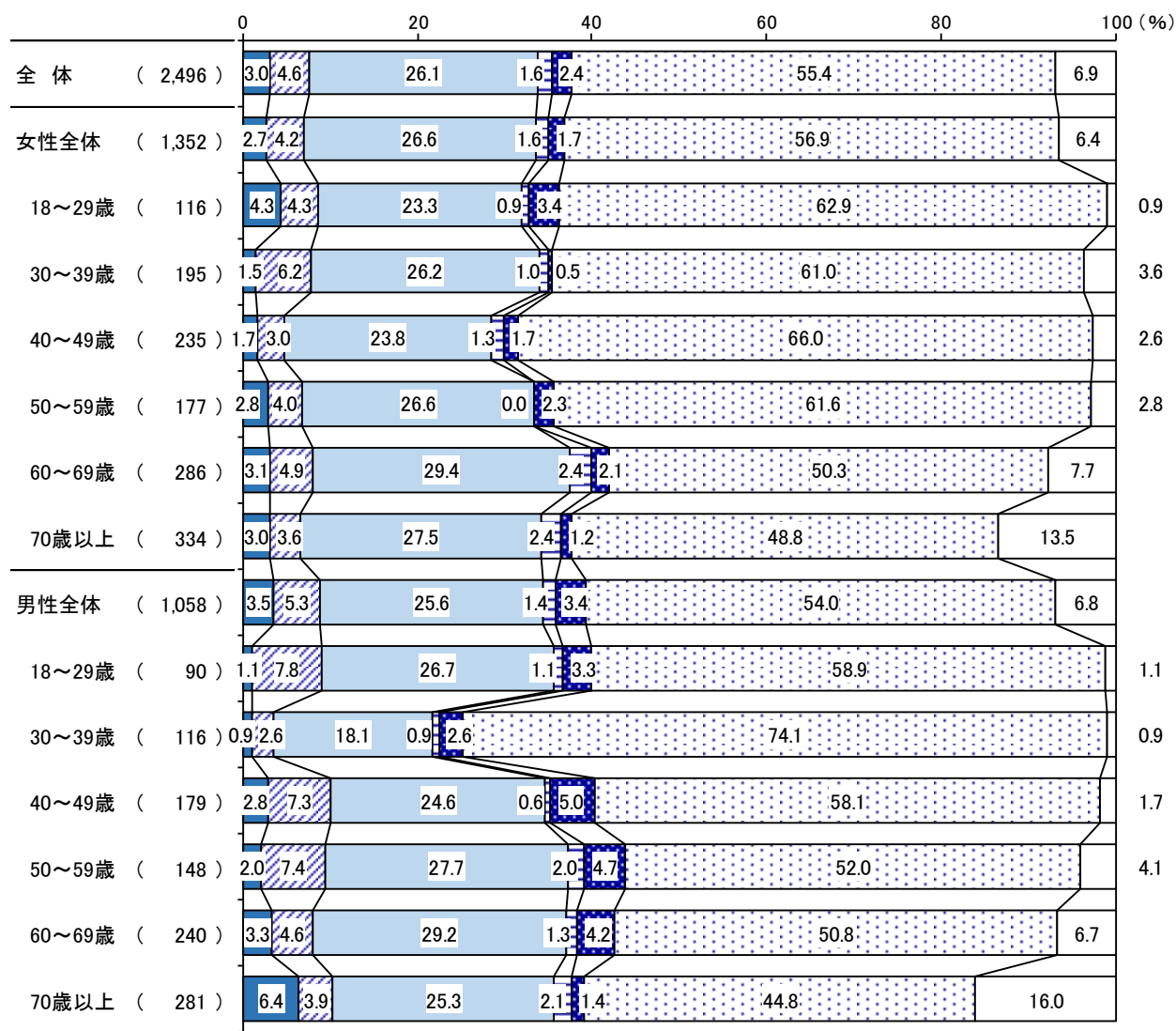


テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間については、「ちょうど良い」(26.1%)が2割半ばとなっている。

性別でみると、女性・男性による差異はみられない。

性・年齢別でみると、「分からない」は男性30～39歳（74.1%）で7割半ばと多くなっている。

図表 13-7-2 テレビ広報番組「いきいき越谷」の放映時間



■長い(20分程度が適当だと思う) □長い(15分程度が適当だと思う) □ちょうど良い □短い(もっと長いほうがよい) ■放送する必要がない □分からない □無回答

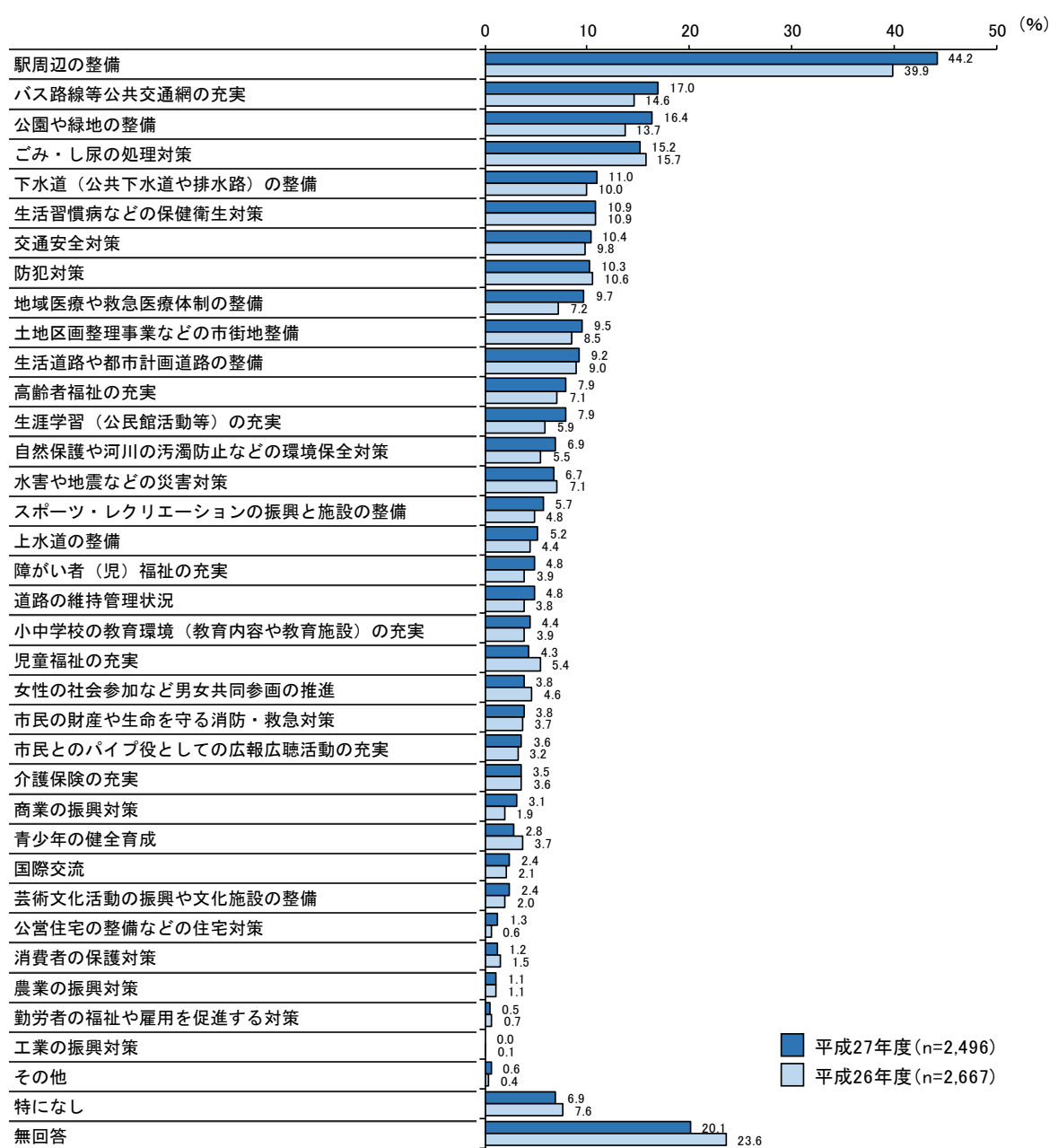
14. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が4割半ば

問43. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 14-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」については、「駅周辺の整備」(44.2%)が最も多くなっている。次いで、「バス路線等公共交通網の充実」(17.0%)、「公園や緑地の整備」(16.4%)、「ごみ・し尿の処理対策」(15.2%)、「下水道(公共下水道や排水路)の整備」(11.0%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「駅周辺の整備」は平成26年度調査(39.9%)と比べ4.3ポイント増加している。

性別でみると、1～4位の順位は女性・男性とも同じだが、5位は女性が「生活習慣病などの保健衛生対策」(12.4%)、男性が「交通安全対策」(12.4%)となっている。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」はすべての性・年齢で最も多く、特に女性30～39歳(55.9%)、女性50～59歳(52.0%)、男性18～29歳(54.4%)で5割以上と多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,496)	駅周辺の整備 44.2	バス路線等公共交通網の充実 17.0	公園や緑地の整備 16.4	ごみ・し尿の処理対策 15.2	下水道(公共下水道や排水路)の整備 11.0
女性全体 (1,352)	駅周辺の整備 43.9	バス路線等公共交通網の充実 17.5	公園や緑地の整備 16.6	ごみ・し尿の処理対策 14.8	生活習慣病などの保健衛生対策 12.4
18～29歳 (116)	駅周辺の整備 43.1	公園や緑地の整備 18.1	交通安全対策 14.7	バス路線等公共交通網の充実 12.9	生活道路や都市計画道路の整備 9.5
30～39歳 (195)	駅周辺の整備 55.9	公園や緑地の整備 16.4	土地区画整理事業などの市街地 生活道路や都市計画道路の整備 11.3	地域医療や救急医療体制の整備 10.8	
40～49歳 (235)	駅周辺の整備 49.8	公園や緑地の整備 14.9	バス路線等公共交通網の充実 13.2	土地区画整理事業などの市街地 生涯学習(公民館活動等)の充実 9.8	
50～59歳 (177)	駅周辺の整備 52.0	バス路線等公共交通網の充実 24.3	公園や緑地の整備 20.9	ごみ・し尿の処理対策 16.4	土地区画整理事業などの市街地 整備 14.1
60～69歳 (286)	駅周辺の整備 40.6	生活習慣病などの保健衛生対策 ごみ・し尿の処理対策 19.9	バス路線等公共交通網の充実 19.9	バス路線等公共交通網の充実 19.6	公園や緑地の整備 17.8
70歳以上 (334)	駅周辺の整備 31.7	ごみ・し尿の処理対策 21.9	バス路線等公共交通網の充実 21.6	生活習慣病などの保健衛生対策 15.6	下水道(公共下水道や排水路)の整備 15.0
男性全体 (1,058)	駅周辺の整備 45.9	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備 16.4	ごみ・し尿の処理対策 16.0	交通安全対策 12.4	
18～29歳 (90)	駅周辺の整備 54.4	交通安全対策 23.3	バス路線等公共交通網の充実 20.0	生活道路や都市計画道路の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 15.6	
30～39歳 (116)	駅周辺の整備 49.1	公園や緑地の整備 18.1	土地区画整理事業などの市街地 整備 13.8	交通安全対策 12.9	バス路線等公共交通網の充実 下水道(公共下水道や排水路)の整備 ごみ・し尿の処理対策 10.3
40～49歳 (179)	駅周辺の整備 48.6	公園や緑地の整備 19.6	土地区画整理事業などの市街地 整備 15.1	生活道路や都市計画道路の整備 14.5	バス路線等公共交通網の充実 14.0
50～59歳 (148)	駅周辺の整備 42.6	バス路線等公共交通網の充実 17.6	公園や緑地の整備 12.2	下水道(公共下水道や排水路)の整備 11.5	地域医療や救急医療体制の整備 10.8
60～69歳 (240)	駅周辺の整備 49.6	公園や緑地の整備 19.2	ごみ・し尿の処理対策 18.8	バス路線等公共交通網の充実 17.9	下水道(公共下水道や排水路)の整備 14.2
70歳以上 (281)	駅周辺の整備 38.4	ごみ・し尿の処理対策 24.2	バス路線等公共交通網の充実 17.1	下水道(公共下水道や排水路)の整備 15.7	交通安全対策 14.6

居住地区別にみると、「駅周辺の整備」はすべての地区で最も多く、荻島地区（52.5%）、南越谷地区（50.9%）では5割を超えている。

図表 14-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

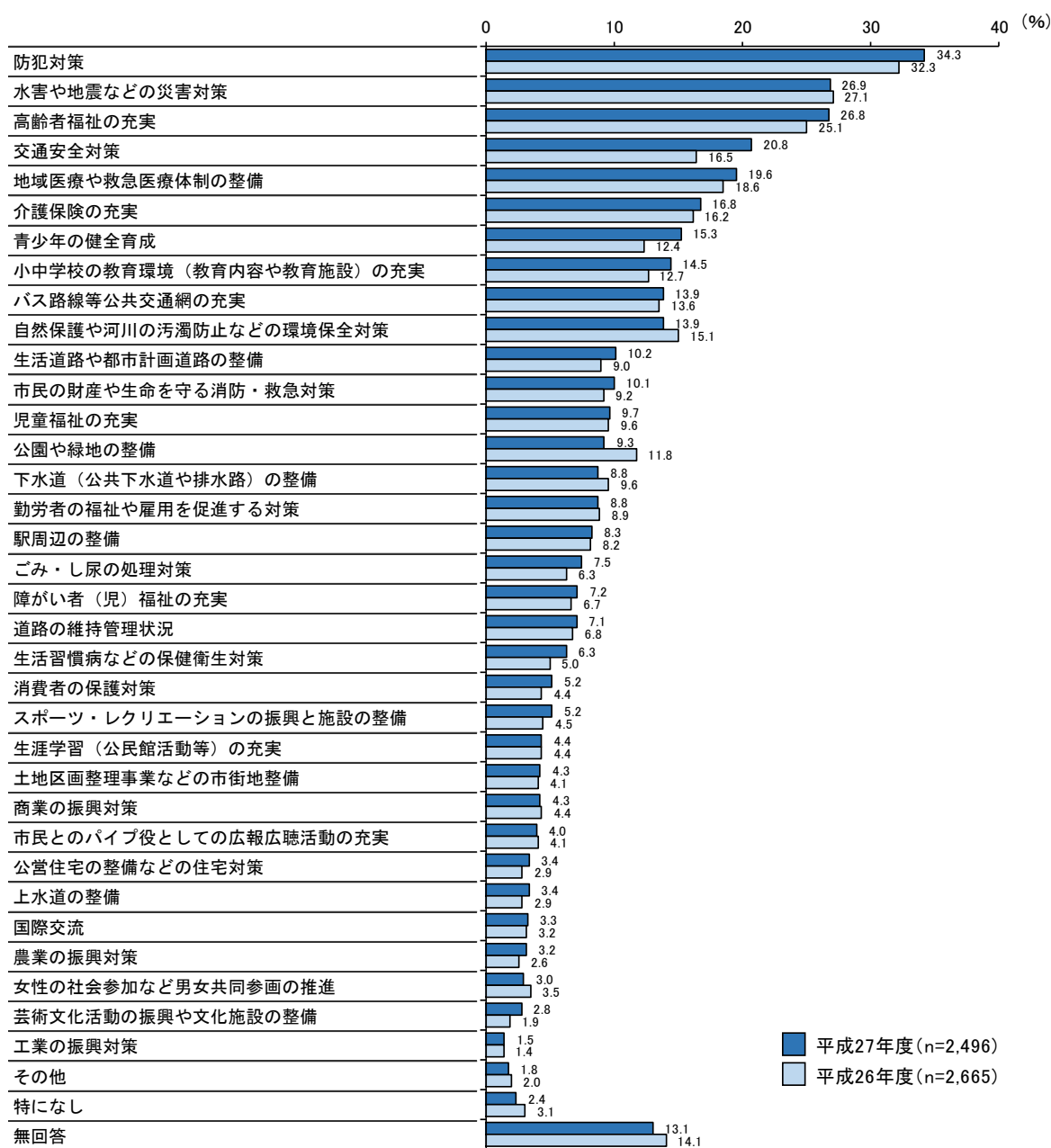
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,496)	駅周辺の整備 44.2	バス路線等公共交通網の充実 17.0	公園や緑地の整備 16.4	ごみ・し尿の処理対策 15.2	下水道（公共下水道や排水路）の整備 11.0	
桜井地区 (286)	駅周辺の整備 36.4	バス路線等公共交通網の充実 21.7	ごみ・し尿の処理対策 17.1	公園や緑地の整備 14.0	下水道（公共下水道や排水路）の整備 13.6	
新方地区 (122)	駅周辺の整備 37.7	バス路線等公共交通網の充実 30.3	ごみ・し尿の処理対策 22.1	生活習慣病などの保健衛生対策 17.2	公園や緑地の整備 13.1	
増林地区 (192)	駅周辺の整備 46.9	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備	27.1	ごみ・し尿の処理対策 15.6	土地区画整理事業などの市街地整備 12.5	
大袋地区 (335)	駅周辺の整備 46.0	公園や緑地の整備 18.2	ごみ・し尿の処理対策 16.1	土地区画整理事業などの市街地整備 14.3	下水道（公共下水道や排水路）の整備 14.0	
荻島地区 (99)	駅周辺の整備 52.5	ごみ・し尿の処理対策 18.2	防犯対策 15.2	地域医療や救急医療体制の整備 公園や緑地の整備	13.1	
出羽地区 (193)	駅周辺の整備 44.6	バス路線等公共交通網の充実 19.7	ごみ・し尿の処理対策 17.1	公園や緑地の整備 14.5	防犯対策 14.0	
蒲生地区 (298)	駅周辺の整備 40.6	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備	14.1	ごみ・し尿の処理対策 12.8	交通安全対策 12.1	
川柳地区 (55)	駅周辺の整備 45.5	バス路線等公共交通網の充実 30.9	交通安全対策 土地区画整理事業などの市街地整備	16.4	地域医療や救急医療体制の整備 ごみ・し尿の処理対策 14.5	
大相模地区 (185)	駅周辺の整備 49.2	公園や緑地の整備 21.1	土地区画整理事業などの市街地整備 バス路線等公共交通網の充実	15.1	生活道路や都市計画道路の整備 14.6	
大沢地区 (149)	駅周辺の整備 48.3	バス路線等公共交通網の充実 18.8	ごみ・し尿の処理対策 16.1	交通安全対策 14.1	地域医療や救急医療体制の整備 13.4	
北越谷地区 (96)	駅周辺の整備 39.6	ごみ・し尿の処理対策 20.8	公園や緑地の整備 15.6	交通安全対策 生涯学習（公民館活動等）の充実 13.5		
越ヶ谷地区 (236)	駅周辺の整備 43.2	公園や緑地の整備 16.9	バス路線等公共交通網の充実 15.3	交通安全対策 生活習慣病などの保健衛生対策 11.4		
南越谷地区 (226)	駅周辺の整備 50.9	バス路線等公共交通網の充実 18.6	公園や緑地の整備 16.8	ごみ・し尿の処理対策 13.3	下水道（公共下水道や排水路）の整備 11.9	

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が3割半ば

問43. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 14-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「防犯対策」(34.3%)が最も多くなっている。次いで、「水害や地震などの災害対策」(26.9%)、「高齢者福祉の充実」(26.8%)、「交通安全対策」(20.8%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(19.6%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「防犯対策」は平成26年度調査(32.3%)と比べ2.0ポイント、「交通安全対策」は平成26年度調査(16.5%)と比べ4.3ポイント増加している。

性別でみると、1位はともに「防犯対策」(女性33.5%、男性35.6%)であるが、2位は女性が「水害や地震などの災害対策」(女性28.4%、男性25.0%)、男性が「高齢者福祉の充実」(女性27.3%、男性26.5%)となっている。

性・年齢別でみると、「防犯対策」は女性18～29歳(44.8%)、女性50～59歳(42.4%)、男性18～29歳(41.1%)、男性30～39歳(42.2%)、男性40～49歳(45.8%)で4割以上と多くなっている。また、「高齢者福祉の充実」は女性60～69歳(34.6%)、女性70歳以上(36.8%)で、「水害や地震などの災害対策」は女性50～59歳(35.0%)で3割半ばと多くなっている。

図表14-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,496)	防犯対策 34.3	水害や地震などの災害対策 26.9	高齢者福祉の充実 26.8	交通安全対策 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 19.6
女性全体 (1,352)	防犯対策 33.5	水害や地震などの災害対策 28.4	高齢者福祉の充実 27.3	地域医療や救急医療体制の整備 20.2	交通安全対策 19.5
18～29歳 (116)	防犯対策 44.8	水害や地震などの災害対策 26.7	交通安全対策 25.9	バス路線等公共交通網の充実 23.3	公園や緑地の整備 15.5
30～39歳 (195)	防犯対策 39.0	水害や地震などの災害対策 29.7	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 25.1	交通安全対策 22.6	地域医療や救急医療体制の整備 バス路線等公共交通網の充実 20.0
40～49歳 (235)	防犯対策 37.0	水害や地震などの災害対策 28.9	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 25.1	交通安全対策 21.7	高齢者福祉の充実 20.9
50～59歳 (177)	防犯対策 42.4	水害や地震などの災害対策 35.0	高齢者福祉の充実 30.5	地域医療や救急医療体制の整備 27.1	交通安全対策 18.6
60～69歳 (286)	高齢者福祉の充実 34.6	水害や地震などの災害対策 29.4	防犯対策 25.9	地域医療や救急医療体制の整備 21.7	介護保険の充実 19.6
70歳以上 (334)	高齢者福祉の充実 36.8	防犯対策 25.4	水害や地震などの災害対策 23.4	介護保険の充実 19.5	地域医療や救急医療体制の整備 18.9
男性全体 (1,058)	防犯対策 35.6	高齢者福祉の充実 26.5	水害や地震などの災害対策 25.0	交通安全対策 22.4	地域医療や救急医療体制の整備 19.3
18～29歳 (90)	防犯対策 41.1	交通安全対策 32.2	水害や地震などの災害対策 25.6	青少年の健全育成 21.1	生活道路や都市計画道路の整備 道路の維持管理状況 公園や緑地の整備 15.6
30～39歳 (116)	防犯対策 42.2	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 27.6	水害や地震などの災害対策 25.9	交通安全対策 22.4	高齢者福祉の充実 駅周辺の整備 生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 19.0
40～49歳 (179)	防犯対策 45.8	水害や地震などの災害対策 31.3	交通安全対策 29.6	高齢者福祉の充実 26.8	青少年の健全育成 20.1
50～59歳 (148)	防犯対策 34.5	高齢者福祉の充実 28.4	水害や地震などの災害対策 27.7	地域医療や救急医療体制の整備 21.6	介護保険の充実 20.3
60～69歳 (240)	防犯対策 38.3	高齢者福祉の充実 31.3	交通安全対策 22.5	地域医療や救急医療体制の整備 21.7	水害や地震などの災害対策 21.3
70歳以上 (281)	高齢者福祉の充実 29.2	防犯対策 23.1	水害や地震などの災害対策 21.7	介護保険の充実 21.0	地域医療や救急医療体制の整備 19.9

居住地区別にみると、新方地区では「水害や地震などの災害対策」(43.4%)が最も多く、それ以外の地区はすべて「防犯対策」が最も多くなっている。「防犯対策」では大沢地区(47.0%)が5割弱と特に多くなっている。

図表 14-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,496)	防犯対策 34.3	水害や地震などの災害対策 26.9	高齢者福祉の充実 26.8	交通安全対策 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 19.6
桜井地区 (286)	防犯対策 32.2	高齢者福祉の充実 25.5	水害や地震などの災害対策 24.8	交通安全対策 21.0	地域医療や救急医療体制の整備 介護保険の充実 19.6
新方地区 (122)	水害や地震などの災害対策 43.4	高齢者福祉の充実 35.2	防犯対策 28.7	介護保険の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 19.7	
増林地区 (192)	防犯対策 29.7	高齢者福祉の充実 27.6	地域医療や救急医療体制の整備 水害や地震などの災害対策 23.4	交通安全対策 22.4	
大袋地区 (335)	防犯対策 33.4	高齢者福祉の充実 26.3	水害や地震などの災害対策 25.4	地域医療や救急医療体制の整備 23.6	バス路線等公共交通網の充実 18.5
荻島地区 (99)	防犯対策 38.4	高齢者福祉の充実 29.3	水害や地震などの災害対策 26.3	交通安全対策 23.2	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 17.2
出羽地区 (193)	防犯対策 28.0	高齢者福祉の充実 水害や地震などの災害対策 23.3	交通安全対策 18.1	バス路線等公共交通網の充実 17.6	
蒲生地区 (298)	防犯対策 32.6	高齢者福祉の充実 29.5	水害や地震などの災害対策 28.5	地域医療や救急医療体制の整備 21.8	介護保険の充実 18.5
川柳地区 (55)	防犯対策 36.4	バス路線等公共交通網の充実 27.3	交通安全対策 25.5	青少年の健全育成 21.8	地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実 下水道(公共下水道や排水路)の整備 18.2
大相模地区 (185)	防犯対策 29.2	高齢者福祉の充実 水害や地震などの災害対策 25.4	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 23.8	交通安全対策 22.7	
大沢地区 (149)	防犯対策 47.0	高齢者福祉の充実 30.9	水害や地震などの災害対策 27.5	交通安全対策 25.5	地域医療や救急医療体制の整備 介護保険の充実 18.8
北越谷地区 (96)	防犯対策 34.4	交通安全対策、高齢者福祉の充実、水害や地震などの災害対策 21.9	地域医療や救急医療体制の整備 19.8		
越ヶ谷地区 (236)	防犯対策 39.0	水害や地震などの災害対策 26.3	交通安全対策 24.6	高齢者福祉の充実 23.7	青少年の健全育成 17.4
南越谷地区 (226)	防犯対策 40.3	水害や地震などの災害対策 34.5	高齢者福祉の充実 29.6	地域医療や救急医療体制の整備 25.2	交通安全対策 23.0

(%)

(3) 自由回答

問44. 問43で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は1,184件（意見等合計1,803件）であった。
これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

図表 14-3-1 自由回答

		件数
大綱1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	58
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	21
	健全で開かれた都市経営を進める	79
大綱2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	20
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	62
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	94
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	29
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	146
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	25
大綱3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	80
	越谷らしい景観をつくる	9
	地域を支える道路・交通環境をつくる	237
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	98
	安全で良好な水環境をつくる	89
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	10
大綱4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	94
	安全・安心に暮らせるまちにする	281
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	39
大綱5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	21
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	4
	持続的に農業が行われる環境をつくる	17
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	19
大綱6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	101
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	13
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	31
その他		118

総計 1,803

大綱	区分	内容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	5
		市民と協働のまちづくりを進める	15
		情報を提供し、市民との共有を図る	38
		計	58
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	3
		人権教育を進める	0
		男女共同参画社会を進める	5
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	13
		平和への意識を高める	0
	計	21	
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	51
		行財政運営の健全化を進める	27
		都市間の連携強化を進める	1
		計	79

大綱	区分	内容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	20
		計	20
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	47
		予防医療の観点からの健康づくりに取り組む	12
		助け合い、支え合う環境をつくる	3
		計	62
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	8
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	28
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	58
		計	94
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障害児の早期発見と療育環境を整える	2
		在宅サービスを受ける人、支える人の全てを支援し、自立できる社会をつくる	8
		地域生活を支え社会参加を促進する	11
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	8
		計	29
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	13
		健康づくりと介護予防を進める	13
		介護保険制度の充実を図る	41
		高齢者を支える地域をつくる	79
		計	146
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	市民への理解を促すサポート体制の充実に努める	17	
	市民がいつでも安心して医療を受けられる仕組みの充実に努める	2	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	6	
	計	25	

大綱	区分	内容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	29
		活気ある市街地をつくる	49
		災害に強い都市をつくる	2
		計	80
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	9
		協働による景観創造の仕組みをつくる	0
		計	9
	地域を支える道路・交通環境をつくる	幹線道路の整備を図る	9
		生活道路の整備を図る	97
		道路の維持管理を行う	34
		公共交通網の充実を促進する	97
		計	237
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	22
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	43
		水辺を活かした快適な空間をつくる	33
		計	98
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	49
		生活排水施設の整備や維持管理を行う	38
		安全な水道水を安定して供給する	2
		計	89
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	5
住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る		5	
計		10	

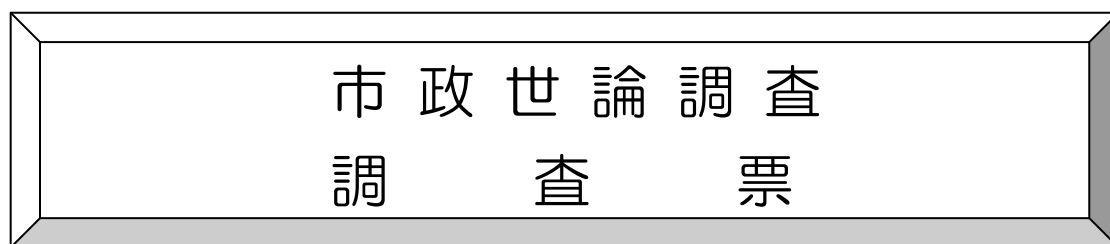
大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	36
		ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	40
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	18
		計	94
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	0
		災害対策を進める	49
		地域の防犯力を高める	176
		交通事故防止対策を進める	56
		消費者を保護し、消費者意識の高揚を図る	0
		計	281
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	0
		消防力の強化を図る	0
		救急体制の充実を図る	37
		消防団の充実を図る	2
		計	39

大綱	区分	内容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	7
		新たな産業を育成する	1
		計	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	18
		にぎわいを生み出す観光を進める	3
		計	21
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	4
		計	4
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	7
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	6
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	4
		市民が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	17
地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	18	
	勤労者福祉厚生を支援する	1	
	計	19	

大綱	区分	内容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	5
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	15
		信頼される、質の高い教育を進める	78
		保護者・地域との協働を進める	3
		計	101
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	9
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	4
		計	13
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る	11
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	1
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	18
		健康ライフスタイルづくりを支援する	1
		計	31

大綱	区分	内容	件数
その他		アンケートについての意見・要望・感謝	65
		市政への激励	22
		市政へ関心を持つとうという自覚の再認識	3
		住みよい街でうれしい・感謝	16
		その他	12
		計	118

第5章 調査票



平成27年7月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)

ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。

2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。

3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。

お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。

4. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて7月16日(木)までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117(直通)

FAX 048-965-0943

＜居住地区区分＞



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目の一部・3～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	七左町1丁目の一部・2丁目、瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別はどちらですか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 女性 | 2. 男性 |
|-------|-------|

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 18～24歳 | 5. 40～44歳 | 9. 60～64歳 |
| 2. 25～29歳 | 6. 45～49歳 | 10. 65～69歳 |
| 3. 30～34歳 | 7. 50～54歳 | 11. 70～74歳 |
| 4. 35～39歳 | 8. 55～59歳 | 12. 75歳以上 |

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。

- | | | |
|------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業 | 6. 製造関係自営業 | 11. 学生 |
| 2. 市内会社員 | 7. サービス関係自営業 | 12. 家事従業 |
| 3. 市外会社員 | 8. 自由業 | 13. パートタイマー（アルバイト含む） |
| 4. 小売店自営業 | 9. 公務員 | 14. その他〔 〕 |
| 5. 建築関係自営業 | 10. 団体職員 | 15. 無職（年金生活を含む） |

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他〔 〕 |
| 3. 二世帯世帯（親子など） | |

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 | 7. 20～30年未満 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～15年未満 | 8. 30～40年未満 |
| 3. 3～5年未満 | 6. 15～20年未満 | 9. 40年以上 |

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 持ち家一戸建て | 6. 公団公社等賃貸マンション |
| 2. 民間借家一戸建て | 7. 社宅・官舎 |
| 3. 民間分譲マンション | 8. 間借り・下宿・寮・寄宿舎 |
| 4. 民間賃貸マンション・アパート | 9. 店舗・事務所併用住宅 |
| 5. 公団公社等分譲マンション | 10. その他〔 〕 |

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。（※前頁の「居住地区該当町表」をご参照ください）

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 桜井地区 | 6. 出羽地区 | 11. 北越谷地区 |
| 2. 新方地区 | 7. 蒲生地区 | 12. 越ヶ谷地区 |
| 3. 増林地区 | 8. 川柳地区 | 13. 南越谷地区 |
| 4. 大袋地区 | 9. 大相模地区 | |
| 5. 荻島地区 | 10. 大沢地区 | |

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。次の中から**1つ**選んでください。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。次の中から**1つ**選んでください。

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。引っ越したいと思われる主な理由を、次の中から**1つ**選んでください。

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他〔 〕 |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

中核市移行についておたずねします。

※中核市制度は都市制度の中の一つで、人口30万人以上の市が対象になり、政令指定都市に次ぐ多くの権限が県から移譲されます。中核市に移行すると、市が自ら保健所を設置することとなり、感染症予防や被害拡大防止、集団食中毒への迅速な対応が可能になるなど、市民サービスの向上が期待されます。

問10. あなたは、越谷市が平成27年4月に中核市に移行したことを知っていますか。

次の中から**1つ**選んでください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. まあまあ知っている | 4. 知らない |

問11. あなたは、越谷市が中核市になったことに伴い、どのようなことに期待しますか。（複数回答可）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 身体障害者手帳の交付や老人福祉施設の運営指導など、福祉施策の向上 |
| 2. 保健所の開設による保健・医療・健康に関するサービス向上 |
| 3. 高度救助隊の設置など、大規模災害時等の救助体制の強化 |
| 4. 産業廃棄物処理の指導など、生活環境の保全や公衆衛生の向上 |
| 5. 教職員の研修強化による資質向上など、学校教育環境の整備 |
| 6. 埼玉県東部地域における広域的リーダーシップの発揮 |

男女共同参画についておたずねします。

問 12. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
男の子と女の子のそれぞれについて3つまで選んでください。

男の子	女の子
1. 独立心をもたせる	1. 独立心をもたせる
2. 責任をもたせる	2. 責任をもたせる
3. たくましさをもたせる	3. たくましさをもたせる
4. やさしさや思いやりをもたせる	4. やさしさや思いやりをもたせる
5. 礼儀作法を身につける	5. 礼儀作法を身につける
6. 忍耐力を養う	6. 忍耐力を養う
7. 男の子らしく育てる	7. 女の子らしく育てる
8. 身の回りのことができるようにする	8. 身の回りのことができるようにする

問 13. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること
2. 女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること
3. 保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること
4. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
5. 育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること
6. 昇給などの男女格差をなくすこと
7. 年間労働時間を短縮すること
8. 育児・介護休業中の賃金など経済面を充実させること
9. 職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること
10. その他 []

問 14. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。
あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを、それぞれについて1つ選んでください。

希望	現実
1. 「仕事」を優先	1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先	2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先	3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先	7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先

問 15. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター（ほっと越谷）」があります。あなたは、男女共同参画施設は今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。次の中から**2つまで**選んでください。

1. いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場
2. 情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業
3. 相談事業
4. 男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催
5. 図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供
6. 相互交流の援助など市民・団体活動の支援
7. 男性向けの講座
8. その他 []
9. 特になし

防犯についておたずねします。

問 16. あなたが日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は何ですか。次の中から**3つまで**選んでください。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 路上強盗・ひったくり | 6. 部品ねらい |
| 2. 自動車盗 | 7. 自動販売機ねらい |
| 3. オートバイ盗 | 8. 侵入盗 |
| 4. 自転車盗 | 9. 振り込め詐欺 |
| 5. 車上ねらい | 10. 特になし |

問 17. あなたは、市が防犯のためにどのようなことを行うと効果的だと思いますか。次の中から**3つまで**選んでください。

1. 防犯啓発チラシの配布
2. 補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布
3. 自転車鍵などの自転車盗対策グッズの配布
4. 自転車カゴカバーなどのひったくり対策グッズの配布
5. 防犯ベスト・腕章・合図灯などの防犯パトロール用品の貸出し
6. 防犯講演会等の開催
7. 不審者情報の提供
8. 防犯パトロール
9. 防犯カメラの設置
10. 街路灯の設置
11. ひったくり対策として道路の歩車道分離
12. 見通し確保のため公園の植栽などの剪定
13. その他 []

問 18. あなたは、自主的な防犯活動に参加したことがありますか。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 参加したことがある ---- | 2. 参加したことはない ----- |
|-------------------|--------------------|

問 18-2. 問 18 で「1. 参加したことがある」と答えた方に伺います。あなたが参加した自主防犯活動はどのような活動ですか。次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 登下校見守り活動 | 4. 防犯講演会等 |
| 2. 地域パトロール活動 | 5. 青色回転灯を装備した車によるパトロール活動 |
| 3. 防犯啓発チラシの作成・配布活動 | 6. その他 [] |

問 18-3. 問 18 で「2. 参加したことはない」と答えた方に伺います。あなたは、今後自主的な防犯活動に参加したいと思いますか。次の中から 1つ 選んでください。

- | | | |
|-------|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない ---- | 3. わからない |
|-------|--------------|----------|

問 18-4. 問 18-3 で「2. 思わない」と答えた方に伺います。あなたが自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由は何ですか。次の中から 1つ 選んでください。

- | |
|------------------------|
| 1. 時間がない |
| 2. ほかにやれる人がいるから |
| 3. 防犯は、警察や市の仕事だと思うから |
| 4. 体力的に難しい |
| 5. 近隣で防犯活動が行われていない |
| 6. 近所との付き合いがない |
| 7. 自宅の周りであまり犯罪が発生していない |
| 8. その他 [] |

景観についておたずねします。

問 19. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。次の中から 1つ 選んでください。

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、概ね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 20. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。次の中から 3つまで 選んでください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他 |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | [] |

水田の保全についておたずねします。

問 21. 水田は、農業生産の基盤となる以外に、様々な機能や役割があると言われています。次のうち、水田の機能・役割についてあなたが知っているものを選んでください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 川の流れを安定させ、地下水を涵養(※)する | 6. 農業体験学習や地域の交流の場となる |
| 2. 水害を軽減する | 7. 地域のお祭りや伝統行事などの文化を育む |
| 3. 水質を浄化する | 8. これ以外にも機能・役割があると思う |
| 4. 多様な生き物の生息場所となる | 9. 水田には特に機能・役割はないと思う |
| 5. 都市の気温上昇を低減・緩和する | 10. 知らない |

※涵養(かんよう)：地表の水(降水や河川水)が土壤に浸透し、地下水が供給されること。

問 22. 本市は「水郷こしがや」と呼ばれ、郊外にはまとまった水田が残されています。これらの水田を今後も保全すべきかどうかについて、あなたの考えに最も近いものを、次の中から**1つ**を選んでください。

- | |
|--|
| 1. 水田は積極的に保全するべきだと思う。 |
| 2. 必要最小限の開発は容認するべきだが、それ以外の水田は保全するべきだと思う。 |
| 3. 現状のままでよいと思う。 |
| 4. 一定の開発を容認し、水田の減少はある程度はやむを得ないと思う。 |
| 5. 水田は積極的に保全する必要はないと思う。 |
| 6. 特にない |

問 23. 水田を保全するために、地域で行われる草刈りやゴミ拾いなどの活動について、あなたはどのように考えますか。次の中から**1つ**を選んでください。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 必要だと思う | ----- |
| 2. 必要ないと思う | |
| 3. わからない | |



問 23-2. 問 23 で「1. 必要だと思う」と答えた方に伺います。あなたがお住まいの地域や、近くの地域での水田の保全活動(草刈りやゴミ拾いなど)に参加してもいいと思いますか。次の中から**1つ**を選んでください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 日常的に(週1~2回程度)参加してもいいと思う |
| 2. 月1~2回程度であれば参加してもいいと思う |
| 3. イベントなどで年1~2回程度であれば参加してもいいと思う |
| 4. 参加できないと思う |
| 5. わからない |

越谷特別市民「ガーヤちゃん」についておたずねします。

問 27. あなたは、越谷特別市民「ガーヤちゃん」を知っていますか。

- | | | |
|----------|-----|---------|
| 1. 知っている | --- | 2. 知らない |
|----------|-----|---------|



問 27-2. 問 27 で「1. 知っている」と答えた方に伺います。あなたは、越谷特別市民「ガーヤちゃん」をどのようにして知りましたか。**(複数回答可)**

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 広報こしがや | 4. 各種イベント |
| 2. 越谷市ホームページ | 5. 知人等からの口コミ |
| 3. 雑誌、新聞その他メディア媒体 | 6. その他〔 |

問 28. 皆さんに伺います。越谷市では、越谷特別市民「ガーヤちゃん」などを通じて、さまざまな市のPRに取り組んでいますが、あなたは、越谷市に対してどのくらい愛着がありますか。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

ウッドデッキの利活用についておたずねします。

問 29. あなたは、越谷市役所東側の葛西用水沿いに「ウッドデッキ」が整備されていることを知っていますか。

- | | | |
|----------|-----|---------|
| 1. 知っている | --- | 2. 知らない |
|----------|-----|---------|



問 29-2. 問 29 で「1. 知っている」と答えた方に伺います。あなたは「ウッドデッキ」を利用したことがありますか。次の中から**1つ**選んでください。

- | |
|---------------------------|
| 1. イベントに参加したことがある |
| 2. 散策順路として利用したことがある |
| 3. イベント参加、散策順路としての利用が共にある |
| 4. 利用したことはないが、通りかかったことはある |
| 5. 利用したことも、通りかかったこともない |

問 30. 皆さんに伺います。「ウッドデッキ」でのイベントについて伺います。

あなたは、どのようなイベントであれば参加したいと思いますか。**(複数回答可)**

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1. グルメイイベント | 6. 四季折々のイベント（七夕・クリスマス等） |
| 2. 音楽 | 7. 散策イベント |
| 3. ダンス | 8. その他 |
| 4. 地場農産物等の直売 | 〔 |
| 5. フリーマーケット | 9. 特になし |

問 31. あなたは今後、「ウッドデッキ」がどのような空間になることを期待しますか。

次の中から**1つ**選んでください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 定期的にイベントを開催するなど新たな賑わいを創出する場所 |
| 2. 新たな観光資源として水郷こしがやを象徴する水辺空間 |
| 3. 葛西用水沿い等を散策したときの憩いの空間（休憩場所） |
| 4. その他〔 |
| 5. 特になし |

生涯学習活動についておたずねします。

問 35. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問 35-2 に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。次の中から 1つ 選んでください。

- | |
|---------------|
| 1. 経験した ----- |
| 2. 経験していない |
| 3. わからない |



問 35-2. 問 35 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたが経験した生涯学習活動について、次の中から当てはまるものを選んでください。 (複数回答可)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など） |
| 2. 健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など） |
| 3. 家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など） |
| 4. パソコン、インターネット |
| 5. 教養的なもの（文学・歴史・科学など） |
| 6. 語学 |
| 7. ボランティア活動に必要な知識・技能 |
| 8. 育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など） |
| 9. 社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など） |
| 10. 地域活動（異世代間交流、地域防災など） |
| 11. 自然体験 |
| 12. 自立支援 |
| 13. その他 [] |

問 35-3. 同じく 問 35 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の間 35-4 に例示するような活動に生かしていますか。次の中から 1つ 選んでください。

- | |
|---------------|
| 1. 生かしている --- |
| 2. 生かしていない |
| 3. わからない |



問 35-4. 問 35-3 で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか（生かしましたか）。次の中から当てはまるものを選んでください。 (複数回答可)

- | |
|-----------------------|
| 1. 文化・スポーツ活動 |
| 2. 地域やまちづくりに関する活動 |
| 3. 学習活動の指導・助言者としての活動 |
| 4. 福祉に関する活動 |
| 5. 青少年健全育成や子育てに関する活動 |
| 6. 学校支援ボランティアなどに関する活動 |
| 7. その他 [] |

越谷市の施策についておたずねします。

問 43. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 青少年の健全育成 | 21. ごみ・し尿の処理対策 |
| 2. 防犯対策 | 22. 公営住宅の整備などの住宅対策 |
| 3. 交通安全対策 | 23. 水害や地震などの災害対策 |
| 4. 消費者の保護対策 | 24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策 |
| 5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進 | 25. 工業の振興対策 |
| 6. 国際交流 | 26. 商業の振興対策 |
| 7. 生活習慣病などの保健衛生対策 | 27. 農業の振興対策 |
| 8. 地域医療や救急医療体制の整備 | 28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策 |
| 9. 児童福祉の充実 | 29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 |
| 10. 障がい者(児)福祉の充実 | 30. 生涯学習(公民館活動等)の充実 |
| 11. 高齢者福祉の充実 | 31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備 |
| 12. 介護保険の充実 | 32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備 |
| 13. 駅周辺の整備 | 33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実 |
| 14. 土地区画整理事業などの市街地整備 | 34. 上水道の整備 |
| 15. 生活道路や都市計画道路の整備 | 35. その他 [] |
| 16. 道路の維持管理状況 | 36. 特になし |
| 17. バス路線等公共交通網の充実 | |
| 18. 公園や緑地の整備 | |
| 19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備 | |
| 20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 | |

問 44. 問 43 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月16日(木)**までにご投函ください。

平成27年度 市政世論調査結果報告書

発行年月：平成27年11月

発行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9117（直通）